



NX300

取扱説明書

イラスト目次	イラストから検索	
安全・安心のために	お客様に 必ずお読みいただきたいこと (主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置)	1
走行に関する情報表示	走行に関する情報を表示する計器類の見方 (主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ)	2
運転する前に	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整 (主な項目：キー、ドア、シート)	3
運転	運転に必要な操作やアドバイス (主な項目：エンジン始動のしかた、給油のしかた)	4
室内装備・機能	室内装備の使い方など (主な項目：エアコン・収納装備の使い方)	5
お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法 (主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換)	6
万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処 (主な項目：バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処)	7
車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報 (主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧)	8
さくいん	症状から検索	
	音から検索	
	アルファベットで検索	
	五十音で検索	

知っておいていただきたいこと	6
本書の見方	9
検索のしかた	10
イラスト目次	12

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に	26
安全なドライブのために	27
シートベルト	29
SRS エアバッグ	34
排気ガスに対する注意	40

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは	41
チャイルドシート	42

1-3. 盗難防止装置

エンジンイモビライザーシステム	55
オートアラーム	56

2 走行に関する情報表示

2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯	62
計器類	66
マルチインフォメーションディスプレイ	69
カラーヘッドアップディスプレイ	75
Harmonious Driving Navi. 画面／燃費画面	80

3 運転する前に

3-1. キー

キー	86
----------	----

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア	90
バックドア	94
スマートエントリー&スタートシステム	105

3-3. シートの調整

フロントシート	110
リヤシート	111
パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能	116
ヘッドレスト	119

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル	122
インナーミラー	123
ドアミラー	124

3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉

パワーウインドウ	126
ムーンルーフ	128
電動サンシェード	132

4 運転

4-1. 運転にあたって

運転にあたって	136
荷物を積むときの注意	142

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ	144
オートマチックトランスミッション	148
方向指示レバー	152
電動パーキングブレーキ	153
ブレーキホールド	156
ASC（アクティブサウンドコントロール）	158

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ	160
アダプティブハイビームシステム	162
オートマチックハイビーム	165
フォグランプスイッチ	168
ワイパー&ウォッシャー（フロント）	169
ワイパー&ウォッシャー（リヤ）	171

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方 173

4-5. 運転支援装置について

Lexus Safety System+ 176

PCS (プリクラッシュセーフティ)
..... 180LTA (レーントレーシングアシスト)
..... 187

RSA (ロードサインアシスト) ... 195

レーダークルーズコントロール (全車
速追従機能付き) 198

先駆車発進告知機能 209

ITS Connect 211

Stop & Start システム 218

ドライブモードセレクトスイッチ 226

PKSA (パーキングサポートアラート)
..... 228

クリアランスソナー 229

パーキングサポートブレーキ (静止
物) 234BSM (ブラインドスポットモニター)
..... 244

運転を補助する装置 250

AWD ロックモード 255

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転 256

5 室内装備・機能

5-1. リモートタッチ

リモートタッチ 260

5-2. エアコンの使い方

オートエアコン 264

ステアリングヒーター/シートヒー
ター/シートベンチレーター .. 272

5-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 275

5-4. 収納装備

収納装備一覧 278

ラゲージルーム内装備 282

5-5. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備 286

6 お手入れのしかた

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 294

内装の手入れ 297

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 300

ガレージジャッキ 301

ウォッシュ液の補充 302

タイヤについて 303

タイヤ空気圧について 309

エアコンフィルターの交換 310

電子キーの電池交換 311

ヒューズの点検・交換 313

電球 (バルブ) の交換 315

7 万一の場合には

7-1. まず初めに

故障したときは 318

非常点滅灯 (ハザードランプ) ... 319

発炎筒 319

車両を緊急停止するには 320

水没したときは 321

1

2

3

4

5

6

7

8

7-2. 緊急時の対処法

けん引について	322
フューエルポンプシャットオフシステム	326
警告灯がついたときは	327
警告メッセージが表示されたときは	334
パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）	336
パンクしたときは（応急用タイヤ装着車）	347
エンジンが始動できないときは	354
キーをなくしたときは	356
給油扉が開かないときは	356
電子キーが正常に働かないときは	357
バッテリーがあがったときは	359
オーバーヒートしたときは	362
スタックしたときは	365

8 車両情報

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）	368
------------------------------	-----

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能	372
--------------------	-----

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目	383
------------------	-----

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）	386
車から音が鳴ったときは（音さくいん）	388
アルファベット順さくいん	390
五十音順さくいん	392

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- レクサスが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

す。

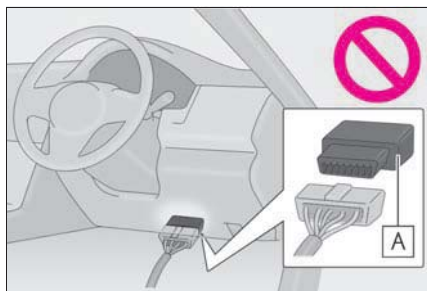
- 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。

- ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
- ・ 電装品・無線機の取り付け・取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
RF 送信機の取り付けについては、P.8 も参照してください。
- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

故障診断コネクタなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクタ **A** などに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。



車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

- ・ エンジン回転数／電気モーター回転数
- ・ アクセルペダルの操作状況
- ・ ブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速
- ・ 運転支援システム（ABS、プリクラッシュセーフティなど）の作動状況
- ・ 前方カメラの画像情報

● データの取り扱いについて

レクサスはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、レクサスは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合

- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ レクサスが訴訟で使用する場合
- ・ 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合
- 記録した画像情報はレクサス販売店にて消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとプリクラッシュセーフティ作動時のデータは残りません。

G-Link によるデータの取り扱いについて

お客様が G-Link をご利用の場合、記録データとその使用について、G-Link 利用規約をご覧ください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- ・ 車両の各システムの作動状況
- ・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- ・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせで使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。レクサスにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、レクサスは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- ・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- ・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- ・ レクサスが訴訟で使用する場合

ただし、レクサスは

- ・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- ・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

す可能性があります。

- EFI コンピュータ
- Lexus Safety System+
- ABS（アンチロックブレーキシステム）
- SRS エアバッグ
- シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずレクサス販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をレクサス販売店にてご提供します。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼ

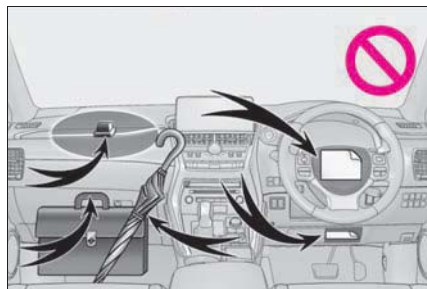
本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

本文の記号について

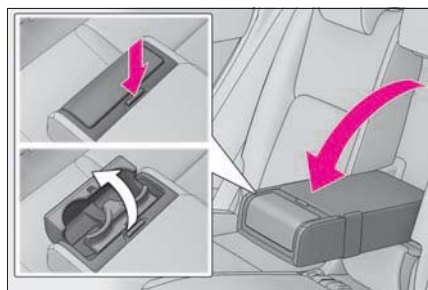
記号	意味
	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

記号	意味
	押す、まわすなど、していただきたい操作を示しています。
	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



記号	意味
	説明の対象となるもの・場所を示しています。
	してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでくださいという意味です。

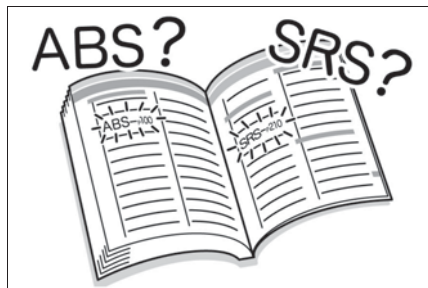
イラスト上の記号について



検索のしかた

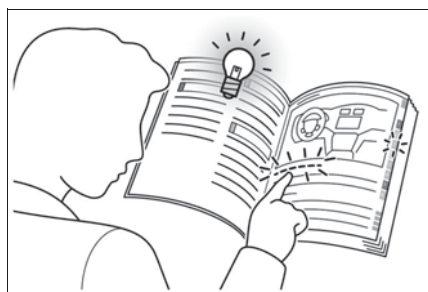
■ 名称から探す

- 五十音順さくいん：→P.392
- アルファベット順さくいん：→P.390



■ 取り付け位置から探す

- イラスト目次：→P.12



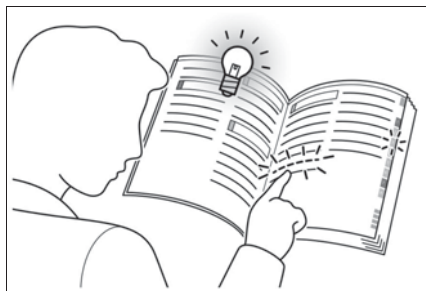
■ 症状や音から探す

- こんなときは（症状別さくいん）：→P.386
- 車から音が鳴ったときは（音さくいん）：→P.388



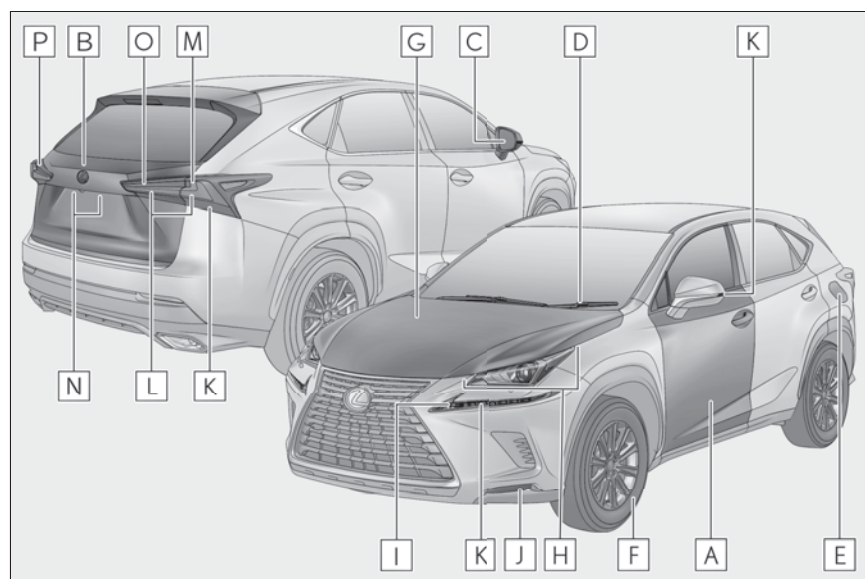
■ タイトルから探す

- 目次：→P.2



イラスト目次

■ 外観



A	ドア.....	P.90
	施錠／解錠.....	P.90, 92
	ドアガラスの開閉.....	P.126
	メカニカルキーでの施錠／解錠.....	P.357
	警告メッセージ.....	P.334
B	バックドア.....	P.94
	車内から開ける.....	P.96
	車外から開ける.....	P.95, 96
	警告メッセージ.....	P.334
C	ドアミラー.....	P.124
	鏡面の角度調整.....	P.124
	ミラーの格納.....	P.125
	調整位置の登録★.....	P.117
	曇りを取る（ミラーヒーター）.....	P.265
D	ワイパー.....	P.169, 171

冬季の注意P.256

凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★P.269

洗車時の注意P.295

E 給油口.....P.173

給油方法.....P.173

燃料の種類・燃料タンク容量.....P.368

F タイヤ.....P.303

サイズ・空気圧P.371

冬用タイヤ・タイヤチェーン.....P.256

点検・ローテーション・タイヤ空気圧警報システム.....P.303

パンク時の対処P.336, 347

G ボンネット.....P.300

開け方.....P.300

エンジンオイルP.368

オーバーヒート時の対処P.362

警告メッセージP.334

走行に関わる外装のランプバルブ
(交換方法：P.315)

H ヘッドランプ.....P.160

I 車幅灯・LED デイライト.....P.160

J フロントフォグランプ.....P.168

コーナリングランプP.161

K 方向指示灯.....P.152

L 尾灯・制動灯.....P.160, 251

M 制動灯

緊急ブレーキシグナルP.251

N 番号灯.....P.160

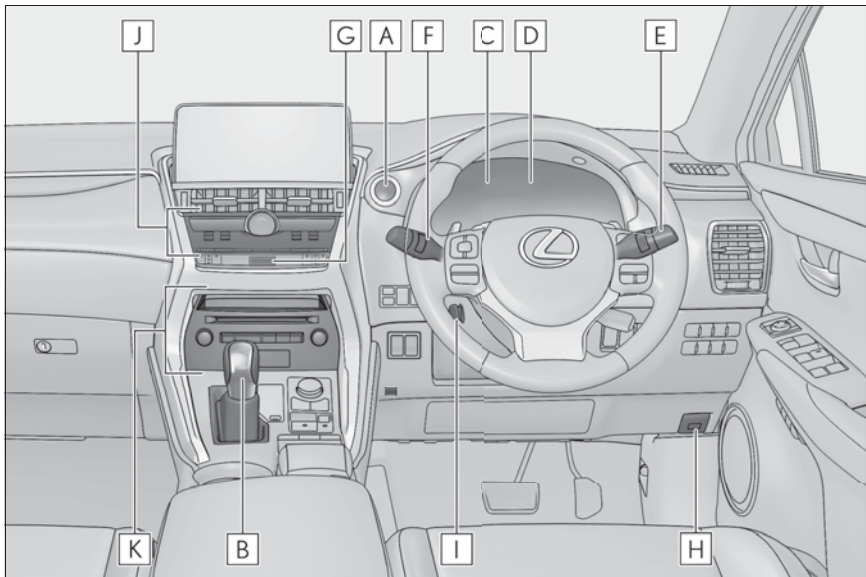
O リヤフォグランプ★.....P.168

P 後退灯

シフトポジションを R にするP.148

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル



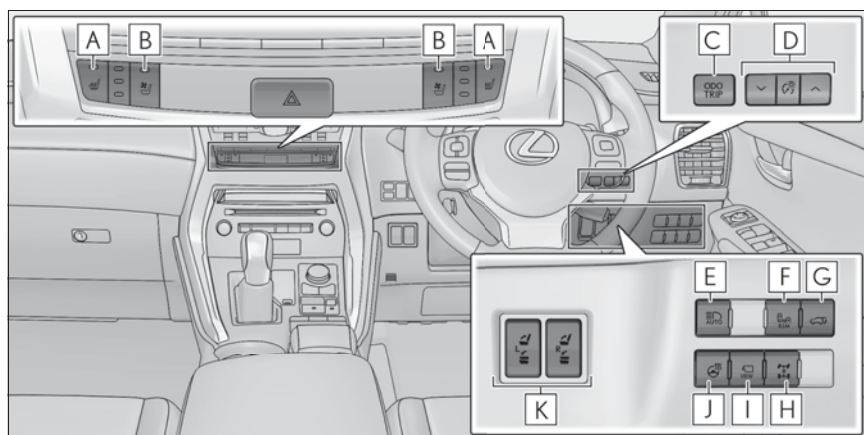
- A** エンジンスイッチP.144
 エンジンの始動・モード切りかえP.144, 146
 エンジンの緊急停止P.320
 エンジンが始動できないときの対処P.354
 警告メッセージP.334
- B** シフトレバーP.149
 シフトポジションの切りかえP.149
 けん引時の注意P.322
 シフトレバーが動かないときの対処P.149
- C** メーターP.66
 見方・明るさの調整P.66, 68
 警告灯／表示灯P.62
 警告灯点灯時の対処P.327
- D** マルチインフォメーションディスプレイP.69
 表示内容P.70

	警告メッセージ表示時の対処	P.334
E	方向指示レバー	P.152
	ランプスイッチ	P.160
	ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・番号灯・LED デイライト	P.160
	フロントフォグランプ・リヤフォグランプ★	P.168
F	ワイパー&ウォッシャースイッチ	P.169, 171
	使い方	P.169, 171
	ウォッシャー液の補充	P.302
G	非常点滅灯スイッチ	P.319
H	ボンネット解除レバー	P.300
I	ハンドル位置調整スイッチ	P.122
	調整方法	P.122
	調整位置の登録★	P.117
J	オートエアコン	P.264
	操作方法	P.264
	リヤウインドウガラスの曇り取り (リヤウインドウデフォッガー) ...	P.265
K	オーディオ ※	
	音楽を聴く	

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

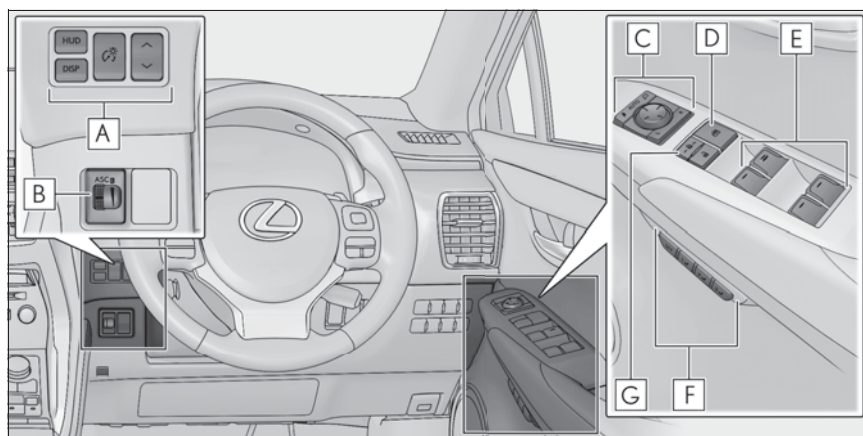
■ スイッチ類



- A** フロントシートヒータースイッチ★.....P.273
- B** フロントシートベンチレータースイッチ★P.274
- C** オドメーター／トリップメーター切りかえ・
トリップメーターリセットボタンP.68
- D** インstrumentパネル照度調整スイッチP.68
- E** アダプティブハイビームシステムスイッチ★P.162
オートマチックハイビームスイッチP.165
- F** BSM（ブラインドスポットモニター）メインスイッチ★.....P.244
- G** パワーバックドアスイッチ.....P.96
- H** AWD ロックモードスイッチ★P.255
- I** カメラスイッチ ※
- J** ステアリングヒータースイッチ★P.273
- K** リヤシート操作スイッチ★P.112

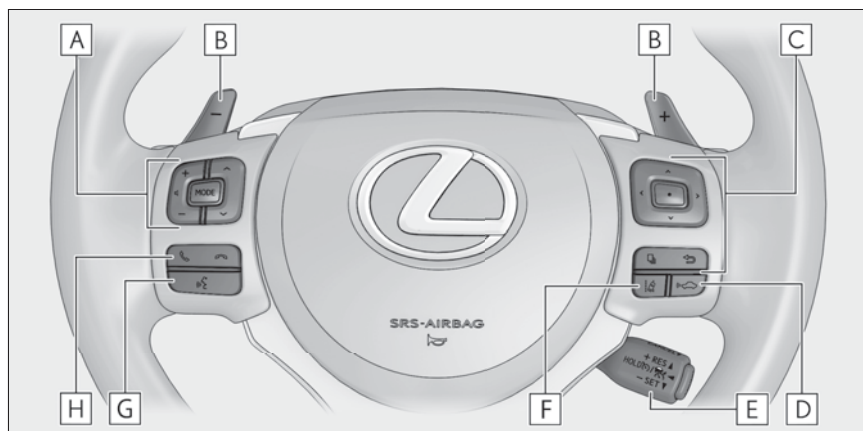
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



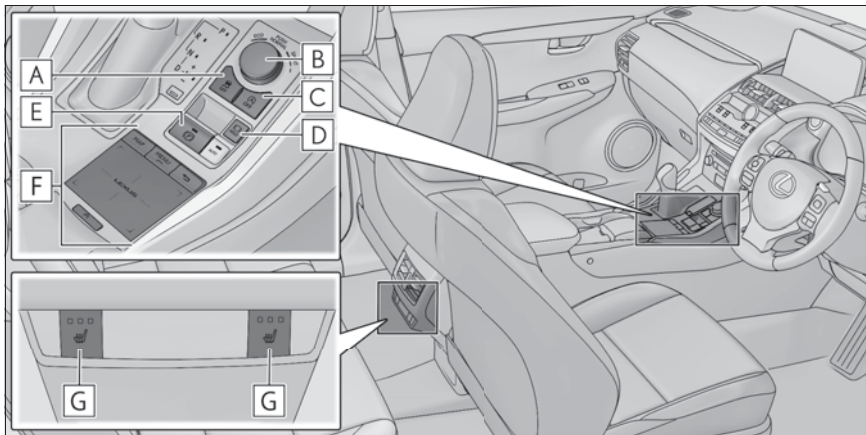
- A** ヘッドアップディスプレイスイッチ★P.75
- B** ASC 音量調整ダイヤル★P.158
- C** ドアミラースイッチP.124
- D** ウインドロックスイッチP.128
- E** パワーウィンドウスイッチP.126
- F** ドライビングポジションメモリースwitch★P.117
- G** ドアロックスイッチP.92

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



- A** オーディオスイッチ ※
- B** パドルシフトスイッチP.150, 151
- C** メーター操作スイッチP.69
- D** 車間距離切りかえスイッチP.202
- E** クルーズコントロールスイッチ
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付）P.199
- F** LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチP.191
- G** トークスイッチ ※
- H** 電話スイッチ ※

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



- A** VSC OFF スwitchP.251
- B** ドライブモードセレクトスイッチP.226
- C** Stop & Start キャンセルスイッチP.225
- D** ブレーキホールドスイッチP.156
- E** パーキングブレーキスイッチP.153
かける・解除するP.153

冬季の注意P.257

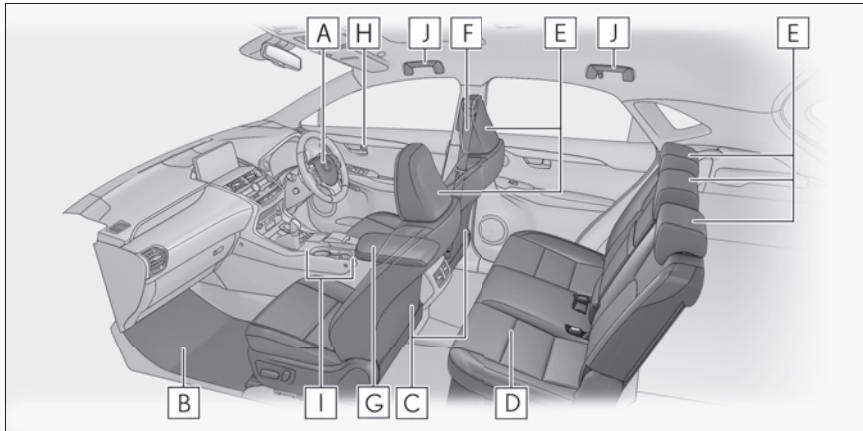
警告ブザー・警告メッセージ.....P.155, 334

F リモートタッチP.260

G リヤシートヒータースイッチ★P.273

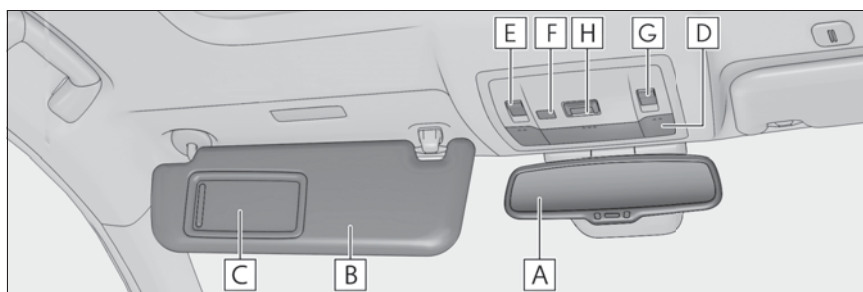
★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 室内



A SRS エアバッグ	P.34
B フロアマット	P.26
C フロントシート	P.110
D リヤシート	P.111
E ヘッドレスト	P.119
F シートベルト	P.29
G コンソールボックス	P.279
H ロックレバー	P.92
I カップホルダー	P.280
J アシストグリップ	P.292

■ 天井



A	インナーミラー	P.123
B	サンバイザー ※ ¹	P.286
C	バニティミラー	P.286
D	インテリアランプ ※ ²	P.276
	パーソナルランプ	P.277
E	ムーンルーフスイッチ★	P.128
F	侵入センサー OFF スイッチ	P.58
G	ムーンルーフスイッチ★	P.128
	電動サンシェードスイッチ★	P.132
H	ヘルプネットスイッチパネル ※ ³	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※¹やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろの向きに取り付けしないでください。

重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。(→P.44)



※²図はフロントですが、リヤにも装着されています。

※³別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に	26
安全なドライブのために	27
シートベルト	29
SRS エアバッグ	34
排気ガスに対する注意	40

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは	41
チャイルドシート	42

1-3. 盗難防止装置

エンジンイモビライザーシステム	55
オートアラーム	56

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

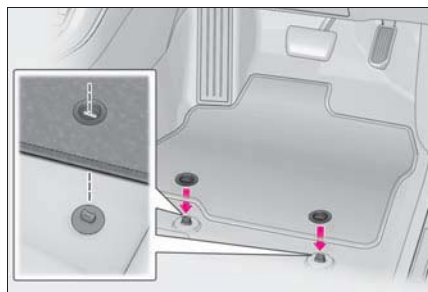
日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

異常が見つかった場合は、レクサス販売店で必ず点検整備を受けてください。

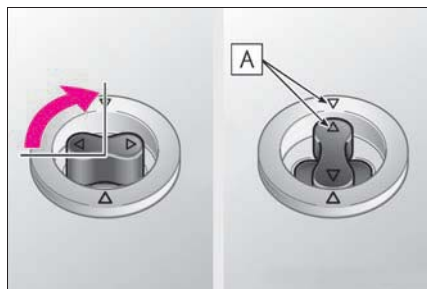
フロアマットを固定するには

専用のフロアマットを、フロアカーパーツの上にしっかりと固定してお使いください。

- 1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



- 2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する



△マーク[A]を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

警告

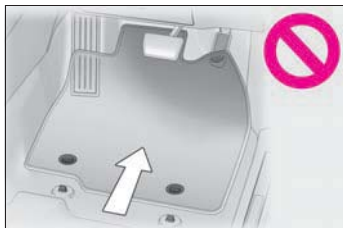
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くときは

- レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

警告**■ 運転する前に**

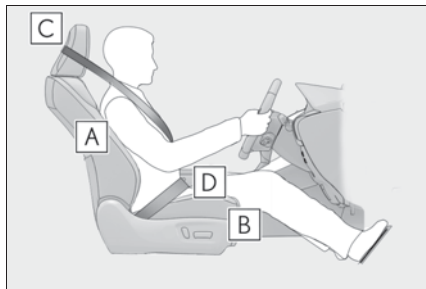
- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的を確認し、特に洗車後は必ず確認を行う



- エンジン停止およびシフトレバーがPの状態、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢をとるには

- A** まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する
(→P.110)
- B** ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする
(→P.110, 122)
- C** ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする
(→P.120)
- D** シートベルトを正しく着用する
(→P.30)

 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にもものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。
お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

● 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

● 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用するには

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。
(→P.30)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。
(→P.42)

ミラーを調整するには

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。(→P.123, 124)

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■ 妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



■ 疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■ お子さまを乗せるとき

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。

万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

警告

■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート、バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。不適切に扱うと、正常に作動なくなるおそれがあります。

正しく着用するには



- 肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる

- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれないようにする

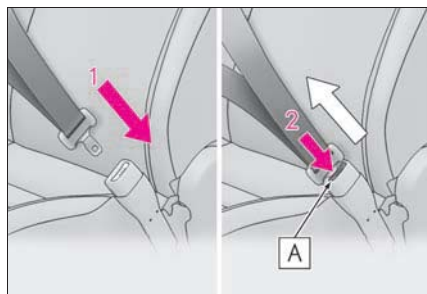
知識

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを着用するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P.42)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P.30)

着け方、はずし方（フロント席・リヤ外側席）



- 1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む
- 2 ベルトを解除するには、解除ボタン **A** を押す

知識

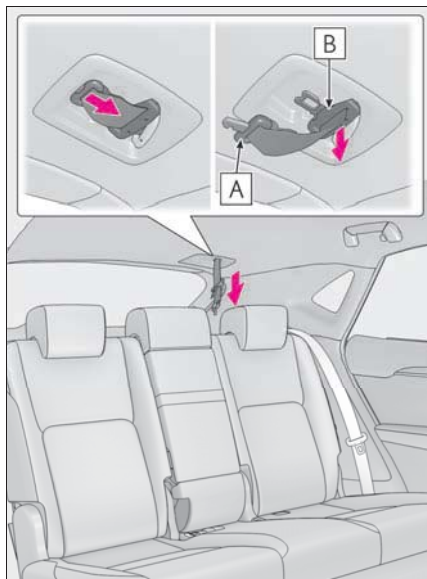
■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロッ

クされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

着け方（リヤ中央席）

1 プレートを取り出す

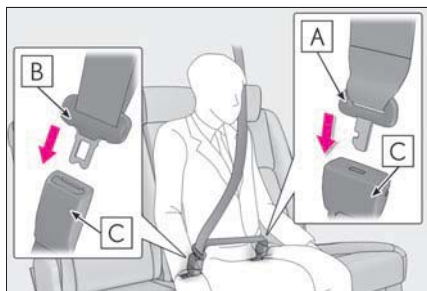


A プレート A

B プレート B

2 ベルトを固定するには、プレート A、プレート B の順に “カ

チツ” と音がするまでプレートをバックルに挿し込む



A プレート A

B プレート B

C バックル

警告

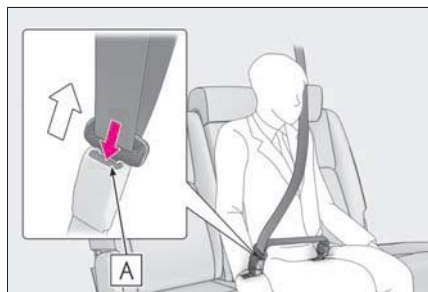
■ リヤ中央席シートベルトについて

リヤ中央席シートベルトを使用するときは、必ずプレート A とプレート B をそれぞれのバックルに結合してください。（→P.31）結合しない状態で使用すると、シートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



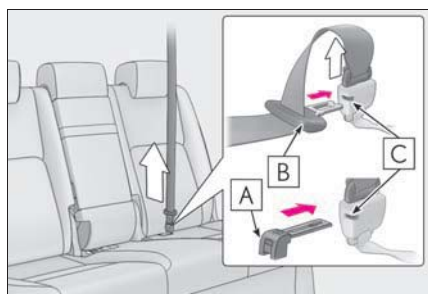
はずし方・格納のしかた（リヤ中央席）

- 1 バックルの解除ボタン[A]を押して、ベルトを解除する



- 2 メカニカルキー（→P.86）、またはプレート B をバックルの切り欠きに挿し込み、ベルトを分離する

シートベルトを格納するときは、ベルトを持ちながらゆっくり巻きもどします。

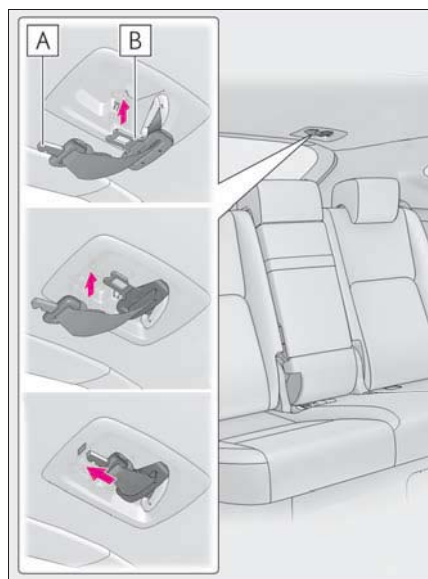


- A** メカニカルキー
- B** プレート B
- C** バックル

- 3 プレート B、プレート A の順にホルダーに格納する

確実に固定されるよう、しっかり奥まで

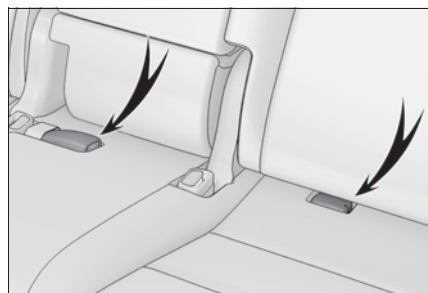
押し込んでください。



A プレート A

B プレート B

- 4 中央席シートベルトのバックルをポケットに格納する



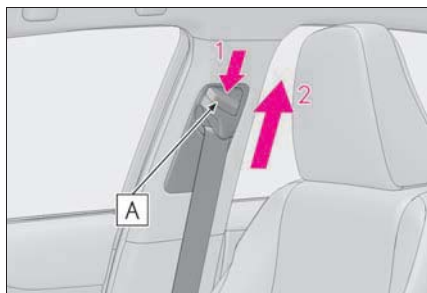
 知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動か

せば、ベルトを引き出すことができます。

シートベルトの高さ調節（フロント席）

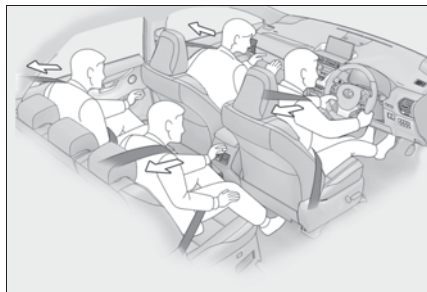


- 1 解除ボタン[A]を押しながら、アジャスターを下げる
- 2 アジャスターを上げる
“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。



知識

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

⚠ 警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■プリテンショナー付きシートベルトについて

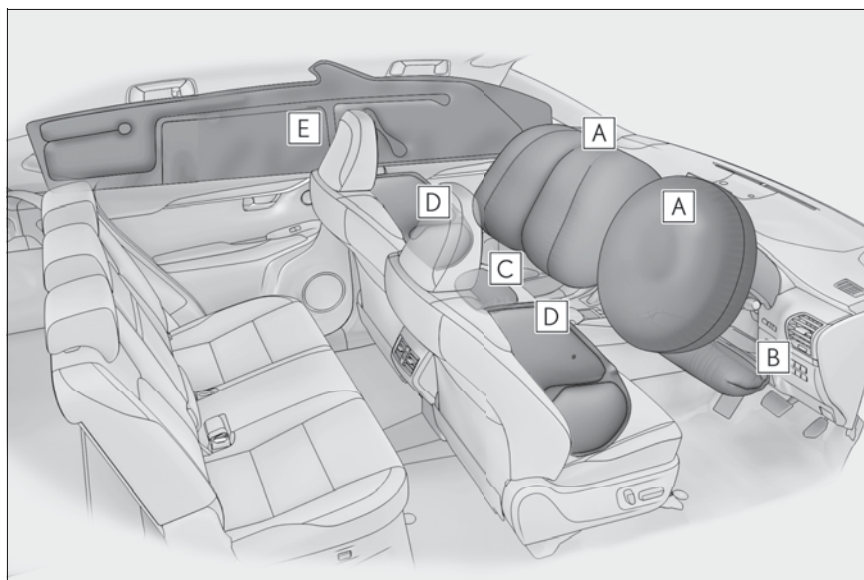
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRSエアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム

■ SRS エアバッグの配置



▶ フロント SRS エアバッグ

A 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

B SRS ニーエアバッグ（運転者の衝撃緩和を補助）

C SRS シートクッションエアバッグ（助手席乗員の衝撃緩和を補助）

▶ SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ

D SRS サイドエアバッグ（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

E SRS カーテンシールドエアバッグ（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）



知識

■ SRS エアバッグが作動すると

- SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。
- 作動音と共に白いガスが発生します。
- フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール的一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントウインドウガラスが破損することがあります。
- G-Link の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両などを手配します。詳しくは「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。
- ・ SRS エアバッグが作動した
- ・ シートベルトプリテンショナーが作動した
- ・ 後方から強い衝撃を受けた

■ SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
- ・ 駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合

- ・ もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

- 衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

- 助手席の SRS シートクッションエアバッグは、シートベルトを着用していないときは作動しません。

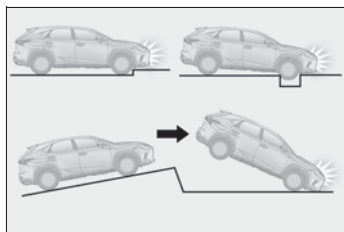
■ SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ）

- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
- 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS サイドエアバッグが作動します。
- 前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

■ 衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

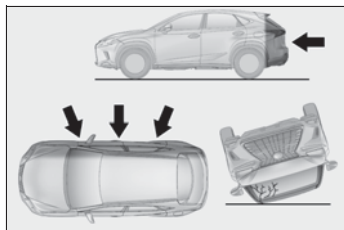
- 縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



■ SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

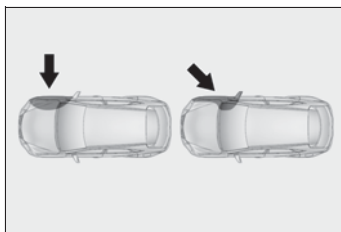
- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転



■ SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド&カーテンシールドエアバッグ）

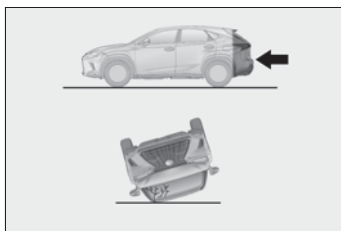
斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド&カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃



SRS サイド&カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

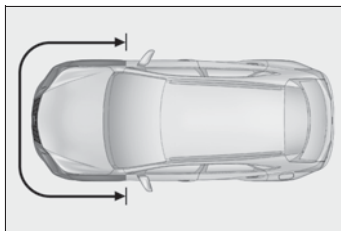
- 後方からの衝突
- 横転



■ レクサス販売店に連絡が必要な場合

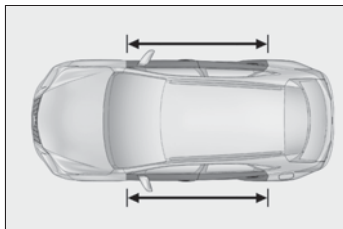
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。

- いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき
- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

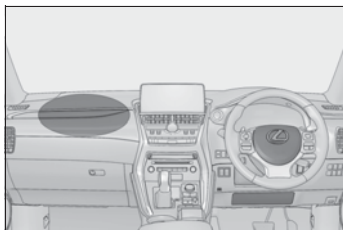


- SRS サイド&カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したと

き、または破損・変形などがあるとき



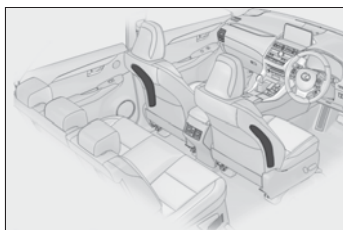
- ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



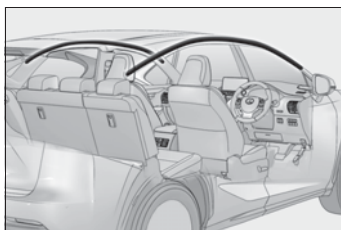
- シートクッションの表面が、傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



警告

■ SRS エアバッグについて

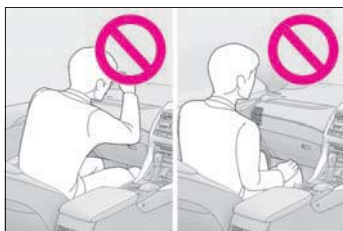
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートををできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

警告

- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乘坐、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。
(→P.42)

- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない



- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

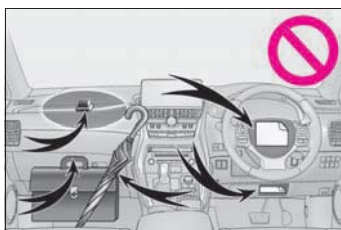
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない



- 助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

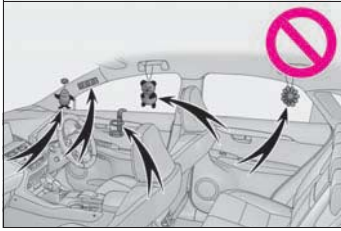


- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



警告

- ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
(速度制限ラベルを除く：→P.340)



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグや SRS シートクッションエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずレクサス販売店で交換してください。

改造・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。

SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールなどの周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウィンチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

排気ガスに対する注意

排気ガスには吸引すると人体に有害な物質が含まれています。

警告

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、排気ガスが車内に侵入し、多量の排気ガスが眠気を招き事故の原因となるほか、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の留意事項

バックドアを閉じてください。

バックドアが閉じているのに車内で排気ガス臭がするときは、ドアガラスを開けて空気を入れかえ、すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。

■ 駐車するとき

- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所では、エンジンを停止してください。

- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。

やむを得ないときは、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入っていないことを確認してください。

- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して、車内に侵入するおそれがあります。

■ 排気管について

排気管は定期的に点検する必要があります。排気管等の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気付いた場合は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→P.42)
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウィンドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター(→P.93)・ウィンドウロックスイッチ(→P.128)をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウィンドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

■ お子さまを乗せるときは

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた、P.42を参照してください。

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- レクサスでは、より安全にお使いいただくために、レクサス純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
レクサス純正チャイルドシートは、レクサス車のために作られたチャイルドシートです。レクサス販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと：→P.42

チャイルドシートを使用するとき：→P.43

シート位置別チャイルドシートの適合性について：→P.45

チャイルドシートの取り付け方法：→P.50

・ シートベルトで固定する：→P.45

- ・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：→P.52
- ・ トップテザーアンカレッジを使用する：→P.53

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。

警告

■ お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

警告

● レクサスでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。

● お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウィンドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■ チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いいため、再使用しないでください。

● チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください。（→P.45）本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

● チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けられた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。

● チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

● 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

● シートをいちばんうしろに下げる

● シートの高さをいちばん高い位置まで上げる

● クッション前端をいちばん下に下げる

● ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

**！ 警告****■チャイルドシートを使用するとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。



警告

- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。

助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。
- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.46）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→P.49）次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

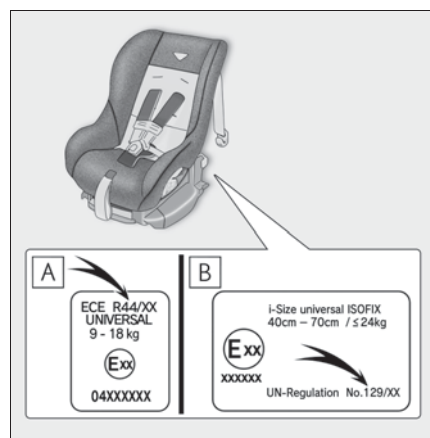
■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

UN (ECE) R44※¹ または、UN (ECE) R129※¹ に適合したチャイルドシートを使用してください。

適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。

チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。



法規番号の表示例

A UN (ECE) R44 認可マーク ※²

対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

B UN (ECE) R129 認可マーク

※²

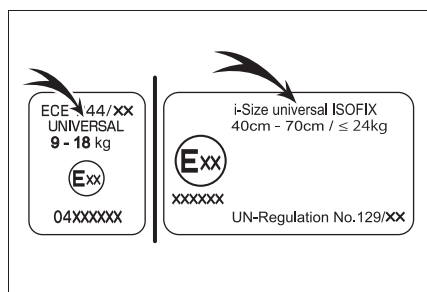
対象となるお子さまの身長範囲および使用可能な体重が記載されています。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

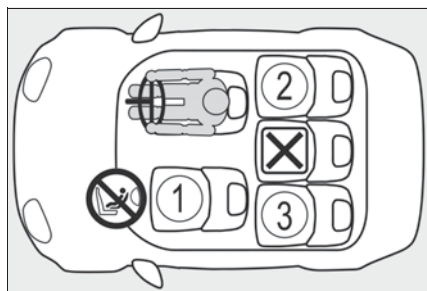
- ・ ユニバーサル「universal (汎用)」
- ・ セミユニバーサル「semi-universal (準汎用)」
- ・ リストリクティッド「restricted (限定)」
- ・ ビークルスペシフィック「vehicle specific (特定車両)」



※¹ UN (ECE) R44、UN (ECE) R129 は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※² 表示されているマークは、商品により異なります。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性



① ※1, 2, 3	 ※4 
② ※2, 3	   
③ ※2, 3	   



車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。



推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→P.49）に記載されたチャイルドシートに適しています。



i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。



トップテザーアンカレッジが装備されています。



チャイルドシートの取り付けに適していません。

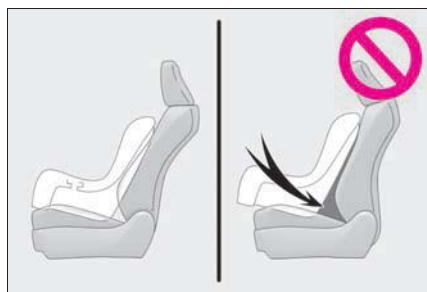


やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。

※1 シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2 背もたれを可能な限り起こしてください。

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4 チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置			
シート位置の番号	①	②	③
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有 / 無）	有	有	有
アイサイズ着座位置（有 / 無）	無	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3）	×	R1, R2X, R2, R3	R1, R2X, R2, R3
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3）	×	F2X, F2, F3	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2/B3）	×	B2, B3	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート

治具	使用の向き・形状・大きさ
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

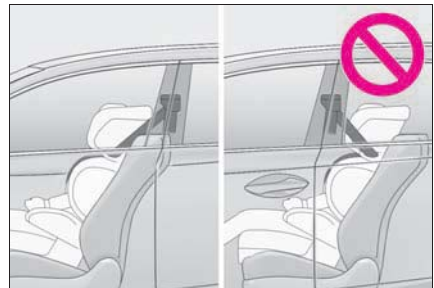
質量グループ	推奨チャイルドシート	着座位置		
		①	②	③
0、0+ (13kg まで)	レクサス純正 NEO G-Child baby	×	○	○
	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	○
Ⅰ (9 ～ 18kg)	レクサス純正 NEO G-Child baby	○ 前向きの み	○	○
	レクサス純正 NEO G-Child ISO leg	×	○	○
Ⅱ、Ⅲ (15 ～ 36kg)	レクサス純正ジュニアシート	○	○	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルド

シートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。

- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



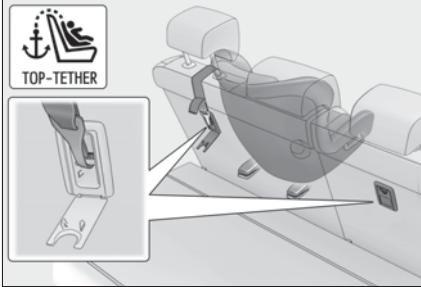
- ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢

になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーア

ンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

	固定方法	ページ
シートベルトで固定する		P.50
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P.52
テザーベルトを固定する		P.53

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り

付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない（または必要な情報が表の中にある）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.46）

- 1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→P.110）
- 2 背もたれを可能な限り起こしてください。前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。
- 3 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.120）
- 4 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで押し込む。ベルトがねじれていないようにする

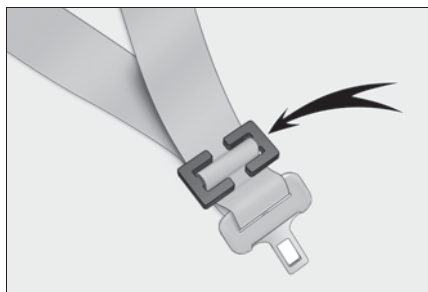
チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシート

にしっかりと固定させてください。



- 5 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、レクスス販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



- 6 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→P.52）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がる場合があります。チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくり戻してください。

！ 警告

■ チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

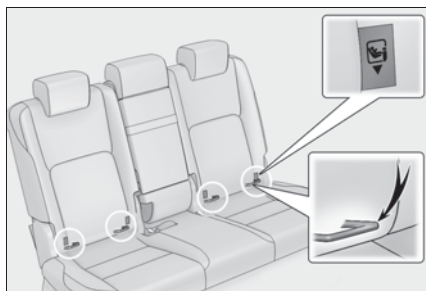
- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。

(ロアアンカレッジが装備されていることを示すタグがシートに付いています)



■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.46）

1 背もたれを可能な限り起こす

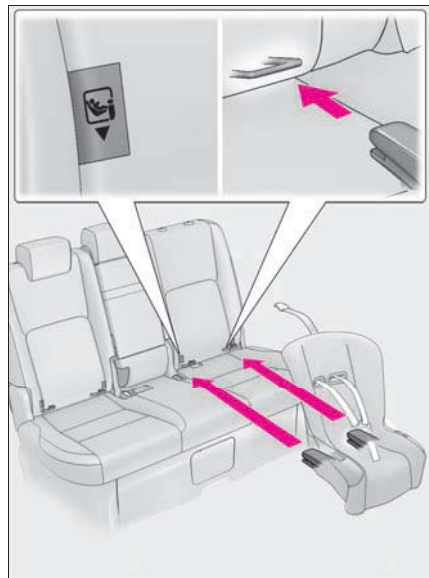
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.120）

3 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



4 取り付けしたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→P.52）

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

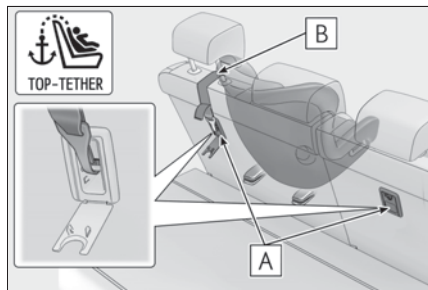
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



A トップテザーアンカレッジ

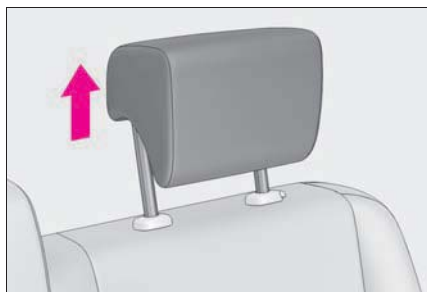
B テザーベルト

■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

- 1 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合

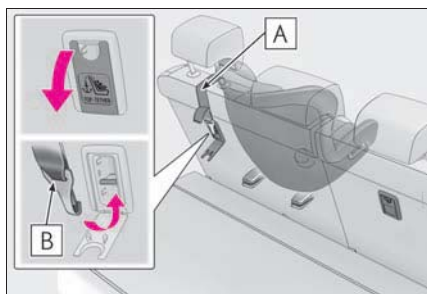
は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。(→P.120)



2 フタを開けてトップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。(→P.54)

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



A テザーベルト

B フック

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けないでください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカレッジに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

注意

■トップテザーアンカレッジについて

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

エンジンイモビライザーシステム

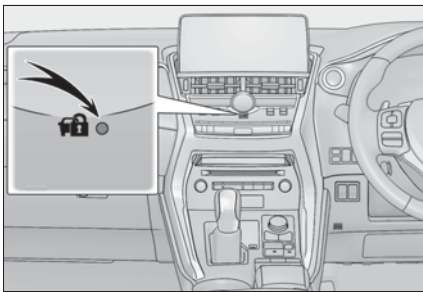
キーに信号発信機が内蔵しており、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには

エンジンスイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。



■ メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき



注意

■ エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。

オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。

- 施錠されたドアが、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき
- 侵入センサーが車内で動くものを検知したとき（侵入者がガラスを割るなどして車内に乗り込んだとき）

※ G-Link サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メールや電話でお知らせすることができます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／G-Link／サービスの使い方／G-Security を利用する」を参照してください。

オートアラームを設定／解除／停止する

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

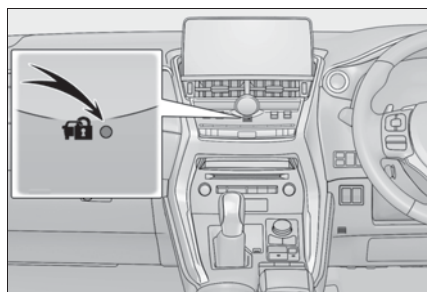
- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していな

いか

■ オートアラームを設定するには

ドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとセキュリティ表示灯は点灯から点滅にかわります。侵入センサーを停止してからオートアラームを設定するには（→P.58）



■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- ドアを解錠する
- エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにするか、エンジンを始動する（数秒後に解除・停止します）

□ 知識

■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ G-Link（ご契約のお客様のみ）

- うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れ、ムーンルーフの閉め

忘れを、ご指定の E メールアドレスへお知らせすることができます。

うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー&スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。

- リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどを携帯電話で確認できます。

詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／G-Link／サービスの使い方／G-Securityを利用する」を参照してください。

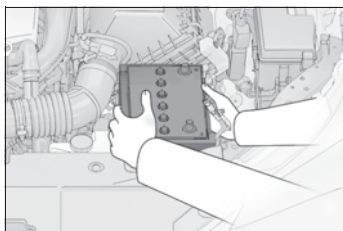
■ オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。

- 車内に残った人が、ドアやボンネットを開けたり、ロックレバーで解錠したとき



- 施錠後、バッテリーをはずしたとき (→P.361)



■ オートアラーム作動によるドアロック機能

次のような場合、自動的にドアが施錠されることがあります。

- 車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき
- オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき
- バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

■ カスタマイズ機能

メカニカルキーを使って解錠したとき、オートアラームが作動するように設定を変更することができます。

(カスタマイズ一覧：→P.373)

⚠ 注意

■ オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

侵入センサー

■ 侵入センサーの検知について

侵入センサーは、超音波を使って車内への侵入者や室内の動きを検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って入り込んだ侵入者なども検知できます。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

■ 侵入センサーを設定するには

オートアラームを設定すると、自動でセットされます。(→P.56)

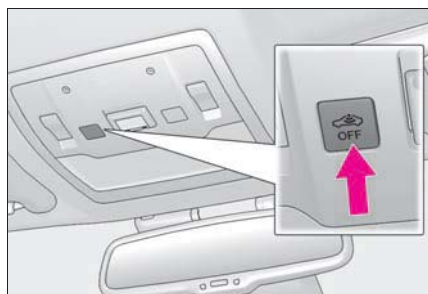
■ 侵入センサーを停止するには

車内で動くものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入センサーを停止してからオートアラームを設定してください。

- 1 エンジンスイッチを OFF にする
- 2 侵入センサー OFF スwitchを押す

もう一度スイッチを押すと、侵入センサーは再びセットされます。

侵入センサーを OFF/ON にするたびに、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



知識

■ 侵入センサーの作動・停止について

- 侵入センサーの作動を停止しても、オートアラームは作動します。
- 侵入センサーを停止したあとにエンジンスイッチを押すか、スマートエントリー&スタートシステム・ワイヤレスリモコン・メカニカルキーによる解錠操作を行うと、侵入センサーは復帰します。
- 再度オートアラームをセットすると、侵入センサーは作動可能状態（システム ON の状態）に自動復帰します。

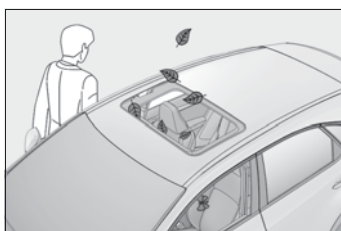
■ 侵入センサーについて

次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

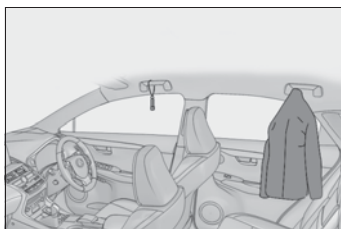
- 車内に乗員やペットなどを残して車両から離れる場合



- ドアガラスやムーンルーフなどが開いている場合、次のものを検知することがあります。
 - ・ 室内に入った落ち葉・虫・風など
 - ・ 他車の侵入センサーなどが発する超音波
 - ・ 室外の歩行者の動き

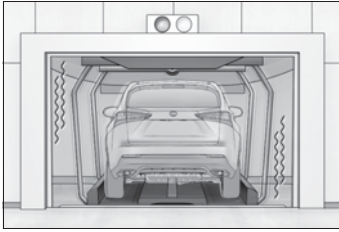


- マスコットやアクセサリーをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にある場合

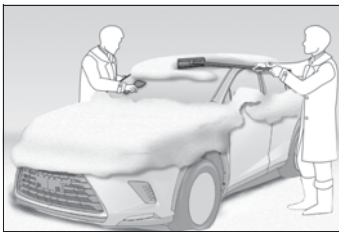


- 立体駐車場のような振動や騒音の激し

い場所に駐車した場合



- 雪かきやガラスに付着した氷を削り落とすときに、連続的な衝撃や振動が車両に伝わった場合



- 高圧洗車機や自動洗車機などを使う場合
- ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車両に伝わった場合

 注意

■ 侵入センサーを正しく作動させるために

- センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴射しないでください。



- センサーの穴はふさがないようにしてください。



- 運転席と助手席のシートのあいだに、レクサス純正品以外のアクセサリを装着したりものを放置したりすると、検知性能が低下することがあります。

2-1. 計器の見方

警告灯／表示灯	62
計器類	66
マルチインフォメーションディスプレイ	69
カラーヘッドアップディスプレイ	75
Harmonious Driving Navi. 画面／燃費画面	80

警告灯／表示灯

警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

メーターの警告灯／表示灯

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。



警告灯一覧

システム異常などを警告します。



(赤色)

ブレーキ警告灯 ※1
(→P.327)



充電警告灯 ※2 (→P.327)



油圧警告灯 ※2 (→P.327)



高水温警告灯 ※2 (→P.327)



(黄色)

ブレーキ警告灯 ※1
(→P.328)



エンジン警告灯 ※1
(→P.328)



SRS エアバッグ／プリテン
ショナー警告灯 ※1
(→P.328)



ABS & ブレーキアシスト警告
灯 ※1 (→P.328)



(黄色)

パワーステアリング警告灯
※1 (→P.328)



(赤色)

パワーステアリング警告灯
※1 (→P.328)



PCS 警告灯 ※1 (→P.329)



(橙色)

LTA 表示灯 ※2 (→P.329)



PKSB OFF 表示灯★※¹
(→P.329)



スリップ表示灯 ※¹
(→P.330)



ブレーキホールド作動表示灯
※¹ (→P.330)



パーキングブレーキ表示灯
(→P.330)



燃料残量警告灯 (→P.330)



シートベルト非着用警告灯
(→P.330)



マスターウォーニング ※¹
(→P.331)



タイヤ空気圧警告灯 ※¹
(→P.331)



ブレーキオーバライドシス
テム／ドライブスタートコン
トロール警告灯 ※²
(→P.331)

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

※¹ 作動確認のためにエンジンスイッチを
イグニッション ON モードにすると点
灯し、数秒後またはエンジンをかけら
ると消灯します。点灯しない場合や点灯
したままのときはシステム異常のおそ
れがあります。レクサス販売店で点検
を受けてください。

※² マルチインフォメーションディスプレイ
に表示されます。

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなどの安全装
置の警告灯が、エンジンを始動しても
点灯しない場合や点灯したままの場合
は、事故にあったときに正しく作動せ
ず、重大な傷害におよぶか、最悪の場
合死亡につながるおそれがあります。
ただちにレクサス販売店で点検を受け
てください。

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯 (→P.152)



尾灯表示灯 (→P.160)



ハイビーム表示灯 ※¹
(→P.161, 162, 165)



オートマチックハイビーム表
示灯 (→P.165) ／アダプ
ティブハイビームシステム表
示灯★ (→P.162)



フロントフォグランプ表示灯
(→P.168)



リヤフォグランプ表示灯★
(→P.168)



エコドライブインジケータラ
ンプ ※¹ (→P.65)



Eco 表示灯 ※⁷ (→P.226)



Sport 表示灯 ※⁷ (→P.226)



Sport S 表示灯★※⁷
(→P.226)



Sport S+ 表示灯★※⁷
(→P.226)



Custom 表示灯★※⁷
(→P.226)



レーダークルーズコントロール表示灯 ※⁷ (→P.199)



クルーズコントロールセット表示灯 ※⁷ (→P.199)



クルーズコントロール表示灯 ※⁷ (→P.199)



(白色)

LTA 表示灯 ※⁷ (→P.191)



(緑色)

LTA 表示灯 ※⁷ (→P.191)



(橙色点滅)

LTA 表示灯 ※⁷ (→P.191)



クリアランスソナー表示灯★
(→P.230)



PKSB OFF 表示灯★
(→P.236)



(点滅)

スリップ表示灯 ※¹
(→P.251)



VSC OFF 表示灯 ※¹
(→P.252)



PCS 警告灯 ※^{1, 2}
(→P.182)



Stop & Start 表示灯 ※^{1, 7}
(→P.223)



Stop & Start キャンセル表示灯 ※^{1, 7} (→P.225)



AWD ロックモード表示灯★
※¹ (→P.255)



パーキングブレーキ表示灯
(→P.153)



ブレーキホールドスタンバイ表示灯 ※¹ (→P.156)



ブレーキホールド作動表示灯 ※¹ (→P.156)



低温表示灯 ※^{3, 7} (→P.66)



BSM ドアミラーインジケータ★※^{4, 5} (→P.244)



セキュリティ表示灯 ※⁶
(→P.55, 56)



ITS Connect アイコン★※⁷
(→P.212)



ITS Connect アイコン★※⁷
(→P.212)



ITS Connect アイコン★※⁷
(→P.212)

★: グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

※¹ 作動確認のためにエンジンスイッチを
イグニッション ON モードにすると点
灯し、数秒後またはエンジンを始動す
ると消灯します。点灯しない場合や点
灯したままのときはシステム異常のお
それがあります。レクサス販売店で点
検を受けてください。

※² システムが OFF のときに点灯します。

※³ 外気温が約 3℃以下のとき、約 10 秒
間点滅後に点灯します。

※⁴ 作動確認のため次の条件のときインジ
ケータが点灯します。

BSM メインスイッチが ON の状態で、
エンジンスイッチをイグニッション
ON モードにしたとき
エンジンスイッチがイグニッション
ON モードで、BSM メインスイッ
チを ON にしたとき

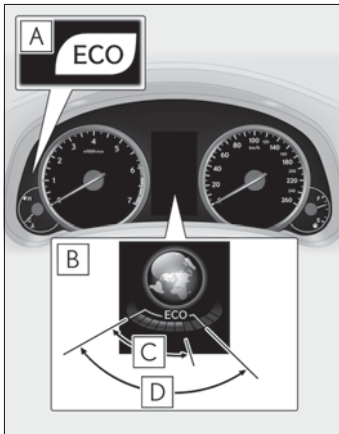
システムが正常であればインジケータは数秒後に消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

- ※⁵ ドアミラーに表示されます。
- ※⁶ インstrumentパネルに表示されます。
- ※⁷ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



知識

■ エコドライブインジケータについて



A エコドライブインジケータランプ

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケータランプが点灯します。必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

B エコドライブインジケータゾーン表示

エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

C 現状のアクセル開度

現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケータ

ターゾーン表示の右側が点灯します。このとき、エコドライブインジケータランプは消灯します。

D エコ運転の範囲

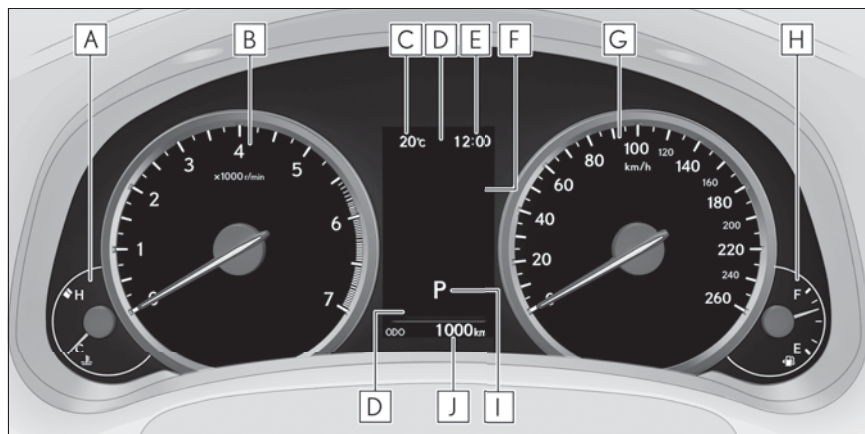
次の場合、エコドライブインジケータは作動しません。

- ・ シフトレバーがD以外にあるとき
- ・ パドルシフトを操作しているとき
- ・ ドライブモードがノーマルモードまたはエコモード以外するとき (→P.226)
- ・ 車速が約 100km/h 以上のとき

計器類

メーターにて、様々な走行状況に関する情報が表示されます。

メーターの表示について



A 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

B タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

C 外気温

外気温度を -40°C ~ 50°C の間で表示します。外気温が約 3°C 以下のときは、低温表示灯が点灯します。

D ドライブモードのカラー背景

ドライブモードによって背景色が変わります。(→P.226)

- ・ スポーツモード：赤色
- ・ エコモード：青色

ノーマルモード、カスタムモードのときは、背景色が黒色になります。

E 時計

表示される時刻は、インストルメントパネルのアナログ時計と連動しています。

(→P.286)

F マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関する様々な情報を表示します。(→P.69)

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.334)

G スピードメーター

車両の走行速度を示します。

H 燃料計

燃料残量を示します。次の場合、実際の燃料残量が正しく表示されないことがあります。

- ・ 少量給油（約 5L 以下）を行ったとき
- ・ 坂道など傾いた場所に停車したとき
- ・ 坂道やカーブを走行したとき

I シフトポジション・シフトレンジ表示

選択されているシフトポジションまたはシフトレンジを表示します。(→P.148)

J オドメーター／トリップメーター

オドメーター：

走行した総距離を表示します。

トリップメーター：

リセットしてからの走行距離を表示します。

区間距離は、トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。



知識

■メーターディスプレイの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON
モードのとき

■外気温度表示について

- 次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
 - ・ 停車している時や、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
 - ・ 外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）
- “--” または “E” が表示されたときは、システム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■割り込み表示について

マルチインフォメーションディスプレイ
やオドメーター／トリップメーター表示

部には、状況に応じて一時的に割り込み画面が表示されます。割り込み表示・非表示を切りかえることができます。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイでメーターの表示を変更できます。
(カスタマイザー覧：→P.373)

警告

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えばシフトレンジ表示を使用した場合、シフト操作をしてもすぐにシフトレンジの表示が切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度のエンジンブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

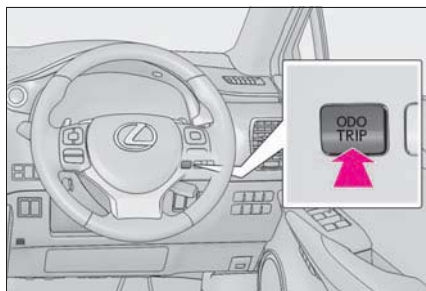
注意

■ エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針が H のレッドゾーンに入ったときや、マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」が表示されたときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、エンジンを確認してください。（→P.362）

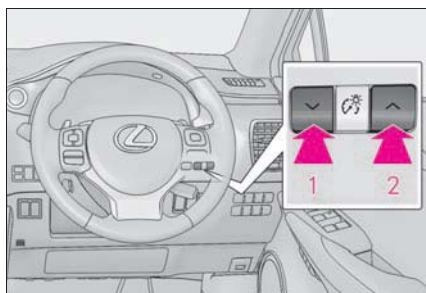
オドメーター／トリップメーターを切りかえるには

ボタンを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中に押し続けると、走行距離を 0 にもどします。



インストルメントパネル照明の明るさを調整するには

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。



- 1 暗くする
- 2 明るくする

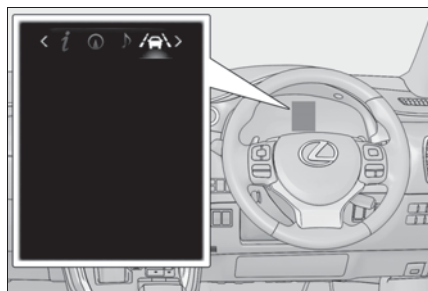
知識

■ インストルメントパネルの照度調整について

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。ただし、周囲が明るいとき（昼間など）に車幅灯を点灯しても、メーターの明るさは切りかわりません。

マルチインフォメーション ディスプレイ

ディスプレイの表示/メニュー アイコン一覧



■ メニューアイコン

	ドライブインフォメーション (→P.70)
	ナビゲーションシステム連携 表示 (→P.71)
	オーディオシステム連携表示 (→P.72)
	走行支援機能情報 (→P.72)
	Stop & Start システム情報 (→P.72)
	警告メッセージ (→P.334)
	設定 (→P.72)



知識

■ 液晶ディスプレイについて

→P.67

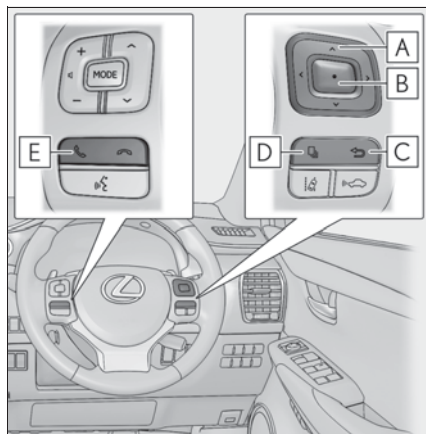
⚠ 注意

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてください。

表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。



A 選択/ページ送り

B 決定/設定

C ひとつ前の画面にもどる

D 短押し：

スイッチに登録した画面を表示する

長押し：

表示中の画面をスイッチに登録する

登録確認画面が表示されます。登録できない画面を選択しようとした場合は、登録不可のメッセージが表示されます。

E 電話の発着信・履歴表示

ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムについて詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

ドライブインフォメーションについて

■ ドライブインフォ1／2／3で表示される内容

走行に関するさまざまな情報を表示します。

次の項目から選択し、1画面につき2項目ずつ表示します。

項目を切りかえるには、メーター操作スイッチの **◀** または **▶** を押して

i を選択し、**▲** または **▼** を押しします。

● 瞬間燃費 ※1

現在の瞬間燃費を表示します。

● 平均燃費（リセット間 ※2・始動後・給油後） ※1

リセット後、エンジン始動後、給油後の平均燃費を表示します。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

● 平均車速（リセット間 ※2・始動後） ※1

リセット後、エンジン始動後の平均車速を表示します。

● 走行時間（リセット間 ※2・始動後） ※1

リセット後、エンジン始動後の経過時間を表示します。

● 距離（航続可能・始動後走行） ※1

燃料残量による走行可能な距離、エンジン始動後の走行距離を表示します。

・ 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの使用など）に応じて燃費が変わるため、実際に走行できる距離とは異なります。

・ 燃料給油量が少量（約5L以下）のとき、表示が更新されないことがあります。

● アイドリングストップ時間（リセット間 ※2・始動後）

アイドリングストップ時間（Stop & Start システムによるエンジン停止時間）を表示します。

※1「設定」のドライブインフォ1／ドライブインフォ2／ドライブインフォ3で選択した項目が表示されます。

※2リセットするには、項目表示中にメーター操作スイッチの **●** スイッチを1

秒以上押します。

リセット可能項目が複数表示されている場合は、リセット項目の選択画面が表示されます。

■ エコドライブインジケーター

→P.65

■ ブーストメーター／油温計／油圧計★

● ブーストメーター

過給圧を表示します。一定圧以上になると表示の色が変わります。

● 油温計

エンジンオイルの温度を表示します。エンジン油温が140℃以上になると、表示が点滅します。

● 油圧計

エンジン内部の油圧を表示します。油圧が低下すると、ブザーが鳴り、警告メッセージを表示します。(→P.336)

表示画面については路面状況、気温、車速などによって実際の車両状態と異なる場合があります。

表示画面は、参考として利用してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ G センサー

車両にかかる前後左右の加速度を表示します。また、ハンドルの切れ角、ブレーキ油圧、アクセル開度も表示します。

● 表示画面については路面状況、気温、車速などによって実際の車両状態と異なる場合があります。表示画面は、参考として利用してください。

● バッテリー端子の脱着をしたときは、一時的にステアリング操作量が表示されなくなりますが、しばらく走行することで表示されます。

■ 車速

車両の走行速度を示します。

■ タイヤ空気圧★

タイヤが装着されている位置ごとに、現在のタイヤ空気圧を表示します。

応急用タイヤ装着車：応急用タイヤの空気圧は表示されません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ふらつき警報機能

運転者の注意力が低下したときに発

生するふらつき運転を検知し、注意力低下の度合をバーの長さで表示します。バーの長さが短いほど休憩が必要な状態であることを表します。

この表示は LTA（レーントレーシングアシスト）の機能のひとつです。LTA（レーントレーシングアシスト）のふらつき警報機能の作動条件を満たしたときに、表示の機能が有効になります。(→P.190)

■ 表示 OFF

ブランク（非表示）画面を表示します。



■ タイヤ空気圧表示について

- ・ エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたあと、空気圧が表示されるまで 2、3 分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで 2、3 分かかります。
- ・ 電波状況等によって各タイヤ位置の情報を識別できないときは“---”と表示されることがあります。
- ・ タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■ バッテリー端子の脱着をしたとき

バッテリー端子の脱着を行うと、ドライブレインフォメーションのデータはリセットされます。

ナビゲーションシステム連携表示について

ナビゲーションシステムと連携して次の情報を表示します。

● ルート案内表示

- コンパス（ヘッドアップ表示）

オーディオシステム連携表示について

オーディオソースの選択、選曲などを操作することができます。

走行支援機能情報について

次のシステムの作動状況を表示します。

- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.198）
 - LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.187）
 - RSA（ロードサインアシスト）（→P.195）
 - ITS Connect★（→P.211）
アイコン表示は機能により切りかわります。
- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

Stop & Start システム情報について

Stop & Start システムの作動状態を表示できます。

■ Stop & Start 設定

→P.218

■ アイドリングストップ時間

現在のアイドリングストップ時間（Stop & Start システムによるエンジン停止時間）を表示します。

■ アイドリングストップ時間（リセット間・始動後）

リセット後、エンジン始動後のアイドリングストップ時間（Stop & Start システムによるエンジン停止時間）を通算で表示します。

■ アイドリングストップ節約燃料（リセット間・始動後）

リセット後、エンジン始動後のアイドリングストップ時間中の節約燃料（参考）を表示します。

警告メッセージについて

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。（→P.334）

表示の設定について

各装備の機能の ON/OFF や設定変更などができます。変更可能な項目では、を押すたびに ON/OFF が切りかわります。

■ LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.187）

次の設定を変更することができます。

● 車線維持支援（センタートレース）

車線維持支援の作動・非作動を変更することができます。

● 操舵支援

ハンドル操舵支援の作動・非作動を変更することができます。

● 警報手段

警報の手段を変更することができます。

● 警報感度

警報機能の感度を変更することができます。

● ふらつき検知

ふらつき検知機能の作動・非作動を変更することができます。

● ふらつき検知感度

ふらつき検知機能の感度を変更することができます。

■ PCS (プリクラッシュセーフティ) (→P.180)

次の設定を変更することができます。

● PCS

プリクラッシュセーフティの作動・非作動を変更することができます。

● 警報感度

警報タイミングを変更することができます。

■ PKSA (パーキングサポートアラート) (→P.228) ★

次の設定を変更することができます。

● クリアランスソナー

クリアランスソナーの作動・非作動を変更することができます。

● 音量

パーキングサポートアラート作動時のブザー音量を変更することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PKSB (パーキングサポートブレーキ) (→P.234) ★

次の設定を変更することができます。

● PKSB

パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動・非作動を変更することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ RSA (ロードサインアシスト) (→P.195)

次の設定を変更することができます。

● RSA

ロードサインアシストの作動・非作動を変更することができます。

● 速度超過告知

制限速度超過告知の作動・非作動と告知方法を変更することができます。

● 速度超過告知レベル

制限速度超過の告知タイミングを変更することができます。

● 追い越し禁止告知

はみ出し通行禁止標識を認識したときの告知方法を変更することができます。

● その他

その他の設定を変更することができます。

■ 先行車発進告知機能 (→P.209)

次の設定を変更することができます。

● 先行車発進告知

先行車発進告知機能の作動・非作動を変更することができます。

● 告知タイミング

先行車発進の告知タイミングを変更することができます。

■ 時計 (→P.286)

時刻の表示方法を変更することができます。

■ 車両設定

● PBD（パワーバックドア）

次の設定を変更することができます。

・ 機能

パワーバックドアの作動・非作動を変更することができます。

・ 音量

パワーバックドア作動時のブザー音量を変更することができます。

・ キックセンサ ※

キックセンサの作動・非作動を変更することができます。

※ キックセンサ装着車

● Stop & Start

・ Stop & Start（Normal/Long）

エアコンの A/C スイッチを ON にしているときの、Stop & Start システムによるアイドリングストップ時間を変更することができます。

● TPMS（タイヤ空気圧警報システム）（→P.307）

タイヤ空気圧警報システムの初期化を行います。

■ 表示設定

● 言語

表示される言語を変更することができます。

● 単位

燃費表示の単位を変更することができます。

● エコドライブインジケータランプ

エコドライブインジケータランプの作動・非作動を変更することができます。

● スイッチ設定

 スイッチにお好みの画面を登録する方法を表示します。

お好みの画面を登録しておくと、 スイッチを押したときに登録した画面を表示させることができます。

● ドライブインフォメーション画面（→P.70）

ドライブインフォメーションに表示させる項目をドライブインフォ 1、ドライブインフォ 2、ドライブインフォ 3 それぞれに 2 項目ずつ選択することができます。

● 割込表示

下記の割り込み表示される項目の表示・非表示を変更することができます。

- ・ ナビゲーションシステム連動の交差点案内
- ・ 電話着信
- ・ ETC に関する通知
- ・ アイドリングストップ作動時間
- ・ アイドリングストップ状態通知
- ・ 照度調整

● カラー

カーソルの色などを変更することができます。

● 表示設定初期化

メーターの表示設定を初期状態にもどすことができます。

知識

■ 設定画面の操作について

設定画面操作中に次の状況になると操作が一時的に中断されます。

- ・ 警告メッセージが表示されたとき

・ 走行し始めたとき

警告

■ **ディスプレイの設定を変更するとき**
エンジンが作動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ **ディスプレイの設定を変更するとき**
バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンが作動している状態で実施してください。

クリアランスソナー表示★について

クリアランスソナー使用時に自動で表示されます。（→P.229）

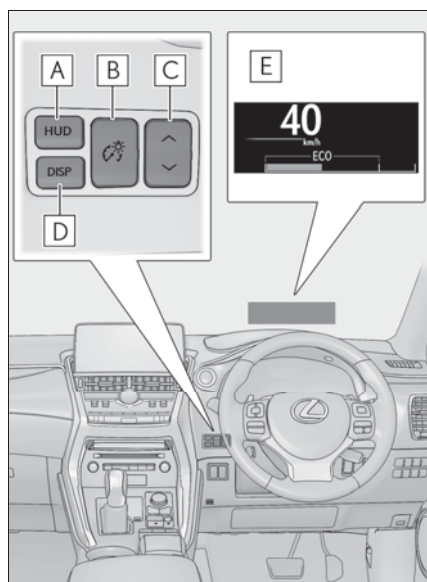
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

カラーヘッドアップディスプレイ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

カラーヘッドアップディスプレイは、フロントウインドウガラスに現在の車速やナビゲーションシステムのルート案内表示などの情報を表示することができます。

システムの構成部品



A HUD（ヘッドアップディスプレイ）
メインスイッチ

B 表示輝度調整スイッチ

表示輝度はお好みの明るさに調節することができます。

C 表示位置調整スイッチ

D DISP スイッチ

E ヘッドアップディスプレイ

表示輝度は、周囲の明るさに応じて自動的に調整されます。

ヘッドアップディスプレイの表示内容

- 車速表示
- エコドライブインジケータ
(→P.78)
- タコメーター
- シフトポジション・シフトレンジ
表示 (→P.148)

選択されているシフトポジションまたはシフトレンジを表示します。

● オーディオ表示

オーディオシステム操作時に約 3 秒間表示されます。

● レーン表示 (→P.79)

交差点にさしかかったとき、自動で車線・進行方向などのレーン情報が表示されます。

● ルート案内表示 (→P.78)

ナビゲーションシステムで、ルート案内を実行しているときに使用できます。交差点に近付いたとき、ヘッドアップディスプレイにルート案内（進行方向の矢印）が表示されます。

● 車線逸脱警報表示 (LTA [レーン トレーシングアシスト]) (→P.187)

● 接近警報表示 (レーダークルーズ コントロール) (→P.203)

● 衝突警報表示 (プリクラッシュ セーフティ) (→P.180)

● 先行車発進表示 (→P.209)

● RSA (ロードサインアシスト)

(→P.195)

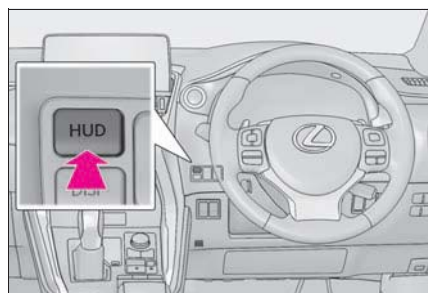
- ITS Connect★ (→P.211)
- パーキングサポートブレーキ（静止物）表示★ (→P.234)
- G センサー★ (→P.71)
- ブーストメーター★ (→P.70)
- ブレーキオーバーライドシステム
(→P.137)
- ドライブスタートコントロール
(→P.137)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ヘッドアップディスプレイ表示の切りかえ

■ HUD メインスイッチ

ヘッドアップディスプレイの ON/OFF を切りかえる

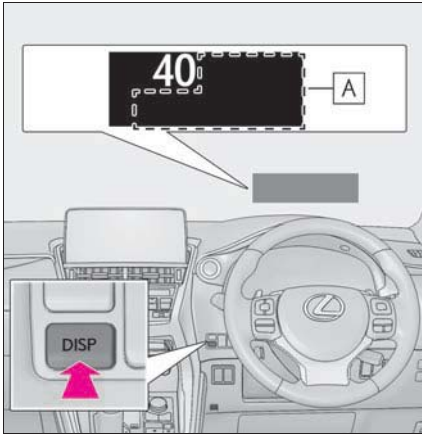


■ DISP スイッチ

押すたびに車速以外の表示**A**が次のように切りかわります。

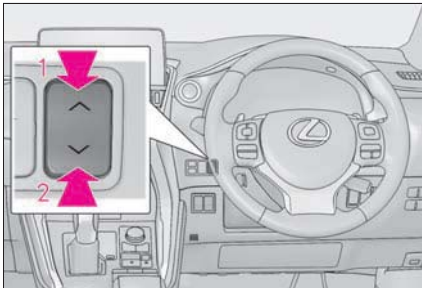
- ・ 非表示
- ・ エコドライブインジケータ
- ・ タコメーター
- ・ タコメーターとブーストメーター★
- ・ G センサー★

★: グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。



見やすく調整する

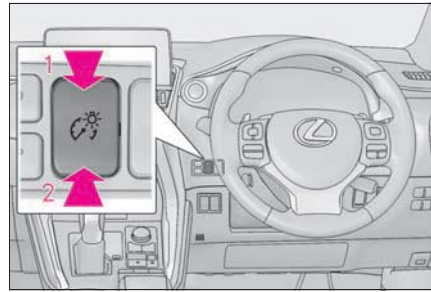
■ 表示位置の調整



- 1 表示位置を上げる
- 2 表示位置を下げる

■ 表示輝度の調整

表示輝度は9段階あり、周囲の明るさに応じて自動で調整されますが、手動で調整することもできます。



- 1 明るくする
- 2 暗くする

知識

■ ヘッドアップディスプレイについて

サングラス（特に偏光サングラス）を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

■ ヘッドアップディスプレイの表示について

ヘッドアップディスプレイ表示を OFF にしたときは、再び ON にするまでヘッドアップディスプレイは表示されません。

警告

■ ヘッドアップディスプレイ使用上の留意点

映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。

調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

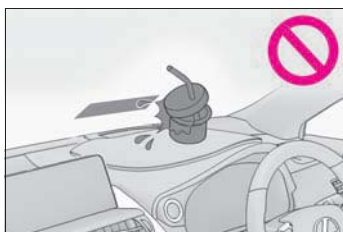
■ヘッドアップディスプレイの設定を変更するとき

エンジンが始動している状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気をしないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素 (CO) により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ヘッドアップディスプレイ映写部についての注意

- 映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やそのほかの液体が映写部にかかる、装置が故障する原因になります。

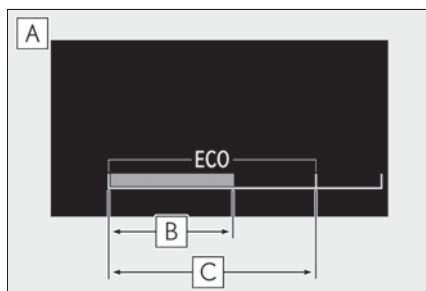


- 映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。
- 映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。装置が故障する原因となります。

■ヘッドアップディスプレイの設定を変更するとき

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンが始動している状態で実施してください。

エコドライブインジケーター



A エコドライブインジケーターゾーン表示

エコ運転の範囲と現状のアクセル開度を表示します。

B 現状のアクセル開度

現状のアクセル開度がエコ運転の範囲をこえたとき、エコドライブインジケーターゾーン表示の右側が点灯します。

C エコ運転の範囲

次の場合、エコドライブインジケーターは作動しません。

- ・ シフトレバーが D 以外にあるとき
- ・ パドルシフトを操作しているとき
- ・ ドライブモードがノーマルモードまたはエコモード以外のとき (→P.226)
- ・ 車速が約 100km/h 以上のとき

ルート案内表示

交差点に接近すると、進路方向を矢印で指示します。

交差点から約 150 メートル^{※1}まで接近すると、案内表示が開始され、交差点までの残距離^{※2}が表示されます。

^{※1}レーン表示機能が OFF のときは、約 300 メートル手前から、案内表示が開始されます。

^{※2}交差点を通過すると表示が消えます。



レーン表示

交差点の約 300 メートル手前から表示がはじまり、交差点を通過するとレーン表示が消え、もとの表示にもどります。

必要に応じて、レーン表示の表示／非表示を切りかえることができます。



知識

■ レーン表示について

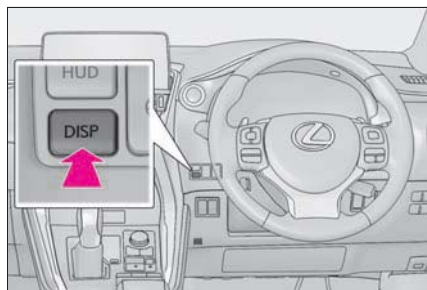
地図データに情報のない交差点では、レーン表示は行われません。また交差点によっては、レーン表示と実際の交差点形状が異なる場合があります。現場の道路標識・表示や道路状況に従って走行してください。

表示のカスタマイズ

次の内容の表示／非表示を設定することができます。

- ・ 目的地案内
- ・ レーン表示
- ・ 走行支援機能情報
- ・ オーディオ作動表示

安全に操作することができる場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にしてください。



- 1 レーン表示設定画面が表示されるまで、DISP スイッチを押し続ける

ヘッドアップディスプレイが ON のときに操作ができます。

- 2 DISP スイッチを押して ON/OFF を切りかえる

スイッチを押すたびに ON/OFF が切りかわります。

スイッチを操作しないまましばらく放置した場合は、自動で設定が終了します。



知識

■ バッテリー端子の脱着をしたとき

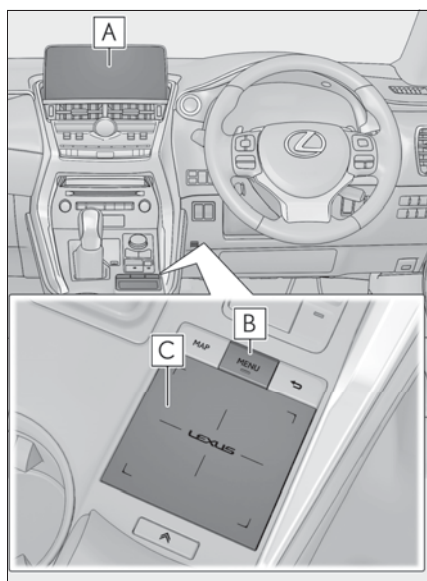
ヘッドアップディスプレイのカスタマイズ設定がリセットされます。

Harmonious Driving Navi. 画面／燃費画面

燃費に関する情報をナビゲーション画面に表示します。

Harmonious Driving Navi. 画面、または燃費画面は、サイド画面にも表示することができます。

システムの構成部品



A ナビゲーション画面

B MENU ボタン

C タッチパッド

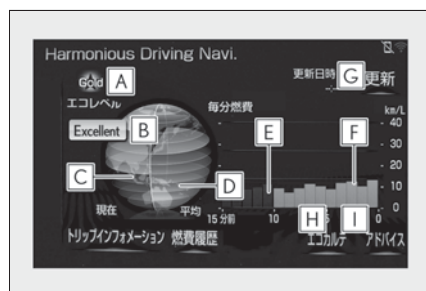
Harmonious Driving Navi. 画面の見方

■ 画面を表示させるには

- 1 リモートタッチの MENU ボタンを押し、**i** を選択する
- 2 「Driving Navi」を選択する

Harmonious Driving Navi. 画面が表示されます。

■ 画面の表示について



A ステータス／ポイント表示 ※¹

エコ運転の採点結果や走行情報を G-Link センターに送信し、計算されたデータをもとにステータスやポイントを表示します。

ステータスはエコ運転を継続することでブロンズ、シルバー、ゴールドの順にランクがアップします。

B エコレベルインジケーター

エコレベルメーターのレベルに応じて Good・Excellent が表示されます。レベルが低い場合は表示されません。

C エコレベルメーター

エコドライブインジケーターランプの点灯を継続させることなどでメーターが増加します。

D エコレベル平均値

エコレベルメーターの平均値を表示しま

す。

E トリップインフォメーション（前回エンジン始動～エンジン停止）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。

今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

F トリップインフォメーション（今回エンジン始動～現在）

1 分ごとの平均燃費を最大 15 分前までグラフ表示します。

今回と前回の平均燃費を色分けして表示します。

G 更新スイッチ ※2

走行情報などを G-Link センターへ送信し、ステータス／ポイント表示を更新します。

H エコカルテススイッチ ※2

お車から送信された情報を反映して、月間の走行距離・ガソリン消費量・CO2 排出量・平均燃費・獲得ポイントが表示されます。

I アドバイススイッチ

- ・ドライバーの運転操作についてエコ運転の観点で診断した結果を表示します。良いところを確認したり、さらに良くするにはどうしたら良いかを知ることができます。
- ・エコ運転や環境に関する豆知識を表示します。

※1 G-Link サービスをご利用されているときに表示されます。
G-Link の利用手続き・利用開始操作については別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

※2 G-Link サービスをご利用されているときに使用することができます。

また、ナビゲーション画面に通信設定に関するメッセージが表示された場合は、メッセージに従って設定してください。

G-Link の利用手続き・利用開始操作については別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

知識

■ G-Link センターへ送信する走行情報について

G-Link センターへ送信する走行情報は、ナビゲーションシステムが算出するものであり、マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行距離や燃費などとは一致しないことがあります。

■ Harmonious Driving Navi. 画面について

パソコンや携帯電話のユーザーサイトでもステータスなどをみることができます。

燃費画面の見方

■ 画面を表示させるには

1 リモートタッチの MENU ボタンを押し、 を選択する

2 「トリップインフォメーション」または「燃費履歴」を選択する

■ トリップインフォメーションの見方

トリップインフォメーション画面以外が表示されたときは、「トリップインフォメーション」を選択します。



- A** 履歴消去
- B** 過去 15 分間の 1 分ごとの燃費
(平均燃費)
- C** 瞬間燃費
- D** エンジン始動後平均車速
- E** エンジン始動後経過時間
- F** 航続可能距離

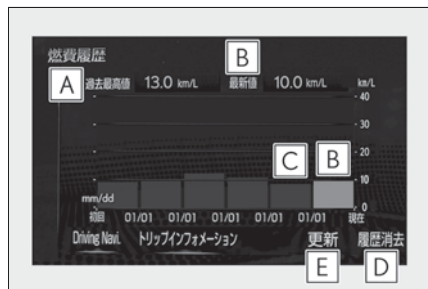
平均燃費はエンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてからと、前回走行時で色分けして表示されます。

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 燃費履歴の見方

燃費画面以外が表示されたときは、「燃費履歴」を選択します。



- A** 過去最高値表示
- B** 最新値表示
- C** 過去平均燃費表示

平均燃費は最後に更新してからの平均、過去の平均で色分けして表示されます。

- D** 履歴消去
- E** 最新値更新

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

□ 知識

■ 過去の区間平均燃費の記録を更新するには

区間燃費画面で「更新」を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■ 燃費データをリセットするには

「履歴消去」を選択すると、燃費データがリセットされます。

■ 航続可能距離について

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を示します。

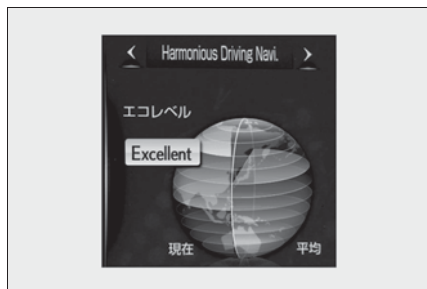
表示される距離は、過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。

サイド画面の使い方

ナビゲーション画面を分割画面表示(→P.263)にした場合、サイド画面に車両情報を表示し、**◀**または**▶**を選択してお好みの画面を表示します。

■ Harmonious Driving Navi.

現在のエコ運転の状況を表示します。



表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ トリップインフォメーション (タイプ A)

過去 10 分間の 1 分ごとの平均燃費と航続可能距離を表示します。



表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ トリップインフォメーション (タイプ B)

航続可能距離・最新値・始動後経過時間を表示します。

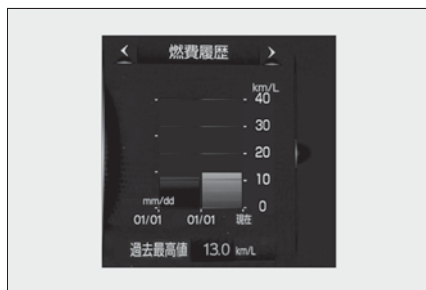


表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

■ 燃費履歴

最新値と過去最高値を表示します。



表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

3-1. キー

キー 86

3-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア 90

バックドア 94

スマートエントリー&スタートシステム 105

3-3. シートの調整

フロントシート 110

リヤシート 111

パワーイージーアクセスシステム/
ポジションメモリー/メモリー
コール機能 116

ヘッドレスト 119

3-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル 122

インナーミラー 123

ドアミラー 124

**3-5. ドアガラス・ムーンルーフの開
閉**

パワーウインドウ 126

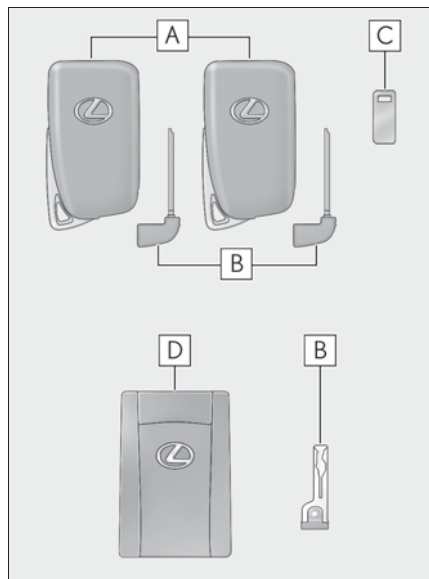
ムーンルーフ 128

電動サンシェード 132

キー

キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。



A 電子キー

- ・スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P.105)
- ・ワイヤレス機能の作動

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

D カードキー

スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P.105)

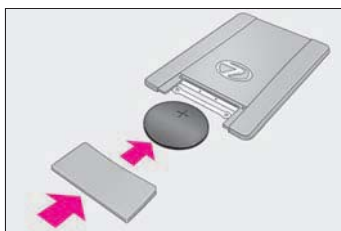


知識

■ カードキー

- カードキーに内蔵されているメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。

- 電池カバーがはずれたときやぬれたときに電池をはずした場合は、電池の＋極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。



- カードキーは非防水です。

■ 航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■ 電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。(カードキーの電池は 1 年半程度で消耗します)
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。
- 電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。
 - ・ スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
 - ・ 作動範囲が狭くなった
 - ・ 電子キーの LED が点灯しない
- 電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを保管しないでください。

- ・ TV
- ・ パソコン
- ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
- ・ 電気スタンド
- ・ 電磁調理器

■ 電池の交換方法

→P.311

■ キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはレクサス販売店へご相談ください。

注意

■ キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 湿度の高いところに長時間放置しない
- めらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない
- 分解しない
- 電子キー表面にシールなどを貼らない
- テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■ 電子キー取り扱いの注意

電子キーは電波法の認証に適合しています。必ず以下のことをお守りください。

- 電池交換時以外は、不用意に分解しないでください。
分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
- 必ず日本国内でご使用ください。

■ キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは10cm以上離して携帯してください。10cm以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■ スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

→P.357

■ 電子キーを紛失したときは

→P.356

■ カードキーの取り扱いについて

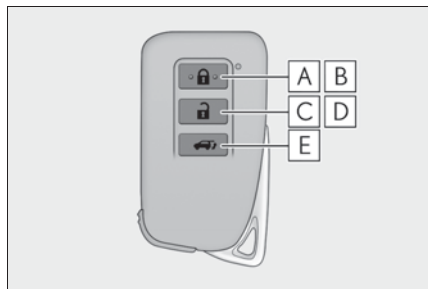
- 電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が腐食するおそれがあります。
水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分をふき取ってください（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください）。電池が腐食した場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。
- 電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。
無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷を付けたりするおそれがあります。

⚠ 注意

- 電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。
- 電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。
- 次のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷を付けたり塗装がはがれたりするおそれがあります。
 - ・ 小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
 - ・ シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
 - ・ シンナーやベンジンでカードキーの表面をふいたとき

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が装備されています。



- A** 全ドアを施錠する (→P.90)
- B** ドアガラスとムーンルーフ★を閉める ※ (→P.90)
- C** 全ドアを解錠する (→P.90)
- D** ドアガラスとムーンルーフ★を開

く ※ (→P.90)

- E** パワーバックドアを開閉する (→P.95)

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ レクサス販売店ででの設定が必要です。

📖 知識

■ バックドア予約ロック機能

バックドアが開いている状態で、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。次の操作をすると、バックドア以外のすべてのドアが施錠され、バックドアが閉まると同時にバックドアも施錠されます。

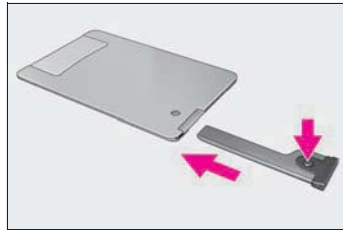
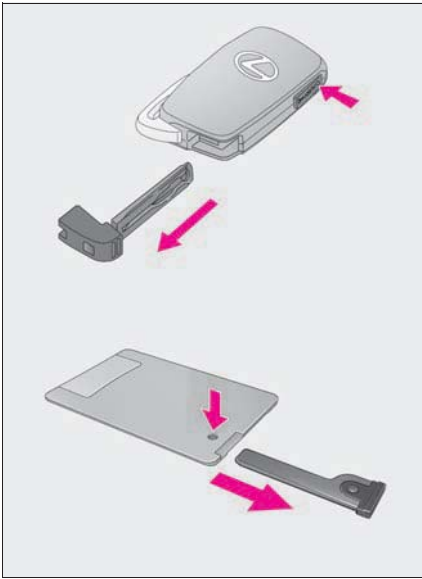
- 1 バックドア以外のすべてのドアを閉じる。
- 2 バックドアの自動閉作動中にワイヤレスの施錠ボタンを押す。

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出して下さい

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きを覚えて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→P.357)



⚠ 注意

■ カードキーの取り扱いについて

メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。

📖 知識

■ 駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じてグローブボックスを施錠(→P.279)します。メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■ メカニカルキーを紛失したとき

→P.356

■ 不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

■ カードキーについて

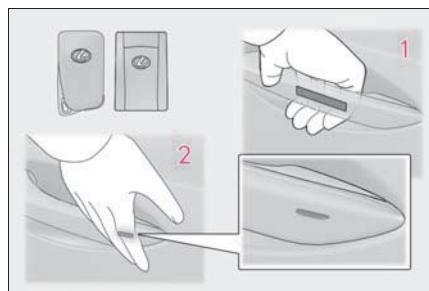
- メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などで解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。
- メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。

ドア

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー&スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。



1 ハンドルを握って解錠する

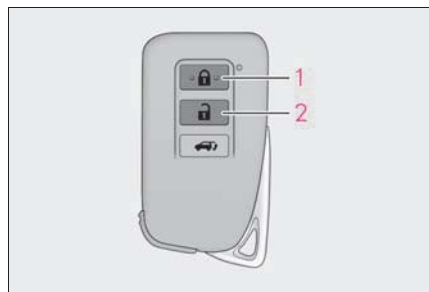
ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する



1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ

★が閉まります。※

2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ

★が開きます。※

★：グレード、オプションなどにより、
装備の有無があります。

※ レクサス販売店ででの設定が必要です。

知識

■ 解錠するドアを切りかえるには

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

1 エンジンスイッチを OFF にする

2 オートアラームの侵入センサーを停止する

(操作中のオートアラーム誤作動防止：→P.57)

3 キー表面のインジケーターが消灯して

いるときに ボタンと同時に、

または のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。(続けて切り換え操作を行う場合は、ボタンから手を離れたあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 3 を行ってください)

マルチインフォメーションディスプレイ表示／ブザー音	解錠できるドア
 車外：“ピピッ” (3回) 車内：“ポーン” (1回)	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠 運転席以外のドアハンドルを握ると全席解錠
 車外：“ピピッ” (2回) 車内：“ポーン” (1回)	いずれかのドアハンドルを握ると全席解錠

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。

( ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます) オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。(→P.56)

■キーを使わずに車外からドアを施錠するときは

- 1 ロックレバーを施錠側にする
- 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

エンジンスイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

ドアガラスとムーンルーフの開閉をブザーで知らせます。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

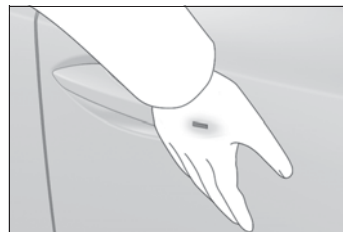
■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル表面のロックセンサーに指でふれても施錠できないときは、手のひらでロックセンサーにふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



■オートアラームの設定制御

施錠するとオートアラームが設定されます。(→P.56)

- スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのあるとき

→P.107

- スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

- メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.357)
- 電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。

■ カスタマイズ機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。

(カスタマイズ一覧：→P.373)

⚠ 警告

■ 事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、不意にドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- すべてのドアを確実に閉め、施錠する
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
特に、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乘せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するときは

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

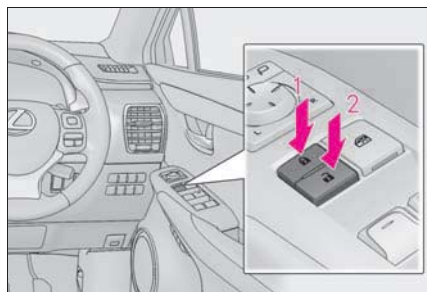
■ ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスやムーンルーフ★を操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

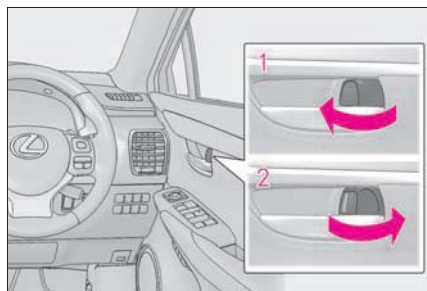
車内から施錠／解錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する



- 1 全ドアを施錠する
- 2 全ドアを解錠する

■ ロックレバーを使用する



- 1 ドアを施錠する
- 2 ドアを解錠する

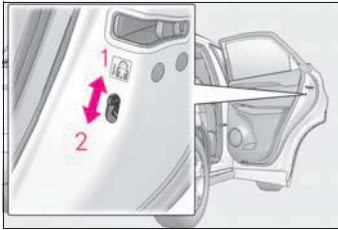
運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっても、車内のドアハンドルを引くと開けられます。



知識

■チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。



1 解錠

2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引てください。

■半ドア走行時警告ブザー

全ドアまたはボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえるとマスターウォーニングが点滅し、警告ブザーが鳴ります。

開いているドアまたはボンネットがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P.373 を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	エンジンが作動中にシフトレバーを P 以外にしたとき全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトレバーを P にしたとき全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	エンジンスイッチを OFF にしてから 10 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

バックドア

バックドアはバックドアオープンスイッチやスマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って施錠・解錠および開閉することができます。

警告

■ 走行しているとき

- 走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあります。走行前にバックドアが閉まっていることを必ず確認してください。
- 走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。
バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ラゲージルーム内には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキ、急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■ バックドアの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。
- バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 傾斜が急な場所で半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずバックドアが静止していることを確認して使用してください。

警告

- バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

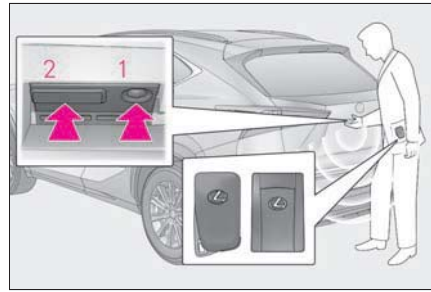


- バックドアは必ず外から軽く押して開めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- スピンドルユニット（→P.102）を持ってバックドアを開めたり、ぶらさがったりしないでください。手を挟んだり、スピンドルユニットが破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリ用品の取り付けは、レクサス純正品を使用することをおすすめします。

車外から施錠／解錠するには

- スマートエントリー&スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。

**1 全ドアを施錠する**

必ず施錠されたことを確認してください。

2 全ドアを解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

■ ワイヤレス機能を使用する

→P.88

車内から施錠／解錠するには**■ ドアロックスイッチを使用する**

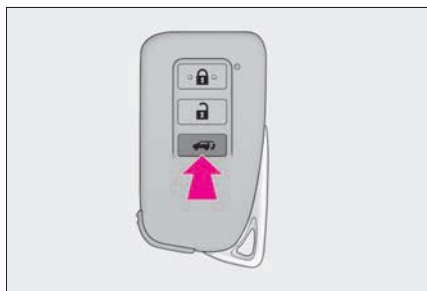
→P.92

バックドアを開閉するには**■ ワイヤレス機能を使用して開閉する**

 を約 1 秒長押しする

バックドア解錠時※に作動させることができます。

※ カスタマイズ機能により、施錠時からでも作動できるように設定できます。



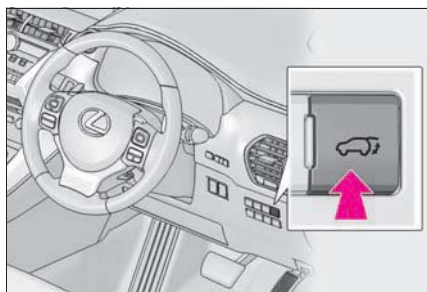
■ 車内からスイッチ操作で開閉する

🚗を約 1 秒長押しする

ブザーが鳴りバックドアが自動で開閉します。

開閉作動中に🚗を押すと、作動を停止します。

作動を停止した状態から再度、🚗を約 1 秒間長押しすると、バックドアは反転作動します。



■ 車外からスイッチ操作で開閉する

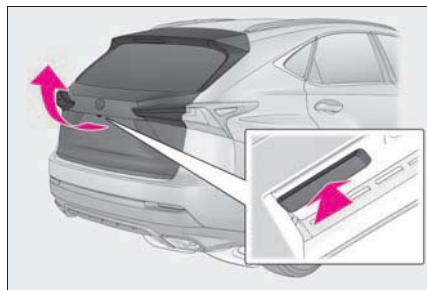
● 開ける

バックドア解錠時：バックドアオープンスイッチを押す

バックドア施錠時：電子キーを携帯して、バックドアオープンスイッチを押す

ブザーが鳴りバックドアが自動で開きます。

バックドアが開く途中でスイッチを押すと、作動を停止します。



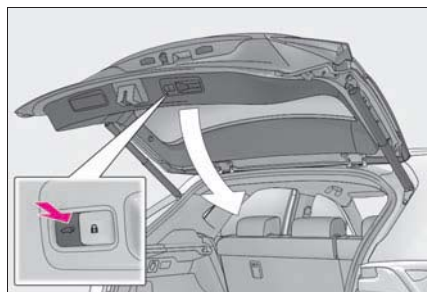
● 閉じる

🚗を押す

ブザーが鳴りバックドアが自動で閉まります。

バックドアが閉まる途中で🚗を押すと、作動を停止します。

再度🚗を押すと、バックドアは自動で開きます。



● 閉じると同時に全ドアの施錠をする（クローズ&ロック機能）

🔒を押す

通常ブザーと異なるブザー音が鳴り、パワーバックドアが自動で閉まります。閉まると同時にすべてのドアが施錠されたことをドアロックアンサーバックでお知らせします。

パワーバックドアが閉まる途中で

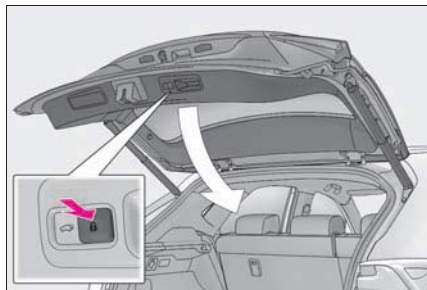


を押すと、作動を停止します。

再度

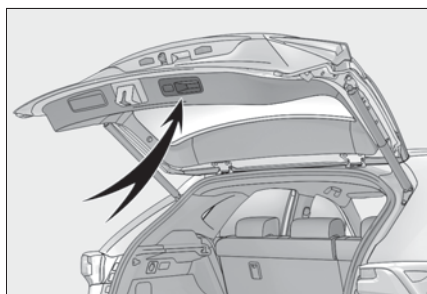


を押すと、パワーバックドアは自動で開作動します。



■ バックドアグリップを使用して閉じる

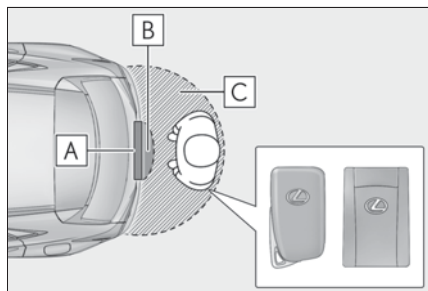
バックドアグリップを持ってバックドアを引き下げると、ブザーが鳴りバックドアが自動で閉まります。



■ キックセンサを使用して開閉する (ハンズフリーパワーバックドア装着車)

- 1 電子キーを携帯し、スマートエントリー&スタートシステムの作動

範囲内でリヤバンパーから約 50 ~ 70cm 離れた位置に立つ



A キックセンサ

B キックセンサ検知エリア

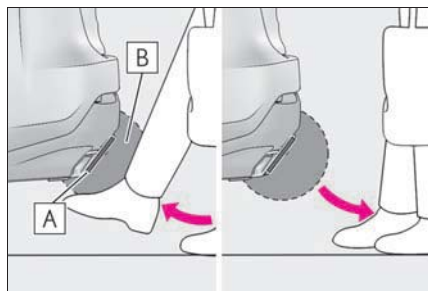
C スマートエントリー&スタートシステム作動検知エリア
(→P.105)

- 2 足をリヤバンパーから約 10cm の距離になるまで近づけて引く

- ・ 足を近づけて引く動作を 1 秒以内に行ってください。
- ・ 足先をリヤバンパーの下に入れたままでは作動しません。
- ・ リヤバンパーに足先をあてずに非接触で操作してください。
- ・ 車室内またはラゲージルーム内に他の電子キーがあると、作動までの時間が少し長くなることがあります。

全ドア施錠時：キックセンサが動きを感じ

知すると、全ドアが解錠されます。



A キックセンサ

B キックセンサ検知エリア

- 3** 足を引く動作をセンサーが検知するとブザーが鳴り、その後バックドアが自動で全開・全閉します。

バックドアが作動途中に再度操作をすると、作動を停止します。



知識

■ラゲージルームランプ

- バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。
- エンジンスイッチがOFFの場合、ラゲージルームランプが点灯したままのときは、約20分後に自動消灯します。

■パワーバックドアの作動可能条件

パワーバックドアの作動がONで、次のときに自動で開閉できます。

- バックドアが解錠されているとき
ただし次のときはバックドアが施錠されていてもパワーバックドアは作動します。
 - ・電子キーを携帯してバックドアオープンスイッチを押したとき
 - ・ワイヤレスリモコン使用時では、カスタマイズ機能により施錠時からでも作動できるように設定したとき
- エンジンスイッチがイグニッションONモードのとき開作動するには、上記に

加え、次のいずれかの条件で作動します。

- ・パーキングブレーキがかかっている
- ・ブレーキペダルを踏んでいる
- ・シフトレバーがPの位置にある

■キックセンサの作動可能条件（ハンズフリーパワーバックドア装着車）

- キックセンサの作動の設定がONのとき（→P.104）
- 電子キーが作動範囲内にあるとき（→P.106）

■バックドアアイジークローザー

バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアアイジークローザーが作動し、バックドアが自動で完全に閉まります。

エンジンスイッチがどの状態であっても、バックドアアイジークローザーは作動します。

■パワーバックドアの作動について

- 作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が2回点滅します。
- パワーバックドアの作動がOFFのときは、パワーバックドアは作動しません。が手動で開閉できます。
- パワーバックドアを自動で開いているときに、人や異物などにより異常を感じ知すると、作動が停止します。

■クローズ&ロック機能について

パワーバックドアが開いている状態で、パワーバックドアを閉じると同時に全ドアを施錠する機能です。

自車のもう一つの電子キーを車室内に置いていない状態で次の操作をすると、パワーバックドアが閉まると同時に全ドアも施錠されます。

- 1 パワーバックドア以外のすべてのドアを閉じる

2 電子キーを携帯した状態で、パワーバックドア下部の  スイッチを短押しする

通常ブザーと異なるブザー音が鳴り、パワーバックドアが閉じると同時にすべてのドアが施錠したことをドアロックアンサーバックでお知らせします。

■ クローズ&ロック機能が正常に作動しない状況

クローズ&ロック機能は、次のような状況では作動しないことがあります。

- 電子キーを持った手でパワーバックドア下部の  スイッチを押したとき
- 地面に置いたかばんなどに電子キーを入れたままパワーバックドア下部の  スイッチを押したとき
- パワーバックドア下部の  スイッチから離れた位置から押したとき

■ キックセンサが正常に作動しない状況 (ハンズフリーパワーバックドア装着車)

キックセンサは、次のような状況では作動しないことがあります。

- 足先をリヤバンパーの下に入れたままのとき
 - リヤバンパーに足先が強くあたったときや、一定時間触れたとき
- リヤバンパーに一定時間触れた場合は、少し時間をおいてから再度操作してください。
- 人がリヤバンパーに近すぎる位置で操作したとき
 - 電子キーと車両間の通信をさまたげる電波があるとき (→P.107)
 - コインパーキング・ガソリンスタンド・

ロードヒーター・蛍光灯などキックセンサの感度をさまたげる電波やノイズがある場所に駐車したとき

- 近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき
- リヤバンパーの表面に泥・雪・氷などが付着したとき
- リヤバンパーに草木などの動くものがふれる状態が長時間続いたとき
- リヤバンパーにアクセサリ用品を付けたとき

アクセサリ用品を取り付けた場合は、キックセンサの作動の設定を OFF にしてください。

■ キックセンサの誤作動を防ぐために (ハンズフリーパワーバックドア装着車)

キックセンサは、電子キーが作動範囲内にあるときに誤作動するおそれがありますので、以下のことにご注意ください。

- 洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき
- リヤバンパーの汚れを拭き取る動作をしたとき
- 小動物やボールなどがリヤバンパーの下を横切ったとき
- リヤバンパーの下のものを取る動作をしたとき
- リヤバンパーに腰かけて、足を動かしたとき
- リヤバンパーに足や体を触れながら車両を横切ったとき
- コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯などキックセンサの感度をさまたげる電波やノイズ

がある場所に駐車したとき

- 近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- リヤバンパーの近くに草木などがある場所に駐車したとき
- リヤバンパーの近くで荷物などの積み降ろしをしたとき
- リヤバンパーの近くでアクセサリ用品やカーカバーの着脱作業したとき
- けん引されるとき

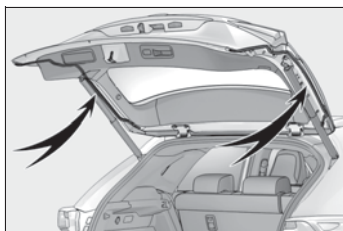
誤作動を防ぐときは、キックセンサの作動の設定を OFF にしてください。

■ バッテリーを再接続したときは

パワーバックドアを適切に作動させるために、初期設定としてバックドアを手動で一度全開にしてください。

■ 挟み込み防止機能

パワーバックドアの左右端部には、センサーが付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、その位置からドアは自動的に反対方向に少し動き、作動が停止します。

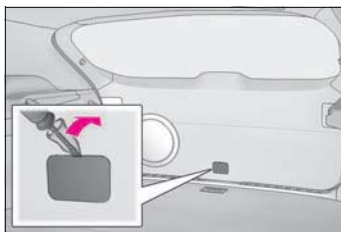


■ バックドアが開かないときは

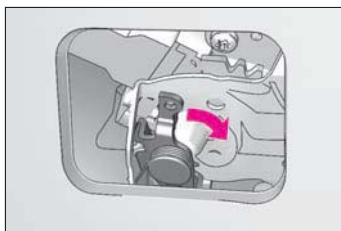
バックドアを内側から開けることができます。

1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



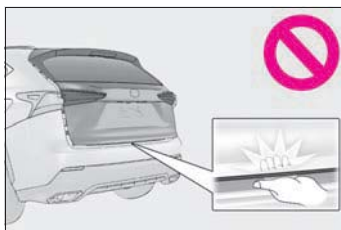
2 レバーを押す



⚠ 警告

■ バックドアアイジークローザーについて

- バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアアイジークローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。



- バックドアアイジークローザーは、パワーバックドアメインスイッチが OFF のときにも作動するため、指などの挟みこみには十分注意してください。

 警告**■ パワーバックドアについて**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 自動開閉中にパワーバックドアの作動を OFF (→P.103) にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。
- 自動開閉中に作動可能条件 (→P.98) を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。この場合、傾斜した場所ではバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。
- 傾斜した場所では、開いたあとにドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが静止していることを確認してください。

- 次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

- ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
- ・ エンジン停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき

- バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアには、レクサス純正品以外のアクセサリ用品を付けないでください。

■ 挟み込み防止機能

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

警告

■キックセンサについて（ハンズフリーパワーバックドア装着車）

キックセンサを使用してパワーバックドアを操作するときは、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

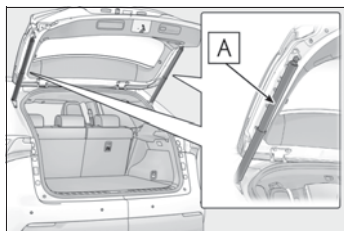
- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- リヤバンパー下の中央付近に足を出し入れする際は、十分に排気管が冷却されるまでふれないでください。やけどをするおそれがあります。
- リヤバンパーの下スペースが狭い場合は、操作しないでください。

注意

■スピンドルユニットについて

バックドアにはバックドアを支えるためのスピンドルユニット **A** が取り付けられています。スピンドルユニット

A の損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。



- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をスピンドルユニットに付着させない
- バックドアにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を付けない

- スピンドルユニットに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

■バックドアアイジークローザーの故障を防ぐために

バックドアアイジークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、バックドアアイジークローザーの故障の原因となります。

■パワーバックドアの故障を防ぐために

- パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼り付きがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。

- パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理に力をかけないでください。

- パワーバックドア左右端部のセンサー（→P.100）を刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

■クローズ&ロック機能について

クローズ&ロック機能でパワーバックドアを閉じると、通常ブザーと異なるブザー音が鳴り作動します。

正常に作動開始したことを確認するため、通常ブザーと異なるブザー音が鳴ったことを確認してください。

またパワーバックドアが完全に閉じ施錠されると、すべてのドアが施錠されたことをドアロックアンサーバックでお知らせします。

車から離れるときは、ドアロックアンサーバックを確認し、全ドアが施錠されたことを確認してください。

⚠ 注意

■キックセンサについて（ハンズフリーパワーバックドア装着車）

キックセンサは、リヤバンパーの内側に設置されています。ハンズフリーパワーバックドアを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- リヤバンパーは常にきれいにしておく
リヤバンパーに汚れや着雪などがある場合、キックセンサが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落とした後、現在の位置から車両を動かしてから作動するか確認を行ってください。それでも作動しない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。
- リヤバンパーに親水性コーティングなどの液体を塗らない
- リヤバンパーに草木など動くものを近づけない
リヤバンパーに草木などの動くものがふれる状態が長期間続いたときは、キックセンサが作動しなくなることがあります。その場合、現在の位置から車両を動かしてから作動するか確認を行ってください。それでも作動しない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。
- リヤバンパーへの強い衝撃を避ける
リヤバンパーが強い衝撃を受けると、キックセンサが正常に作動しなくなるおそれがあります。次のような場合にキックセンサが作動しないときは、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。
 - ・ キックセンサやキックセンサ周辺に強い衝撃を受けた
 - ・ リヤバンパーに傷や破損がある
- リヤバンパーを分解しない

- リヤバンパーにステッカーを貼らない
- リヤバンパーを塗装しない
- パワーバックドアに自転車キャリアなどを取り付けた場合は、キックセンサの作動を OFF にする

パワーバックドアの作動を ON/OFF するには

マルチインフォメーションディスプレイの「車両設定」で ON（作動）・OFF（停止）の切りかえができます。（→P.69）

- 1 メーター操作スイッチの  または  を押して  を選択する
- 2 メーター操作スイッチの  または  を押し、「車両設定」を選択し  を押す
- 3 メーター操作スイッチの  または  を押して  PBD を選択し  を押す
- 4 メーター操作スイッチの  または  を押して「PBD」を選択する
- 5 メーター操作スイッチの  を押すごとに ON・OFF が切りかわる

OFF を選択して、パワーバックドアの作動を停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの「車両設定」からシステム作動状態にしないとパワーバックドアの作動は復帰しません。

(エンジンスイッチの操作では復帰しません)

キックセンサの作動を ON/OFF するには (ハンズフリーパワーバックドア装着車)

マルチインフォメーションディスプレイの「車両設定」で ON (作動)・OFF (停止) の切りかえができます。(→P.69)

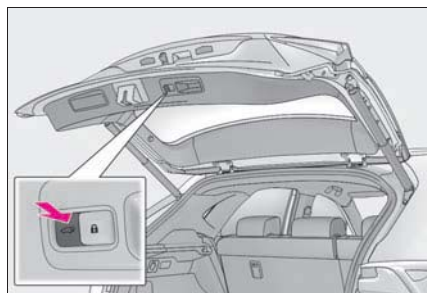
- 1 メーター操作スイッチの **◀** または **▶** を押して **⚙️** を選択する
- 2 メーター操作スイッチの **⬆️** または **⬇️** を押し、「車両設定」を選択し **●** を押す
- 3 メーター操作スイッチの **⬆️** または **⬇️** を押して **🚗PBD** を選択し **●** を押す
- 4 メーター操作スイッチの **⬆️** または **⬇️** を押して「キックセンサ」を選択する
- 5 メーター操作スイッチの **●** を押す

すごとに ON・OFF が切りかわる OFF を選択して、キックセンサの作動を停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの「車両設定」からシステム作動状態にしないとキックセンサの作動は復帰しません。(エンジンスイッチの操作では復帰しません)

バックドア自動開停止位置調整について

パワーバックドアを自動で開けたときに、開く位置を調整できます。

- 1 バックドアをお好みの位置で停止させる (→P.95)
- 2 バックドア下部の **🔑** を約 2 秒間押し続ける
 - ・ 設定が完了するとブザーが 4 回鳴ります。
 - ・ 次回パワーバックドアを開けると、その位置でバックドアが停止します。

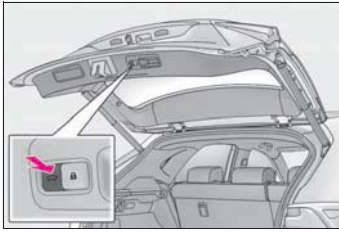


知識

■バックドア自動開停止位置を初期状態の位置にもどすには

バックドア下部のスイッチを約 7 秒間押し続ける。

ブザーが 4 回鳴ったあと、さらに 2 回鳴ります。次回パワーバックドアを開ける操作をすると、初期状態の位置までバックドアが開きます。



■ カスタマイズ機能

ナビゲーションシステムからもパワーバックドアの自動開停止位置の変更ができます。

 またはナビゲーションシステムのうち、最後に設定した方の停止位置が優先されます。

(カスタマイズ一覧：→P.373)

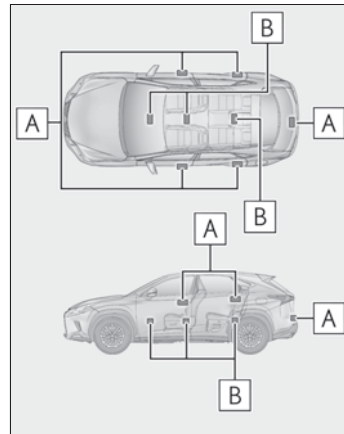
スマートエントリー&スタートシステム

電子キー（カードキー含む）をポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。

- ドアを施錠・解錠する（→P.90）
- バックドアを施錠・解錠する（→P.95）
- エンジンを開始する（→P.144）

知識

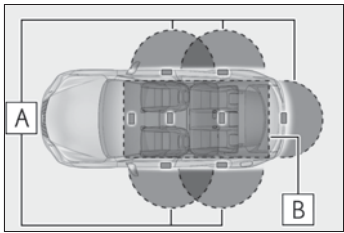
■ アンテナの位置



A 車外アンテナ

B 車室内アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）



A ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

B エンジン始動時またはエンジンスイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■ 警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。（→P.334）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のようになります。

● 車外から “ピー” と 5 秒間鳴る

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。

● 車内から “ポーン、ポーン” と鳴り続ける

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でエンジンスイッチをアクセサリモードにした（アクセサリモードのとき運転席ドアを開いた）	エンジンスイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー&スタートシステム故障 取扱書を確認」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ 節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両のバッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

- 次の状況では、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
 - ・ 車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
 - ・ 5 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった
- 14 日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■ 電子キーを節電モードにするには

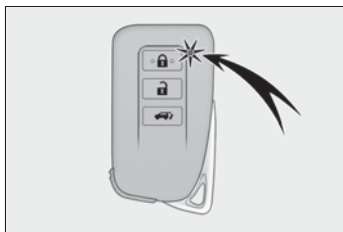
節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キー  のを押しながら、



を2回押し、電子キーのインジケータが4回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー&スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。



■機能が正常に動かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法: →P.357)

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいますとき
- 電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
- 近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

- 電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・ 無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器
 - ・ 他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・ パソコンや携帯情報端末 (PDA など)
 - ・ デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ ポータブルゲーム機器

- リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

- 充電器など電子機器の近くにキーを置いた場合

■ご留意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内 (検知エリア内) にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
 - ・ バックドアを開けると、電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎている
 - ・ エンジン始動時またはエンジンスイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ラゲージルーム・ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれていた
- インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。
- 車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、エンジンを始動できることがあります。

- 電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。(ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します)
- ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー&スタートシステムでの解錠ができないことがあります。(ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます)
- 手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。
- ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。
- 電子キーを携帯したまま洗車をする、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。
 - ・キーを車両から約 2m 以上離れた場所に置く(盗難に注意し保管してください)
 - ・キーを節電モードに設定してスマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する(→P.106)
- 洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。
- ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。
- すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引

いてください。

- 作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■長期間運転しないとき

- 盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。
- あらかじめスマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることができます。

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります)

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき

- ドアの施錠・解錠(→P.357)
- エンジンの始動(→P.358)

■カスタマイズ機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。(カスタマイズ一覧：→P.373)

カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは、次の操作の説明を参照してください。

- ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。(→P.90, 357)
- エンジンの始動・エンジンスイッチのモード切り替え：→P.358
- エンジンの停止：→P.145

 警告**■電波がおよぼす影響について（スマートエントリー&スタートシステムアンテナ）**

- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→P.105）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

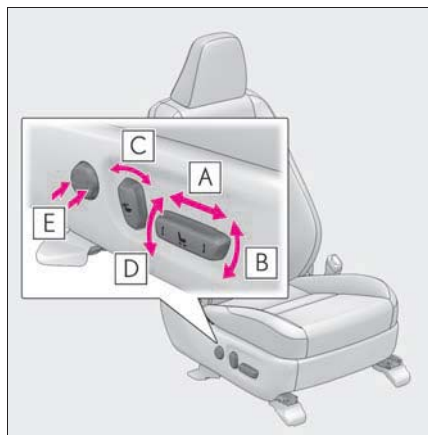
スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

フロントシート

スイッチ操作により、シートの前後・上下位置などの調整ができます。

正しい運転姿勢がとれるよう調整してください。(→P.27)

調整するには



- A** 前後位置調整
- B** クッション前端の上下調整
- C** リクライニング調整
- D** シート全体の上下調整
- E** 腰部硬さ調整（運転席のみ）



■ パワーイージーアクセスシステム

→P.116

⚠ 警告

■ シートを調整するとき

- 同乗者がシートにあたっけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。

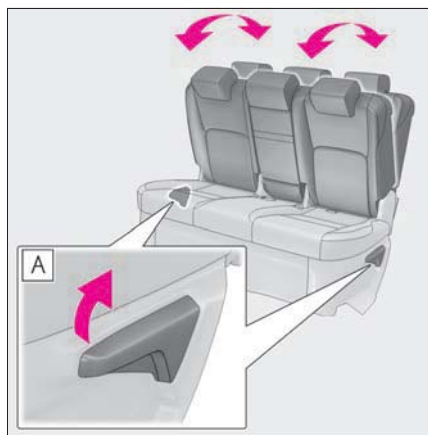
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

リヤシート

レバー操作、もしくはスイッチ操作により、リクライニングの調整や背もたれを倒すことができます。

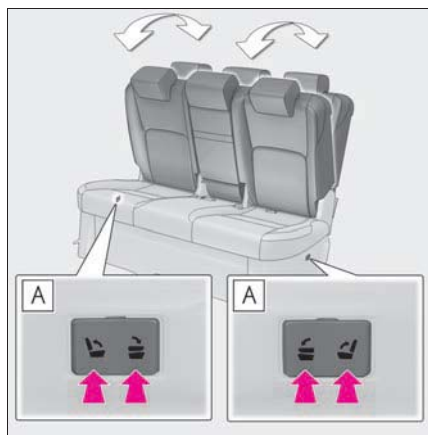
調整するには

▶ マニュアルシート装着車



A リクライニング調整

▶ パワーシート装着車



A リクライニング調整

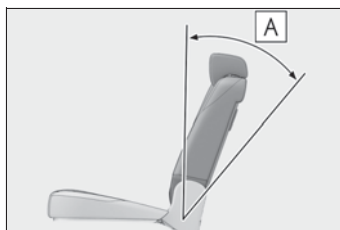
知識

■ リクライニング調整の作動条件（パワーシート装着車）

次の条件がすべて満たされたとき、スイッチ操作が可能になります。

- 背もたれの位置が直立位置から図の

A の範囲のとき



- 操作するシート以外の操作スイッチが押されていないとき

■ リクライニング調整について（パワーシート装着車）

背もたれは途中で止まります。いちばんうしろまで倒すには、再度スイッチを押してください。



■ パワーシートの作動について（パワーシート装着車）

シートにカバーや座布団を装着すると、正常に作動しない場合があります。また、前倒しするときは、リヤシートの上に作動のさまたげになるものがないことを確認してください。

警告

■ 背もたれを操作するとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 同乗者がシートにあたらないようにしてください。
- シートの間や動いている部分に手を近付けないようにしたり、体の一部が挟まれないようにしてください。
- パワーシート装着車：お子さまには背もたれの操作をさせないでください。同乗者がシートに挟まれるおそれがあります。
- パワーシート装着車：前倒しするシートに同乗者が座っていないことを確認してください。また、前倒し中に同乗者が座らないようにしてください。

■ リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。

必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

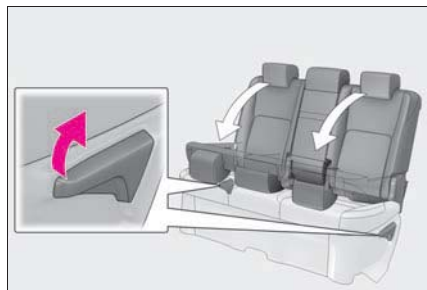
背もたれを倒すには

■ 操作する前に

- 1 リヤ中央席のシートベルトとバックルを格納する (→P.32)
- 2 ヘッドレストをいちばん下まで下げる (→P.119)

■ 前に倒すときは（マニュアルシート装着車）

レバーを引いて背もたれを倒す



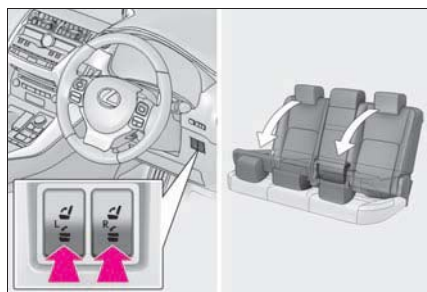
■ 前に倒すときは（パワーシート装着車）

スイッチを長押しして背もたれを倒す

ブザーが鳴り、作動を開始します。作動が完了すると、再度ブザーが鳴ります。

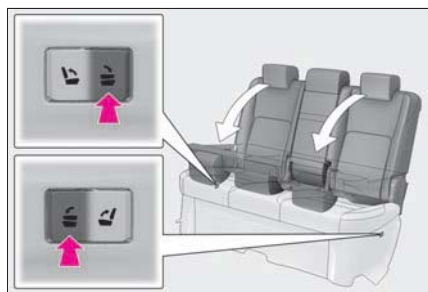
途中で止めるには、もう一度スイッチのどちらかを押すか、他の位置にある、止めたいシート側の操作スイッチを押してください。（止める位置によっては、ブザーが鳴ります）

▶ インストルメントパネルスイッチ

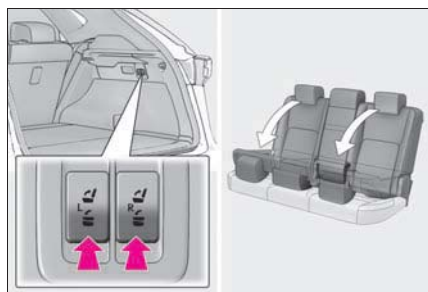


▶ リヤ席スイッチ

背もたれがうしろに倒れている場合は、背もたれを直立位置にし、再度スイッチを押してください。



▶ ラゲージルーム内スイッチ



■ 背もたれをもとにもどすときは
(マニュアルシート装着車)

1 背もたれを起こし、固定する



2 シートベルトのプレートがシート
の前側にあることを確認する

リヤ中央席を使用するときは、リヤ中央
席のシートベルトを取り付けてください。

(→P.31)



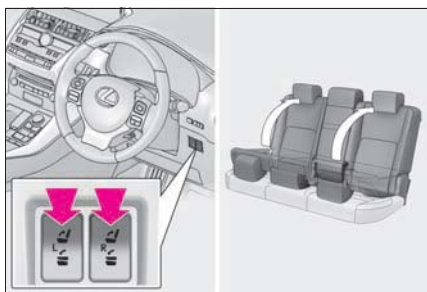
■ 背もたれをもとにもどすときは
(パワーシート装着車)

1 スイッチを長押しして背もたれを
もとにもどす

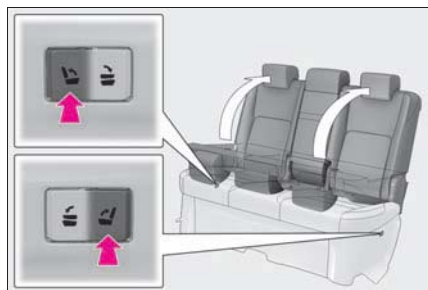
ブザーが鳴り、作動を開始します。作動
が完了すると、再度ブザーが鳴ります。

途中で止めるには、もう一度スイッチの
どちらかを押すか、他の位置にある、止
めたいシート側の操作スイッチを押して
ください。(止める位置によっては、ブ
ザーが鳴ります)

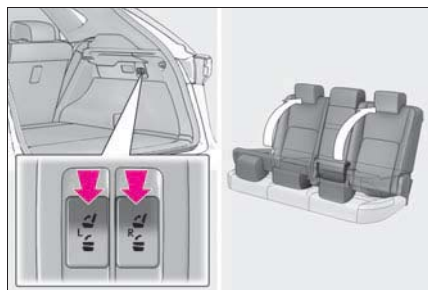
▶ インストルメントパネルスイッチ



▶ リヤ席スイッチ



▶ ラゲージルーム内スイッチ



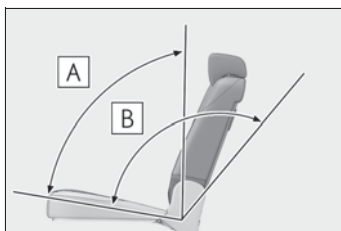
2 シートベルトのプレートがシート の前側にあることを確認する

リヤ中央席を使用するときは、リヤ中央席のシートベルトを取り付けてください。
(→P.31)



■ 背もたれを前に倒すときの作動条件 (パワーシート装着車)

次の条件がすべて満たされたとき、スイッチ操作が可能になります。



- リヤ席スイッチ操作時：背もたれの位置が直立位置から図の**A**の範囲のとき
- インストルメントパネルスイッチ、ラゲージルーム内スイッチ操作時：背もたれの位置が図の**B**の範囲のとき
- リヤ席スイッチ操作時：操作するシート側のリヤドアが開いているとき
- ラゲージルーム内スイッチ操作時：バックドアが開いているとき
- 操作するシート以外の操作スイッチが押されていないとき

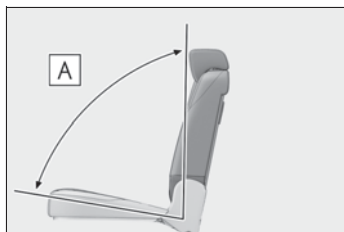
エンジンスイッチがイグニッション ON モードのときは上記に加え、次のいずれかの条件で作動します。

- パーキングブレーキがかかっている
- ブレーキペダルを踏んでいる
- シフトレバーがPの位置にある

■ 背もたれをもとにもどすときの作動条件 (パワーシート装着車)

次の条件がすべて満たされたとき、スイッチ操作が可能になります。

- リヤ席スイッチ操作時：背もたれの位置が直立位置から図の**A**の範囲のとき



- リヤ席スイッチ操作時：操作するシート側のリヤドアが開いているとき
- ラゲージルーム内スイッチ操作時：バックドアが開いているとき
- 操作するシート以外の操作スイッチが押されていないとき

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのときは上記に加え、次のいずれかの条件で作動します。

- ・ パーキングブレーキがかかっている
- ・ ブレーキペダルを踏んでいる
- ・ シフトレバーが P の位置にある

■ 背もたれの挟み込み防止機能（パワーシート装着車）

背もたれを前に倒すときに、背もたれとシートクッションの間に異物を感知すると、背もたれが反転作動し、作動が停止します。

反転作動中は断続的にブザーが鳴り、作動が停止すると連続的にブザーが鳴ります。

⚠ 警告

■ 背もたれを前倒しするときや、前倒ししたあとは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に前倒しをしない

- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する

■ 背もたれをもとの位置にもどしたあとは

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
- シートベルトがねじれたり、挟み込まれていないか確認する

■ 挟み込み防止機能（パワーシート装着車）

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、シートが完全に倒れる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

**注意****■ 背もたれを前倒しするときは**

背もたれを倒す前に必ずリヤ中央席のシートベルトとバックル、アームレストを格納してください。(→P.32)

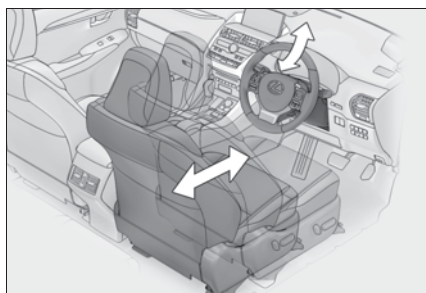
パワーイージーアクセスシステム★／ポジションメモリー★／メモリーコール機能★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

自動でシート・ハンドル・ドアミラーを動かし、お好みのドライビングポジションに調整します。

ドライビングポジションは、3パターンまで登録できます。

ドライビングポジションを電子キー（カードキーを含む）に登録することで、電子キーごとにドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

運転席への乗り降りをしやすい（パワーイージーアクセスシステム）

次のすべての操作を行ったとき、シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。

- ・ シフトレバーを P に入れる
- ・ エンジンスイッチを OFF にする
- ・ シートベルトをはずす

次のいずれかの操作を行ったとき、シートとハンドルがもとの位置にも

どります。

- ・ エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにする
- ・ シートベルトを着用する

知識

■ パワーイージーアクセスシステムの作動について

降車時に、シートの位置が最後方付近にあるなど、パワーイージーアクセスシステムが作動しない場合があります。

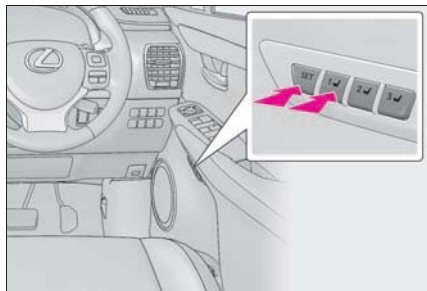
■ カスタマイズ機能

パワーイージーアクセスシステムによるシート移動量を変更できます。
(カスタマイズ一覧：→P.373)

ドライビングポジションを登録するには

- 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
 - 2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
 - 3 運転席・ハンドル・ドアミラー角度をお好みの位置に調整する
 - 4 SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に 1 ～ 3 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す
- すでに同じボタンに登録されている場合

は、上書きされます。



知識

■ 登録できるシート位置 (→P.110)

腰部位置調整 (ランバーサポート) 以外の位置が登録できます。

■ ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

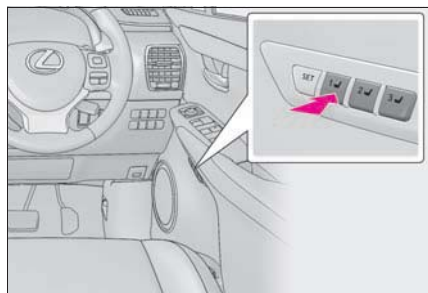
警告

■ シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

ドライビングポジションを呼び出すには

- 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
- 2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
- 3 1 ～ 3 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す



知識

■ ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1 ～ 3 のボタンを押す
- シート調整スイッチのいずれかを操作する（シートのみ作動停止）
- ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

■ エンジンスイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉めて 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

電子キーにドライビングポジションを登録／解除／呼び出しするには（メモリーコール機能）

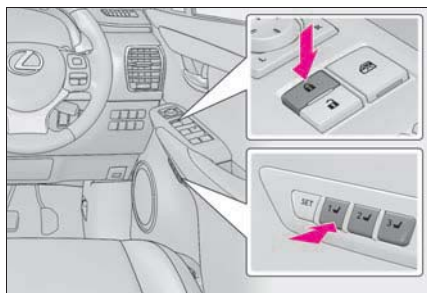
■ 登録方法

お好みのドライビングポジションをあらかじめ 1 ～ 3 のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に登録できません。

- 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する
- 2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
- 3 登録させたいドライビングポジション（1 ～ 3）を呼び出す
- 4 呼び出したドライビングポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピー”とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。



■ 解除方法

- 1 解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉める

車内にキーが 2 つ以上あると、正確に解除できません。

- 2 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
- 3 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を“ピツピツ”とブザーが鳴るまで押す

解除できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。

■ 呼び出し方法

- 1 ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー&スタート

システムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

ハンドルを除くドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は、シートやミラーは動きません。

- 2 エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにするか、シートベルトを着用する**

シートとハンドルが登録したドライビングポジションに動きます。



知識

■ メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

- 電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯する電子キーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。
- 運転席ドア以外のドアをスマートエントリー&スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

■ カスタマイズ機能

メモリーコール機能による解錠ドアの設定を変更できます。

(カスタマイズ一覧：→P.373)

ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

⚠ 警告

■ ヘッドレストについて

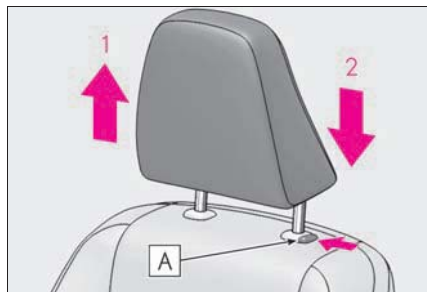
次のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

上下調整するには

■ フロント席

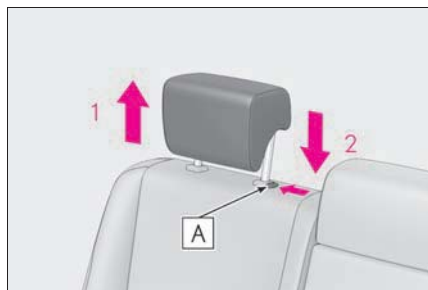


1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタン **A** を押しながら操作します。

■ リヤ席



1 上げる

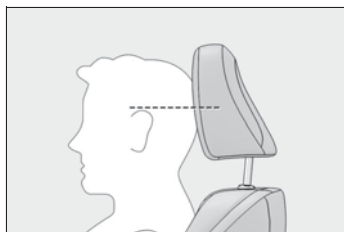
2 下げる

下げるときは、解除ボタン[A]を押しながら操作します。



■ ヘッドレストの高さについて（フロント席）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



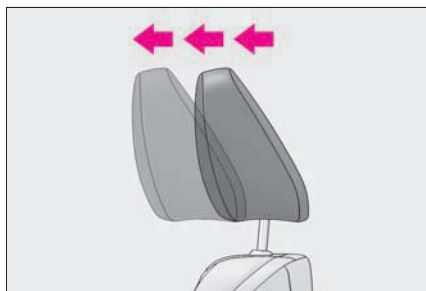
■ リヤ席について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

前後調整するには★

フロント席ヘッドレストの前後位置を、4段階に調整できます。

いちばん前の状態からさらに前に引くと、いちばんうしろにもどります。



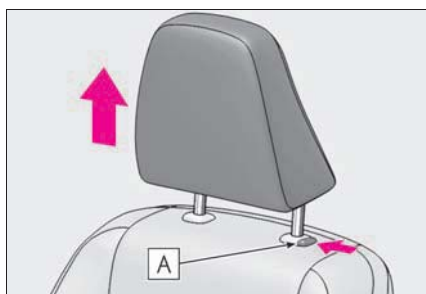
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ヘッドレストを取りはずすには

解除ボタン[A]を押しながら取りはずします。

ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかせてください。

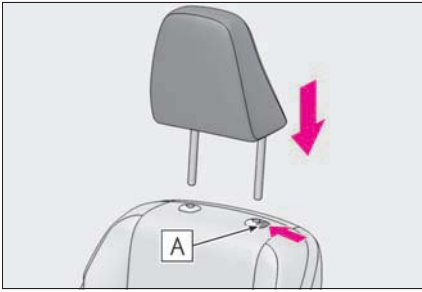
(→P.110, 111)



ヘッドレストを取り付けるには

ヘッドレストを取り付け穴に合わせ、ロック位置まで押し下げて下さい。

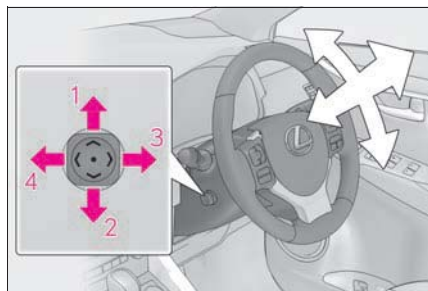
さらに下げるときは、解除ボタン[A]を押しながら操作してください。



ハンドル

調整のしかた

スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。



- 1 上方へ
- 2 下方へ
- 3 手前へ
- 4 前方へ



知識

■ハンドル位置調整の作動条件

エンジンスイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき
※

※ 運転席シートベルトを装着していれば、エンジンスイッチのモードにかかわらず、ハンドルの調整ができます。

■ハンドル位置の自動調整★

好みのハンドル位置を運転席ポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P.116)

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■パワーイージーアクセスシステム

エンジンスイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。(→P.116)

⚠ 警告

■走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ホーン（警音器）を使うには

ハンドルの  周辺部を押すと
ホーンが鳴ります。



インナーミラー

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整するには

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。
インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



警告

■ 走行中の留意事項

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

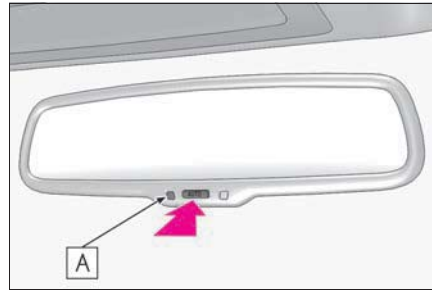
自動防眩機能を使うには

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の ON/OFF を切りかえる

ON のときはインジケーター **A** が点灯します。エンジンスイッチをイグニツショ

ン ON モードにしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。
ボタンを押すと OFF になりインジケーター **A** が消灯します。



知識

■ センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。



ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようミラーの角度を調整してください。

警告

■ 走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。

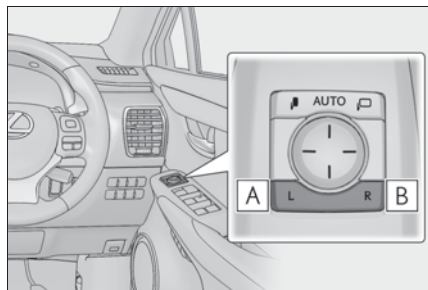
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

■ ミラーヒーターが作動しているとき
鏡面が熱くなるのでふれないでください。

調整するには

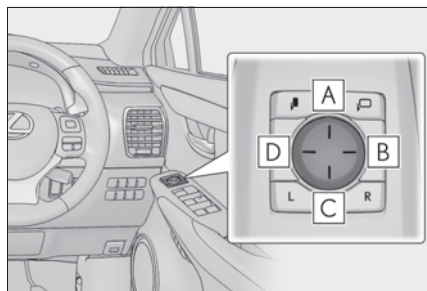
1 調整するミラーを選ぶ



A 左

B 右

2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す



A 上

B 右

C 下

D 左

知識

■ 鏡面調整の作動条件

エンジンスイッチがアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードのとき

■ 寒冷時に使用するとき

寒冷時に「リバース連動」を使用するとき、ドアミラーが凍結していると、自動で鏡面が下向きにならないことがあります。この場合、鏡面の周辺に付着している氷や雪などを取り除いてください。

■ ミラーが曇ったとき

リヤウインドウデフォグガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取り除くことができます。(→P.265)

■ 自動防眩機能

インナーミラーを自動モードにしておくと、ドアミラーも連動して防眩機能が作動します。(→P.123)

■ ミラー角度の自動調整（運転席ポジションメモリー装着車）

お好みのミラー角度を運転席ポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→P.116）

■ リバース連動機能

ミラー選択スイッチのLまたはRどちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。

この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチを中立の位置（L・Rともに選択していない状態）にしてください。

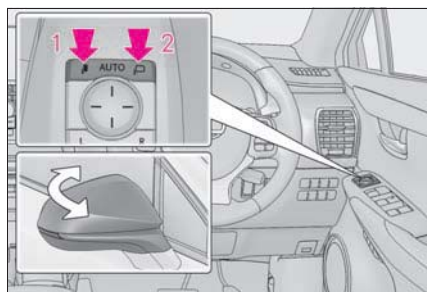
後退時に下向きになる角度を調整するときは、シフトレバーをRに入れた状態で、鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。

次回からシフトレバーをRにするたびに、その角度で作動します。

通常時（シフトレバーがR以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

寒冷時に「リバース連動」を使用するとき、ドアミラーが凍結していると、自動で鏡面が下向きにならないことがあります。この場合、鏡面の周辺に付着している氷や雪などを取り除いてください。

ドアミラーを格納するには



1 ミラーを格納する

2 ミラーをもとの位置にもどす

スイッチを中立の位置（“AUTO”）にすると自動モードに切りかわり、ドアの施錠・解錠と連動します。

知識

■ 寒冷時に使用するとき

寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、格納スイッチを押すか、手で動かしてください。

■ カスタマイズ機能

オート電動格納の設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.373）

警告

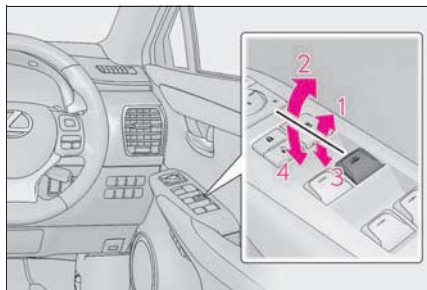
■ ミラーが動いているとき

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

パワーウィンドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチを操作し、自動でドアガラスを開閉できます。



- 1 閉める
- 2 自動全閉 ※
- 3 開ける
- 4 自動全開 ※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ エンジン停止後の作動

エンジンスイッチをアクセサリモードまたは OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動なくなります。

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ 巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物が

ドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ ドアガラスを開閉することができないときは

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウィンドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、エンジンスイッチをイグニッション ON モードの状態、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

- 1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
- 2 パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
- 3 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける
- 4 パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける
- 5 いったんパワーウィンドウスイッチから手を離して、再度パワーウィンドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける
- 6 再度、パワーウィンドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ ドアロック連動ドアガラス開閉機能

● メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。＊（→P.357）

● ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。＊（→P.90）

＊ レクサス販売店での設定が必要です。

■ オートアラーム

オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを開めると、オートアラームが作動することがあります。（→P.56）

■ 窓開警告ブザー

エンジンスイッチがOFFでドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P.373）

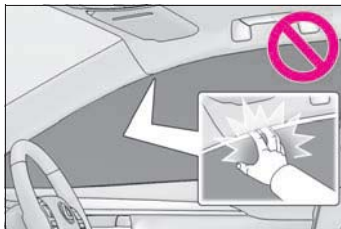
▲ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ドアガラスを開閉するときは

● 運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。また、お子さまが同乗するときはウィンドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→P.128）

● ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



● ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

● 車から離れるときはエンジンスイッチをOFFにし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

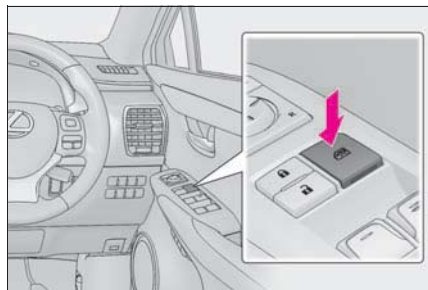
■ 巻き込み防止機能

- 巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。
- 巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服など巻き込まないように注意してください。

誤操作を防止するには（ウインドロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止するための機能です。

スイッチを押すと、運転席以外のドアガラスが非作動になります。



ムーンルーフ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車内で快適にお過ごしいただくために、天井部（ムーンルーフ）を開けたり、チルトアップしたりできます。

警告

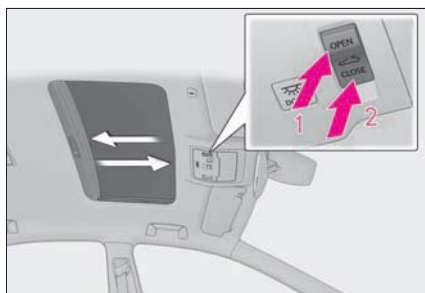
次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ムーンルーフを開けているときは

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

ムーンルーフを操作する

■ ムーンルーフを開閉するには



1 開ける

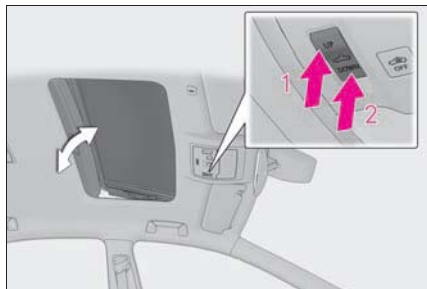
スイッチを長押しすると、チルトアップしてから自動で全開します。※

2 閉める

スイッチを長押しすると、自動で全閉します。※

※途中で停止するときには、スイッチを軽く押します。

■ チルトアップ／ダウンするには



1 チルトアップする

スイッチを長押しすると、チルトアップ停止位置まで自動で開きます。※

2 チルトダウンする

スイッチを長押しすると、自動で全閉します。※

※途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■ サンシェード

手動で開閉できます。また、ムーンルーフが開くと連動して開きます。

■ ムーンルーフが正常に閉まらないとき

下記の操作を行ってください。

●閉まるときに反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 スwitchの“CLOSE”側を押し続ける ※1

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10 秒間停止します。 ※2

その後再び閉じ、チルトダウンし、全閉位置で停止します。

3 ムーンルーフが完全に停止したことを確認し、スイッチから手をはなす

●チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

1 車を停止する

2 スwitchの“DOWN”側を押し続ける ※1

ムーンルーフが閉じ、再び開き、チルトアップ位置で 10 秒間停止します。 ※2

その後再び閉じ、全閉位置で停止します。

3 ムーンルーフが完全に停止したことを確認し、スイッチから手をはなす

※1途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

※210 秒間停止したあとにスイッチから手をはなすと、それ以降オート作動でなくなります。その場合は P.129 の「チルトアップ／ダウンやムーンルーフの開閉はできるが、自動で全開・全閉ができない場合」を参照し、ムーンルーフの初期化を行ってください。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ ムーンルーフが正常に動かないとき

ムーンルーフの開閉操作や自動全開機能が正常に動かないときは、次の手順で初期化を行ってください。

1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

2 ムーンルーフを操作する

操作できる内容によって、初期化方法が異なります。

- ムーンルーフが閉じている状態で、チルトアップ作動のみでできる場合
- 3 スイッチの“DOWN”または“CLOSE”側を押し続ける
チルトアップ停止位置まで開く。その後ムーンルーフが開き、全閉します。その後再び、チルトアップし、全閉位置で停止します。
- 4 ムーンルーフが完全に停止したことを確認し、スイッチから手をはなす
- ムーンルーフが途中まで開いている状態で、ムーンルーフが閉じる作動のみでできる場合
- 3 スイッチの“DOWN”または“CLOSE”側を押し続ける
ムーンルーフが全閉し、チルトアップしたあと、全開付近の位置まで開きます。その後、全閉しチルトアップしたあとに、全閉位置で停止します。
- 4 ムーンルーフが完全に停止したことを確認し、スイッチから手をはなす
- チルトアップ／ダウンやムーンルーフの開閉はできるが、自動で全開・全閉ができない場合
- 3 スイッチの“OPEN”側を押して全開にする
- 4 スイッチの“CLOSE”側を押して全閉にする
- 5 スイッチの“UP”側を押してチルトアップ停止位置までチルトアップする
- 6 スイッチの“DOWN”側を押してチルトダウンする

途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても開閉操作や自動全開機能が正常に働かない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ムーンルーフが開いたままになっているとき

エンジンスイッチがOFFでムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたと

きにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

メカニカルキーやワイヤレスリモコンでムーンルーフを開閉できるように設定を変更できます。

(カスタマイズ一覧：→P.373)

警告

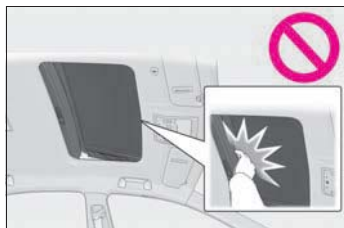
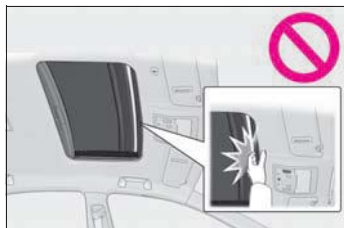
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ムーンルーフを開閉するときは

- 運転者は、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

警告

- ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってムーンルーフを操作するときは、ムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。
またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- 車から離れる時はエンジンスイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。
いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

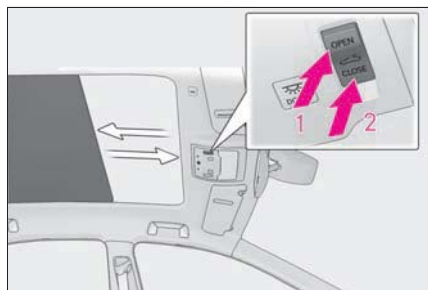
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

電動サンシェード★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車内で快適にお過ごしいただくために、天井部（電動サンシェード）を開けることができます。

電動サンシェードを開閉するには



1 開ける

スイッチを長押しすると、自動で全開します。※

2 閉める

スイッチを長押しすると、自動で全閉します。※

※途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 挟み込み防止機能

- 電動サンシェードを閉めるときに、電動サンシェードが異物の挟み込みを感じると、作動が停止し少し開きます。
- 挟み込み防止機能が作動したときは、再度スイッチの“CLOSE”側を押し

ても、完全に反転作動が停止するまでは閉まる方向に動きません。

- 電動サンシェードは、周囲の状況や走行状況により衝撃があった場合、反転作動することがあります。

■ 自動全開／自動全閉機能が動かないとき

次の手順で初期化を行ってください。

- 1 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする
- 2 スwitchの“CLOSE”側を押し続ける
全閉付近の位置まで閉じ、停止します。その後、開く方向に作動してから全閉位置で停止します。

途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても自動全開／自動全閉機能が動かない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

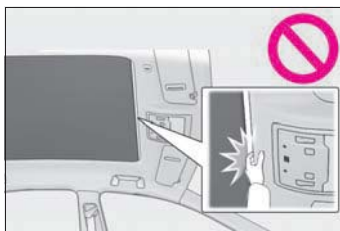
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 電動サンシェードを開閉するときは

- 電動サンシェードを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。



 警告

- お子さまには、電動サンシェードの操作をさせないでください。
電動サンシェードに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、電動サンシェードが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■ やけどやけがを防ぐために

ルーフの下側と電動サンシェードの間にはふれないでください。
手を挟んでけがをするおそれがあります。また、車を直射日光のあたる場所に長時間駐車するとルーフの下側が熱くなるため、やけどをするおそれもあります。

4-1. 運転にあたって

運転にあたって..... 136

荷物を積むときの注意..... 142

4-2. 運転のしかた

エンジン（イグニッション）スイッチ..... 144

オートマチックトランスミッション..... 148

方向指示レバー..... 152

電動パーキングブレーキ..... 153

ブレーキホールド..... 156

ASC（アクティブサウンドコントロール）..... 158

4-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ..... 160

アダプティブハイビームシステム..... 162

オートマチックハイビーム..... 165

フォグランプスイッチ..... 168

ワイパー&ウォッシャー（フロント）..... 169

ワイパー&ウォッシャー（リヤ）..... 171

4-4. 給油のしかた

給油口の開け方..... 173

4-5. 運転支援装置について

Lexus Safety System+ 176

PCS（プリクラッシュセーフティ）..... 180

LTA（レーントレーシングアシスト）..... 187

RSA（ロードサインアシスト）..... 195

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）..... 198

先行車発進告知機能..... 209

ITS Connect..... 211

Stop & Start システム..... 218

ドライブモードセレクトスイッチ..... 226

PKSA（パーキングサポートアラート）..... 228

クリアランスソナー..... 229

パーキングサポートブレーキ（静止物）..... 234

BSM（ブラインドスポットモニター）..... 244

運転を補助する装置..... 250

AWD ロックモード..... 255

4-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転..... 256

運転にあたって

安全運転を心がけて、手順に従って走行してください。

安全に走行するには

■ エンジンを始動する

→P.144

■ 発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをDにする
(→P.148)
- 2 パーキングブレーキを解除する
(→P.154)

パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーをP以外にしたときに、自動でパーキングブレーキが解除されます。(→P.153)

- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

- 1 シフトレバーはDのまま、ブレーキペダルを踏む
- 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける (→P.154)

長時間停車する場合は、シフトレバーをPにします。(→P.148)

■ 駐車する

- 1 車を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかけて (→P.154)、シフトレバーをPにする (→P.148)
- 3 エンジンスイッチを押してエンジンを停止する

- 4 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車をする場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

■ 上り坂で発進する

- 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーをDにする
(→P.148)
- 2 パーキングブレーキスイッチを引いて、手動でパーキングブレーキをかける (→P.154)
- 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏む
- 4 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキスイッチを押し、パーキングブレーキを解除して発進する

知識

■ 上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが作動します (→P.251)

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 走行中のエンジン回転数について

次の場合、走行中にエンジン回転数が高くなる場合があります。これは走行状況にあわせてシフトアップの制限、またはシフトダウンの実施を自動的に行うため、急加速を示すものではありません。

- 車両が上り坂、または下り坂を走行していると判断したとき
- アクセルペダルを離したとき
- スポーツモード選択時にブレーキペダルを踏んだとき

■ エンジン出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

- アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、エンジン出力を抑制する場合があります。
- ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■ 急発進の抑制制御（ドライブスタートコントロール）

- 次のような通常と異なる操作が行われた場合、エンジン出力を抑制する場合があります。
 - ・ アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した（RからD、DからR、NからR、PからD、PからR）とき。（DはMポジションを含む）この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。
 - ・ 後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき。
- ドライブスタートコントロールが作動していると、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難場合があります。そのようなときは、TRCの作動を停止（→P.251）することにより、ドライブスタートコントロールが停止し、脱出

しやすくなります。

■ 運転標識の取り付けについて

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■ オーバーヒートについて

次のようなきびしい走行状況ではオーバーヒートになるおそれがあります。

- 暑い日に長い上り坂を走行する
- 高速走行直後に急減速や急停止をする

■ エンジン停止前のアイドル運転について（Stop & Start システム作動を除く）

ターボ装置などの損傷を防ぐため、高負荷走行直後は、アイドル運転を行ってからエンジンを停止してください。

走行状況	アイドル運転時間
市街地、郊外などの一般走行および高速走行（高速道路の法定または制限速度）	不要
山岳ドライブウェイなどの急な登坂路走行およびサーキットなどの連続走行	約 1 分

■ 環境に配慮した運転

→P.65

▲ 警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 発進するとき

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリーブ現象で車が動き出すのを防ぎます。

 警告**■ 運転するとき**

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。
- ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
- ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
- ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.320を参照してください。

- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。(→P.148)
- 走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- AWD 車：オフロード走行をしないでください。
本格的なオフロード走行を目的としたAWD車ではありません。やむを得ずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
- AWD 車：渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。
- すべりやすい路面を運転するとき**
- 急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。
- 急激なアクセル操作、シフト操作によるエンジンブレーキやエンジン回転数の変化は、車が横すべりするなどのおそれがあります。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

 警告**■ シフトレバーを操作するとき**

- シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、Rに入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。エンジンが停止し、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車両が動いているあいだは、シフトレバーをPに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーをRに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNに入れると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 停車するとき

- 空ぶかしをしないでください。
シフトレバーがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 坂道で停車するとき、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 停車中に空ぶかしをしないでください。
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

 警告**■ 駐車するとき**

- 炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- フロントウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの動きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやフロント・リヤドアガラスを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの動きをして火災につながるおそれがあり危険です。

- 車から離れるときは、必ずシフトレバーをPに入れ、パーキングブレーキをかけて、エンジンを停止し、施錠してください。
エンジンがかかっているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトレバーをPにした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- エンジン回転中またはエンジン停止直後は排気管にふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

■ 仮眠するとき

必ずエンジンを停止してください。
エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ブレーキをかけるとき

- ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。また、パーキングブレーキがしっかりとかけられないおそれもあります。
- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

警告

- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。
- ブレーキシステムは2つ以上の独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

■ 万一脱輪したときは (AWD 車)

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や、車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意**■ 運転しているとき**

- 運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、エンジン出力を抑制する場合があります。
- 坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ ターボ装置の故障を防ぐために

- 高負荷走行直後は、エンジンを停止しないでください。必ずアイドル運転を行い、ターボ装置などを冷却してからエンジンを停止してください。(→P.137)

- 排気管・エアクリーナ・スパークプラグなどには純正部品または同等品をお使いください。

- 排気管の改造は絶対にしないでください。

- エンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速は絶対に行わないでください。

- 定期的なオイル交換を必ず行ってください。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な音や振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP.336, 347をご覧ください。

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

 注意

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で次の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン・オートマチックトランスミッション・トランスファー（AWD車）・ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト（AWD車）・各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

■ 駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしてください。パーキングブレーキをかけシフトレバーをPにしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

 警告

■ 積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。
- シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。
- 後席のシート背もたれを折りたたんで荷物を積むときは、荷物を積み重ねないでください。
- 後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。
- ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

警告

- 次の場所には荷物を積まないでください。
 - ・ 運転席足元
 - ・ 助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ トノボード
 - ・ インストルメントパネル
 - ・ ダッシュボード
- 室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
- ルーフレール装着車：ルーフレールには直接荷物を置かないでください。荷くずれを起こしたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等につけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ ルーフレールを使用するときは★

ルーフレールをルーフラゲージキャリアとして使用するときは、2つ以上のレクサス純正キャリアを装着してください。レクサス純正品以外を装着される場合は、レクサス純正品に相当するものを装着してください。

ルーフラゲージキャリアに荷物を積むときは、次のことをお守りください。

- 車両に荷重が均等になるように荷物を積んでください。
- 車両の大きさ（全長、全幅）を超える荷物を積まないでください。

- 走行する前に、荷物が確実に固定されていることを確認してください。
- ルーフラゲージキャリアに荷物を積むと、車両の重心が高くなります。高速走行、急加速、急旋回、急ブレーキなどは避けてください。車両を適切に操作することができなくなることで横転し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 長距離走行、荒れた路面での走行、高速走行をするときは、時おり車両を止めて、荷物が固定した位置にあることを確認してください。
- 80kg 以上の荷物を積まないでください。
- ★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意**■ 荷物を積むとき**

ムーンルーフやパノラマルーフに荷物が触れないようにしてください。お守りいただかないと傷が付いたり割れたりするおそれがあります。

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、エンジンの始動またはエンジンスイッチのモードを切りかえることができます。

エンジンをかけるには

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む
マルチインフォメーションディスプレイにとメッセージが表示されます。

表示されないと、エンジンは始動しません。

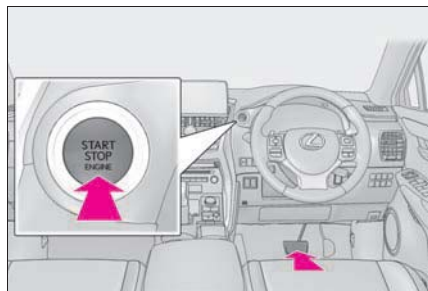
- 4 エンジンスイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

エンジンが始動するまで最大 30 秒間スターターが回転します。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

エンジンスイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。



知識

■ エンジンが始動しないときは

- エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。
(→P.55) レクサス販売店へご連絡ください。
- シフトレバーがPの位置にあるか確認してください。エンジンを始動するときに、シフトレバーが傾いたり、P以外の位置にするとエンジンを始動できないことがあります。マルチインフォメーションディスプレイに「始動時はPレンジに入れて下さい」が表示されます。
- スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動していない場合があります。(→P.357)

■ 電子キーの電池の消耗について

→P.86

■ 電子キーが正常に働かないとき

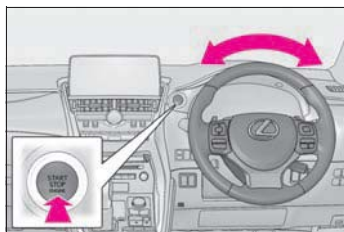
→P.107

■ ご留意いただきたいこと

→P.107

■ ステアリングロック機能

- エンジンスイッチをOFFにしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。エンジンスイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。
- ステアリングロックが解除できないときは、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。シフトレバーがPの位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。



- 短時間にエンジンの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「スマートエントリー&スタートシステム故障 取扱書を確認」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ 電子キーの電池交換

→P.311

■ エンジンスイッチの操作について

- スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえやエンジンの始動ができない場合があります。
- エンジンスイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、エンジンが始動しない場合があります。エンジンスイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■ カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムを非作動にしたときは

→P.354

⚠ 警告

■ エンジンを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 走行中の警告

エンジンの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ エンジンを始動するとき

- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ エンジンスイッチの操作について

エンジンスイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。

エンジン停止するには

- 1 車両を完全に停止させる
- 2 パーキングブレーキをかけて (→P.154)、シフトレバーを P の位置にする (→P.148)
- 3 エンジンスイッチを押す

- 4 ブレーキペダルから足を離してメーターの表示が消灯していることを確認する

警告

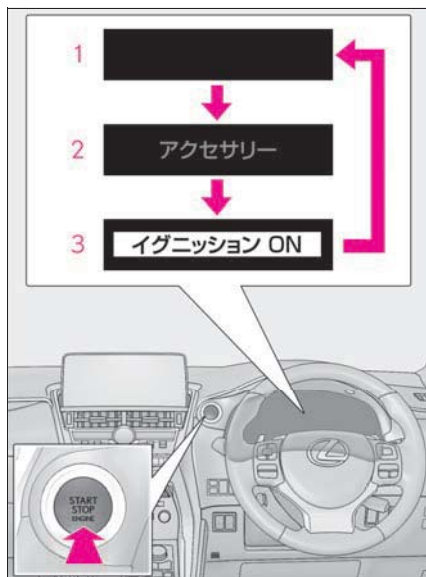
■緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、エンジンスイッチを2秒以上押し続けるか、素早く3回以上連続で押してください。(→P.320)

ただし、緊急時以外は走行中にエンジンスイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなり、ハンドルとブレーキの操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

エンジンスイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにエンジンスイッチを押すと、モードを切りかえることができます。(スイッチを押すごとにモードが切りかわります)



1 OFF※

非常点滅灯が使用できます。

2 アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。マルチインフォメーションディスプレイに「アクセサリー」が表示されます。

3 イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。マルチインフォメーションディスプレイに「イグニッション ON」が表示されます。

※シフトレバーがP以外のときはアクセサリーモードになり、OFF になりません。

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトレバーがPにあるとき、20分以上アクセサリーモードか1時間以上イグニッション ON モード（エンジンがかかっていない状態）にしたままにしておくと、エンジンスイッチが自動で OFF になります。

ただし、自動電源 OFF 機能は、バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。エンジンがかかっていないときは、エンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

■ シフトレバーがP以外でエンジンを停止したとき

シフトレバーが P 以外でエンジンを停止させた場合、エンジンは停止しますが、エンジンスイッチのモードは OFF になりません。次の手順で OFF にしてください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーを P の位置にする
- 3 マルチインフォメーションディスプレイに「電源を Off してください」が表示されていることを確認し、エンジンスイッチを 1 回押す
- 4 マルチインフォメーションディスプレイの「電源を Off してください」の表示が消灯していることを確認する

注意

■ バッテリーあがりを防止するために

- バッテリーあがりを防止するためにイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。
- エンジンがかかっていないときに、マルチインフォメーションディスプレイの「アクセサリ」または「イグニッション ON」の表示が消灯していない場合、エンジンスイッチが OFF になっていません。エンジンスイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

- シフトレバーがP以外でエンジンを停止させないでください。シフトレバーがP以外でエンジンを停止させた場合、エンジンスイッチがアクセサリモードとなるため、そのまま放置するとバッテリーあがりの原因となります。

オートマチックトランスミッション

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車またはエンジンの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行 ※1
M	M モード走行 ※2 (→P.151)

※1 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。パドルシフトスイッチの操作で、走行に適したレンジを選択することができます。

※2 M モードは任意のギヤ段に固定して走行することができます。パドルシフトスイッチの操作で、走行に適したレンジを選択することができます。



■ オートマチックトランスミッションの保護制御

トランスミッションフルードの温度が高くなると、マルチインフォメーションディスプレイに「AT オイル高温 取扱書を確認してください」が表示され、自動的にシフトアップします。レクサス販売店で点検を受けてください。

■ レーダークルーズコントロールを使って走行しているとき

エンジンブレーキを目的に次の操作を行っても、レーダークルーズコントロールが解除されないためエンジンブレーキは効きません。

- D ポジションで走行中に 5 または 4 レンジにシフトダウンしたとき (→P.203)
- D ポジションで走行中にドライブモードセレクトスイッチをスポーツモードにしたとき (→P.226)

■ 急発進の抑制について (ドライブスタートコントロール)

次のような通常と異なる操作が行われた場合、エンジン出力を抑制する場合があります。

- アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトレバーを操作した (R から D、D から R、N から R、P から D、P から R) のとき。(D は M ポジションを含む) この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください
- 後退時にアクセルペダルを踏みすぎたとき

■ リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■ AI-SHIFT

- AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に適切なギヤ段に切りかえます。
AI-SHIFT は、シフトレバーを D ポジションでドライブモードセレクトスイッチをノーマルモードにしているとき自動的に作動します (ドライブモードセレクトスイッチをスポーツモードにするか、シフトレバーを M ポジションにすると機能が解除されます)。

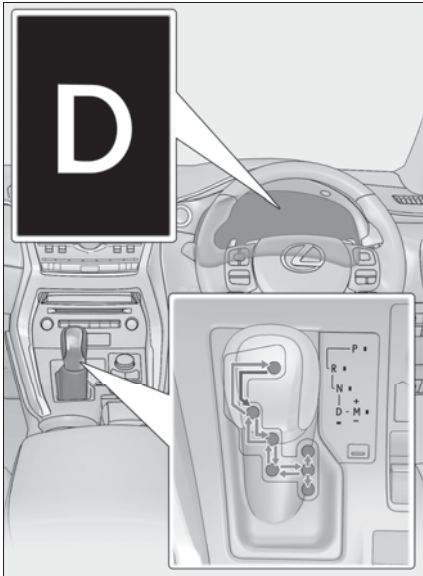
- G AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的にスポーツ走行に適切なギヤ段に切りかえます。G AI-SHIFT は、シフトレバーを D ポジションでドライブモードセレクトスイッチをスポーツモードにしているとき自動的に作動します（ドライブモードセレクトスイッチをノーマルモードにするか、シフトレバーを M ポジションにすると機能が解除されます）。

警告

■ すべりやすい路面を走行するとき

急なアクセル操作や、シフト操作を行わないでください。エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

シフトレバーの動かし方



- ◀ エンジンスイッチがイグニッション ON モードの状態、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。P と D のあいだの操作は、ブレーキペダルを踏み、車を完全に止めてから行ってください。

知識

■ シフトロックシステム

シフトロックシステムは、発進時のシフトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

エンジンスイッチがイグニッション ON モードでブレーキペダルを踏んだ状態でなければ、シフトレバーを P からシフトできません。

■ シフトレバーを P からシフトできないとき

ブレーキペダルを踏んでいることを確認してください。

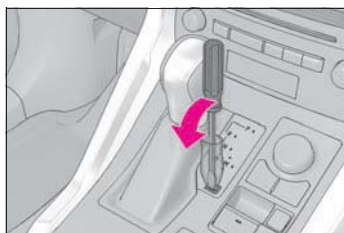
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

ただし一時的な処置として、次の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

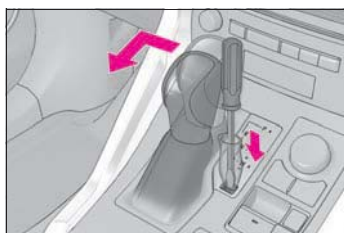
シフトロックの解除のしかた：

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 エンジンスイッチを OFF にする
- 3 ブレーキペダルを踏む
- 4 マイナスドライバーなどを使ってカバーを取りはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 5** シフトロック解除ボタンを押す
ボタンを押しているあいだは、レバーをシフトできます。



警告

■シフトロック解除時の事故を防ぐために

シフトロック解除ボタンを押すときは、必ずパーキングブレーキをかけブレーキペダルを踏んでください。

誤ってアクセルペダルを踏んでいると、シフトロック解除ボタンを押してシフトレバーを操作したときに、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

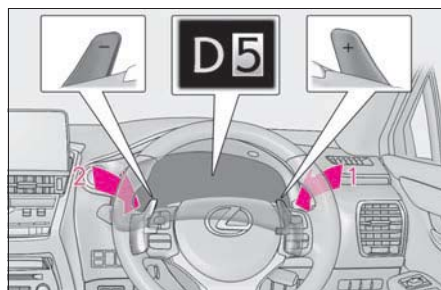
走行モードの選択

→P.226

D ポジションでレンジ選択するには

シフトレバーを D ポジションで走行中、パドルシフトスイッチの “-” 側を操作すると、一時的にシフト

レンジを選択する走行へ切りかわります。シフトレンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、高速ギヤ段への不要なシフトアップを抑えたり、エンジンブレーキ力を切りかえることができます。パドルシフトスイッチの “-” 側または “+” 側の操作でシフトレンジを選択することができます。



- 1** シフトアップ
2 シフトダウン

1 から 6 レンジのあいだで選択されているシフトレンジが表示されます。

パドルシフトスイッチを操作したときの初期レンジは、車速に応じて 2・3・4 もしくは 5 に設定されます。

通常走行にもどすときは、パドルシフトスイッチの “+” 側を一定時間以上保持します。

メーター表示	機能
D2 ~ D6	スピードや走行条件に応じて、1 速から選択したギヤまで自動的にかわります。
D1	ギヤが 1 速に固定されます。

シフトレンジの数字が小さい方がエンジンブレーキ力は大きくなります。



知識

■ Dポジションでのレンジ選択の自動解除

次のとき、自動的に D ポジションでのレンジ選択が解除されます。

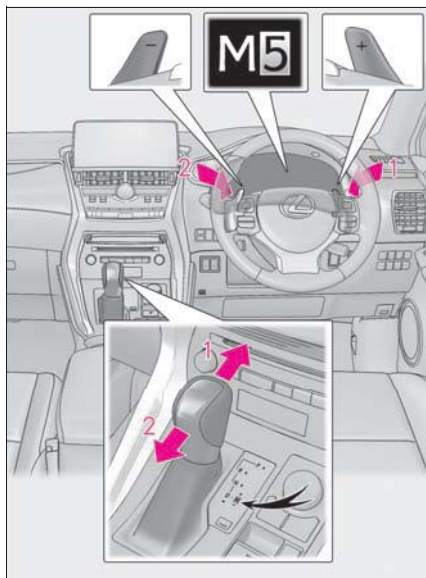
- 停車したとき
- アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき
- シフトレバーを D 以外にしたとき

■ シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが2回鳴ります)

M モードでギヤ段選択するには

シフトレバーを M ポジションにすると、M モードに切りかわります。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの操作で思いどおりのギヤ段を選択し、運転することができます。シフトレバーまたはパドルシフトスイッチの“-”側または“+”側の操作でギヤ段を選択することができます。



1 シフトアップ

2 シフトダウン

シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作することにより1速ずつ変速します。

1 から 6 の中で選択したギヤ段に固定され、ギヤ段が表示されます。

M ポジションでは、次の場合を除いてシフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作しない限り、変速しません。

- 車速が低下した場合（シフトダウンのみ）
- アクセルペダルを全開まで踏み、さらに踏み込んだ場合（シフトダウンのみ）
- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数をこえている範囲）に達した場合



知識

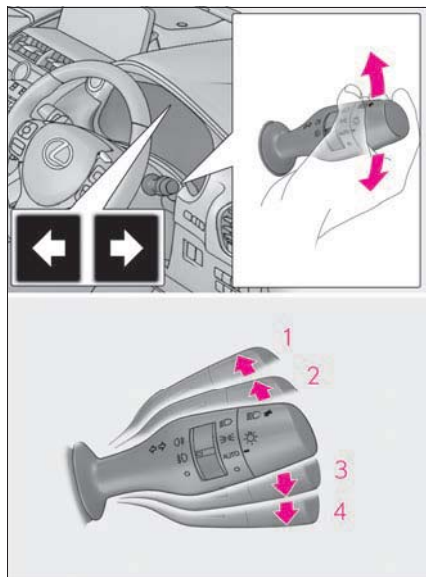
■ シフトダウン制限警告ブザー

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーまたはパドルシフトスイッチを操作してもシフトダウンできない場合があります。(このときブザーが2回鳴ります)

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。



- 1 左折
- 2 左側へ車線変更（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。

- 3 右側へ車線変更（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。

- 4 右折



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

電動パーキングブレーキ

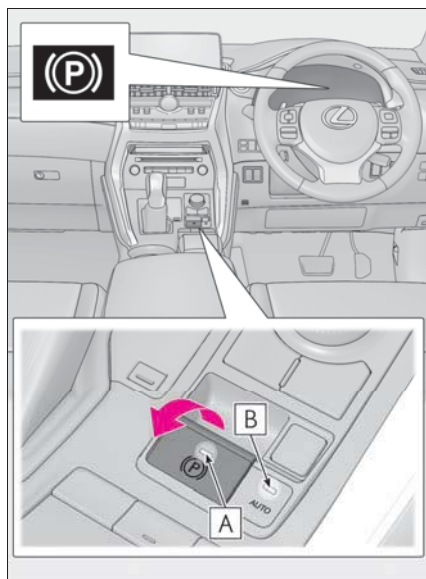
自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

オートモードのときは、シフトレバーの操作に応じてパーキングブレーキが自動で作動します。また、オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ オートモードを ON にする

停車中にオートモードランプ **B** が点灯するまでスイッチを引き続ける



シフトレバーの操作に応じて、パーキングブレーキが自動で作動します。

● P から P 以外にしたとき：

パーキングブレーキが解除され、

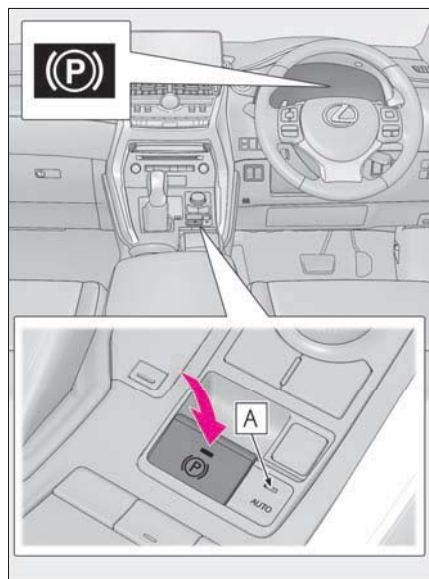
パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプ**A**が消灯します。

- P 以外から P にしたとき：
パーキングブレーキがかかり、
パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプ**A**が点灯します。

シフトレバーは、ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

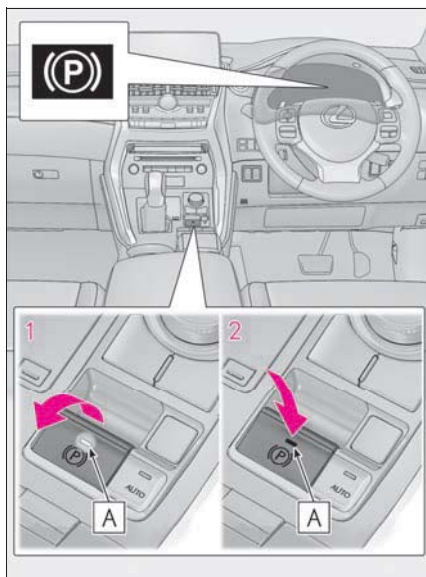
■ オートモードを OFF にする

停車中にオートモードランプ**A**が消灯するまでスイッチを押し続ける



■ マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。



1 パーキングブレーキをかける

パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプ**A**が点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを引き続けてください。

2 パーキングブレーキを解除する

パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプ**A**が消灯します。

ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプ**A**が点滅した場合は、再度スイッチを操作してください。(→P.330)

□ 知識

■ 駐車するとき

→P.136

■ パーキングブレーキの作動

- エンジンスイッチがイグニッション ON モード以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。
- エンジンスイッチがイグニッション ON モード以外では、オートモードによる作動（かける・解除する）はできません。

■ モードの切りかえについて

オートモードの ON/OFF を切りかえるとメーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、ブザーが吹鳴します。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングブレーキ高温 現在使用できません」が表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システムの過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■ パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがあります。異常ではありません。

■ パーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプについて

- パーキングブレーキをかけたとき、エンジンスイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯とパーキングブレーキランプが点灯します。
イグニッション ON モード：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
イグニッション ON モード以外：約 15 秒間点灯します。
- パーキングブレーキをかけた状態でエンジンスイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯とパーキン

グブレーキランプが約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■ パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングブレーキを解除してください」が表示されます。

■ 警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ ブレーキ警告灯が点灯したときは

→P.328

■ 冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.257

⚠ 警告

■ 駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パーキングブレーキスイッチについて

パーキングブレーキスイッチの周辺にものを置かないでください。

ものとスイッチが干渉して、思わぬパーキングブレーキの作動につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■ 駐車するとき

車から離れるときは、シフトレバーをPにし、パーキングブレーキをかけて、車が動かないことを確認してください。

■ システムに異常が発生したら

安全な場所に車を止め、警告表示を確認してください。

■ 故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。ただちにレクサス販売店に連絡してください。

ブレーキホールド

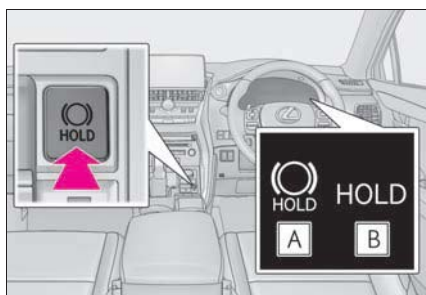
シフトレバーがD・MまたはNでブレーキホールドシステムがONのとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーがDまたはMのとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムをONにする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯

A(緑) が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯 **B**(黄) が点灯します。



□ 知識

■ システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムをONできません。

- 運転席ドアが閉まっていない
- 運転席シートベルトを着用していない

ブレーキホールドシステムがONのときに上記いずれかを検出したときは、システムがOFFになり、ブレーキホールドス

タンバイ表示灯（緑）が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ ブレーキ保持について

● ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約 3 分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

● 急坂路ではブレーキ保持できないことがあります。その場合は、運転者はブレーキをかける必要があるときもあります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

● ブレーキ保持中にシステムを OFF するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作してパーキングブレーキを解除し、パーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。（→P.153）

■ レクサス販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「BrakeHold 故障」が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ 警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→P.330

⚠ 警告

■ 急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

■ すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。



注意

■ 駐車するとき

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にエンジンスイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。エンジンスイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトレバーを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ASC (アクティブサウンドコントロール) ★

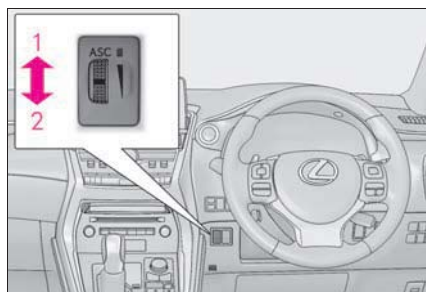
★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ASC は、インストルメントパネル内部のスピーカーからエンジン音を発生させて、車の加速や減速といった走行状態を、運転者に電子音で伝えるシステムです。

運転者のアクセル操作やシフト操作に対する車の反応が電子音で伝えられます。

スポーツモードが選択されているときは、電子音の音色がかわり音量がより大きくなります。

音量調整



1 大きくなる

2 小さくなる

ASC が ON のとき、スイッチ上のランプが点灯します。

ダイヤルを音量が最小になるまでまわすと、ASC は OFF になります。



知識

■ 作動条件

ドライブモードセレクトスイッチが、エコモード以外するとき。

■ 機能の一時解除

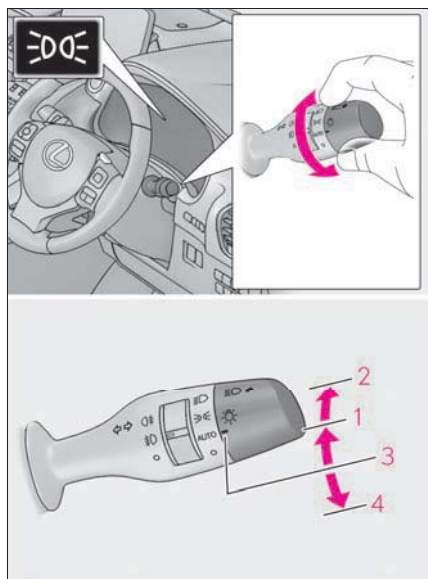
ASC システムは、例えば急加速によってタイヤがスリップするようなときなど、走行状態によって一時的に解除される場合があります。

ランプスイッチ

自動または手でヘッドランプなどを点灯できます。

操作のしかた

次のように  スイッチを操作すると、ランプが点灯します。



- 1  車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルランプ・スイッチ照明を点灯
- 2  上記ランプとヘッドランプを点灯
- 3 **AUTO** ヘッドランプ・LED デイライト (→P.160)・車幅灯などを自動点灯・消灯
- 4  消灯

知識

■AUTO モードの作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

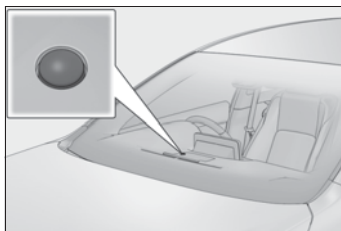
■LED デイライト機能

日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、エンジン始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを **AUTO** にすると、LED デイライトが自動で点灯します。(車幅灯より明るく点灯します)

LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■ライトセンサーについて

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウィンドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



■ランプ消し忘れ防止機能

エンジンスイッチをアクセサリーモードまたは OFF にしてランプが点灯した状態で運転席ドアを開けるとヘッドランプと尾灯が消灯します。

再びランプを点灯する場合は、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ランプスイッチを **AUTO** ま

たは  にもどし、再度  または

 の位置にします。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■節電機能

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチを OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

エンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると節電機能は解除されます。

次のいずれかを行った場合、節電機能は一旦解除され、再度節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

- ランプスイッチを操作したとき
- ドアを開閉したとき

■カスタマイズ機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。

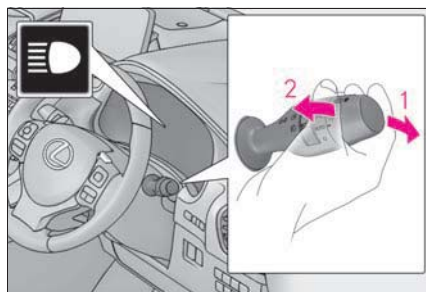
(カスタマイズ一覧：→P.373)



注意

■バッテリーあがりを防止するために
エンジンを停止した状態でランプ類を
長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには



- 1 ランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

- 2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

コーナリングランプ

ヘッドランプ（ロービーム）点灯時に次の条件を満たしたとき、夜間走行時の交差点や駐車時に優れた視認性を確保するため、コーナリングランプが追加点灯し車両進行方向を照射します。

- ハンドルを操作したとき
- 方向指示レバーを操作したとき
- シフトレバーが R のとき



知識

■コーナリングランプ制御について

- 車速が 40km/h 以上の場合は、コーナリングランプは点灯しません。
- 点灯した状態で 30 分間経過すると、自動で消灯します。

アダプティブハイビームシステム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アダプティブハイビームシステムは、フロントウインドウガラス上部に設置されたカメラセンサーにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、ヘッドランプの配光を制御します。

警告

■安全にお使いいただくために

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手でハイビームとロービームを切りかえてください。

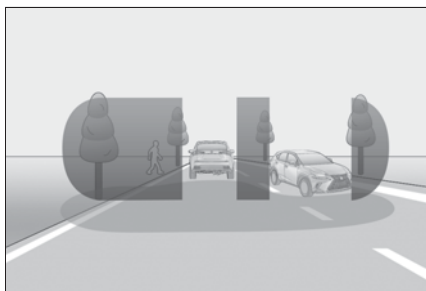
■アダプティブハイビームシステムの誤作動を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

ハイビーム切り換え制御について

- 車速に応じて、ハイビームの明るさと照らす範囲を調整します。
- カーブを走行しているとき、進行方向側をハイビームでより明るく照らします。
- 前方車両の周辺を遮光したハイビームを点灯します。(遮光ハイビーム)

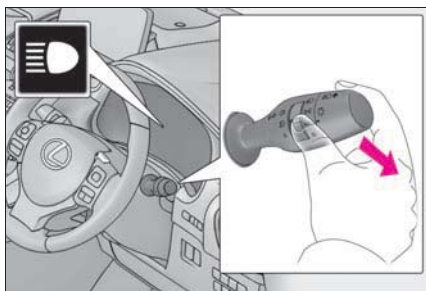
前方車両へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。



- 先行車との距離に応じて、ロービームの照らす範囲を調整します。

アダプティブハイビームシステムを使うには

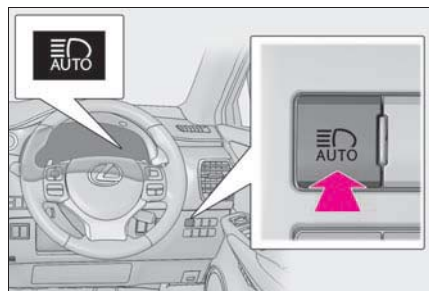
- 1 ランプスイッチを  または **AUTO** にし、レバーを前方へ押す



- 2 アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

アダプティブハイビームシステムが作動すると、アダプティブハイビームシステム

△表示灯が点灯します。



知識

■ヘッドランプ配光の自動切りかえ条件

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯し、システムが作動します。
 - ・ 車速が約 15km/h 以上 ※
 - ・ 車両前方が暗い
- ※ 車速が約 30km/h 以上になると、カーブ走行時に進行方向側を明るく照らします。
- 次の条件をすべて満たすと、前方車両の位置に応じて遮光ハイビームに切りかわり、ロービームの照らす範囲を調整します。
 - ・ 車速が約 15km/h 以上
 - ・ 車両前方が暗い
 - ・ 前方にランプを点灯した車両がいる
- 次の条件のいずれかのとき、ロービームに切りかわります。
 - ・ 車速が約 10km/h 以下
 - ・ 車両前方が明るい
 - ・ 前方車両の台数が多い
 - ・ 前方車両の動きが速く、その車両にまぶしさを与える可能性がある
- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
 - ・ 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）

- ・ フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
- ・ フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
- ・ カメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
- ・ カメラセンサーが極端に高温になっているとき
- ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
- ・ 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- ・ 先行車から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- ・ 急激な明るさの変化が連続するとき
- ・ 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- ・ カーブが多い道路を走行しているとき
- ・ 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- ・ コンテナなど、先行車の後部が光を強く反射するとき
- ・ 自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
- ・ パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
- ・ ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
- ・ ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

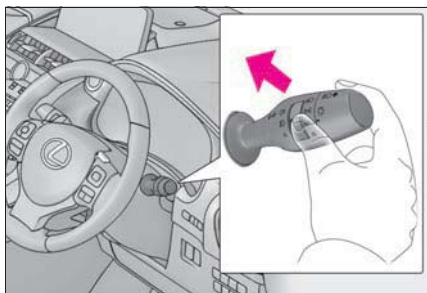
■カスタマイズ機能

お車に装備されている機能の一部は、設定を変更することができます。
(→P.373)

■カメラセンサーの検知について

- 次の状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき

- ・他車が前方を横切ったとき
 - ・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
 - ・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
 - ・前方車両が無灯火のとき
- 前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合があります。
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合や切りかわらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。
- 次の原因により、遮光範囲の追従速度やロービームへの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
- ・前方車両のランプの明るさ
 - ・前方車両の動きや向き
 - ・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・前方車両が二輪車のとき
 - ・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・乗車人数や荷物の量
- ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

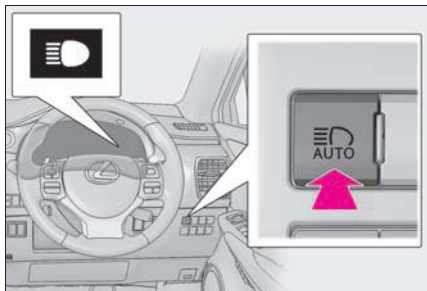


■ ハイビームへの切りかえ

アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度スイッチを押します。



手動制御に切りかえるには

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

アダプティブハイビームシステム表示灯が消灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度レバーを前方に押します。

オートマチックハイビーム

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置されたカメラセンサーにより対向車または先行車のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

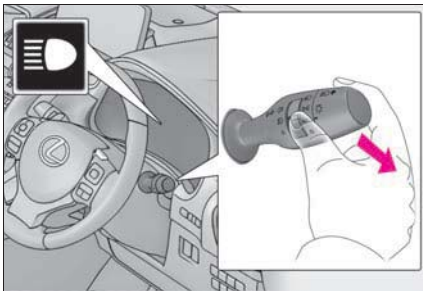
警告

■安全にお使いいただくために

オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

オートマチックハイビームを使うには

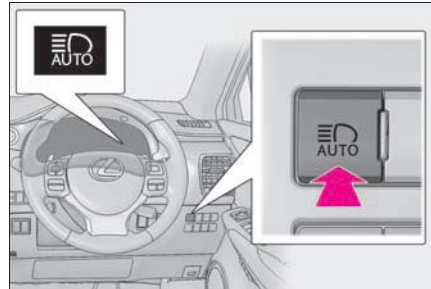
- 1 ランプスイッチを **AUTO** または  にし、レバーを前方へ押す



- 2 オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯

します。



知識

■作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ハイビームとロービームの自動切り換え条件

- 次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
 - ・ 車速が約 30km/h 以上
 - ・ 車両前方が暗い
 - ・ 対向車または先行車が存在しない、またはランプを点灯していない
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない
- 次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
 - ・ 車速が約 25km/h 以下
 - ・ 車両前方が明るい
 - ・ 対向車または先行車がランプを点灯している
 - ・ 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■オートマチックハイビームについて

- 次の状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
 - ・ 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
 - ・ 他車が前方を横切ったとき
 - ・ 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで対向車や先行車が見え隠れするとき

- 対向車のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。
- 街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。
- 次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります
 - ・ 対向車または先行車のランプの明るさ
 - ・ 対向車または先行車の動きや向き
 - ・ 対向車または先行車のランプが片側のみ点灯しているとき
 - ・ 対向車または先行車が二輪車のとき
 - ・ 道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
 - ・ 乗車人数や荷物の量
- オートマチックハイビームは車両前方にあるランプの明るさなどで周囲の状況を確認します。従って、ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。
- 自転車などの軽車両は検知しない場合があります。
- 次の状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが対向車や先行車の迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
 - ・ 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
 - ・ フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
 - ・ フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
 - ・ カメラセンサーが変形しているときや、汚れているとき
 - ・ カメラセンサーの温度が非常に高いとき
 - ・ 周囲にヘッドランプや尾灯などに似た

光があるとき

- ・ 対向車または先行車のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- ・ 急激な明るさの変化が連続するとき
- ・ 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- ・ カーブが多い道路を走行しているとき
- ・ 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- ・ コンテナなど、先行車両の後部が光を強く反射するとき
- ・ 自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
- ・ パンクやけん引などにより車両が傾いているとき

⚠ 注意

■ オートマチックハイビームを正しく動作させるために

オートマチックハイビームを正しく動作させるために次のことをお守りください。

- カメラセンサーのレンズにふれない



- カメラセンサーに強い衝撃を与えない
- カメラセンサーを分解しない
- カメラセンサーに液体をかけない
- カメラセンサーの近くのフロントウインドウガラスにステッカーを貼らない
- カメラセンサー周囲にアクセサリを取り付けない

 注意

- 荷物を積み過ぎない
- 車両を改造しない
- レクサス純正品以外のフロントウィンドウガラスに交換しない

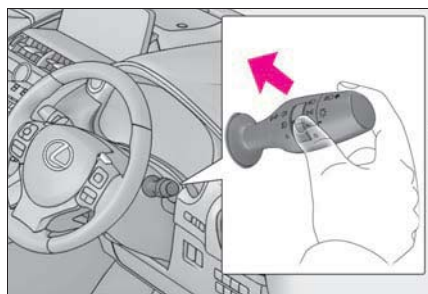
手動制御に切りかえるには

■ ロービームへの切りかえ

レバーをもとの位置にもどす

オートマチックハイビーム表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーを前方に押します。

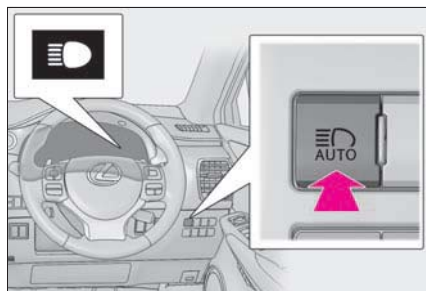


■ ハイビームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。

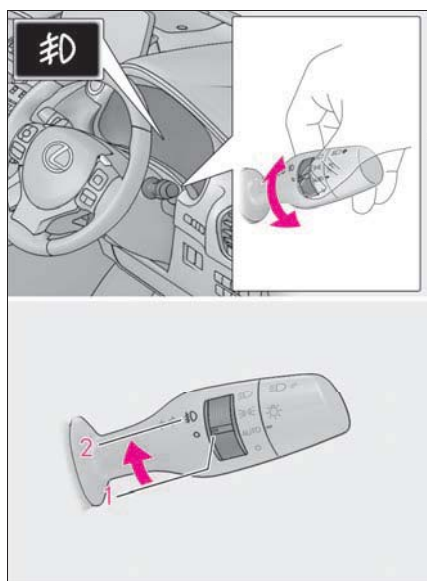


フォグランプスイッチ

雨や霧などの悪天候下では、前方の視界を確保するためにフロントフォグランプを、後続車に自車の存在を知らせるためにリヤフォグランプを点灯させます。

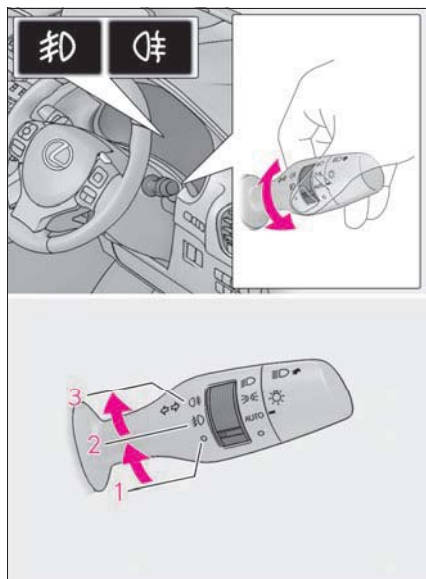
操作のしかた

▶ フロントフォグランプ装着車



- 1 ○ 消灯する
- 2 点灯する

▶ フロント&リヤフォグランプ装着車



- 1 ○ 消灯する
- 2 点灯する
- 3 フロント&リヤフォグランプを点灯する

手を離すと の位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。

知識

■点灯条件

フロントフォグランプ：ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプ★：フロントフォグランプが点灯しているときに使用できます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ リヤフォグランプ★について

● リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

● 雨や霧、雪などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防止するためにエンジンを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ワイパー＆ウォッシャー (フロント)

レバー操作で、ワイパーの作動を自動／手動に切りかえたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

⚠ 注意

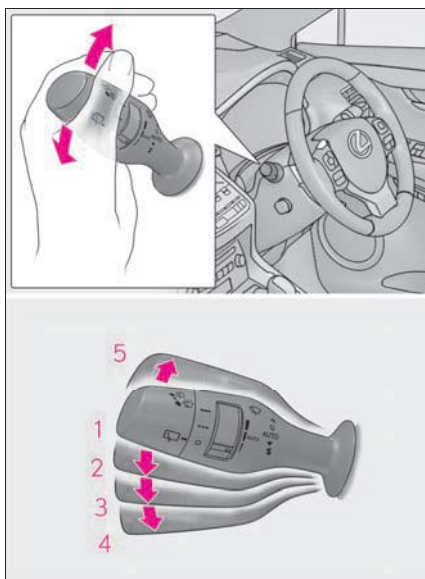
■ フロントウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。

ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように  レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。



AUTO を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。

1 ○ 停止

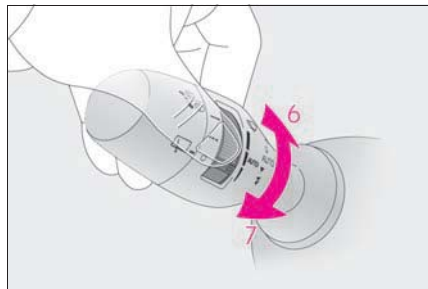
2 AUTO AUTO モード

3 ▼ 低速作動

4 ▼ 高速作動

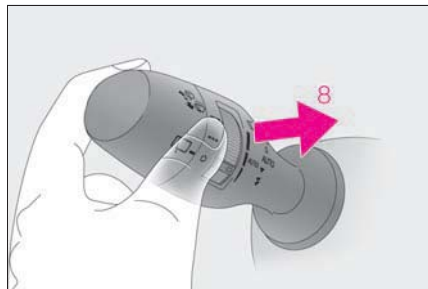
5 ▲ 一時作動

AUTO が選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。



6 雨滴センサーの感度調整（高）

7 雨滴センサーの感度調整（低）



8 〰️ ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

ヘッドランプクリーナー装着車：
ヘッドランプが点灯しているときに5回連続で手前に引くとヘッドランプクリーナーが作動します。

 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 液だれ防止作動

ウォッシャー液を噴射するとワイパーが数回作動し、その後、液だれ防止のためにさらに1回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません。

■ 車速による作動への影響

車速によってワイパー作動の間欠時間への影響があります。

■ 雨滴感知センサー

● 雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



● エンジンスイッチがイグニッション ON モードのときにワイパースイッチを

AUTO にすると、動作確認のためワイパーが1回作動します。

● 雨滴感知センサーの温度が90℃以上または-15℃以下のときは、AUTO作動しないことがあります。その場合は、AUTOモード以外でワイパーを使用してください。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのに

ウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

！ 警告

■ AUTO モード時のワイパー作動について

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ ウォッシャーを使用するとき

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

！ 注意

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けしないでください。

ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。

ノズルが損傷するおそれがあります。

■ バッテリーあがりを防止するために
エンジンを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

ワイパー＆ウォッシャー (リヤ)

！ 注意

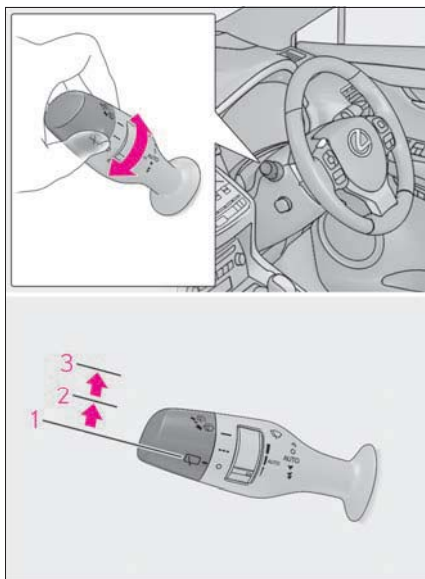
■ リヤウインドウガラスが乾いているときは

ワイパーを使わないでください。

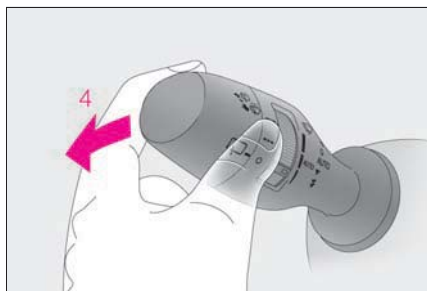
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように  スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。



- 1 ○ 停止
- 2 --- 間欠作動
- 3 — 通常作動



4 ウォッシャー液を出す

レバーを前方へ押すとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON
モードのとき

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのに
ウォッシャー液が出ないときは、ノズル
のつまりを点検してください。

注意

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けな
いください。

ポンプが故障するおそれがあります。

■ ノズルがつまったらときは

ノズルがつまったらときはレクサス販売
店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。

ノズルが損傷するおそれがあります。

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でワイパーを
長時間作動しないでください。

給油口の開け方

給油する前に

- ドアとドアガラスを閉め、エンジンスイッチを OFF にしてください。
- 燃料の種類を確認してください。



知識

■ 燃料の種類について

- 無鉛プレミアムガソリン
- バイオ混合ガソリン（プレミアム）

■ バイオ混合ガソリンについて

エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7%以下）を使用することができます。



警告

■ 給油するときは

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと火災を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 給油前にボデーなどの金属部分にふれて体の静電気を除去してください。除去したあとは給油が完了するまで、車内にもどったり、他の人やものにふれないでください。また、給油口に静電気を除去していない人を近付けないでください。
静電気を帯電した人が給油口に近付くと、放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

- キャップはツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けてください。また、キャップをゆるめるときに、“シュー” という音がある場合は、その音が止まるまでキャップを保持してください。
すぐに開けると、気温が高いときなどに、給油口から燃料が噴き出るおそれがあります。
- 気化した燃料を吸わないようにしてください。
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しないでください。
- 給油口にノズルを確実に挿入してください。
- 継ぎ足し給油をしないでください。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示に従ってください。



注意

■ 給油するとき

指定のガソリンを使用してください。指定以外のガソリン（無鉛レギュラーガソリン）や他の燃料（粗悪ガソリン・軽油・灯油・高濃度バイオ混合ガソリン※）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
次のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- エンジンからの異音や振動など（ノッキング）が発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する

⚠ 注意

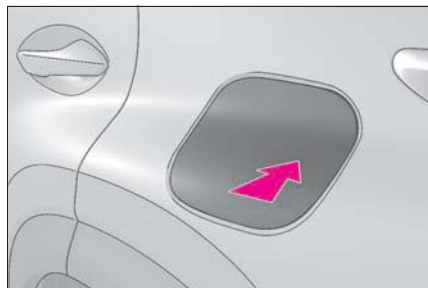
● 塗装が損傷する

※ エタノール混合率 10% をこえるもの、または ETBE の混合率 22% をこえるもの

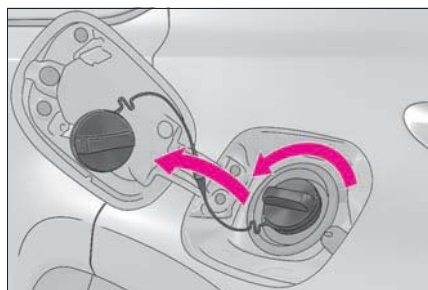
給油口を開けるには

- 1 ドアが解錠された状態で、給油扉の車両後端の中央部分を押す

奥まで押し込み、手を離すと給油扉が少し開きます。その後、手で全開にします。



- 2 キャップをゆっくりまわして開け、ホルダーにはめ込む



□ 知識

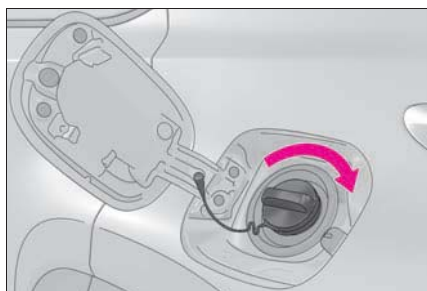
■ 給油扉が開かないとき

→P.356

給油口を開めるには

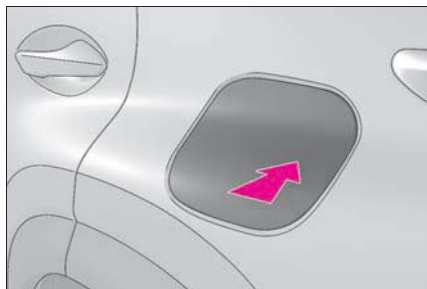
- 1 キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉める

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。



- 2 給油扉を閉め、給油扉の車両後端の中央部分を押す

ドアを施錠すると給油扉も施錠されます。



□ 知識

■ 給油口の施錠について

次の場合、ドアが施錠されても給油口は施錠されません。

- 室内のドアロックスイッチで施錠したとき
- シフト操作連動ドアロックまたは車速感応オートドアロックで施錠されたとき
- ドアを施錠したあとに給油口を閉めたとき

■ 燃料キャップ閉め忘れ警告ブザー

エンジンスイッチがイグニッション ON モードで燃料キャップが緩んでいるとブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



■ キャップが正常に閉まらないとき

必ずレクサス販売店へご連絡ください。

正常に閉まらないキャップをそのまま使用したり、純正品以外のキャップを使用すると、火災などを引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

Lexus Safety System+

Lexus Safety System+ は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）

→P.180

■ LTA（レーントレーシングアシスト）

→P.187

■ AHS（アダプティブハイビームシステム）★

→P.162

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ オートマチックハイビーム

→P.165

■ RSA（ロードサインアシスト）

→P.195

■ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

→P.198

■ 先行車発進告知機能

→P.209

⚠ 警告

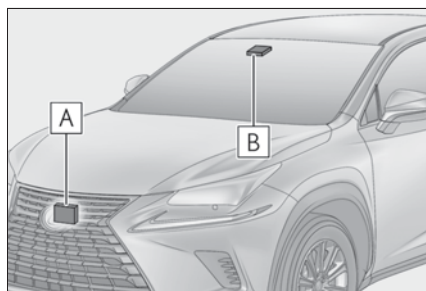
■ Lexus Safety System+ について

Lexus Safety System+ は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある2種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。



A レーダー

B 前方カメラ

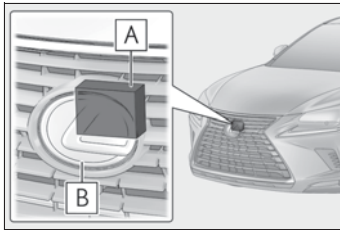
⚠ 警告

■ レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

- レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく



A レーダー

B レーダー専用カバー

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

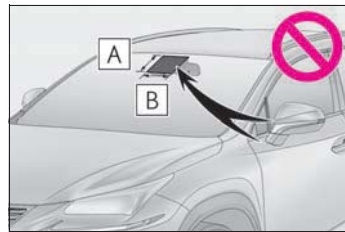
- レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない
- レーダー周辺への強い衝撃を避ける
レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。
- レーダーを分解しない
- レーダーやレーダー専用カバーを改造したり、塗装したりしない
- レーダー・フロントグリル・フロントバンパーの脱着や交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

■ 前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく
 - ・ フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。
 - ・ フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用しても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。
 - ・ フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない



- A** フロントウインドウガラス上端から
前方カメラ下端より下約 1cm まで
- B** 約 20cm（前方カメラ中心から左右
約 10cm）

 警告

- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P.265）
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換するワイパーゴムまたはワイパーブレードの交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
フロントウインドウガラスの交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない
- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
レンズに汚れ・傷がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない

- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリを取り付けない
詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

 知識**■レーダーの取り扱い**

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用ください。

■マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

- 次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はレクサス販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方センサー周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	・ 汚れや付着物を取り除く ・ 前方カメラ周辺の汚れや付着物の場合は、ワイパーやエアコンの機能などを使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P.265）
炎天下や極寒の環境など、前方カメラ周囲の温度などが作動条件外るとき	炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方カメラが低温のときは、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる
ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方カメラの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方カメラの視界がさえぎられないようにする

● 次のときは周囲の環境が前方センサーの作動可能状態になれば警告メッセージが消えます。

周囲の環境が改善されたり、しばらく走行したりしても警告メッセージが表示されたままの場合はレクサス販売店にご相談ください。

- ・ 炎天下や極寒の環境など、レーダー周囲の温度などが作動条件外るとき
- ・ 暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できないとき

PCS（プリクラッシュセーフティ）

進路上の作動対象（→P.180）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まると判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON/OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.182）

システムの作動対象

システムは次のものを作動対象として検出しています。

- 車両
- 自転車運転者
- 歩行者

機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。



■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

■ サスペンションコントロール★

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、AVS（→P.251）によってショックアブソーバーの減衰力を制御することで、安定した車両姿勢の維持に寄与します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。
 - ・衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→P.184
 - ・システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P.185
- お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- プリクラッシュブレーキについて
 - プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。

- プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約2秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。
- プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。
- プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。
- プリクラッシュセーフティをOFFにするとき
次のときは、システムをOFFにしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、エンジンを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき

警告

- 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- メーカー指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

プリクラッシュセーフティの設定変更

■ プリクラッシュセーフティの ON/OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの (→P.73) から、プリクラッシュセーフティの ON（作動）／OFF（非作動）を変更することができます。

エンジンスイッチがイグニッション ON モードになるとシステムは ON になります。

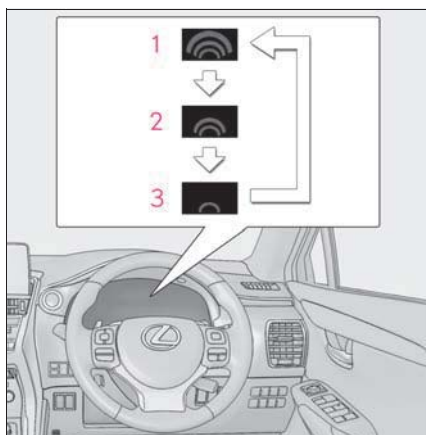
システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。



■ 衝突警報の作動タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの (→P.73) から、衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

変更した作動タイミングはエンジンスイッチを OFF にしても継続しますが、プリクラッシュセーフティを OFF から ON の状態にすると「中間」に戻ります。



1 早い

2 中間

初期設定

3 遅い



知識

■ システムの作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

各機能の作動速度は次のとおりです。

● 衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

● プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h

● プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

ただし、次のときシステムは作動しません。

- バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ
- シフトレバーが R のとき
- VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

■ 作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。

周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→P.185）

図は作動対象として検出する対象のイメージです。



■ プリクラッシュブレーキの作動解除

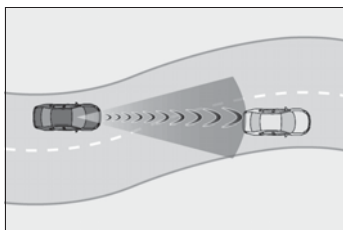
プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

- アクセルペダルを強く踏み込む

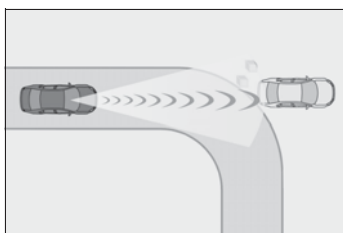
- ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

■ 衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき

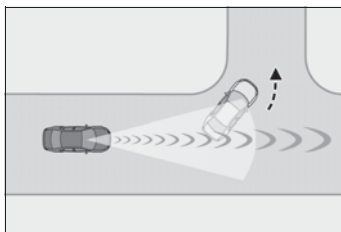
- 例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。
 - ・ 作動対象などのすぐそばを通過するとき
 - ・ 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
 - ・ 進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき



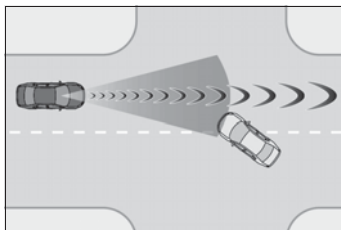
- ・ 作動対象などに急接近したとき
- ・ 道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
- ・ カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



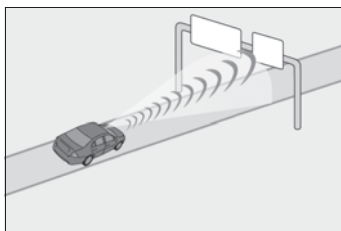
- ・ 自車の前方に作動対象との区別が付きにくい模様・ペイントがあるとき
- ・ 自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
- ・ 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



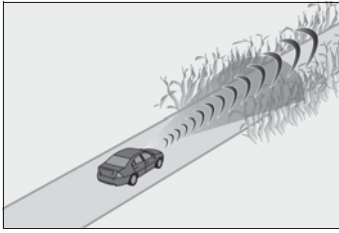
- ・ 右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



- ・ 作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
- ・ 路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
- ・ 構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
- ・ 自車の前方に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき
- ・ 道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



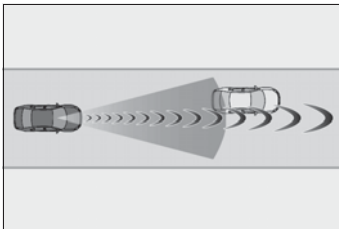
- ・ ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
- ・ 洗車機を使用するとき
- ・ 自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき



- ・ 自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・ 電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
- ・ テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

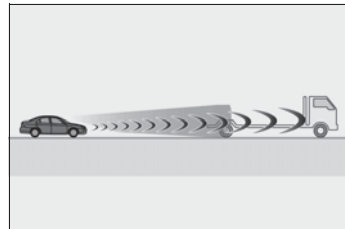
- 例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
- ・ 自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
- ・ 自車や作動対象がふらついているとき
- ・ 作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
- ・ 作動対象に急接近したとき
- ・ 作動対象が自車の中心軸からずれているとき



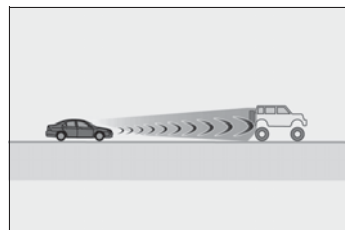
- ・ 作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいますとき
- ・ 上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
- ・ 作動対象の一部が他のもので隠れているとき

るとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）

- ・ 作動対象が複数重なっているとき
- ・ 作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
- ・ 作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
- ・ 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- ・ 作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
- ・ 自車の前方に水・雪・土ほりなどの巻き上げがあるとき
- ・ 自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
- ・ 横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
- ・ 前方車両がオートバイのとき
- ・ 前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
- ・ 前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
- ・ 前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）



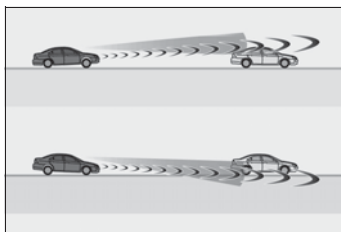
- ・ 前方車両の最低地上高が極端に高いとき



- ・ 前方車両の荷台から荷物がはみ出して

いるとき

- ・ 前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
- ・ 子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンDEM自転車など）
- ・ 歩行者・自転車運転者の大きさが約1m以下、または約2m以上のとき
- ・ 歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
- ・ 歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
- ・ 歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
- ・ 歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
- ・ 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
- ・ 自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
- ・ 周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
- ・ 周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
- ・ エンジンを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
- ・ 右左折中および右左折後の数秒間
- ・ カーブ走行中およびカーブを曲がりきってから数秒間
- ・ 自車が横すべりしているとき
- ・ 車両姿勢が変化しているとき



- ・ ホイールアライメントがずれているとき
- ・ ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
- ・ 過度な高速走行をしているとき
- ・ 坂道を走行しているとき
- ・ 前方センサーの向きがずれているとき

- 例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。
- ・ ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
- ・ 車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
- ・ 砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき

■VSCを停止したとき

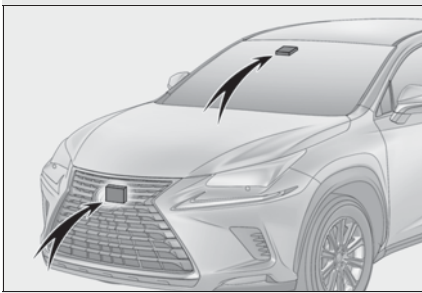
- VSCの作動を停止（→P.252）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。
- PCS警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「VSCがOffのためプリクラッシュブレーキも停止します」が表示されます。

LTA（レーントレーシングアシスト）

白（黄）線が整備された高速道路または自動車専用道路を走行中、車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。また、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）の作動中は、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

白（黄）線または走路※を前方カメラで認識します。また、先行車を前方カメラやレーダーで認識します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



⚠ 警告

■ LTA をお使いになる前に

- LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- LTA を使用しないときは、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ LTA を使用してはいけない状況

次の状況では、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。

思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき
- 雪道を走行しているとき
- 水たまりや雨・雪・霧・砂ほりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき
- 工事区間を走行しているとき
- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- タイヤの残り溝が十分でないとき、または空気圧が不足しているとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき

警告

- 高速道路または自動車専用道以外の車線を走行しているとき

- 車両けん引時

■ LTA の故障、または誤作動を防ぐために

- ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。

- サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

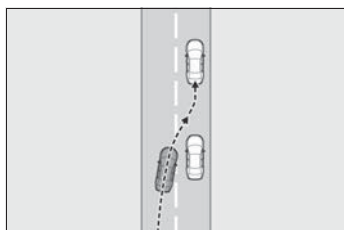
- ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。

- フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

- 先行車追従表示中（→P.191）に、先行車が車線変更したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）



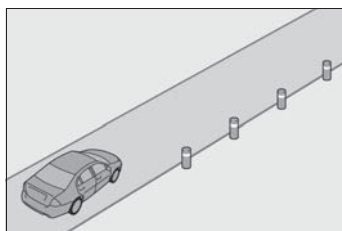
- 先行車追従表示中（→P.191）に、先行車がふらついたとき（先行車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

- 先行車追従表示中（→P.191）に、先行車が車線から逸脱したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）

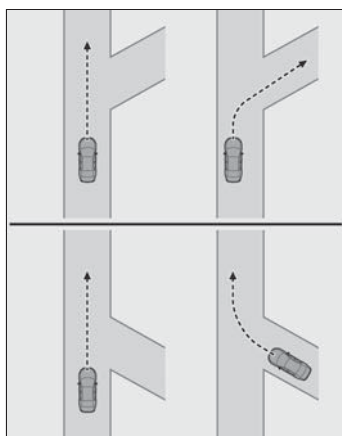
- 先行車追従表示中（→P.191）に、先行車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

- 急カーブを走行しているとき

- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・縁石・反射ポールなど）

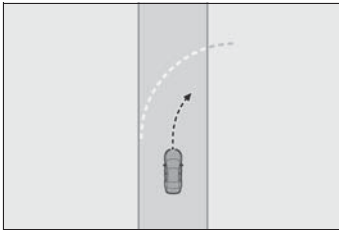


- 分岐・合流路などを走行するとき



警告

- 道路の修復で、アスファルト修復後や白（黄）線の跡が残っているとき



- 白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋸）や置き石などがあるとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- アスファルトと草・土・縁石等の境界が不明瞭または直線的でないとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき

- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などが前方カメラに入射しているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 横風を受けているとき
- 周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- 冬用タイヤなどを装着しているとき
- 過度な高速走行をしているとき

LTAに含まれる機能

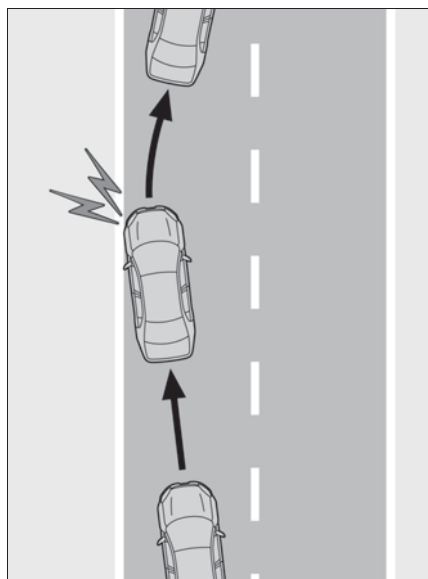
■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路[※]から逸脱する可能性がある場合に、マルチイン

フォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったとき、またはハンドルに振動があったとき、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線または走路※内の中央付近にもどってください。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

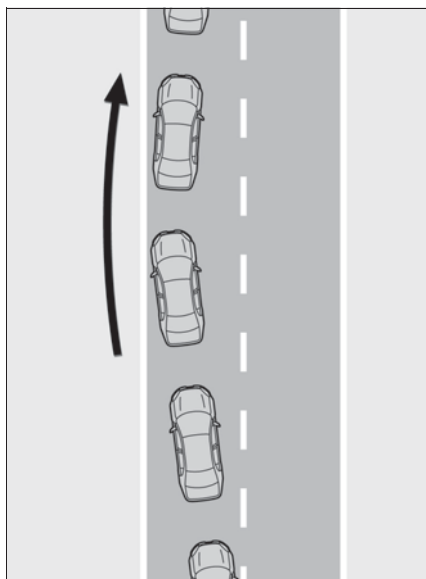


■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

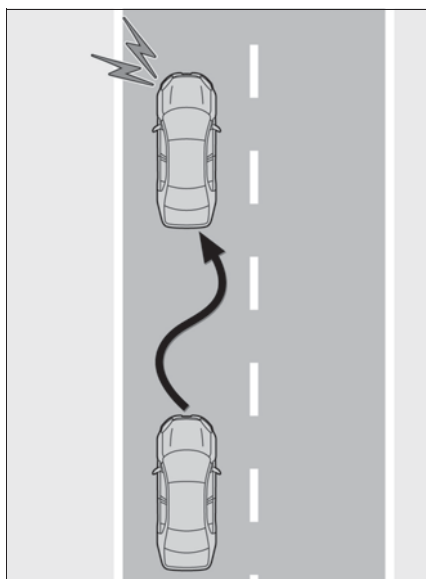
一定時間ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかりと握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイの表示により注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



■ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているときに、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。



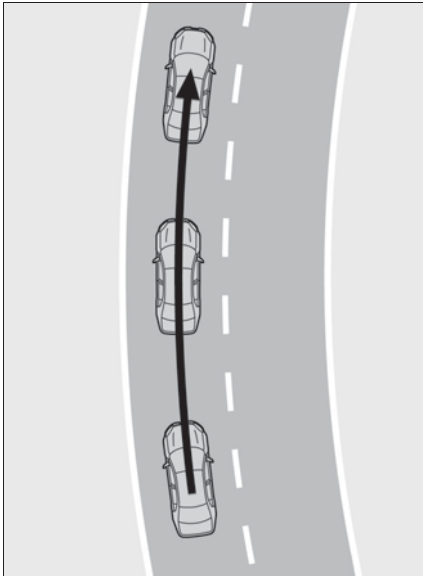
■ 車線維持支援機能

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）と連携し、現在の車線内を走行するために必要なハンドル操作の一部を、システムが支援します。

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していないときは、車線維持支援機能は作動しません。

渋滞のときなど白（黄）線が見えにくい、または見えない場合、先行車の軌跡を利用して先行車に追従する支援を行います。

一定時間ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイの表示により注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。



設定のしかた

LTA を ON にするには LTA スイッチを押す

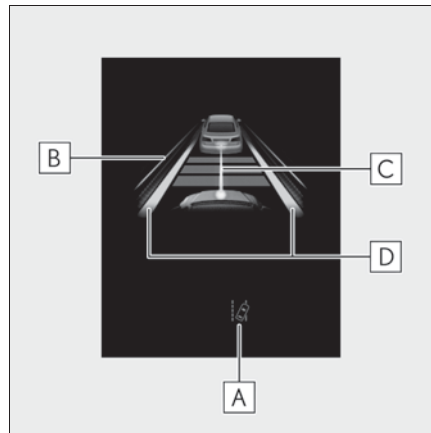
LTA 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF にするには、再度スイッチを押します。

いったん LTA を ON/OFF すると、次回エンジンを始動したときにも、そのまゝの状態が続きます。



マルチインフォメーションディスプレイ表示



[A] LTA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

白色に点灯：車線逸脱監視中

緑色に点灯：車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

橙色に点滅：車線逸脱警報中

B ハンドル操舵支援の作動表示

マルチインフォメーションディスプレイを走行支援機能情報に切りかえると表示されます。

車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中であることを示しています。

両側点灯：車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

片側点灯：車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援が作動中

両側点滅：車線維持支援機能の注意喚起が作動中

C 先行車追従表示

マルチインフォメーションディスプレイを走行支援機能情報に切りかえると表示されます。

車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中（先行車に追従中）であることを示しています。

先行車の動きに合わせて自車も同じ動きをする場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

D 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを走行支援機能情報に切りかえると表示されます。

▶ 白線表示の内側が白いとき



システムが白（黄）線または走路※を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき



システムが白（黄）線または走路※を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

知識

■ 各機能の作動条件

● 車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ LTA を ON にしているとき
- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき ※¹
- ・ システムが白（黄）線または走路 ※²

を認識しているとき（白〔黄〕線または走路※²が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）

- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき
- ・ 急カーブを走行していないとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→P.195）

※¹車線維持支援機能が作動中は約 50km/h 以下でも作動します。

※²アスファルトと草・土・縁石等の境界

● 車線逸脱抑制機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ マルチインフォメーションディスプレイので「操舵支援」を「有」に設定しているとき（→P.69）
- ・ 一定以上の加減速がないとき
- ・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ・ ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
- ・ TRC または VSC を OFF にしていないとき
- ・ 手放し運転に対する注意喚起（→P.194）が行われていないとき

● ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

- ・ マルチインフォメーションディスプレイので「ふらつき検知」を「有」に設定しているとき（→P.69）
- ・ 車速が約 50km/h 以上のとき
- ・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→P.195）

● 車線維持支援機能

次の条件をすべて満たしたとき作動しま

す。

- ・ LTA を ON にしているとき
- ・ マルチインフォメーションディスプレイので「操舵支援」を「有」かつ「センタートレース」を「有」に設定しているとき（→P.69）
- ・ システムが白（黄）線を認識しているとき、または先行車の軌跡を認識しているとき（先行車が二輪車の場合を除く）
- ・ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が車間制御モードで作動しているとき
- ・ 車線の幅が約 3 ～ 4m のとき
- ・ 方向指示レバーを操作していないとき
- ・ 急カーブを走行していないとき
- ・ システムの異常が検知されていないとき（→P.195）
- ・ 一定以上の加減速がないとき
- ・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
- ・ ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
- ・ TRC または VSC を OFF にしていないとき
- ・ 手放し運転に対する注意喚起（→P.194）が行われていないとき
- ・ 車線中央付近を走行しているとき
- ・ 車線逸脱抑制機能が作動していないとき

■ 機能の一時解除

- 作動条件（→P.192）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。
- 車線維持支援機能作動中に、作動条件（→P.192）が満たされなくなった場合、ハンドル振動または“ピピッ”とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。また、カスタマイズ設定で「警報

手段」をに設定している場合は、ブザーの代わりにハンドル振動でお知らせします。

■車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能について

- 車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能が作動しなかったりすることがあります。
- これらの各機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。
- 車線逸脱抑制機能の作動テストを行わないでください。

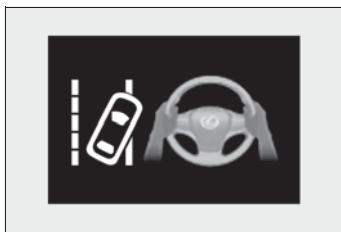
■車線逸脱警報機能について

- 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、ハンドルの振動を感じにくい場合があります。
- 走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報・制御が作動しない場合があります。
- 車線逸脱警報機能の作動テストを行わないでください。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。



- システムの作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。また、警報手段を

に選択している場合でも、ブザーが鳴ります。

- カーブを走行中に曲がりきれず車線から逸脱する可能性があるときシステムが判断したとき

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。また、システムがカーブを走行中と判断した場合は、直線走行時に比べて早いタイミングで注意喚起が行われます。

- 車線逸脱抑制機能による車線逸脱を避けるためのハンドル操舵支援中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに、操作しない状態が続きハンドル操舵支援が行われると、ブザーが鳴り注意喚起が行われます。ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、ブザーの継続時間が長くなります。また、警報手段をに選択している場合でも、ブザーが鳴ります。

■ふらつき警報機能について

システムの作動中に、車両がふらついて

走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと同時にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をうながすメッセージと図で示すシンボルで注意喚起を行います。



車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

■ 警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LTA 表示灯が橙色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。また、その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

● 「LTA 故障販売店で点検してください」

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

● 「LTA 現在利用できません」

前方カメラ以外のセンサーの異常によりシステムが一時的に停止しています。いったん LTA を OFF にして、しばらくしてから再度、LTA を ON にしてください。

● 「LTA 現在の車速では利用できません」

車速が LTA の作動可能範囲をこえたため、使用できません。車速を落として走行してください。

■ カスタマイズ機能

機能の設定を変更することができます。
(カスタマイズー覧：→P.373)

RSA (ロードサインアシスト)

前方カメラまたは、ナビゲーションシステム（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識を認識し、ディスプレイに表示して道路標識の情報を運転者にお知らせします。



認識した道路標識の制限速度に対し、運転者が制限速度を超過して走行、または禁止行為を行っている等とシステムが判断した場合に、告知表示およびブザー音もしくはハンドルの振動で運転者に告知します。

⚠ 警告

■ RSA をお使いになる前に

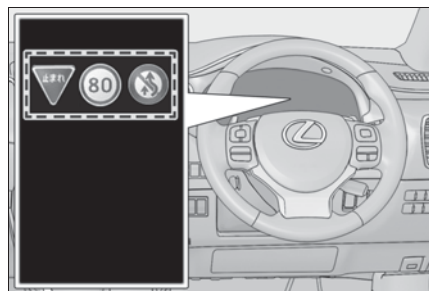
RSA は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

マルチインフォメーションディスプレイ表示

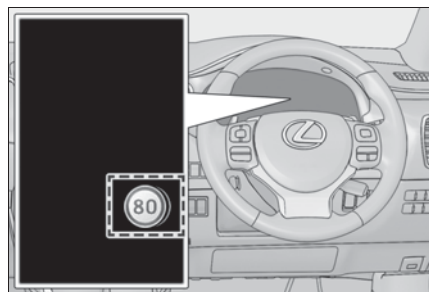
前方カメラまたは、ナビゲーションシステム（情報を取得した場合）に

よって標識を認識すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。

- 走行支援機能情報を選択したときは、最大 3 つの標識を表示できます。(→P.69)



- 走行支援機能情報以外を選択したときは、最高速度標識または車両進入禁止標識（告知時のみ）を表示します。(→P.69)



速度制限標識以外を認識した場合、速度標識の重複表示にてお知らせします。

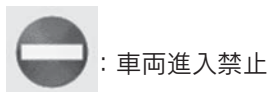
認識される道路標識の種類

次の種類の道路標識は、電光標識も含めて認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された形式の標識は認識されません。



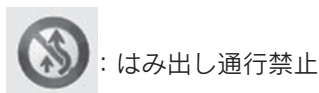
：最高速度



：車両進入禁止



：一時停止



：はみ出し通行禁止



※：終わり

※ マルチインフォメーションディスプレイに、表示されません。

告知機能

次の状況では、システムが告知表示で運転者に告知します。

- 自車の車速がマルチインフォメーションディスプレイに表示されている制限速度より、一定の速度を超過すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示されている最高速度標識の強調やブザーの吹鳴をします。
- システムが進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したと判定したときには、マルチインフォメーションディスプレイに表示される車両進入禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。
- はみ出し通行禁止標識がマルチインフォメーションディスプレイに表示されているときに、自車の追

い越しを検出すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示されているはみ出し通行禁止標識の点滅やブザーの吹鳴、またはハンドル振動をします。

状況によっては、告知表示が正常に作動しない場合があります。



知識

■ 設定のしかた

- 1 メーター操作スイッチの または を押して を選択する
- 2 メーター操作スイッチの または を押して を選択し、 を押す
- 3 メーター操作スイッチの または を押して設定したい項目を選択し、 を押す

■ RSA 標識表示

次の状況では、最高速度・はみ出し通行禁止の標識表示が消えます。

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- 終わり標識の下に対象標識を認識したとき

次の状況では、一時停止・車両進入禁止の標識表示が消えます。

- 標識を通過したとシステムが判定したとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

■ 機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 前方カメラやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 汚れ・雪・ステッカー等がフロントウインドウの前方カメラの近くにあるとき
- 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラに直接あたっているとき
- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが悪いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- ロータリー（環状交差点）を走行しているとき
- 重い荷物を積むなど車両が傾いているとき
- 十分な光がなかったり、明るさが急激に変化したりしたとき

- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき
- ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき
- ナビゲーションシステムが利用できないとき

■速度制限標識表示

マルチインフォメーションディスプレイに最高速度標識が表示されているときに、エンジンスイッチを OFF にすると、次回エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしたときには再度同じ標識が表示されます。

■マルチインフォメーションディスプレイに「RSA 故障販売店で点検してください」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

一部の機能は、設定を変更することができます。(カスタマイズ一覧：→P.373)

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

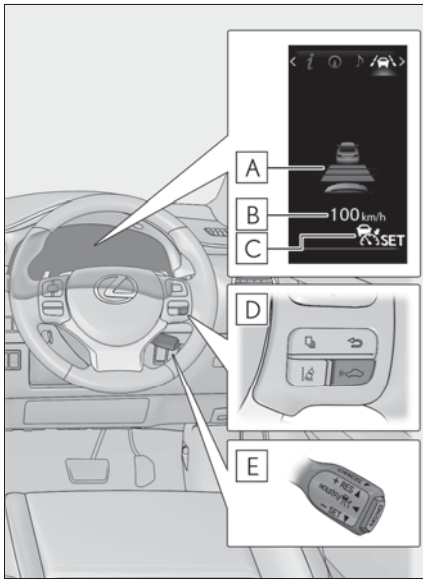
アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行います。自動的に加速・減速・停止をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

通信利用型レーダークルーズコントロールは、ITS Connect を装備している車両のみ使用できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード（→P.201）
- 定速制御モード（→P.204）
- 通信利用型レーダークルーズコントロール（ITS Connect 装着車）（→P.204）

システムの構成部品



- A** マルチインフォメーションディスプレイ
- B** 設定速度
- C** 表示灯
- D** 車間距離切りかえスイッチ
- E** クルーズコントロールスイッチ

警告

■安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

- レーダークルーズコントロール（全車追従機能付き）は運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

- ・センサーが正しく検知しないおそれのある先行車：→P.207

- ・車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況：→P.208

- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

- システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたらと思うぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- レーダークルーズコントロール（全車追従機能付き）を使わないときはON/OFFスイッチでシステムをOFFにしてください。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

 警告

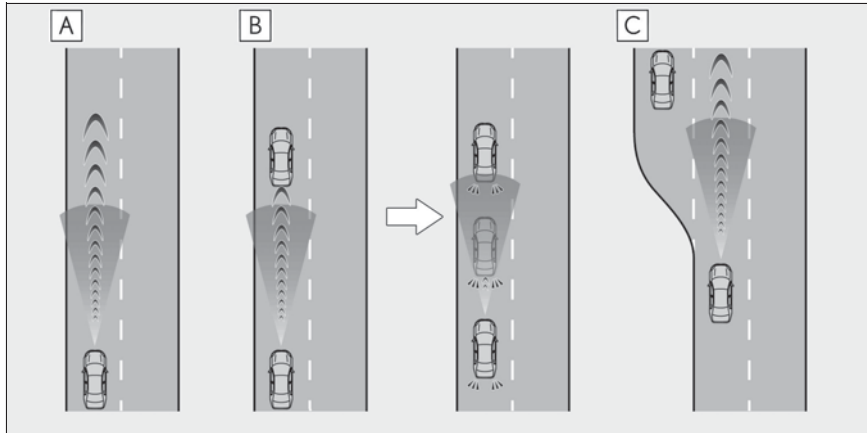
- 運転者が見る過程での支援内容
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。
 - 運転者が判断する過程での支援内容
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。
 - 運転者が操作する過程での支援内容
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。
- **レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用してはいけない状況**
- 次の状況では、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 歩行者や自転車等が混在している道
 - 交通量の多い道
 - 急カーブのある道
 - 曲がりくねった道

- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）
- レーダー前面または、前方カメラ前面に雨滴や雪などが付着しているとき
- ひんぱんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき
- 車両けん引時
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短くなることがあります。



A 定速走行：

先行車がないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

B 減速走行—追従走行：

設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、クルーズコントロールレバーを上げるか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

車速が約 80km/h 以上で自車が走行している車線より右車線へ車線変更する場合、方向指示レバーと連動して設定速度まで早めに加速することで、追い越しを支援します。

C 加速走行：

設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

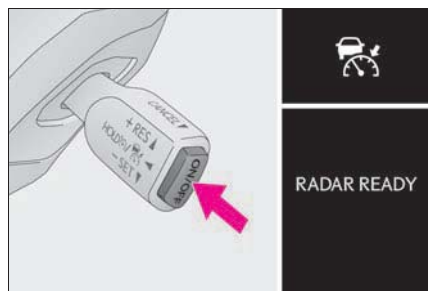
速度を設定する（車間制御モード）

- 1 ON/OFF スイッチを押して、システムを ON にする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF するには再度スイッチを押します。

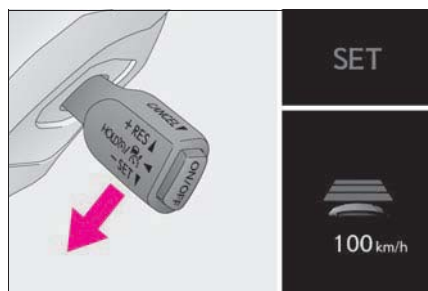
ON/OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続けると定速制御モードでシステムが ON します。（→P.204）



- 2 希望の车速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを下げて速度を設定する

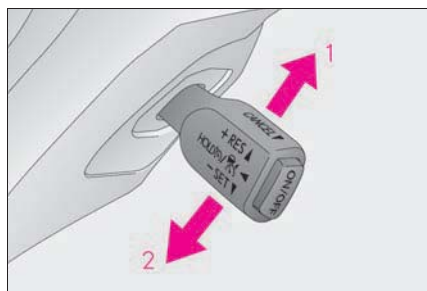
クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離れたときの车速で定速走行でいきます。



設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまでレバーを操作します。



- 1 速度を上げる（車間制御モードの制御停車中は除く）

- 2 速度を下げる

微調整：レバーを上または下に軽く操作して手を離す

大幅調整：レバーを上または下に保持して速度をかえ、希望の速度で手を離す

車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ、5km/h ずつ

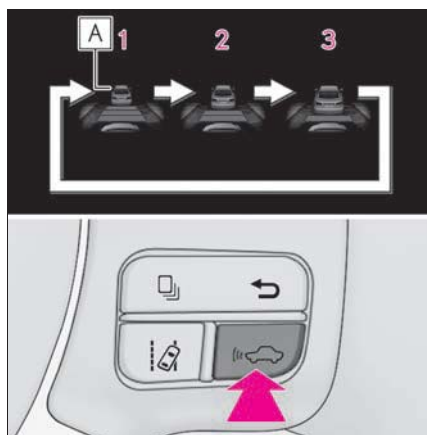
定速制御モード（→P.204）では、設定速度は、次のとおりに増減されます

微調整：レバー操作をするごとに 1km/h

大幅調整：レバーを保持しているあいだ連続して変化

車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。



- 1 長い
- 2 中間
- 3 短い

エンジンスイッチをイグニッション ON モードにするたびに車間距離は「長い」にもどります。

先行車がいる場合、先行車マーク **A** も表示されます。

車間距離選択の目安（車間制御モード）

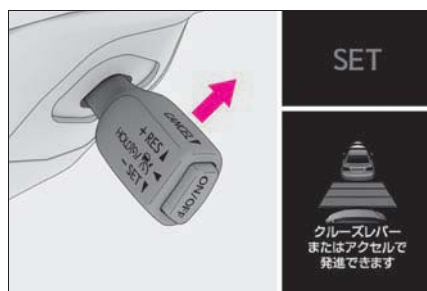
次の目安を参考に車間距離を選択してください。

（車速 80km/h で走行している場合）
なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

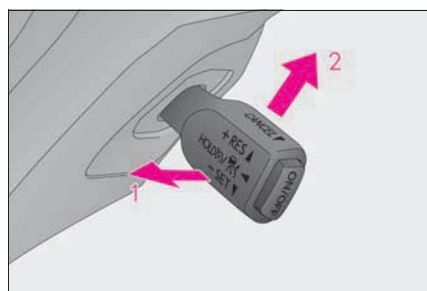
車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

制御停車から追従走行に復帰させる（車間制御モード）

先行車の発進後、レバーを上げる
先行車の発進後にアクセルペダルを踏んでも追従走行に復帰します。



制御を解除する・復帰させる



- 1 制御を解除するには、レバーを手前に引く

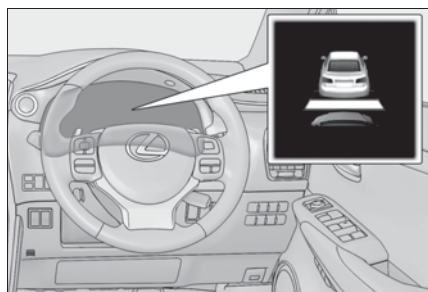
ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（車間制御モードの制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）

- 2 制御を復帰させるには、レバーを上げる

接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブ

ザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の车速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

定速制御モードでの走行

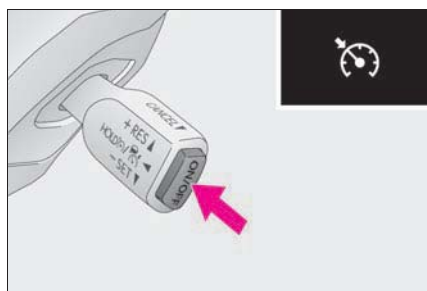
定速制御モードでは、先行車の车速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の车速で走行します。レーダーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

- 1 クルーズコントロールが OFF の状態で、ON/OFF スイッチを 1.5 秒以上押し続ける

ON/OFF スイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムが OFF の状態から操作したと

きのみ、定速制御モードへの切りかえが可能です。



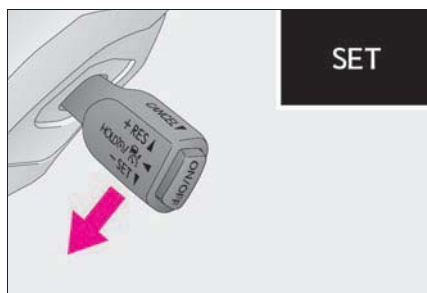
- 2 希望の车速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、レバーを上げて速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

レバーを離したときの车速で定速走行できます。

設定速度をかえる
→P.202

制御を解除する・復帰させる
→P.203



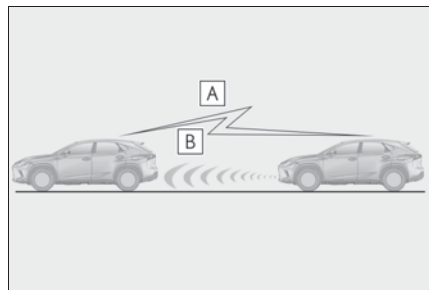
通信利用型レーダークルーズコントロール（ITS Connect 装着車）

通信利用型レーダークルーズコントロールは、ITS Connect が装着されている車両のみ利用できます。

ITS Connect については P.211 を参照してください。

このシステムは車間制御モードでの追従走行中、先行車も通信利用型レーダークルーズコントロールに対応している場合に自動的に作動します。

■ 情報取得



[A] 先行車との通信

加減速情報などを取得します。

[B] レーダー

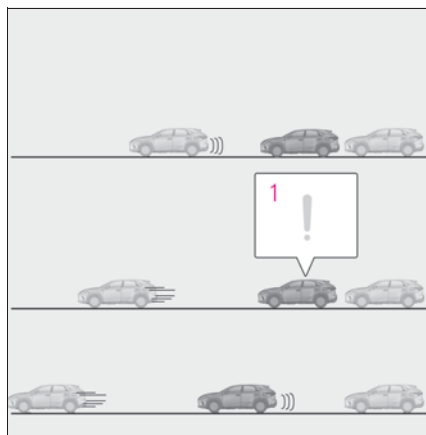
車間距離情報などを取得します。

■ システム作動について

先行車の加減速の情報を通信で取得することにより、先行車の加減速に素早く追従して車間距離や速度の変動を抑制し、スムーズな追従走行に寄与します。また、先行車が認識できなくなった場合は自動的に車間制御モードに切りかわります。

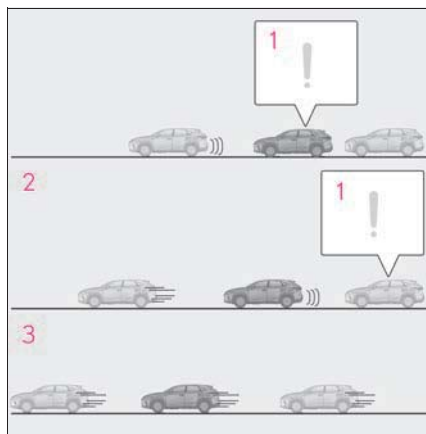
車間制御モードに比べて、次のような作動になります。

● 車間制御モード



1 先行車の発進に遅れて気づく

● 通信利用型レーダークルーズコントロール



1 先行車の発進に素早く気づく

2 スムーズな加速で追従

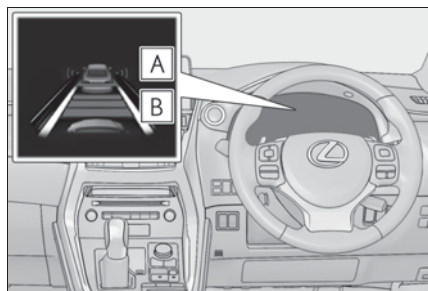
3 短時間で渋滞解消

■ 通信利用型レーダークルーズコントロールの ON/OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの  画面 (→P.69) から、通信利用型クルーズコントロールの ON (作動) / OFF (非作動) を変更

することができます。

■ システム作動時の表示



A 先行車通信マーク

B 車間距離表示

■ 通信利用型レーダークルーズコントロールの作動目安

レーダークルーズコントロールの車間距離設定に応じて、本機能の作動レベルがかわります。(→P.202)

車間距離設定	作動目安
長い	ゆったりとした加減速による追従走行
中間	中間の追従走行
短い	きびきびとした加減速による追従走行



知識

■ 設定条件について

- シフトレバーがDのとき設定できます。
- 車速が約30km/h以上のとき、希望の設定速度に設定できます。(ただし車速が約30km/h未満で設定したときは、設定速度が約30km/hに設定されます)

■ 車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード

時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■ 追従走行中の停車制御について

- 制御停車中にレバーを上げた場合、約3秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。
- 先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■ 車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- VSC が作動したとき
- TRC が一定時間作動したとき
- TRC または VSC を OFF にしたとき
- センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき
- ブリクラッシュブレーキが作動したとき
- パーキングブレーキが作動したとき
- 急坂路で制御停車したとき
- 制御停車中に次を検出したとき
 - ・ 運転席シートベルトを着用していない
 - ・ 運転席ドアが開いた
 - ・ 車両が停止したあと約3分経過した

上記以外の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■ 定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

- 設定速度より車速が約16km/h以上低下したとき
- 車速が約30km/h未満になったとき
- VSC が作動したとき
- TRC が一定時間作動したとき

- TRC または VSC を OFF にしたとき
- プリクラッシュブレーキが作動したとき

上記以外の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■ 通信利用型レーダークルーズコントロールについて

- 本機能によって、車間制御モードの速度や車間距離設定が変更されることはありません。
- 先行車が通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していないときは、本機能は作動しません。
- 先行車や周囲の車両の走行状態によっては、スムーズな追従走行が行われない場合や、自車の速度や先行車との車間距離に影響がおよぶ場合があります。必要に応じてブレーキ・アクセルを操作してください。

■ 通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しないおそれがある状況

次のような状況では、通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しない、または通信利用型レーダークルーズコントロールから車間制御モードに切りかわる場合があります。

- 先行車との通信が途絶したとき
- センサーが先行車を誤って検知したとき
- トンネルやビル街などで、自車または先行車の GPS 受信状態や通信状態が悪化しているとき
- 雪道などスリップしやすい路面を走行しているとき
- 急な坂道を走行しているとき
- 追従していた先行車が車線変更などで離脱したとき

- 通信していた先行車とのあいだに、通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していない車両が割りこんできたとき

■ ブレーキが作動したとき

ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

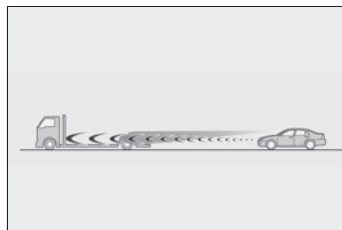
■ レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。（→P.178,334）

■ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

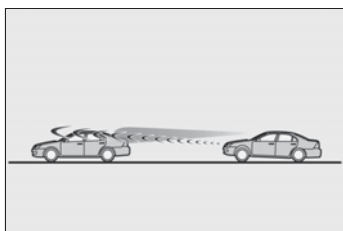
次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P.203）も作動しないおそれがあります。

- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
- 先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）

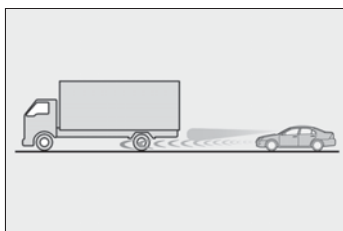


- 同じ車線を二輪車が走行中のとき

- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーの検知のさまたげになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



- 先行車の車高が極端に高いとき

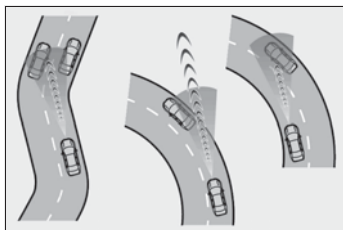


■ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

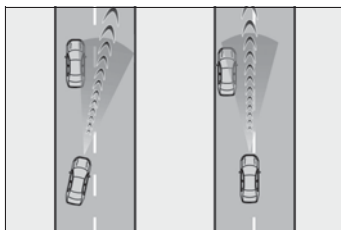
次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



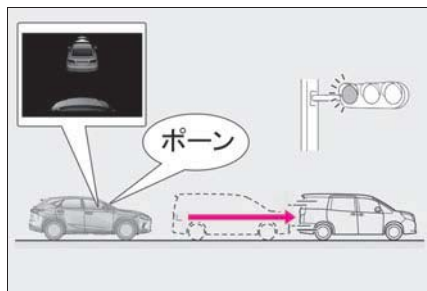
- 先行車が急ブレーキをかけた場合
- 道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合
- アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度にもどるとき

先行車発進告知機能

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にお知らせします。



知識

■ 作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- シフトレバーがP・R以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトレバーがNで停止しているとき
- ブレーキホールドが作動中のとき
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していて、制御停車中のとき

■ 先行車が発進していても告知しない場合があるとき

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 自車と先行車の停止位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき
 - 先行車との車間距離が極端に短くなり、先行車を正しく認識できないとき
 - 坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
 - 先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき
 - 先行車がオートバイ・自転車などのとき
 - 先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき
 - 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）・煙・水蒸気などにより、先行車を認識できないとき
 - 前方カメラとレーダー前面に雨滴、雪などが付着し、先行車を正しく認識できないとき
 - 前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき
 - ブリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障などによりPCS警告灯が点灯しているとき
 - 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき
- 先行車が発進していても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）により、先行車の発進を誤認識したとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車ではないものを先行車と認識しているとき

● 前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき

● 先行車がない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき

● 自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■ 先行車発進告知機能の設定を変更するには

● 先行車発進告知機能の ON/OFF

システムの ON/OFF を切りかえることができます。(→P.69)

1 メーター操作スイッチの  または

 を押して  を選択する

2  または  を押して「車両設定」

を選択し、 を押す

3  または  を押して「先行車発進

告知」を選択し、 を押す

4  または  を押して「先行車発進

告知」を選択し、 を押す

● 先行車発進告知機能の告知距離

告知する距離を切りかえることができます。(→P.69)

1 メーター操作スイッチの  または

 を押して  を選択する

2  または  を押して「車両設定」

を選択し、 を押す

3  または  を押して「先行車発進告知」を選択し、 を押す

4  または  を押して「告知タイミング」を選択し、 を押す

ITS Connect ★

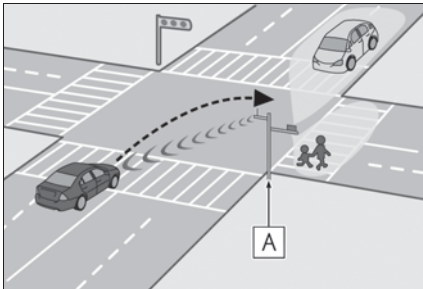
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ITS Connect は、交通情報や周辺車両の情報を受信することにより、安全運転や快適な運転を支援するシステムです。

ITS Connect の概要

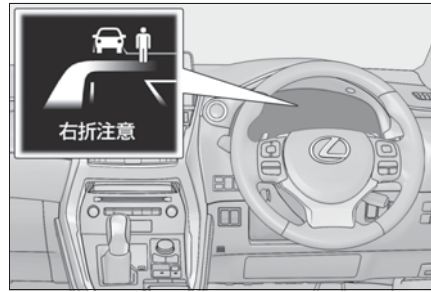
■ 安全運転を支援する通知・案内・注意喚起

ITS Connect は、道路に設置された DSSS※ 用路側装置や通信機を搭載した車両と無線通信することで、見通しが悪い交差点の交通状況などの情報を受信します。



A 路側装置

受信した情報は、状況に応じて通知・案内や注意喚起としてマルチインフォメーションディスプレイなどに表示され、運転者に注意を促すことにより安全運転を支援します。



※ DSSS (Driving Safety Support Systems) とは、運転者の認知・判断の遅れや誤りによる交通事故を未然に防止することを目的とするシステムで、警察庁が推進しているプロジェクトです。

■ 通信利用型レーダークルーズコントロール

先行車との通信により受信した加速／減速情報をレーダークルーズコントロールの制御に利用し、よりスムーズな追従走行に寄与することで快適な運転を支援します。詳細は P.204 を参照してください。

□ 知識

■ ITS Connect 機器に関する情報

- 本システムは、トロンフォーラム (www.tron.org) の T-License2.0 に基づき T-Kernel ソースコードを利用しています。
- 本システムは、ITS Connect 推進協議会が規定する相互接続性確認試験に適合しています。
機種名 : DTU-1010
型式認定番号 : 10005
- 本システムは、周波数 760MHz の電波を発信するため、お車を海外へ持ち込んだ場合はその国の関連法規に違反する場合があります。

■ ITS Connect に関するお問い合わせについて

ITS Connect に関するお問い合わせ（機器の調子・機能・使用方法や路側装置の整備計画など）はレクサスオーナーズデスクにお問い合わせください。

レクサスオーナーズデスクについて詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



警告

■ 安全にお使いいただくために

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

ITS Connect はあらゆる状況で安全運転の支援をするものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ITS Connect は安全運転の支援を目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件によりかわり、常に同じ性能を発揮できるものではありません。

「システムが正常に作動しないおそれがあるとき」（→P.216）をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

■ ITS Connect について

- 次のような状況では、ITS Connect は作動しません。
 - ・ 交差点に DSSS 用路側装置が設置されていないとき
 - ・ 先行車や接近してくる車両に通信機が搭載されていないとき

- 交差点に進入する方向によっては、作動する通知・案内・注意喚起が異なる場合があります。

■ 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）について

DSSS 用路側装置が設置された交差点であっても、DSSS 用路側装置の種類や交差点に進入する方向によっては、対向車のみを検知し、歩行者に対する注意喚起をしない場合があります。そのため、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。「割り込み表示による通知・案内・注意喚起」（→P.213）をお読みいただき、必ず自らの目視による安全確認を行ってください。

■ 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）・出会い頭注意喚起について

通信機を搭載した車両が接近してきても、地図データと実際の道路状況が異なるときは、交差点付近であることが判断できず、注意喚起をしなかったり、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。



注意

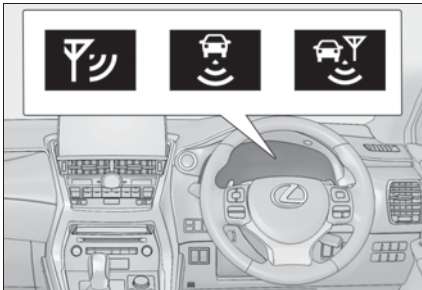
■ ITS Connect 機器取り扱いの注意

- ITS Connect 機器は電波法の基準に適合しています。ITS Connect 機器に貼り付けられているラベルはその証明なのですがさないでください。
- ITS Connect 機器を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

ITS Connect アイコンの見方

ITS Connect の機能が利用可能など

き、マルチインフォメーションディスプレイに次のアイコンを表示して通信の接続状態をお知らせします。



アイコン	接続状態
	道路に設置された DSSS 用路側装置から必要な情報を取得できている
	通信機を搭載した車両から必要な情報を取得できている
	道路に設置された DSSS 用路側装置、および通信機を搭載した車両、両方から必要な情報を取得できている

割り込み表示による通知・案内・注意喚起

状況に応じて、次の通知・案内・注意喚起をマルチインフォメーションディスプレイに割り込み表示します。

ヘッドアップディスプレイ装着車：右折時注意喚起、赤信号注意喚起、一時停止注意喚起、出会い頭注意喚起はヘッドアップディスプレイにも割り込み表示します。

■ 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）

交差点で右側方向指示灯を点滅させ

て右折待ちをしているときに、対向車や歩行者がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車や右折先の歩行者を見落している可能性があるとしてシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点に設置されている DSSS 用路側装置（感知器）の種類によって、注意喚起の表示は次のように異なります。

▶ 対向車および歩行者を感知する交差点



▶ 対向車のみを感知する交差点



- ・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
- ・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）

DSSS 用路側装置が設置されていない交差点で、地図データを用いることにより、右側方向指示燈を点滅させて右折待ちをしているときに、通信機を搭載した対向車がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車を見落している可能性があるときシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。



- ・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
- ・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 出会い頭注意喚起

地図データを用いることにより、交差点で停車しているときに、右または左方向から交差点に進入してくる車両がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、接近する右または左方向の車両を見落している可能性があるときシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。



- ・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
- ・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 赤信号注意喚起

赤信号の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、赤信号を見落している可能性があるときシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。



■ 信号待ち発進準備案内

赤信号で停車したとき、青信号にかわるまでの待ち時間の目安をバー表示で表します。

待ち時間が残り少なくなるとバー表示が消え、まもなく信号が変わることを表します。



■ 緊急車両存在通知

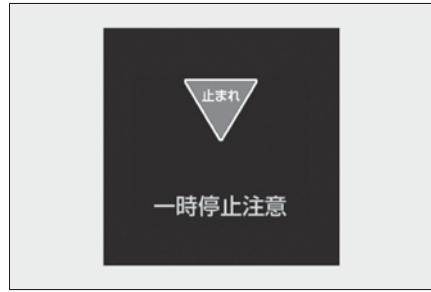
緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているときに、ブザーが鳴り、自車に対する緊急車両のおおよその方向・距離・進行方向を表示します。

緊急車両の距離と進行方向が表示されていないときは、自車のすぐ近くに緊急車両がいることを表します。



■ 一時停止注意喚起※

一時停止の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、一時停止を見落している可能性があるとしてシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。



■ 前方停止車両存在案内※

見通しが悪いカーブの先などで、渋滞などによって先行車両が停止または低速で走行しているときに、ブザーと表示でお知らせします。



■ わき道車両存在案内※

見通しが悪い交差点のわき道に車両がいるときに、ブザーと表示でお知らせします。



※ 一時停止注意喚起・前方停止車両存在案内・わき道車両存在案内について、正常に作動しないおそれがある状況など、詳しくは別冊「ナビゲーションシ

システム取扱説明書／ナビゲーション／
地図の基本操作／DSSS (Driving
Safety Support Systems) 運転支援機
能について」を参照してください。

通信車両接近通知

交差点などで停車しているときに、
通信機を搭載した車両が接近してく
ると、通信車両のおおよその方向を
表示します。

接近してくる方向が正面の場合は、右側
方向指示灯を点滅させているときのみ表
示します。



■ 通信車両接近通知の使い方

- マルチインフォメーションディスプレイで専用の通知画面を表示しているときに使用することができます。

ハンドルのメーター操作スイッチの **◀** または **▶** を押して **🚗** を選択し、**▲** または **▼** を押して、通知画面を表示してください。

- 車両が停止しているときに表示が有効になります。車両が完全に停止していないときは通知されません。

□ 知識

■ 交差点ごとの作動する通知・案内・注意喚起について

道路に設置されている DSSS 用路側装置の種類により発信している情報が異なるため、交差点によって作動する通知・案内・注意喚起は異なります。

■ システムが正常に作動しないおそれがあるとき

- 例えば次のような状況などでは、車両の位置や向きを正しく特定できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 高いビルや高い街路樹に囲まれているとき
 - ・ トンネルや高架下を通過しているとき
 - ・ エンジンを始動してから、しばらく走行するまでの間
- 例えば次のような状況などでは、正しく通信ができず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 周囲に大型車が走行しているときなど、通信が遮られたとき
 - ・ 通信を妨害する電波が発せられているとき
 - ・ DSSS 用路側装置の向きが変わってしまっているとき
 - ・ DSSS 用路側装置がメンテナンス中や故障しているとき
 - ・ 他車両の通信機が故障しているとき
- 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
 - ・ 周囲の環境や天候、DSSS 用路側装置の劣化などの影響により、対向車や歩行者の検知性能が低下しているとき
 - ・ 対向車や歩行者が周囲の建物や別の車両に隠れているとき
 - ・ DSSS 用路側装置の検知範囲外に対向

車や歩行者がいるとき

- ・ DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき
- 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
 - ・ 地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
 - ・ 相手通信車両から受信した情報が誤っているとき
- 出会い頭注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 交差点手前で一旦停止せずに通過しようとしたとき
 - ・ 地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
 - ・ 相手通信車両から受信した情報が誤っているとき
- 赤信号注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 遅い速度で走行しているとき
 - ・ 停車しているとき
 - ・ 交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所を走行しているとき
 - ・ DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき
- 信号待ち発進準備案内は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 前方の信号機が青信号、黄信号または矢印信号のとき
 - ・ 青信号にかわるまでの待ち時間が残り少ないとき
 - ・ 停車していないとき
 - ・ 交差点付近の側道や駐車場など、DSSS

路側装置が設置された道路と並行する場所に停車しているとき

- ・ DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき
- 緊急車両存在通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 緊急車両と自車の距離が一定以上離れているとき
 - ・ 緊急車両が自車から遠ざかる方向に走行しているとき
 - ・ 立体交差点付近を走行しているとき
 - ・ 緊急車両から受信した情報が誤っているとき
- 通信車両接近通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
 - ・ 相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

各機能の設定変更

マルチインフォメーションディスプレイ  の (→P.69) で、機能の設定を変更することができます。

● 信号情報

次の機能の作動・非作動を変更することができます。

- ・ 赤信号注意喚起
- ・ 信号待ち発進準備案内

● 道路環境情報

次の機能の作動・非作動を変更することができます。

- ・ 右折時注意喚起
- ・ 出会い頭注意喚起
- ・ 一時停止注意喚起
- ・ 前方停車車両存在案内
- ・ わき道車両存在案内

● 支援タイミング

次の機能の表示タイミングを変更することができます。

- ・ 右折時注意喚起
- ・ 出会い頭注意喚起
- ・ 赤信号注意喚起
- ・ 一時停止注意喚起

● 緊急車両通知

緊急車両存在通知の作動・非作動を変更することができます。

● クルーズ (ITS)

通信利用型レーダークルーズコントロールの作動・非作動を変更することができます。

Stop & Start システム

赤信号や交差点などの一時的な停車中、燃費向上やアイドリング騒音低減のため、エンジンスイッチを操作することなく、ブレーキペダルなどの操作によってエンジンを停止・再始動させるシステムです。

知識

■ 作動条件

- 次の条件がすべて満たされたとき、Stop & Start システムが作動可能状態になります。
 - ・ エンジンが十分暖まっているとき
 - ・ バッテリー状態（充電・温度など）が良好であるとき
 - ・ 運転席ドアが閉まっているとき
 - ・ 運転席シートベルトを着用しているとき
 - ・ ボンネットが閉まっているとき
 - ・ アクセルペダルを踏んでいないとき
 - ・ シフトレバーが D または M のとき
 - ・ 外気温が -5℃ 以上のとき
 - ・ ハンドル操作をしていないとき
 - ・ ブレーキペダルをしっかりと踏んでいるとき（レーダークルーズコントロール〔全車速追従機能付き〕の車間制御モードの制御停車中を除く）
 - ・ フロントデフロスターが OFF のとき
- 次の状況では、Stop & Start システムによるエンジン停止が行われない場合がありますが、異常ではありません。
 - ・ エンジン冷却水温やトランスミッション油温が低いとき、または高すぎるとき
 - ・ 外気温が高い、または低いときに、エアコンを使用しているとき
 - ・ 定期的な充電中のとき
 - ・ バッテリーが十分に充電されていない

とき（例：長期間の駐車後などバッテリーの充電量が低下、電気負荷が大きい、バッテリー液温が低い、バッテリーが劣化）

- ・渋滞などで、断続的に停車するとき
 - ・ブレーキペダルを踏む力が弱いとき
 - ・勾配が急な坂道で停車したとき
 - ・ブレーキ倍力装置の負圧が低下したとき
 - ・標高が高いとき
 - ・外気温度が低いとき
 - ・ハンドル操作をしているとき
 - ・運転席シートベルト非装着時
 - ・運転席ドアが開いているとき
 - ・ボンネットが開いているとき
 - ・バッテリー液温が低いとき、または高すぎる時
 - ・バッテリーを交換したあとしばらくの期間、またはバッテリー端子をはずしたあとしばらくのあいだ
- Stop & Startシステムによるエンジン停止中、次のときはエンジンが自動的に再始動する場合があります。
- ・ポンピングブレーキをする、またはブレーキペダルをさらに強く踏み込んだとき
 - ・エアコンを使用しているとき、またはオンにしたとき
 - ・バッテリーの充電量が低下しているとき
 - ・フロントデフロスタースイッチを ON にしたとき
 - ・Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき
 - ・シフトレバーを D または M 以外にしたとき
 - ・傾斜などで車両が動き出したとき
 - ・アクセルペダルを踏んだとき
 - ・運転席ドアを開けたとき
 - ・運転席シートベルトをはずしたとき
 - ・ハンドル操作をしたとき

■ Stop & Start システム保護機能

- 大音量でオーディオを使用していると

き、バッテリーの消費を抑えるために、オーディオを自動的にオフにする場合があります。

その場合は、エンジンスイッチを OFF にして 3 秒以上経過してからアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにすることによってオーディオを再開させてください。

- バッテリーの端子をはずして再接続したときに、オーディオ（メーカーオプションのナビゲーションシステムを除く）が作動しないことがあります。この場合には、いったんエンジンスイッチを OFF にし、次の操作を 2 回繰り返すことでオーディオ（メーカーオプションのナビゲーションシステムを除く）が正常に作動できます。
- ・ エンジンスイッチをイグニッション ON モードにし、再度エンジンスイッチをイグニッション OFF にする

■ ボンネットを開けたときは

- Stop & Start システムによるエンジン停止中にボンネットを開けた場合、自動で再始動しません。通常のエンジン始動操作（→P.144）でエンジンを始動させてください。
- ボンネットが開いている状態でエンジンを始動したときは、ボンネットを開けても Stop & Start システムは作動しません。ボンネットを閉め一度エンジンスイッチを OFF にし、30 秒以上待ってからエンジンを始動してください。

■ Stop & Start システムについて

- 長時間停車する場合などには、エンジンを停止してください。
- Stop & Start システムによるエンジン停止中にエンジンスイッチを押すと、Stop & Start システムによるエンジン停止状態からエンスト状態に移行され、エンジンが自動で再始動しません。そ

の場合は通常のエンジン始動操作（→P.144）でエンジンを始動してください。

- Stop & Startシステムによりエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリソケットやアクセサリコンセントなどが使用できないことがあります。が異常ではありません。
- 電装品・無線機の取り付け・取りはずしは Stop & Start システムに悪影響をおよぼす可能性があります。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■ Stop & Start システムの警告メッセージ・警告ブザーについて

システムが作動できないときや、キャンセルされたとき、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。

■ Stop & Start システムによるエンジン停止中、フロントウインドウガラスが曇ったとき

フロントデフロスタースイッチを ON にしてください。（→P.265）
断続的にフロントウインドウガラスが曇るときは、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■ Stop & Start システムによるエンジン停止中のエアコンについて

Stop & Start システムによるエンジン停止中、エアコン（冷房・暖房・除湿機能）がオフになり、送風または無風になります。エアコンがオフにならないようにするには、Stop & Start キャンセルスイッチを押し、Stop & Start システムを非作動にしてください。

■ Stop & Start システムによるエンジン停止中、エアコンふきだし口から臭いが発生したとき

Stop & Start キャンセルスイッチを押し

て Stop & Start システムの作動を停止してください。

■ アイドリングストップ時間など Stop & Start システムの作動表示

→P.72

■ バッテリーを交換するときは

→P.361

■ マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは

次のとき、マルチインフォメーション

ディスプレイに  とメッセージが表示されることがあります。

- Stop & Start システムによるエンジン停止が行われないとき

メッセージ	状況
ブレーキをもう少し踏み込んでください	ブレーキペダルを踏む力が足りない ブレーキペダルを踏み足すと作動します。
エアコン優先	・ 外気温が高い、または低いときにエアコンを使用している ・ エアコンの設定温度と室内温度の差が小さくなると作動可能状態になります。 ・ フロントデフロスタースイッチを ON にしている

メッセージ	状況
バッテリー充電中	・ バッテリーの充電量が低下している可能性がある バッテリーの充電を優先するため、一時的にアイドリングストップを禁止していますが、エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。 ・ リフレッシュ充電中の可能性がある（参考シーン：定期的な充電中、バッテリー交換したあととしばらくの期間、またはバッテリー端子をはずしたあととしばらくのあいだなど） 約5～60分間のリフレッシュ充電が完了すると作動可能状態になります。
	長時間（60分以上）にわたって継続的に表示される場合は、バッテリーが劣化している可能性があります レクサス販売店で点検を受けてください
ブレーキシステム	・ 標高が高い ・ ブレーキ倍力装置の負圧が低下した ブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態になります。
シートベルト非装着	運転席のシートベルトをはずしている

メッセージ	状況
アイドリングストップできません	・ 一時的にアイドリングストップを禁止している エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。 ・ ボンネットが開いている状態でエンジンを始動した可能性がある ボンネットを閉め一度エンジンスイッチをOFFにして、30秒以上待ってからエンジンを始動すると作動可能状態になります。
	Stop & Start システム専用品以外のバッテリーを装着した可能性がある Stop & Start システムが作動しません。 レクサス販売店で点検を受けてください。

- Stop & Startシステムによるエンジン停止中にエンジンが自動的に再始動したとき

メッセージ	状況
エアコン優先	・ エアコンを ON にした、またはエアコンを使用している ・ フロントデフロスタースイッチを ON にした
ブレーキシステム	ブレーキペダルをさらに踏み込んだ、またはポンピングブレーキをした 走行することによりブレーキ倍力装置の負圧が所定値まで生成されると作動可能状態になります。
バッテリー充電中	バッテリーの充電量が低下している可能性がある バッテリーの充電を優先させるため、エンジンが再始動しました。エンジンをしばらく作動させると作動可能状態になります。
ハンドル操作	ハンドルを操作した
シートベルト非装着	運転席のシートベルトをはずした

- マルチインフォメーションディスプレイに「アイドリングストップ故障 販売店で点検してください」が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

- Stop & Start キャンセル表示灯が点滅したままのとき

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

- エアコンがONのときのアイドリングストップ時間の調整について

マルチインフォメーションディスプレイ

の  「Stop & Start システム情報」

(→P.72) または、 「車両設定」

(→P.74) のそれぞれの画面から、エアコンがONのときのStop & Startシステムによるエンジン停止時間を調整できます。(エアコンがOFFのときのStop & Startシステムによるエンジン停止時間の長さは切りかえできません)

▶  「Stop & Start システム情報」画面からの設定

1  「Stop & Start システム情報」画面表示時に、メーター操作スイッチ (→P.69) の  を押し、メーター操作スイッチの  または、 を押して  を選択し、メーター操作スイッチの  を押す

2 メーター操作スイッチの  または、 を押し、「Normal」(通常)・「Long」(長め)を選択し、メーター操作スイッチの  を押す

▶  「車両設定」画面からの設定

1  「車両設定」画面表示時に、メーター操作スイッチ (→P.69) の  ま

たは、▼を押して(A) Stop & Startを選択し、メーター操作スイッチの●を押す

- 2 メーター操作スイッチの▲または、▼を押し、「Normal」(通常)・「Long」(長め)を選択し、メーター操作スイッチの●を押す

警告

■ Stop & Start システムが作動しているとき

- Stop & Start システムによるエンジン停止中 (Stop & Start 表示灯が点灯中) は、ブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。(ブレーキホールド作動中とレーダークルーズコントロール [全車速追従機能付き] の制御停車中は除く)
- Stop & Start システムによるエンジン停止中 (Stop & Start 表示灯が点灯中) は、車から離れないでください。
エンジンが自動的に始動する場合があるため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 換気が悪い場所では、Stop & Start システムを非作動にしてください。エンジンが自動的に再始動する場合があるため、排気ガスが充満し、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ Stop & Start システムを正常に作動させるために

次のようなときは Stop & Start システムが正常に作動しないおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

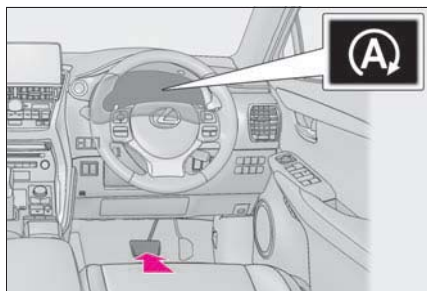
- 運転席シートベルトを着用しているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点滅するとき
- 運転席シートベルトをはずしているときに、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点灯しないとき
- 運転席ドアを閉めているにもかかわらず、マルチインフォメーションディスプレイにドア開警告表示が表示される、またはインテリアランプがドア開閉連動 ON (→ P.276) のときにインテリアランプが点灯するとき
- 運転席ドアを開けているにもかかわらず、マルチインフォメーションディスプレイにドア開警告表示が表示されない、またはインテリアランプがドア開閉連動 ON (→ P.276) のときにインテリアランプが点灯しないとき

■ アイドリングストップが作動しているとき (ブレーキホールド非作動時)

■ エンジンが停止する

シフトレバーを D または M で走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させると、エンジンが自動的に停止します

エンジンが停止し、Stop & Start 表示灯が点灯します。



■ エンジンが再始動する

ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動します

エンジンが再始動し、Stop & Start 表示灯が消灯します。

アイドリングストップが作動しているとき（ブレーキホールド作動時）

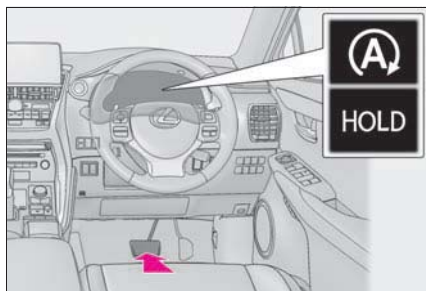
ブレーキホールドシステム作動時（→ P.156）も、Stop & Start システムは作動します。

■ エンジンが停止する

シフトレバーを D または M で走行中、ブレーキペダルを踏み車両を完全に停止させると、エンジンが自動的に停止します

エンジンが停止し、Stop & Start 表示灯が点灯します。

ブレーキホールドシステム作動中は、ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点灯します。このときブレーキペダルから足を離しても Stop & Start システムによるエンジン停止状態を継続します。



■ エンジンが再始動する

アクセルペダルを踏むと、エンジンが再始動します。（ブレーキペダルから足を離してもエンジンは再始動しません）

エンジンが再始動し、Stop & Start 表示灯とブレーキホールド作動表示灯（黄）が消灯します。

□ 知識

■ ブレーキホールド作動中の Stop & Start システムの作動について

- Stop & Start システムによりエンジンが自動的に再始動してもブレーキホールドシステムによるブレーキ保持は継続します。
- Stop & Start システムによるエンジン停止中に、ブレーキホールドシステムの作動条件（→ P.156）が満たされなくなるとブレーキホールドシステムは OFF になります。
このとき自動的にパーキングブレーキがかかりエンジンが自動的に再始動します。

アイドリングストップが作動しているとき（レーダークルーズコントロール [全車速追従機能付き] 作動時）

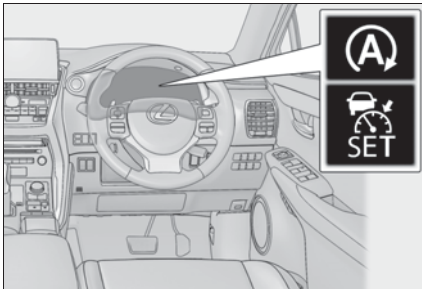
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）による制御停車

時（→ P.203）も、Stop & Start システムは作動します。

■ エンジンが停止する

シフトレバーを D または M でレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）の車間制御モードで走行中、制御停車で車両が完全に停止すると、エンジンが自動的に停止します。（ブレーキペダルを踏まなくてもエンジンが自動的に停止します）

エンジンが停止し、Stop & Start 表示灯が点灯します。



■ エンジンが再始動する

先行車が発進すると、エンジンが再始動します。

エンジンが再始動し、Stop & Start 表示灯が消灯します。



■ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）による制御停車時の Stop & Start システムの作動について

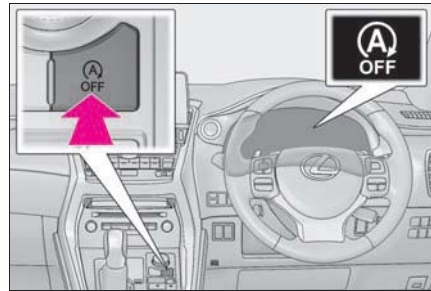
Stop & Start システムによりエンジンが自動的に再始動しても制御停車は継続します。（制御停車から追従走行に復帰させる：→ P.203）

Stop & Start システムを非作動にするには

Stop & Start システムを非作動にするには Stop & Start キャンセルスイッチを押してください。

Stop & Start キャンセル表示灯が点灯します。

もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、作動可能状態にもどり、Stop & Start キャンセル表示灯が消灯します。



■ Stop & Start キャンセルスイッチを押したとき

● Stop & Start システムによるエンジン停止中、Stop & Start キャンセルスイッチを押すとエンジンが再始動します。

● Stop & Start システムが非作動のとき、もう一度 Stop & Start キャンセルスイッチを押すと、Stop & Start システムが作動可能状態にもどりますが、エンジンは停止しません。

次に車両が停止したときに（Stop & Start システムが作動可能状態にもどる）、Stop & Start システムによって、エンジンが停止します。



知識

■ Stop & Start システムの自動再開

Stop & Start システムを Stop & Start キャンセルスイッチによって非作動にしている場合、一度エンジンスイッチを OFF にしてからイグニッション ON モードにすることによって、Stop & Start システムは自動的に作動可能状態にもどります。

坂道発進補助機能

Stop & Start システムによるエンジン停止後、ブレーキペダルから足を離すと、エンジンが再始動します。

坂道で発進する際は、駆動力が発生するまでのあいだ、ブレーキ油圧（ブレーキの効き）を一時的に保持して、車両が後退するのを抑制します。

駆動力が発生すると、保持していたブレーキ油圧（ブレーキの効き）を自動的に解除します。



知識

■ 坂道発進補助機能について

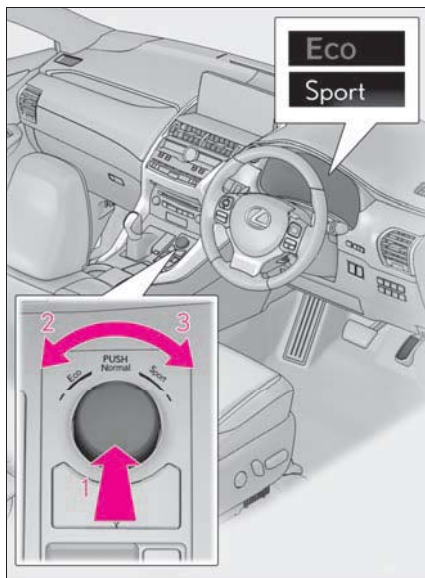
- 勾配が急な上り坂では、坂道発進補助機能が解除されたあと、車両が後退することがあります。このような場所では、ブレーキホールドを使用したり、パーキングブレーキをかけたり、ブレーキペダルを操作して発進してください。
- 坂道だけでなく、平坦な場所でも作動します。
- ブレーキから音が発生することがありますが異常ではありません。
- Stop & Start システムによるエンジン停止中に、ブレーキペダルの踏み応えが変わったり、振動が発生したりする場合がありますが、異常ではありません。

ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて走行モードを選択できます。

走行モードを選択するには

▶ NAVI・AI-AVS 非装着車



1 ノーマルモード

通常の走行に適しています。

エコモードまたはスポーツモード時にスイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。

2 エコモード

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

エコモード以外のときにスイッチを左へまわすとエコモードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに

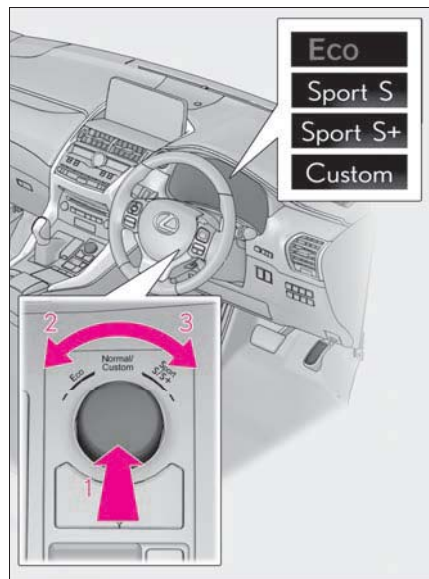
Eco 表示灯が点灯します。

3 スポーツモード

ステアリングのフィーリング・およびエンジンとトランスミッションの制御によるアクセルレスポンスなどがスポーツ走行に適した制御にかわります。山岳路などで、きびきびとした走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツモード以外のときにスイッチを右へまわすとスポーツモードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに Sport 表示灯が点灯します。

▶ NAVI・AI-AVS 装着車



1 ノーマル／カスタムモード

ノーマル／カスタムモードは、スイッチを押して選択します。スイッチを押すごとに、ノーマル／カスタムモードが切りかわります。カスタムモードのとき、Custom 表示灯が点灯します。

エコモードまたはスポーツモードのときにスイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。

・ ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスが良く、市街地を走行する場合に適しています。

・ カスタムモード

パワートレーン制御、シャシー制御またはエアコン動作の機能をお好みで設定し、走行することができます。カスタムモードは、ナビゲーション画面で設定します。

2 エコモード

通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになり、またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費を向上させる走行に適しています。

エコモード以外のときにスイッチを左へまわすとエコモードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに Eco 表示灯が点灯します。

3 スポーツモード

・ スポーツ S モード

エンジンとトランスミッションの制御により、アクセルレスポンスを向上させ、力強い加速をしたいときに適しています。

スポーツ S モード以外のときにスイッチを右へまわすとスポーツ S モードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに Sport S 表示灯が点灯します。

・ スポーツ S +モード

エンジンとトランスミッションに加え、ステアリングやサスペンションを総合的に制御することにより優れた安定感の確保に貢献し、スポーティーな走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツ S モードのときにスイッチを右へまわすとスポーツ S +モードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイに Sport S +表示灯が点灯します。



知識

■ エコモード時のエアコン作動について

エコモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをより良くしたいときは、風量の調整またはエコモードの解除をしてください。

■ 走行モードの解除について

- スポーツモードは、エンジンスイッチを OFF にすると自動的に解除され、ノーマルモードにもどります。
- ノーマルモード、およびエコモードは、ほかの走行モードに切りかえるまで解除されません。(エンジンスイッチを OFF にしても自動では解除されません)

■ ASC (アクティブサウンドコントロール) 作動について

ASC が ON の場合、スポーツ S+ モードを選択時に電子音が鳴ります。

PKSA (パーキングサポートアラート) ★

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

PKSA (パーキングサポートアラート) は、ソナーで壁などの静止物を検知しお知らせするクリアランスソナー機能により、駐車時に運転者に注意喚起を行います。

駐車支援機能

■ クリアランスソナー

→P.229

警報ブザー

■ ブザー音量調整

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。

メーター操作スイッチを使って設定を変更します。(→P.69)

1 < または > を押して  を選択する

2  または  を押して「PKSA」を選択し、 を押す

3  または  を押して  を選択し、 を押す

押すごとに小～大の間で音量が切りかわります。

■ ブザー音の一時ミュート (消音)

→P.230

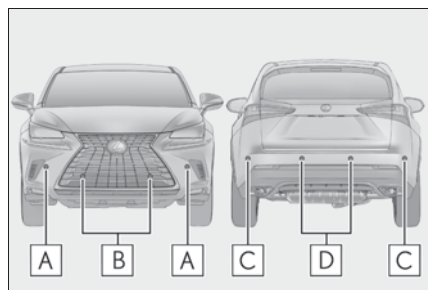
クリアランスソナー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

クリアランスソナーは、車両と静止物とのおよその距離を超音波センサーによって感知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイおよびナビゲーション画面の距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。

システムの構成部品

■ センサーの位置・種類



A フロントコーナーセンサー

B フロントセンターセンサー

C リヤコーナーセンサー

D リヤセンターセンサー

■ クリアランスソナーの表示

静止物を感知すると自動的に表示されます。

● マルチインフォメーションディスプレイの表示



A フロントコーナーセンサー作動表示

B フロントセンターセンサー作動表示

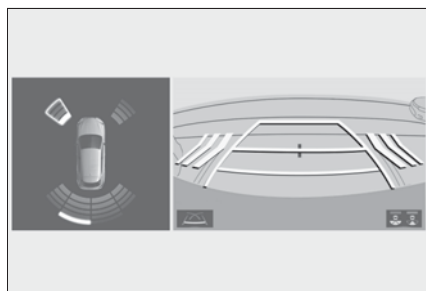
C リヤコーナーセンサー作動表示

D リヤセンターセンサー作動表示

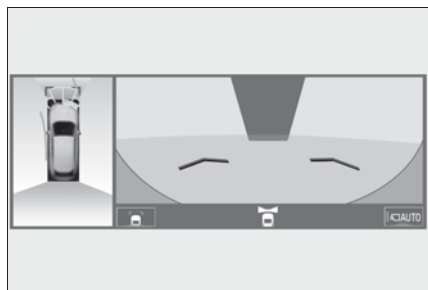
● ナビゲーション画面の表示

静止物を感知すると自動的に表示されます。

▶ バックガイドモニター&サイドモニター★



▶ パノラミックビューモニター★



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナーの設定変更

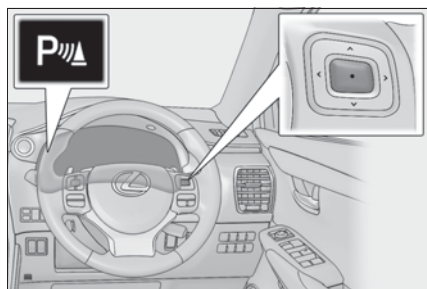
マルチインフォメーションディスプレイでクリアランスソナーのON（作動）／OFF（非作動）を変更することができます。

- 1 メーター操作スイッチの **◀** または **▶** を押して **⚙️** を選択する。
- 2 メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押して「PKSA」を選択する。
- 3 **▲** または **▼** を押して **🔊** を選択し、**●** を押して ON（作動）／OFF（非作動）を変更する。

ON（作動）を選択すると、クリアランスソナー表示灯が点灯します。

OFF（非作動）に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの **⚙️** から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。（エンジンスイッ

チの操作では復帰しません）



□ 知識

■ 作動条件

- エンジンスイッチがイグニッション ON のとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- シフトレバーが P 以外にあるとき

■ ブザーの音量調整について

マルチインフォメーションディスプレイの **⚙️** からブザー音量を変更することができます。（→P.228）

■ ブザー音のミュート（消音）について

- ミュート（消音）させるとき：

マルチインフォメーションディスプレイに感知した画面が表示されているときに、メーター操作スイッチの **●** を押すと、一時的にブザー音を消すことができます。

- ミュート（消音）が解除されるとき：

次のとき、自動的にミュート（消音）が解除されます。

- ・ シフトポジションを切りかえたとき（D から N、および N から D への切りかえを除く）
- ・ シフトポジションが D で、車速が約 10km/h 以上になったとき
- ・ クリアランスソナーを OFF にし、再度

ONにしたとき

- ・ エンジンスイッチを OFF にし、再度イグニッション ON モードにしたとき

■ マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー使用できません」または、「クリアランスソナー使用できませんソナーの汚れを除去してください」が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても感知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

■ マルチインフォメーションディスプレイに「クリアランスソナー故障販売店で点検してください」が表示されたときは

センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■ センサーの感知について

- センサーの感知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。
- 静止物の形状・条件によって感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。
- センサーが静止物に近づきすぎると感知できないことがあります。
- 静止物を感知してから、表示やブザーが出るまでに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示やブザーが出る前に、静止物まで約 25cm 以内に接近するおそれがあります。

■ カスタマイズ機能

クリアランスソナーの設定を変更できます。

(カスタマイズ一覧：→P.373)

⚠ 警告

■ クリアランスソナーをお使いになる前に

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車両の速度が約 10km/h をこえないようにしてください。
- センサーの感知範囲、作動速度には限界があります。車を前進・後退するときは、必ず車両周辺（特に車両側面など）の安全を確認し、ブレーキで車速を十分に制御し、ゆっくり運転してください。
- センサーが感知する範囲にはアクセサリー用品などを取り付けないでください。

■ センサーについて

次のとき、クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

- センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても感知しないことがあります。
- センサーを手などで覆ったとき
- 炎天下や寒冷時
- 凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など
- 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のクリアランスソナーなどの超音波を発生するものが近付いたとき

警告

- どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- 車両姿勢が大きく傾いたとき
- 市販のフェンダーポール、無線機アンテナ、フォグランプを車に付けたとき
- 背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき
- 標識などのものによっては感知距離が短くなります。
- バンパー真下付近は感知しません。センサーより低いものや細い杭などは、一度感知しても接近すると突然感知なくなることがあります。
- センサーに静止物が近付きすぎたとき
- バンパーやセンサー部付近にもものをぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- レクサス純正品以外のサスペンションを取り付けたとき
- けん引フックを取り付けたとき
- 字光式ナンバープレート・ナンバープレートホルダーなどを取り付けたとき

静止物の形状・条件によっては感知できる範囲が短くなることや、感知できないことがあります。

■ 正確に感知できないことがある静止物

次のようなものは感知しないことがあります。注意して運転してください。

- 針金・フェンス・ロープなどの細いもの
- 綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

● 鋭角的な形のもの

● 背の低いもの

● 背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

注意

■ クリアランスソナーを使用するとき

次のとき、センサーの異常などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

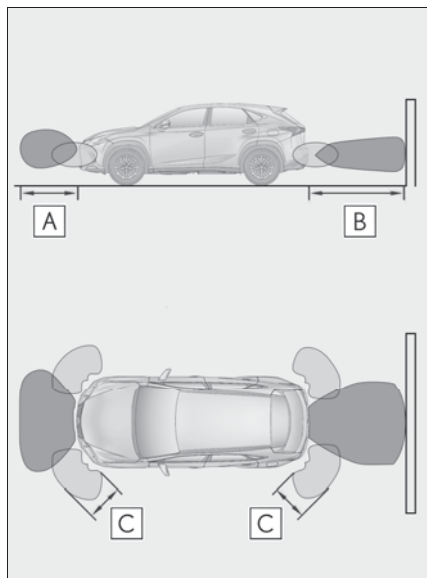
- 静止物を感知していない状態で、クリアランスソナーの作動表示が点滅し、ブザーが鳴ったとき
- センサー部付近に物をぶつけたときや、たたくなどの強い衝撃を与えたとき
- バンパーをぶつけたとき
- ブザー音がしないのに表示が点灯したままととき（ミュート選択時は除く）

■ 洗車するとき

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

距離表示の見方

■ 静止物を感知できる範囲



A 約 100cm

B 約 150cm

C 約 65cm

感知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると感知できません。

静止物の形状・条件によっては、感知できる距離が短くなることや、感知できないことがあります。

■ 画面表示

静止物を感知すると、作動表示が点灯または点滅します。また、静止物との距離が約 30cm 以下になると作動表示灯のまわりに枠が点滅します。

静止物までのおおよその距離	画面表示 ※1
150cm ~ 65cm※2 (リヤセンサーのみ)	
100cm ~ 65cm※2 (フロントセンサーのみ)	
65cm ~ 45cm※2	
45cm ~ 30cm※2	
30cm ~ 15cm※3	
15cm 以下 ※3	

※1 イラストはマルチインフォメーションディスプレイの表示です。ナビゲーション画面の表示は異なります。

※2 自動ミュート機能あり (→P.234)

※3 点灯および枠が点滅

音声案内とブザー音

静止物を感知すると、ブザーが鳴ります。

ブザー音と同時に音声案内を行います。

- フロント側またはリヤ側のみで静止物を感知しているとき
- 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピピ」から連続音「ピー」になります。
- 複数のセンサーが同時に静止物を感知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。
- ブザー吹鳴後、静止物との距離が近づかない場合は、自動でブザーが消音されます。(自動ミュート機能)

パーキングサポートブレーキ（静止物）★

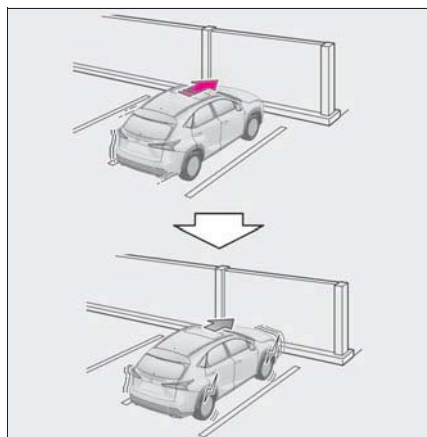
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

駐車時や低速走行時における壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトレバーの入れ間違いによる発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し被害低減に寄与します。

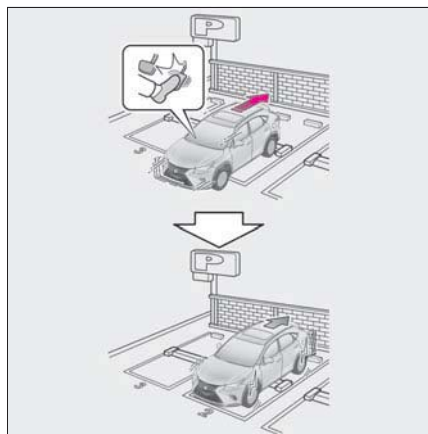
システム作動例

次のようなときに進行方向の静止物を感知してシステムが作動します。

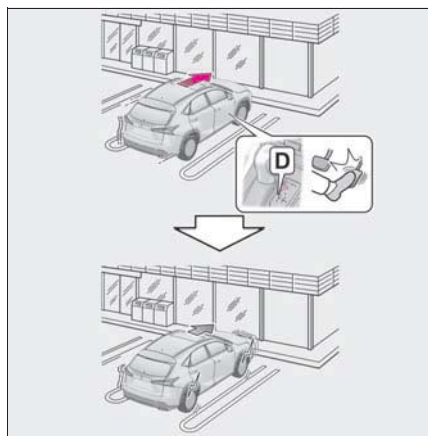
- 低速走行時にブレーキペダルを踏み忘れてしまった、または踏み遅れてしまったとき



■ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



■ 誤ってシフトレバーを D に入れ前進してしまったとき



⚠ 警告

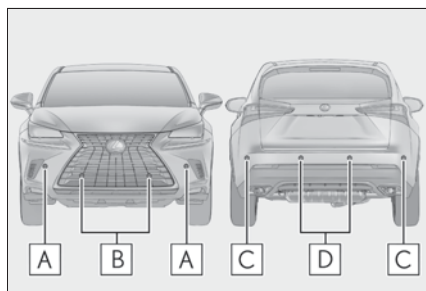
■ 安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。パーキングサポートブレーキ（静止物）は衝突緩和という支援ができる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- パーキングサポートブレーキ（静止物）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。

センサーの位置・種類

■ センサーの位置・種類



- A** フロントコーナーセンサー
- B** フロントセンサー
- C** リヤコーナーセンサー
- D** バックセンサー

⚠ 注意

■ センサーの故障を防ぐために

- センサー周辺に衝撃を受けたときは、センサーの故障などにより装置が正常に作動しなくなっているおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。
- 高圧洗車機を使用して洗車するときには、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときには、スチームをセンサー部に近づけすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

パーキングサポートブレーキ（静止物）の設定変更

マルチインフォメーションディスプレイでパーキングサポートブレーキ（静止物）の ON（作動）／OFF（非作動）を変更することができます。

- 1 メーター操作スイッチの **◀** または **▶** を押して  を選択する。

- 2 メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押して  を選択する。

- 3 メーター操作スイッチの **●** を押して ON（作動）／OFF（非作動）を変更する。

パーキングサポートブレーキ（静止物）が OFF（非作動）になっているときは、PKSB OFF 表示灯が点灯します。

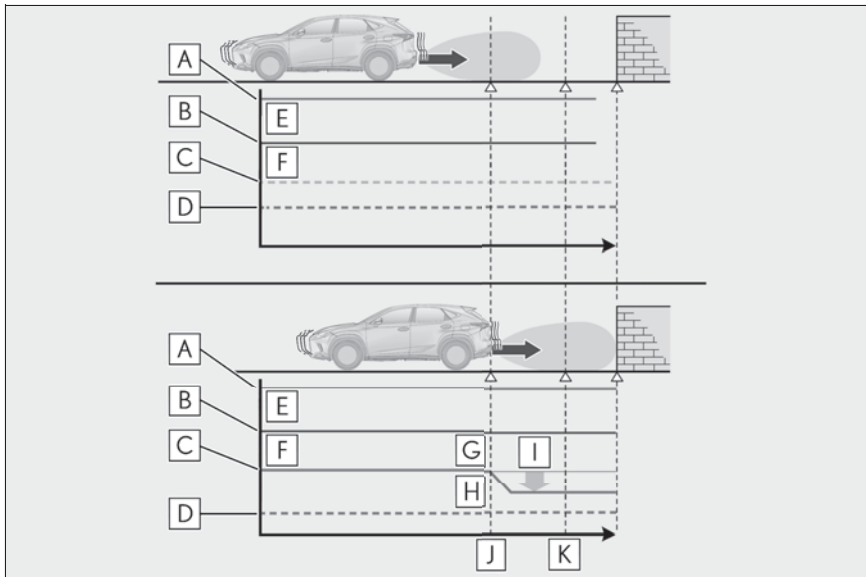
OFF（非作動）に切りかえて、パーキングサポートブレーキ（静止物）を停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの  画面から ON（作動）に切りかえないとシステムは復帰しません。（エンジンスイッチの操作では復帰しません）



作動について

■ エンジン出力抑制制御

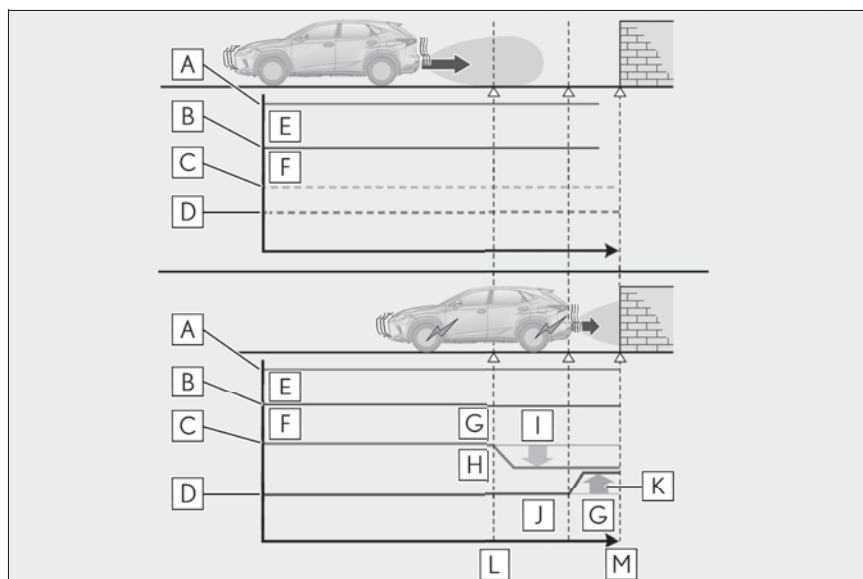
衝突の可能性がある静止物を感知したとき、エンジンの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。



- A** アクセルペダル
- B** ブレーキペダル
- C** エンジン出力
- D** 制動力
- E** ON
- F** OFF
- G** 制御開始
- H** 衝突の可能性がある
- I** DOWN
- J** マルチインフォメーションディスプレイに「ブレーキ！」と表示されます
- K** マルチインフォメーションディスプレイに「アクセルが踏まれています
ブレーキを踏みなおしてください」と表示されます

■ ブレーキ制御

エンジン出力制御後もそのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。



- A** アクセルペダル
- B** ブレーキペダル
- C** エンジン出力
- D** 制動力
- E** ON
- F** OFF
- G** 制御開始
- H** 衝突の可能性がある
- I** DOWN
- J** 衝突の可能性が非常に高い
- K** UP
- L** マルチインフォメーションディスプレイに「ブレーキ！」と表示されます
- M** マルチインフォメーションディスプレイに「アクセルが踏まれています
ブレーキを踏みなおしてください」と表示されます



知識

■ 作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→P.236, 329）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

- エンジン出力抑制制御
 - ・ パーキングサポートブレーキ（静止物）を ON（作動）にしているとき
 - ・ 車速が 15km/h 以下
 - ・ 車両進行方向に静止物がある（2 ～ 4m 先まで）
 - ・ 衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断した
- ブレーキ制御
 - ・ エンジン出力抑制制御作動中
 - ・ 衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断した

■ 作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

- エンジン出力抑制制御
 - ・ パーキングサポートブレーキ（静止物）を OFF（停止）にした
 - ・ 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になった
 - ・ 車両進行方向の静止物がなくなった（2 ～ 4m 先まで）
- ブレーキ制御
 - ・ パーキングサポートブレーキ（静止物）を OFF（停止）にした
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過した
 - ・ ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだ
 - ・ 車両進行方向の静止物がなくなった（2 ～ 4m 先まで）

■ センサーの感知範囲について

パーキングサポートブレーキ（静止物）の感知範囲は、クリアランスソナーの感

知範囲（→P.233）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（静止物）は作動を開始していない場合があります。

■ センサーが感知しない静止物について

次のような静止物は、センサーが感知しない場合があります。

- 人や綿、雪など音波を反射しにくいもの
（特に人は衣類の種類によっても感知できない場合があります）
- 地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凸凹なもの、波打っているもの
- 背の低いもの
- 針金・フェンス・ロープ・標識の支柱などの細いもの
- バンパーに非常に近いもの

■ パーキングサポートブレーキ（静止物）のシステムが作動しないおそれのある状況

N レンジで走行しているとき

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 周辺環境の影響
 - ・ 狭い道路を走行するとき



- ・ 砂利道・草むらなどを走行するとき



- ・ 垂れ幕や旗、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETCのバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき
- ・ 道路脇に静止物があつたとき（狭いトンネル・狭い鉄橋・狭い道路などを走行したとき）
- ・ 縦列駐車時
- ・ 地面にわだちや穴がある場合
- ・ 排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時
- ・ 急な登坂路を走行するとき
- ・ 冠水している道路でセンサーに水が被ったとき

● 天候の影響

- ・ センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- ・ どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- ・ 霧・雪・砂嵐などの悪天候の状況

● 他の音波の影響

- ・ 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたとき
- ・ センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート＜特に蛍光灯タイプ＞・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けたとき

● 車両の変化

- ・ 車両姿勢が大きく傾いたとき
- ・ 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

- ・ 衝突などで、センサーの方向ズレが発生したとき

■ システムが正常に作動しないおそれのある状況

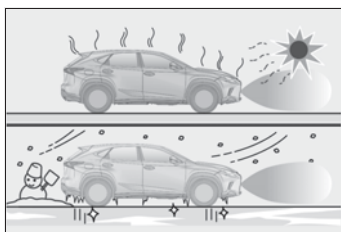
次のような状況では、システムが正常に作動しない場合があります。

● 周辺環境の影響

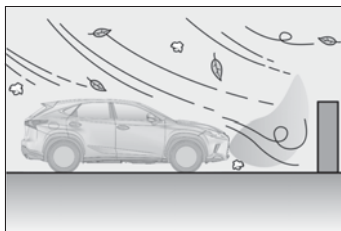
- ・ 感知できる静止物と車両のあいだに、感知できない静止物がある場合
- ・ 車・二輪車・自転車・歩行者などの静止物が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

● 天候の影響

- ・ 炎天下や寒冷時でセンサー周辺部が著しく高温または低温の場合



- ・ 風が強いとき



- ・ センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）
- ・ どしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
- ・ 霧・雪・砂嵐などの悪天候の状況

● 他の音波の影響

- ・ 他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・車両感知器・他車のクリアランスソナーなど超音波を発生するものが付近にいたと

き

- ・ センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート＜特に蛍光灯タイプ＞・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けたとき

●車両の変化

- ・ 車両姿勢が大きく傾いたとき
- ・ 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- ・ 衝突などで、センサーの方向ズレが発生したとき

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ現在使用できません」が表示され PKSB OFF 表示灯が点滅したときは

- センサー部に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても感知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。
- センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、センサーが汚れていなくても表示が出るときは、レクサス販売店で点検を受けてください。
- バッテリーを脱着したあとにシステムの初期化がされていないことが考えられます。システムの初期化を行ってください。

■バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行することで初期化できます。

■マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングサポートブレーキ故障販売店で点検してください」が表示され PKSB OFF 表示灯が点滅しブザーが鳴ったときは

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。

レクサス販売店で点検してください。

⚠ 警告

■システムを正しく作動させるために

センサー（→P.235）について、次のことをお守りください。お守りいただかないと、センサーが正しく作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です

- 改造・分解・塗装などをしない
- 純正品以外に交換しない
- センサー周辺へ衝撃を与えない
- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておく

■サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが静止物を正しく感知できなくなり、システムが作動しなくなったり、不要に作動してしまう場合があるため、サスペンションの改造はしないでください。

⚠ 注意

■不要な作動を防ぐために

次のときは、パーキングサポートブレーキ（静止物）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合

 注意

- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
- けん引フックを取り付けた場合
- 自走式洗車機を使用する場合

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

エンジン出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイ、ヘッドアップディスプレイおよび、ナビゲーション画面にメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

■ エンジン出力抑制制御作動中（加速制限制御）

状況	一定以上の加速がでない状況
マルチインフォメーションディスプレイ／ヘッドアップディスプレイ表示	「加速抑制中です」
ナビゲーション画面表示	なし

PKSB OFF 表示灯	消灯のまま
ブザー	なし

■ エンジン出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

状況	通常よりやや強めのブレーキ操作が必要な状況
マルチインフォメーションディスプレイ／ヘッドアップディスプレイ表示	「ブレーキ！」
ナビゲーション画面表示	
PKSB OFF 表示灯	消灯のまま
ブザー	“ポーン” (単発音)

■ ブレーキ制御作動中

状況	急ブレーキが必要な状況
マルチインフォメーションディスプレイ／ヘッドアップディスプレイ表示	「ブレーキ！」
ナビゲーション画面表示	
PKSB OFF 表示灯	消灯のまま
ブザー	“ポーン” (単発音)

■ システム作動により車両停止

状況	ブレーキ制御作動後に車両が停止した状況
マルチインフォメーションディスプレイ/ヘッドアップディスプレイ表示	「アクセルが踏まれていますブレーキを踏み直してください」※
ナビゲーション画面表示	「ブレーキを踏んでください」
PKSB OFF 表示灯	点灯
ブザー	“ポーン” (単発音)

※ アクセルが踏まれていない場合は「ブレーキを踏んでください」が表示されます。



知識

■ システムが作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、パーキングサポートブレーキ（静止物）が停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯します。

■ システムの復帰について

システム作動によりパーキングサポートブレーキ（静止物）が停止したときに、パーキングサポートブレーキ（静止物）を復帰させたい場合は、再度、パーキングサポートブレーキ（静止物）を ON にし停止を解除（→P.236）するか、エンジンスイッチをいったん OFF にしてから再度、ON モードにしてください。

また、進行方向の静止物がなくなった状態で車両を走行させたとき、または車両の進行方向が入れかわった（前進から後退、または後退から前進に切りかえた）ときはシステムが自動的に復帰します。

■ 万一、踏切などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動したときは

万一、踏切などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動しても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま前進することで脱出できます。

また、ブレーキペダルを踏んでも、ブレーキ制御は解除されるため、再度アクセルペダルを踏むことで前進し、脱出できます。

■ クリアランスソナーのブザーについて

クリアランスソナーの ON/OFF（→P.230）に関係なく、パーキングサポートブレーキ（静止物）を停止（→P.236）させていなければ、前側センサーまたはうしろ側センサーが静止物を感知してブレーキ制御が作動すると、クリアランスソナーのブザーも鳴り、静止物とのおよその距離をお知らせします。

BSM（ブラインドスポットモニター）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ブラインドスポットモニターには2つの機能があります。

● BSM（ブラインドスポットモニター）機能

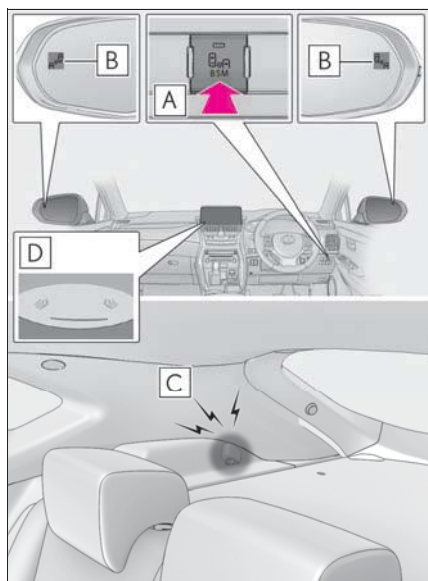
運転者による車線変更時の判断を支援します。

● RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能

後退時に運転者を支援します。

これらの機能は同じセンサーを使用します。

システムの構成部品



A BSM メインスイッチ

押すごとに ON/OFF が切りかわり、ON

のときはスイッチ上のインジケータが点灯します。

RCTA 機能は、BSM 機能と同時に ON/OFF が切りかわります。

B ドアミラーインジケータ

BSM 機能：

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケータが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケータが点滅します。

RCTA 機能：

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケータが点滅します。BSM 機能を ON にした直後の約 1 秒はブザーが鳴ります

C RCTA ブザー（RCTA 機能のみ）

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。BSM 機能を ON にした直後の約 1 秒はブザーが鳴ります。

D ナビゲーション画面の表示

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ナビゲーション画面に検知した側の RCTA アイコン（→P.247）が点灯します。イラストは両方向から車両が接近している例です。

知識

■ブラインドスポットモニターの作動条件

BSM メインスイッチが ON の状態で、車速が約 16km/h 以上のとき

■BSM ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、BSM ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がある場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「BSM 現在使用できません」が表示されたとき

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。(→P.245) センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合正常に作動しないことがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに「BSM 故障」が表示されたとき

センサーの故障や電圧異常などが考えられます。レクサス販売店にて点検を受けて下さい。

■レーダーセンサーの取り扱いについて

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので、消さないでください。

製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

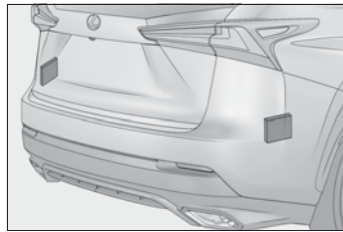


警告

■レーダーセンサーの取り扱い

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両後部に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

- センサー周辺のバンパーは常にきれいにしておく
- センサー周辺のバンパーへの強い衝撃を避ける

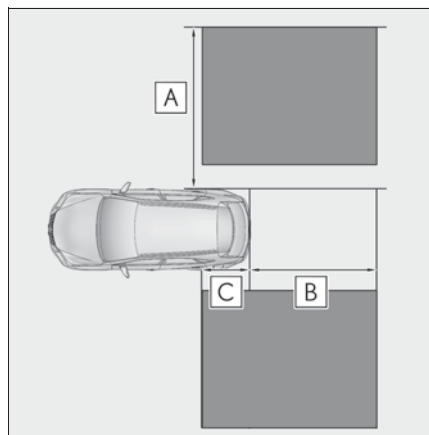


センサーの位置がずれると、検知範囲に入った車両を検知できないなど、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店にて点検を受けてください。

- センサーを分解しない
- センサーやセンサー周辺のバンパーにステッカーを貼らない
- センサーやセンサー周辺のバンパーを改造しない
- リヤバンパーの塗装修理の際にはレスサス設定色以外への変更は行わないでください
- センサーの交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください

ブラインドスポットモニターが検知できる範囲

死角領域となる、次の範囲に入った車両を検知します。



A 車両側面から外側に約 3.5m

車両側面から外側に約 0.5m は検知しません

B 車両後端から後方に約 3m

C 車両後端から前方に約 1m

知識

■ センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追い越されるとき
- 小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追い越すとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■ センサーが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型の二輪車、自転車、歩行者など ※
- 対向車
- ガードレール・壁・標識・駐車車両な

どの静止物 ※

- 同じ車線を走行する後続車 ※
- 2 つ隣の車線を走行する他車 ※
- 大きい速度差で自車が追い越す他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■ ブラインドスポットモニターが有効に作動しないおそれがある状況

- ブラインドスポットモニターは、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
 - ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
 - ・ 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
 - ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
 - ・ 自車と他車の速度差に変化があるとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
 - ・ 停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
 - ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
 - ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
 - ・ 車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
 - ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリを装着しているとき
 - ・ 検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
- ・ BSM メインスイッチを ON にした直後

- ブラインドスポットモニターは、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
- ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- ・ ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
- ・ 急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
- ・ 車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
- ・ きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
- ・ タイヤがスリップ（空転）しているとき
- ・ 自車と後続車の車間距離が短いとき
- ・ 車両後部に自転車キャリアなどのアク

セサリーを装着しているとき

警告

■ 安全にお使いいただくために

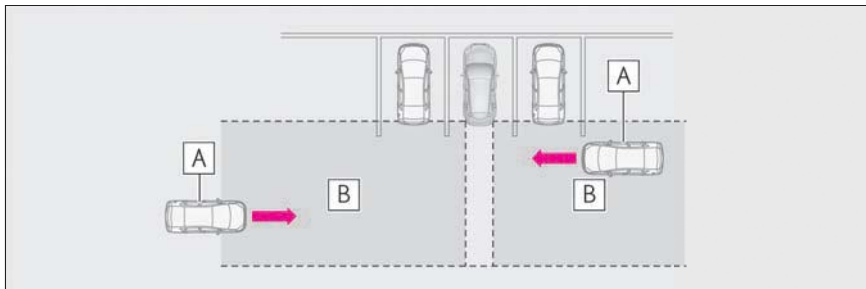
安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

ブラインドスポットモニターは、死角に入った車両の存在をドライバーに提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、状況によっては有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認を行う必要があります。

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能はレーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

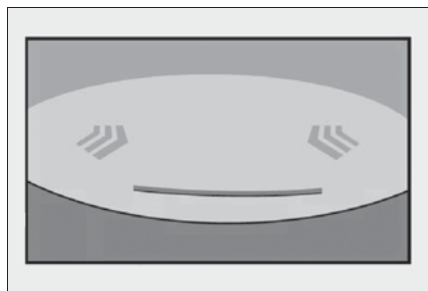
自車の右後方または左後方から接近

している車両を検知したときは、ナビゲーション画面上に次の表示をします。

▶ バックガイドモニター

車両が接近している側のアイコンが表示されます。

イラストは両方向から車両が接近している例です。



▶ パノラミックビューモニター

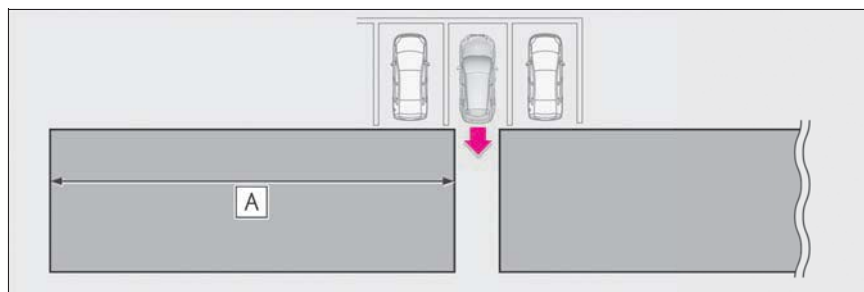
車両が接近している側のアイコンが表示されます。

イラストは両方向から車両が接近している例です。



■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。



速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両の速度	A 警報距離（概算）
28km/h（速い）	20m
8km/h（遅い）	5.5m



知識

■ RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

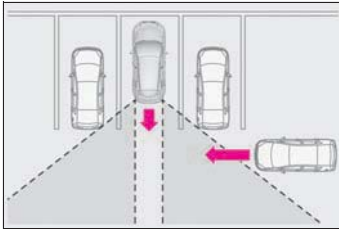
- RCTA 機能が ON のとき

- シフトレバーが R のとき
- 自車の車速が約 8km/h 以下のとき
- 接近する他車の車速が約 8km/h ～ 28km/h のあいだのとき

■ RCTA 機能が車両を検知しない状況

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 真後ろから接近する車両 ※
- 自車の隣の駐車スペースで後退する車両
- 障害物のためにセンサーが検知できない車両

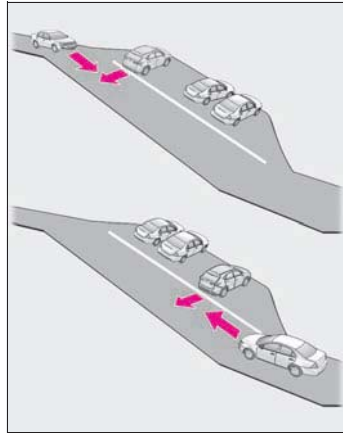


- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※
- 小型の二輪車・自転車・歩行者など ※
- 自車から遠ざかる車両
- 自車の隣の駐車スペースから接近する車両 ※

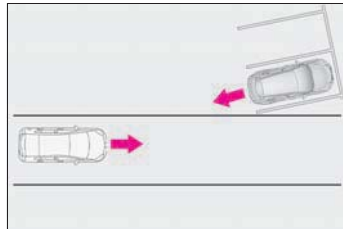
※ 状況によっては検知をすることがあります。

■ RCTA機能が有効に作動しないおそれがある状況

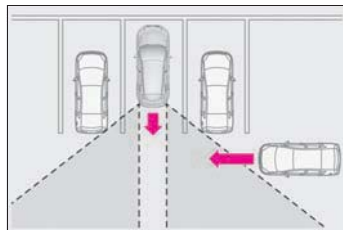
- RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。
 - ・ センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
 - ・ 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
 - ・ 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
 - ・ 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
 - ・ 高速で接近する車両
 - ・ 車両後部にけん引フックを装着しているとき
 - ・ 勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



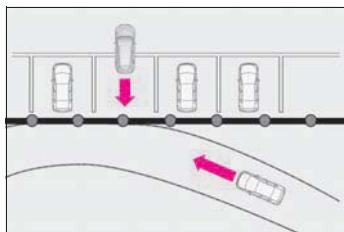
- ・ 浅い角度での駐車



- ・ RCTA 機能を ON にした直後
- ・ RCTA 機能を ON にした状態で、エンジンを始動した直後
- ・ 障害物のためにセンサーが検知できない車両



- RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
 - ・ 自車の横を通過する車両
 - ・ 駐車場に面した道を走行する車両



- ・ 車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき
- ・ 車両後部にけん引フックを装着しているとき

警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

RCTA 機能は自車の右後方または左後方から接近してくる車両の存在を運転者に提供する補助的なシステムです。

RCTA 機能を使用しても状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視による安全確認を行う必要があります。

システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なもので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ S-VSC（ステアリングアシストビークルスタビリティコントロール）

ABS・TRC・VSC・EPSを協調して制御します。

すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確

保に貢献します。

■ アクティブコーナリングアシスト (ACA)

旋回中に加速しようとするとき、内輪にブレーキ制御を行うことで、車両が外側に膨らむことを抑制します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ EPS (エレクトリックパワーステアリング)

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ ダイナミックトルクコントロール AWD ★

通常走行からコーナリング時、登坂時、発進時、加速時や雪や雨などですべりやすい路面など様々な走行状態に応じて、FF (前輪駆動) 走行状態から AWD (4 輪駆動) 走行状態まで自動的に制御し、安定した操縦性・走行安定性に寄与します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ NAVI・AI-AVS (AVS：アダプティブバリアブルサスペンションシステム) ★

路面の状態や運転操作などに応じ、ショックアブソーバーの減衰力を 4 輪独立に制御することで、なめらかな乗り心地と優れた安定感の確保に貢献し、車両の姿勢維持に寄与します。(→P.226)

また、ドライブモードセレクトスイッチでスポーツ S + モードを選択したときには、スポーツ走行に適し

た減衰力に切りかわります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PCS (プリクラッシュセーフティ)

→P.180

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

■ BSM (ブラインドスポットモニター) ★

→P.244

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ TRC・VSC が作動しているとき

TRC・VSC が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

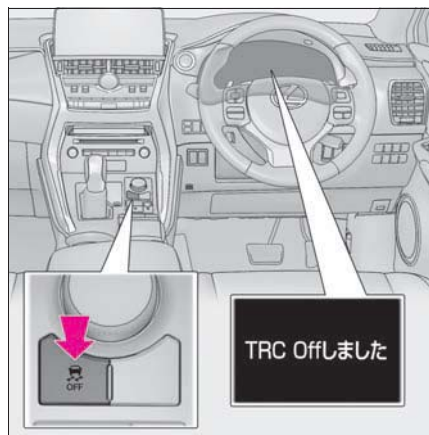


■ TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに  を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには  を押す



マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Offしました」と表示されます。

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に

 を押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに「TRC Offしました」と表示されます。※

もう一度  を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ PCS (プリクラッシュセーフティ) 装着車は、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
(→P.186)

■  を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに「TRC Offしました」が表示されたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はレクサス販売店にご相談ください。

■ ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、エンジンルームから作動音が聞こえることがあります。異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
 - ・ ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
 - ・ ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ アクティブコーナリングアシストの作動音と振動

アクティブコーナリングアシストが作動したときに、ブレーキシステムから作動音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。

■ EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがあります。異常ではありません。

■ TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

- エンジンスイッチを OFF にしたとき
- (TRC のみを作動停止にしている場合)

車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止して
いる場合は、車速による自動復帰はあ
りません。

■ アクティブコーナリングアシストの作 動条件

次のときシステムが作動します。

- TRC・VSC が作動可能状態
- 旋回中に加速しようとするとき
- 車両が外側に膨らんでいるとシステム
により判断された
- ブレーキを踏んでいない

■ EPS の効果が下がる時

停車中が極低速走行中に長時間ハンドル
をまわし続けると、EPS システムのオー
バーヒートを避けるため、EPS の効果が
下がりハンドル操作が重く感じられるよ
うになります。その場合は、ハンドル操
作を控えるか、停車し、エンジンを停止
してください。10 分程度でもとの状態に
もどります。

■ NAVI・AI-AVS★の NAVI 協調機能

ナビゲーションの道路コーナー情報によ
り、コーナーの前からあらかじめショッ
クアブリーバーの減衰力を制御します。
これにより、優れたコーナリング性能
を確保します。ナビゲーションにおいて
ルート探索可能な道路で作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装
備の有無があります。

■ ヒルスタートアシストコントロールの 作動条件

次のときシステムが作動します。

- シフトレバーの位置が P または N 以外
(前進または後退での上り坂発進時)
- 車両停止状態
- アクセルペダルを踏んでいない
- パーキングブレーキがかかっていない

■ ヒルスタートアシストコントロールの 自動解除

次のいずれかのときシステムが解除され
ます。

- シフトレバーを P または N の位置にした
- アクセルペダルを踏んだ
- パーキングブレーキをかけた
- ブレーキペダルから足を離して最大 2 秒
経過した

■ 緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

- 非常点滅灯が点滅していないこと
- 車速 55km/h 以上
- 車両の減速度から急ブレーキであると
システムにより判断された

■ 緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除され
ます。

- 非常点滅灯を点滅させた
- 車両の減速度から急ブレーキではない
とシステムにより判断された

⚠ 警告

■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界をこえ
たとき（雪に覆われた路面を過剰に
摩耗したタイヤで走行するときなど）
- 雨でぬれた路面やすべりやすい路面
での高速走行時に、ハイドロプレー
ニング現象が発生したとき

 警告**■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき**

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差をこえたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRC や VSC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■ アクティブコーナリングアシストの効果を発揮できないとき

- アクティブコーナリングアシストを過信しないでください。下り坂での加速中やすべりやすい路面などでは、アクティブコーナリングアシストが効かないことがあります。
- アクティブコーナリングアシストが頻繁に作動したときは、ブレーキ・TRC・VSC を正常に機能させるために、アクティブコーナリングアシストが一時的に作動しないことがあります。

■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

- ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。
- ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐停車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC・VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

警告

■ タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。

異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

AWD ロックモード★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

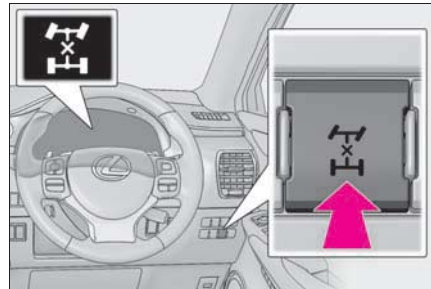
AWD ロックモードは、後輪への駆動力配分を最大限高めます。

悪路・砂地・ぬかるみ・深雪路などでとくに大きな駆動力を必要とするときに使用します。

AWD ロックモードを使うには

スイッチを押す

AWD ロックモード表示灯が点灯します。再度スイッチを押すと AWD ロックモードは解除され、通常の AWD モードにもどります。



知識

■ AWD ロックモードの自動解除

車速が約 40km 以上になったとき、自動的に AWD ロックモードが解除されます。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬の前の準備について

- 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシュャー液
- バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前 2 輪）※ を使用してください。タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。（タイヤについて：→P.303）

※ 225/60R18 タイヤには、タイヤとボデーの間隙が狭いため、タイヤチェーンを装着できません。



知識

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 前 2 輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う
- 取り付け後 0.5～1.0km 走行したら締め直しを行う

⚠ 警告

■ 冬用タイヤを装着するとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■ タイヤチェーンを装着するとき

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、安全に車を運転することができず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない

 注意■ **タイヤチェーンの使用について**

レクサス純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

レクサス純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■ **タイヤを修理・交換するときは**

レクサス販売店へご依頼ください。

タイヤの取り付け・取りはずしは、タイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。(タイヤについての詳しい説明は P.303 を参照してください)

■ **タイヤチェーンの装着**

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しないおそれがあります。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてく

ださい。

- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

 知識■ **寒冷地用ワイパーブレードについて**

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。レクサス販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

 注意■ **ガラスに付いた氷を除去するとき**

氷をたたいて割らないでください。

ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するとき

ゆっくりリスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーを P に入れて駐車し、必ず輪止め※¹をしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトレバーを P に

入れたあとにパーキングブレーキを解除してください。(→P.153)

- パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトレバーを P に入れた状態でシフトレバーが動かないこと ※²を確認してください。
- 寒冷時にブレーキ部品がぬれた状態で車を駐車したままにすると、凍結するおそれがあります。

※¹ 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

※² ブレーキペダルを踏まないで P からシフトするときにロックがかかります。シフトできる場合は、シフトロックシステムなどの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

5-1. リモートタッチ

リモートタッチ..... 260

5-2. エアコンの使い方

オートエアコン..... 264

ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター 272

5-3. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 275

5-4. 収納装備

収納装備一覧 278

ラゲージルーム内装備 282

5-5. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備..... 286

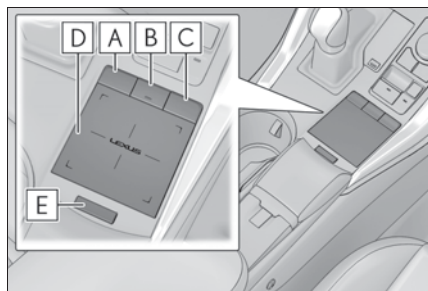
リモートタッチ

リモートタッチを使って、ナビゲーション画面の操作・設定ができます。

詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

リモートタッチの操作について

■ 操作スイッチ



A MAP ボタン

ナビゲーション画面で現在地を表示します。

B MENU ボタン

メニュー画面を表示します。

C もどるボタン

1 つ前の画面にもどります。

D タッチパッド

画面上のスイッチを選択または決定します。

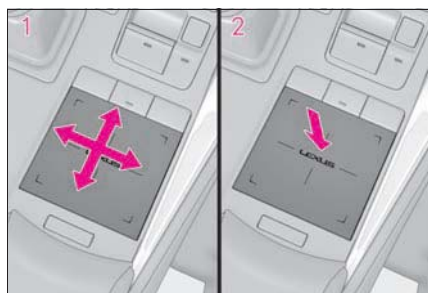
また、リスト画面のスクロールや地図の拡大／縮小などもできます。

E サブファンクションボタン

画面にが表示されているときに、各画面ごとに割り当てられた機能画面を呼び

び出します。

■ タッチパッドの使い方



1 選択する：タッチパッドを操作して、ポインタ※をスイッチに合わせる

2 決定する：タッチパッドを押す、またはダブルタップする

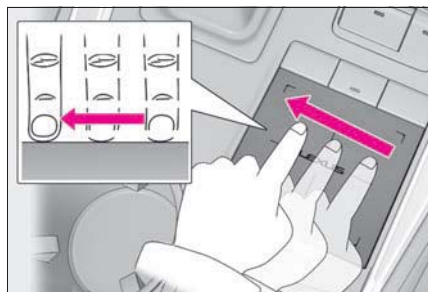
※ ポインタとはタッチパッドの操作に合わせて画面上を動くマークです。

■ タッチ操作

タッチパッドで次の操作が可能です。

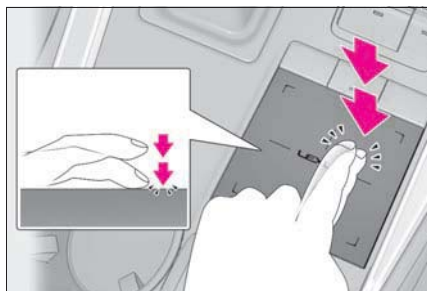
● なぞり操作

タッチパッドにふれた状態でパッド面をなぞります。カーソルやポインタを動かすことができます。



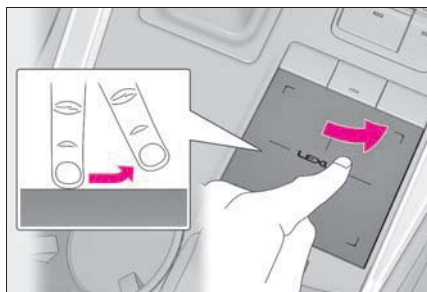
● ダブルタップ

タッチパッドを指先で素早く軽く 2 回叩きます。タッチパッドを押したときと同様に、ポインタで選んだ画面スイッチを決定することができます。



● フリック

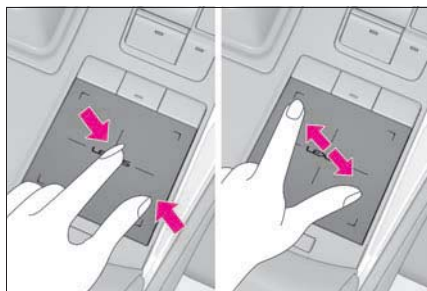
タッチパッドにふれた指先を素早く大きく払います。リスト画面のスクロールや地図（1画面表示のみ）を動かすことができます。



● ピンチアウト／ピンチイン

タッチパッドにふれた2本の指を広げたり近付けたりします。

地図の拡大や縮小を行うことができます。



注意

■ リモートタッチの故障を防ぐために

- リモートタッチに飲料水や雨水などをかけないでください。変色や漏電の原因になります。
- リモートタッチの上に乗ったり、ものを上に置かないでください。故障の原因になります。
- タッチパッドを強く押したり、先のとがったもので操作したりしないでください。破損の原因になります。

メニュー画面

リモートタッチの MENU ボタンを押すと、メニュー画面が表示されます。



ボタン	機能
	目的地を設定する※
	オーディオ操作画面を表示する※
	デジタルテレビ操作画面を表示する※
	ハンズフリー操作画面を表示する※

ボタン	機能
	G-Link 画面を表示する ※
	情報画面を表示する (→P.80)
	設定・編集画面を表示する ※
	エアコン操作画面を表示する (→P.267)

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

画面表示について

■ 全画面表示

お好みの画面を表示エリアのすべてに一画面で表示することができます。

■ 分割画面表示

異なる情報を左右に並べて表示します。例えば燃費情報画面を表示したまま、エアコンやオーディオなどの画面を並べて表示したり操作したりすることができます。

画面左側の広い表示エリアをメイン画面、右側の狭い表示エリアをサイド画面と呼びます。



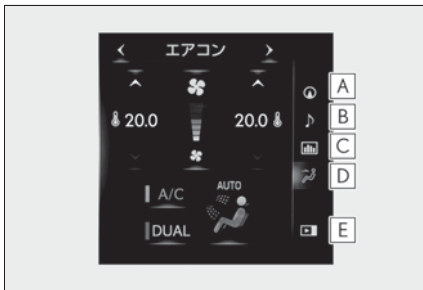
■ メイン画面

メイン画面の表示や操作、および各機能の詳細については、それぞれの項目および、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ サイド画面

次の各画面をサイド画面に表示し操作することができます。

◀ または ▶ を選択してお好みの画面を表示する



A ナビゲーションシステム ※

B オーディオ ※

C 車両情報 (→P.80)

D エアコン (→P.267)

E サイド画面を非表示にする

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



知識

■ 低温時の画面表示について

外気温が極めて低いときは、リモートタッチを操作しても画面の反応が遅れることがあります。

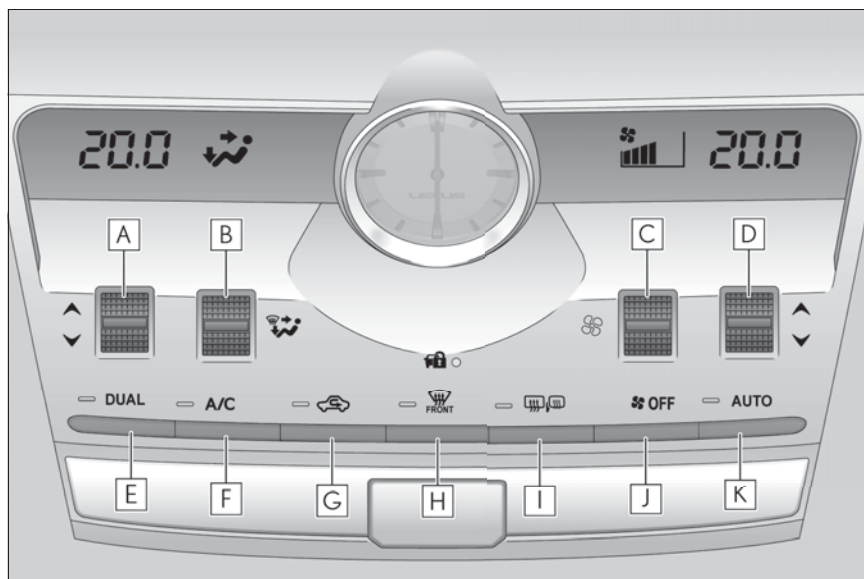
オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

リモートタッチの MENU ボタンを押して、を選択するとエアコン操作画面が表示されます。

また、サイド画面に表示し操作することもできます。

エアコン操作スイッチについて



- A** 助手席側温度調整スイッチ
- B** 吹き出し口切りかえスイッチ
- C** 風量調整スイッチ
- D** 運転席側温度調整スイッチ
- E** DUAL スイッチ
- F** A/C スイッチ
- G** 内外気切りかえスイッチ
- H** フロントデフロスタースイッチ

I リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒータースイッチ**J** OFF スイッチ**K** AUTO スイッチ**■ 温度を調整する**

設定温度を上げるときは温度調整スイッチを上、下げるときは下に操作する

A/C スイッチが押されていない場合は、送風または暖房で使用できます。

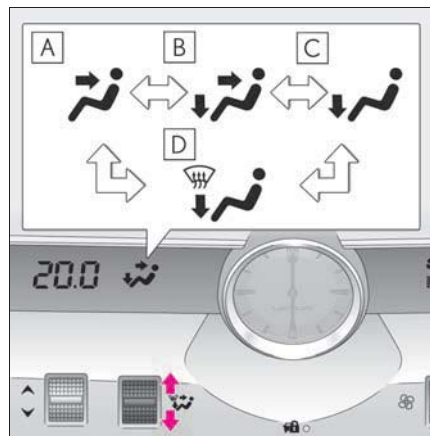
■ 風量を切りかえる

風量を増やすときは風量調整スイッチを上、減らすときは下に操作する

OFF スイッチを押すと、ファンが止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを上下に操作する
操作するたびに吹き出し口が切りかわります。

**A** 上半身に送風**B** 上半身と足元に送風**C** 足元に送風**D** 足元に送風・ガラスの曇りを取る**■ 内気循環／外気導入を切りかえるには**

内外気切りかえスイッチを押す

スイッチを押すたびに内気循環／外気導入が切りかわります。

内気循環を選択しているときはインジケーターが点灯します。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取るには

フロントデフロスタースイッチを押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。(自動的に外気導入に切りかわることがあります)

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

■ リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取る時や、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用ください。

リヤウインドウデフォッガー&ミラーヒータースイッチを押す

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的にOFFになります。

■ ウインドシールドデアイサー★

→P.269

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、A/Cスイッチを ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- A/C スwitch を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ 外気導入・内気循環について

- トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。
- 設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■ 電子キーによるエアコン設定の記憶制御（ドライビングポジションメモリー装着車）

- 電子キーでドアを解錠してエンジンスイッチをイグニッション ON モードにすると、その電子キーに対して記憶されたエアコン設定が呼び出されます。
- エンジンスイッチを OFF にすると、その時のエアコンの設定が解錠した電子キーに対して記憶されます。
- 複数の電子キーを持ってスマートエントリー&スタートシステムでドアを解錠したり、運転席以外のドアをスマートエントリー&スタートシステムで解錠したりすると、正しく作動しないことがあります。

- スマートエントリー&スタートシステムでエアコン設定の呼び出しのできる、解錠ドアの設定※を変更できます。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

※ ドライビングポジションメモリーの呼び出しを行う解錠ドアの設定も同時に変更になります。

■ エコモードのエアコン作動について

- エコモードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
 - ・ エンジン回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
 - ・ オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。
- 空調の効きをより良くしたいときは、次の操作を行ってください。
 - ・ 風量を調整する。
 - ・ エコモードを解除する。
- エコモード時は自動でエコ空調モードに切りかわっていますが、その場合でも  を押すとエコ空調モードを解除することができます。

■ 換気とエアコンの臭いについて

- 車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。
- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停

止する場合があります。

■ エアコンフィルターについて

→P.310

■ カスタマイズ機能

AUTO スイッチを押したとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できます。(カスタマイズ一覧：→P.373)

⚠ 警告

■ フロントウィンドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■ リヤウィンドウデフォグガー＆ミラーヒーター／ウィンドシールドデアイサー★が作動しているとき

● ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

● ウィンドシールドデアイサー装着車：フロントウィンドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

エアコン操作画面について

■ メイン操作画面

リモートタッチのタッチパッドを操作して画面上のスイッチを選択します。

[B]～[E]は次の操作で調整することができます。

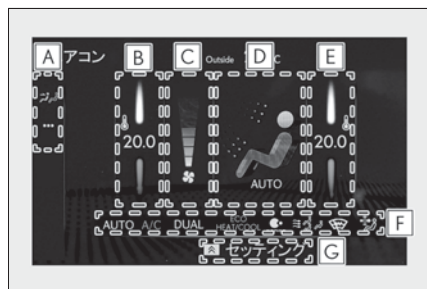
フリック操作：タッチパッドを上または下にフリックする

1段階ずつ調整することができます。

なぞり操作：決定操作をしたあと、上または下になぞる

なぞった長さに応じて調整することができます。

走行中はなぞり操作ができません。



[A] サブメニュー

メイン操作画面を切りかえることができます。

：エアコン操作画面を表示する

：オプション操作画面を表示する

[B] 助手席側の温度を調整する

[C] 風量を切りかえる

[D] 吹き出し口を切りかえる



: 上半身に送風



: 上半身と足元に送風



: 足元に送風



: 足元に送風・ガラスの曇りを取る

状況によっては、選択した吹き出し口以外からも送風する場合があります。

E 運転席側の温度を調整する

F 各機能 ON/OFF 表示灯

機能が ON のとき、表示灯が点灯します。

G サブファンクションメニュー

リモートタッチの  ボタンを押すと、次の機能の ON/OFF を切りかえることができます。

“AUTO” : 吹き出し口と風量が自動的に調整される (→P.270)

“OFF” : ファンを停止する

“A/C” : 冷房・除湿する

“DUAL” : 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する (左右独立モード) (→P.271)

 : エコ空調モードに設定する

■ オプション操作画面

サブメニューの  を選択する。

各機能の ON/OFF を切りかえることができます。機能が ON のとき、画面上の作動表示灯が点灯します。



A 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する (左右独立モード) (→P.271)

B エコ空調モードに設定する

燃費を優先するため冷房／暖房の効きを抑えます。

C 冷房・除湿する

D 「ナノイー」※ を作動させる

E S-FLOW モードを設定する (→P.269)

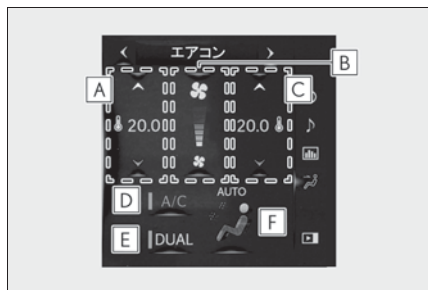
F フロントウィンドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐ (ウィンドシールドデアイサー) ★

G 花粉を除去する (花粉除去モード)

※ 「nanoe」、 「ナノイー」 および 「nanoe」 マークは、パナソニック株式会社の商標です。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ サイド画面



- A** 助手席側の温度を調整する
- B** 風量を切りかえる
- C** 運転席側の温度を調整する
- D** 冷房・除湿する
- E** 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）
（→P.271）
- F** 吹き出し口を切りかえる

□ 知識

■ ガラスの曇りについて

- 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、“A/C” を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。
- “A/C” を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。
- 内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■ ウインドシールドデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパブレードの凍結を防ぐために使用ください。

オプション操作画面で、 を選択する。

ウインドシールドデアイサーが ON のとき、エアコン操作画面の  が点灯します。

ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ エコ空調モード

ドライブモードセレクトスイッチのエコモードを選択すると、エコ空調モードが ON になります。

エコモード以外を選択したときは、エコ空調モードが OFF になる場合があります。

■ S-FLOW モード

フロント席への送風を優先させ、リヤ席への送風および空調の効きを抑えます。

 を選択する。

S-FLOW モードが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

再度  を選択すると、前のモードにもどります。

■ 花粉除去モードについて

オプション操作画面で、 を選択する。

花粉除去モードが ON のとき、エアコン操作画面の  が点灯します。

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。

外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの曇りを防止するために除湿機能が作動する場合があります。

花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■「ナノイー」※¹について

エアコンには「ナノイー」発生装置が搭載されています。この装置は助手席左側の吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性のナノイーイオンを放出し、室内を爽やかな空気で満たします※²。

- ファンが作動すると、自動的に「ナノイー」が作動します※³。
- 「ナノイー」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。

・吹き出し口が  または



のとき

- ・助手席左側の吹き出し口が開いているとき
- 「ナノイー」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがあります。が、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。
- 作動中、かすかに作動音が聞こえることがあります。が、故障ではありません。

※¹「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※²温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

※³「ナノイー」がONのとき。(→P.268)

⚠ 警告

■ウインドシールドデアイサー★が作動しているとき

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■「ナノイー」について

このシステムは高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、レクサス販売店にお問い合わせください。

⚠ 注意

■「ナノイー」の損傷を防ぐために

助手席左側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

オート設定で使用する

- 1 エアコン操作スイッチのAUTOスイッチを押す、またはエアコン操作画面で“**AUTO**”を選択する
- 2 温度を設定する
- 3 ファンを止めたいときは、OFFスイッチを押す、またはエアコン操作画面で「**OFF**」を選択する

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTOスイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

知識

■ オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチ（“AUTO”）を ON にした直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

■ フロントウインドウガラス内側の曇り検知機能

オート設定時、湿度センサーでフロントウインドウガラス内側の曇りを検知し、エアコンを自動的に制御して曇りを防ぎます。

■ エアコンフィルターについて

→P.310

■ カスタマイズ機能

AUTO スイッチを押したとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できます。（カスタマイズ一覧：→P.373）

運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

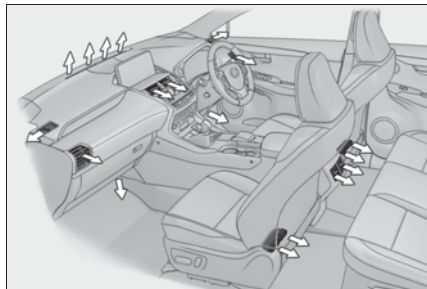
- エアコン操作パネルの DUAL スイッチを押す
- オプション操作画面で「DUAL」を選択する
- 助手席側の温度調整スイッチで設定温度を変更する

左右独立モードになりスイッチの作動表示灯が点灯します。

吹き出し口の配置・操作

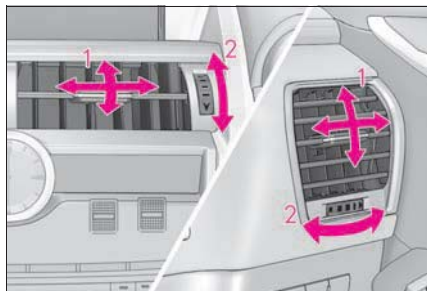
■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変わります。



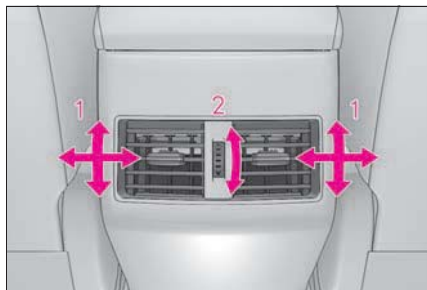
■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ フロント



- 1 風向きの調整
- 2 吹き出し口の開閉

▶ リヤ



- 1 風向きの調整
- 2 吹き出し口の開閉

警告**■フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために**

吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなる場合があります。



ステアリングヒーター★／シートヒーター★／シートベンチレーター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●ステアリングヒーター

ハンドルの左右のグリップ部を暖めることができます。

●シートヒーター

シートの表面を暖めることができます。

●シートベンチレーター

シート内部に装備されたファンで送風することにより、シート表面の通気をよくします。

警告**■低温やけどについて**

次の方がステアリングヒーター／シートヒーターに触れないようにご注意ください。

- 乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

注意**■シートヒーター／シートベンチレーターの損傷を防ぐために**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

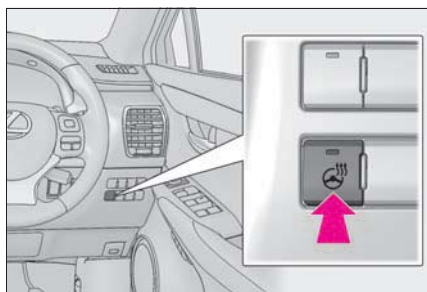


注意

■ **バッテリーあがりを防ぐために**
エンジンが停止した状態で使用しないでください。

ステアリングヒーター

システムの ON/OFF を切りかえる
作動中はインジケーターが点灯します。



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON
モードのとき

■ タイマー制御について

約 30 分後に自動で OFF になります。

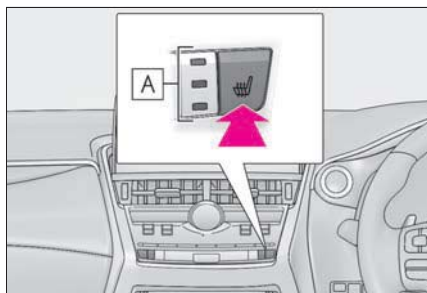
シートヒーター

■ フロント

▶ シートベンチレーター非装着車
スイッチを押すたびに、作動状態が
次のように切りかわります。

強 (3 個点灯) → 中 (2 個点灯) →
弱 (1 個点灯) → OFF

作動中は、レベルインジケーター
(黄) **A** が点灯します。

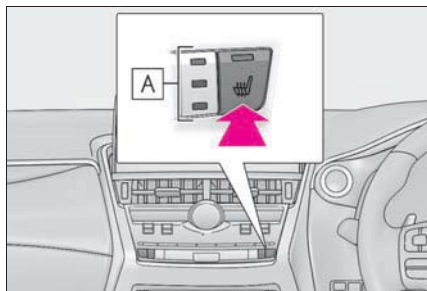


▶ シートベンチレーター装着車

スイッチを押すたびに、作動状態が
次のように切りかわります。

強 (3 個点灯) → 中 (2 個点灯) →
弱 (1 個点灯) → OFF

作動中は、スイッチ上のインジケー
ター (黄) と、レベルインジケー
ター (緑) **A** が点灯します。

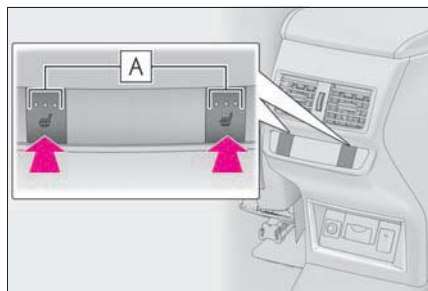


■ リヤ

スイッチを押すたびに、作動状態が
次のように切りかわります。

強 (3 個点灯) → 中 (2 個点灯) →
弱 (1 個点灯) → OFF

作動中は、スイッチ上のインジケー
ター (黄) **A** が点灯します。



知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON
モードのとき

⚠ 警告

■ 異常加熱や低温やけどを防ぐために
シートヒーターを使用するときは次の
ことをお守りください。

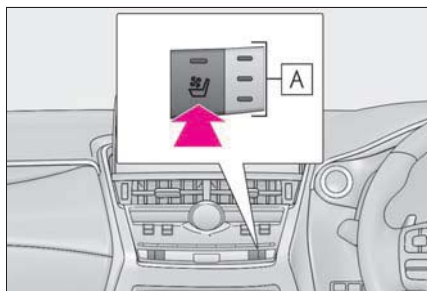
- 長時間連続使用しない
- 毛布・クッションなどを使用しない

シートベンチレーター（フロント）

スイッチを押すたびに、作動状態が
次のように切りかわります。

強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→
弱（1 個点灯）→ OFF

作動中は、スイッチ上のインジケー
ター（緑）と、レベルインジケー
ター（緑）**A**が点灯します。



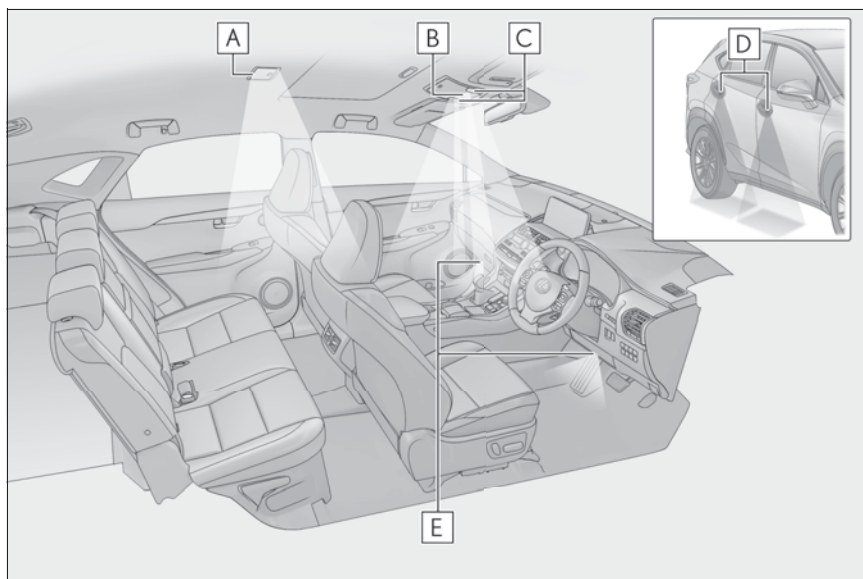
知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON
モードのとき

室内灯一覧

室内灯の位置



5

室内装飾・機能

- A** リヤインテリアランプ (→P.276)
- B** フロントインテリアランプ (→P.276)
- C** パーソナルランプ (→P.277)
- D** アウトサイドドアハンドル照明
- E** 足元照明 ※1, 2

※1 エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき、足元照明が常時点灯します。
ただし、インストルメントパネル照度を最も暗く調整すると、足元照明が消灯します。(→P.68)

※2 シフトレバーが P 以外の場合、足元照明の明るさが暗くなります。



知識

■各部照明の自動点灯／消灯について

- 電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・エンジンスイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。(イルミネーテッドエント

リーステム)

- エンジンスイッチが OFF の場合、室内灯が点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

■ フロントインテリアランプとパーソナルランプが正常に反応しない状況について

- レンズ面に水や汚れなどが付着しているとき
- 濡れた手で操作したとき
- 手袋などを装着しているとき

■ カスタマイズ機能

室内灯の消灯までの時間などを設定できます。

(カスタマイズ一覧：→P.373)



注意

■ ランプのレンズの取りはずしについて

絶対に取りはずさないでください。ランプが故障する原因となります。レンズを取りはずす必要がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

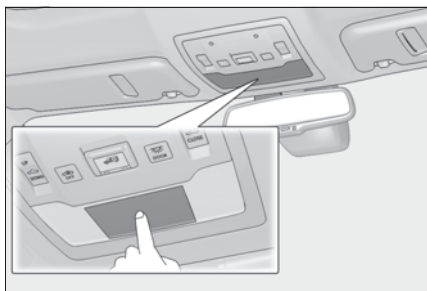
インテリアランプを操作するには

■ フロントインテリアランプ

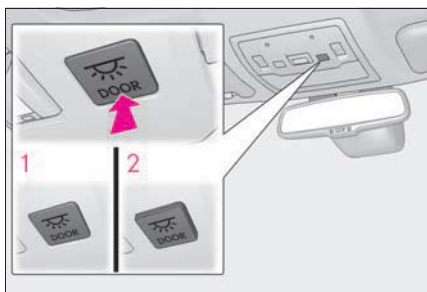
ランプを点灯・消灯する（ランプにタッチする）

リヤインテリアランプが連動して点灯・消灯します。

ただし、リヤインテリアランプスイッチが押されている状態で、フロントインテリアランプを操作しても連動しません。



ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯を切りかえる



1 ドア連動 ON

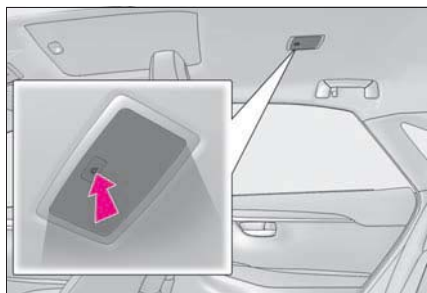
リヤインテリアランプもドアの開閉に連動して点灯・消灯します。

2 ドア連動 OFF

■ リヤインテリアランプ

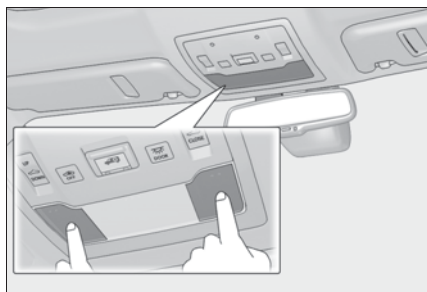
ランプを点灯・消灯する

フロントインテリアランプに連動してリヤインテリアランプが点灯・消灯します。フロントインテリアランプに連動して点灯しているときは、スイッチを押しても消灯しません。



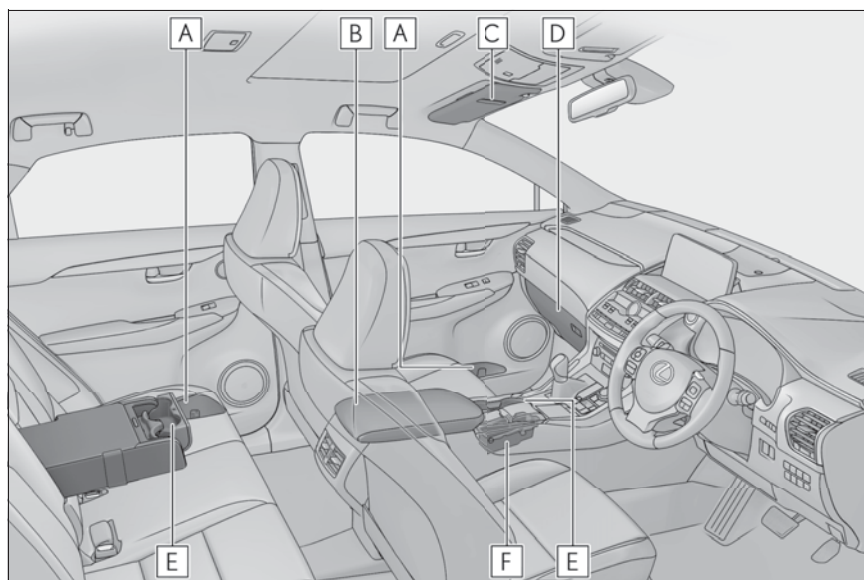
パーソナルランプを操作するには

ランプを点灯・消灯する（ランプにタッチする）



収納装備一覧

収納装備の位置



- A** ボトルホルダー (→P.280)
- B** コンソールボックス (→P.279)
- C** カードホルダー (→P.281)
- D** グローブボックス (→P.279)
- E** カップホルダー (→P.280)
- F** 小物入れ (→P.281)

警告

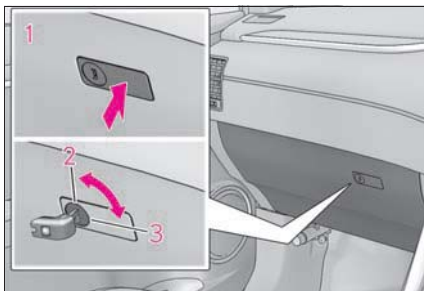
■ 収納装備に放置してはいけないもの
メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したまましていると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

■ 収納装備を使わないときは

グローブボックスまたはコンソールボックスを必ず閉じてください。急ブレーキや急旋回時などに、開いたグローブボックスやコンソールボックスに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

グローブボックスを使うには



- 1 開ける
- 2 メカニカルキーで解錠
- 3 メカニカルキーで施錠

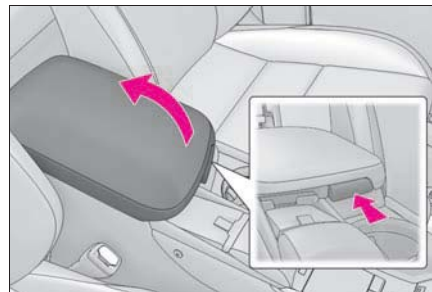
知識

■ グローブボックスランプ

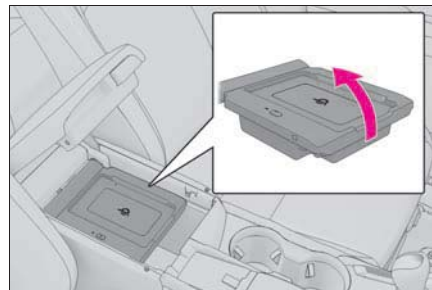
車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。

コンソールボックスを使うには

- 1 ボタンを押しながらフタを持ち上げて開く



- 2 おくだけ充電（ワイヤレス充電器）装着車は、ワイヤレス充電器を持ち上げる



知識

■ コンソールボックス内のトレイについて（おくだけ充電 [ワイヤレス充電器] 非装着車）

コンソールボックス内のトレイを前後に移動する、または引き上げて取りはずすことができます。

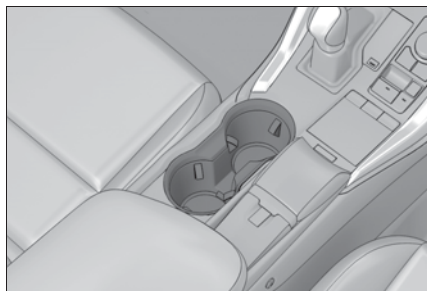


■ コンソールボックスランプ

車幅灯点灯時は、コンソールボックス内のランプが点灯します。

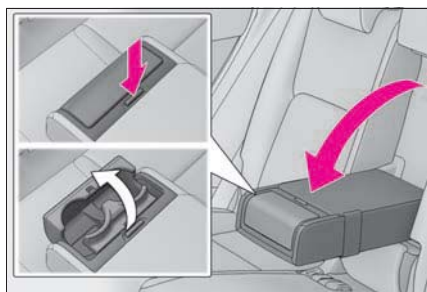
カップホルダーを使うには

■ フロント



■ リヤ

リヤアームレストを手前に倒し、ボタンを押す



⚠ 警告

■ 収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないください。

急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

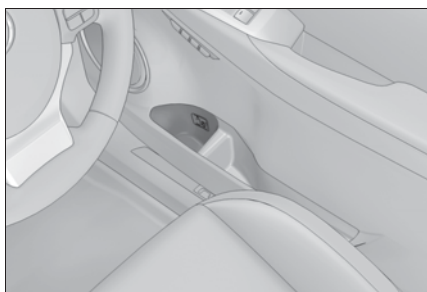
⚠ 注意

■ リヤシートのアームレストを格納するとき

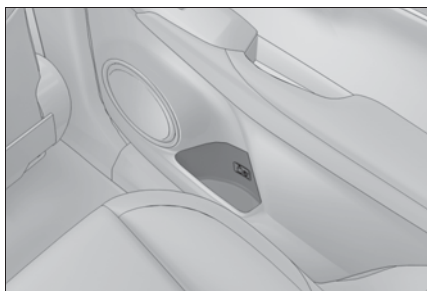
カップホルダーの破損を防ぐために、リヤシートのカップホルダーを開いた状態で、アームレストを格納しないでください。

ボトルホルダー

■ フロント



■ リヤ



知識

■ ボトルホルダーについて

- ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。
- ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

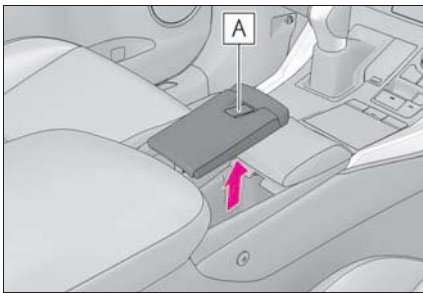
注意

■ 収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

小物入れを使うには

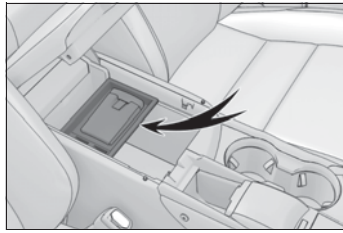
ストラップ **A** を持ってフタを取りはずす



知識

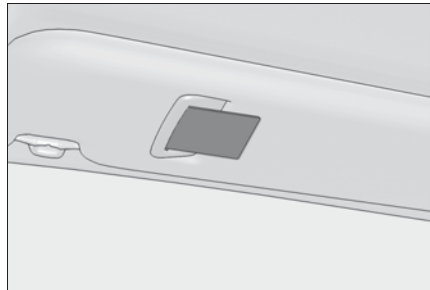
■ 小物入れのフタについて

- 取りはずしたフタをコンソールボックス内のトレイに収納することができます。



- 小物入れのフタの裏側をバニティミラーとして使用することができます。(→P.286)

カードホルダー

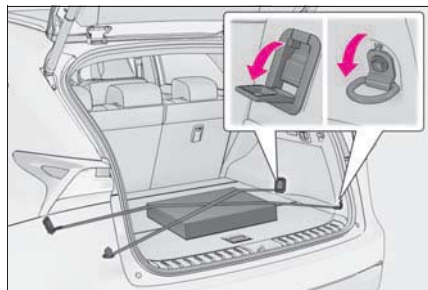


ラゲージルーム内装備

デッキフックを使うには

フックを起こして使用する

フックを使って荷物を固定することができます。



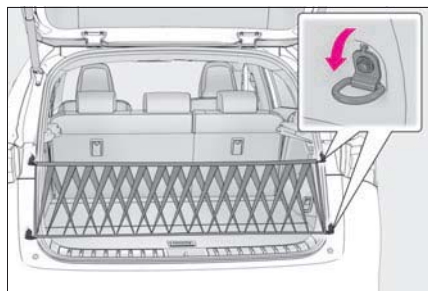
警告

■ デッキフックを使用しないときは
けがをしないように、必ずもとの位置
にもどしておいてください。

ネットフックを使うには

フックを起こして使用する

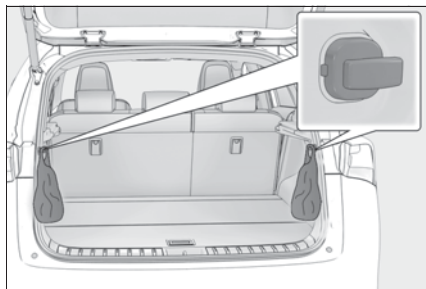
フックを使って積荷ネットをかけること
ができます。



警告

■ ネットフックを使用しないときは
けがをしないように、必ずもとの位置
にもどしておいてください。

買い物フック



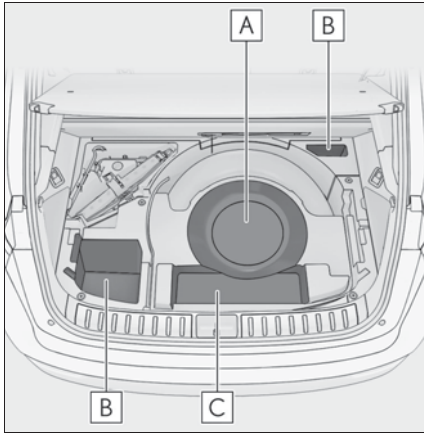
注意

■ 買い物フックの破損を防ぐには
5kg 以上のものや大きいものを買い物
フックに吊り下げないでください。

デッキアンダートレイを使うに は

デッキボードを持ち上げてフックを
固定し (→P.283)、次のものを収納
することができます。

▶ 応急用タイヤ装着車



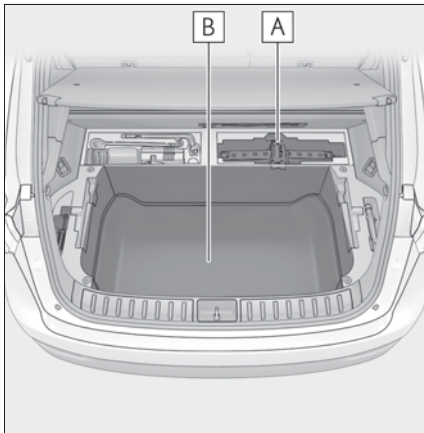
A 救急箱や小物など

B 小物など

C 停止表示板※

※ 停止表示板は、レクサス販売店で購入することができます。

▶ タイヤパンク応急修理キット装着車



A 停止表示板※

ジャッキの上に停止表示板を収納することができます。

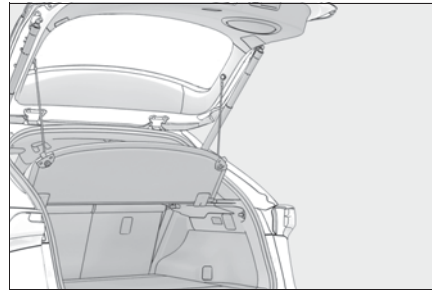
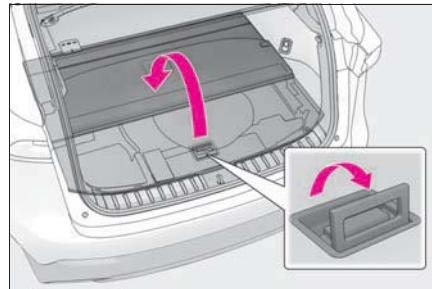
B 救急箱や小物など

※ 停止表示板は、レクサス販売店で購入することができます。

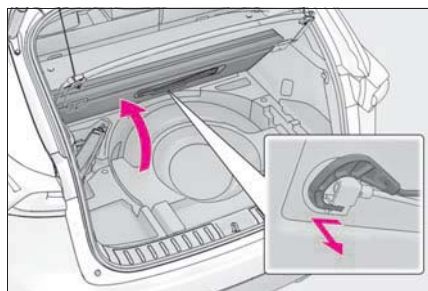
 知識

■ 停止表示板について

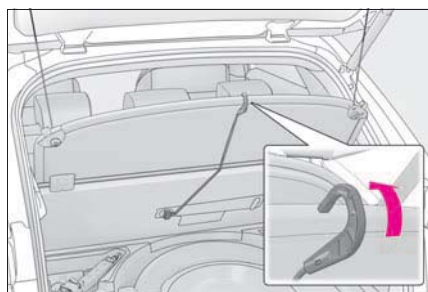
ケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

デッキボードを開けるには**1** バックドアを開ける**2** レバーを引き上げて、デッキボードを折りたたむ

- 3 デッキボードを持ち上げて、裏面のフックを取りはずす

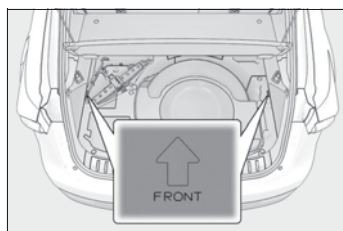


- 4 フックをトノボードに引っかけて固定する



- サイドデッキボードを取り付けるときは

“↑ FRONT” マークが車両前側を指すように取り付けてください。



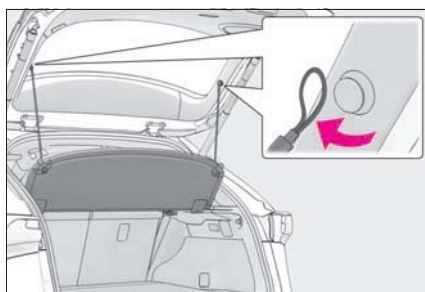
警告

- デッキボードを開けたり取りはずしたときは

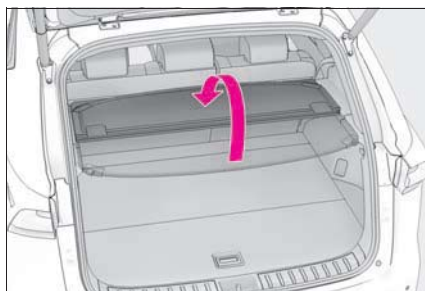
走行前に必ずもとどおりに取り付けてください。そのまま走行すると、急ブレーキをかけたときなどにデッキボードや収納していたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

トノボードを収納するには

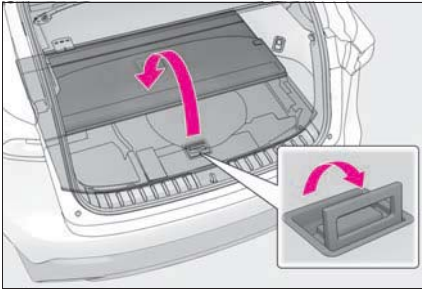
- 1 留めひもを左右のフックからはずす



- 2 トノボードを折りたたむ

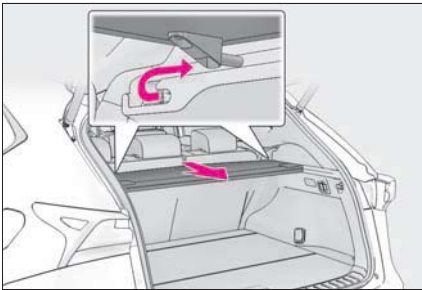


3 レバーを引き上げて、デッキボードを折りたたむ

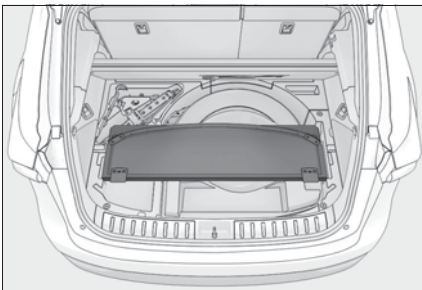


4 トノボードを取りはずす

リヤシートの背もたれをうしろに倒しているときは、背もたれを起こしてから取りはずしてください。(→P.111)



5 デッキボードを持ち上げながら、デッキアンダートレイに収納する



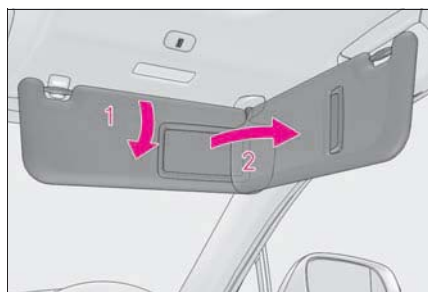
警告

■ トノボードについて

- トノボードの上には、荷物を積まないでください。急ブレーキや旋回時に、荷物が飛び出して乗員にあたるなどして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- トノボードの上には、お子さまが乗ったりしないようにしてください。トノボードが破損し、お子さまが重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

その他の室内装備

サンバイザーを使うには



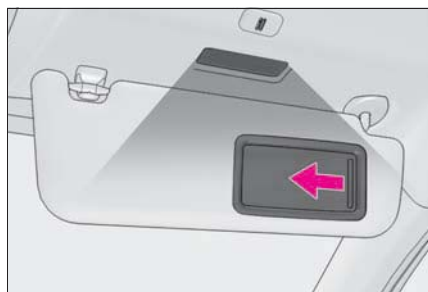
- 1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす
- 2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラーを使うには

■ サンバイザー

カバーをスライドして開ける

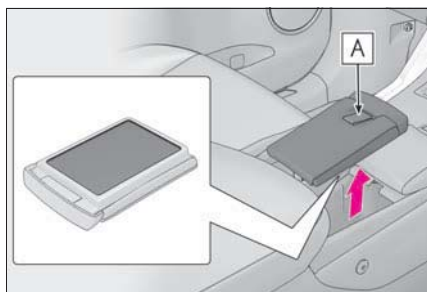
カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。



■ 小物入れ

ストラップ **A** を持って小物入れのフタを取りはずす

小物入れのフタの裏面にバニティミラーがあります。



□ 知識

■ 自動消灯について

エンジンスイッチが OFF の場合、バニティランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

⚠ 注意

■ バニティミラーの破損を防ぐために

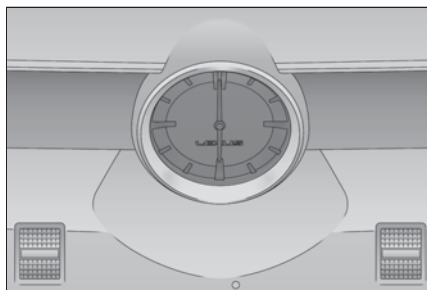
小物入れのフタを取りはずしたときは、強い衝撃を与えたり、重いものなどを乗せないでください。

■ バッテリーあがりを防ぐために

エンジンが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

時計

GPS の時刻情報 (GPS 時計) を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。



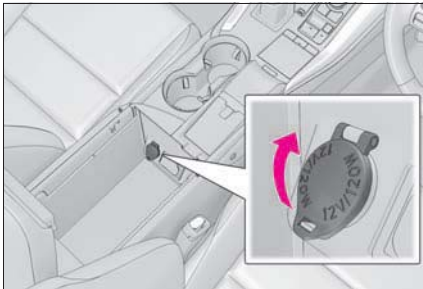
アクセサリースOCKETを使うには

DC12V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

電気製品を使用するときは、すべてのアクセサリースOCKETに接続されている電気製品の消費電力合計を 120W 未満にしてください。

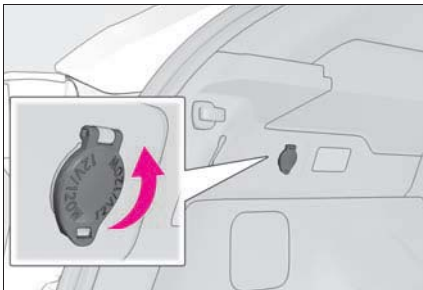
■ コンソールボックス内

フタを開けて使用する



■ ラゲージルーム内

フタを開けて使用する



■ 作動条件

エンジンスイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのとき

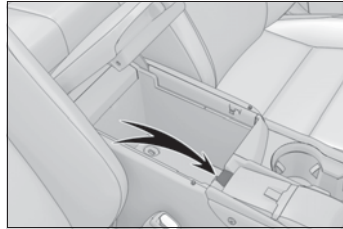
■ エンジンスイッチを OFF にするとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を

備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、エンジンスイッチを正常に OFF することができなくなる場合があります。

■ アクセサリースOCKETを使用するとき

コンソールボックスの溝に配線を通すことで、コンソールボックスを閉じた状態でも配線を外へ引き出すことができます。



⚠ 注意

■ アクセサリースOCKETを使用しないときは

ショートや故障を防ぐために、アクセサリースOCKETに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ バッテリーあがりを防ぐために

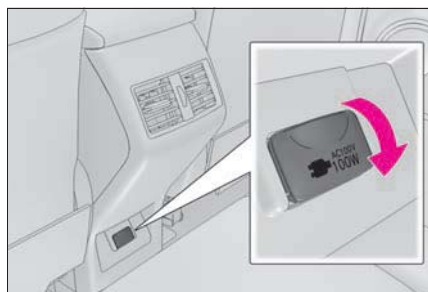
エンジンが停止した状態で、アクセサリースOCKETを長時間使用しないでください。

アクセサリコンセント★を使うには

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

AC100V で最大消費電力 100W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

フタを開けて使用する



□ 知識

■ 作動条件

エンジンスイッチがイグニッション ON モードのとき

■ Stop & Start システムが作動しているときは

Stop & Start システム Stop & Start システムの作動により、エンジン停止状態からエンジンが再始動するとき、一時的にアクセサリコンセントが使用できないことがあります。異常ではありません。

⚠ 注意

■ アクセサリコンセントを使用しないときは

ショートや故障を防ぐために、アクセサリコンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で、アクセサリコンセントを長時間使用しないでください。

■ ヒューズが切れるのを防ぐために

AC100V で最大消費電力 100W 以上の電気製品を使用しないでください。消費電力が 100W をこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。

■ 正常に使用できないおそれのある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 100W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- 電源周波数の切りかえ (50/60Hz) のある機器

■ おくだけ充電 (ワイヤレス充電器) ★を使うには

★: グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイヤレスパワーコンソーシアム (WPC) によるワイヤレス充電規格 Qi に適合したスマートフォンやモバイルバッテリーなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。

充電エリアより大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。

ご使用になる携帯機器に付属の取扱説明書もお読みください。

■ 「Qi」マークについて

「Qi」、「Qi」マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム (WPC) の登録商標です。



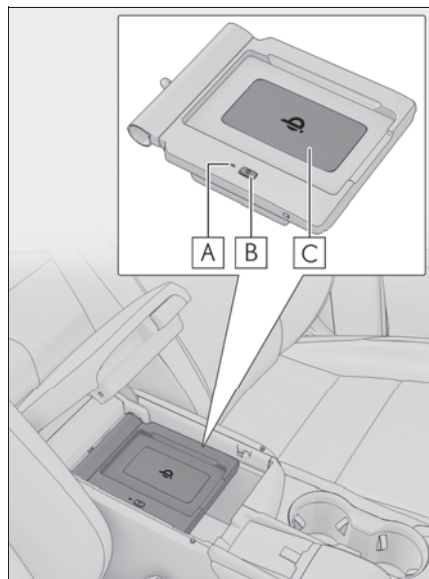
■ 「おくだけ充電」マークについて

「おくだけ充電」、「おくだけ充電」ロゴは、株式会社 NTT ドコモの登録商

標です。



■ 各部の名称



A 作動表示灯

B 電源スイッチ

C 充電エリア

■ 充電する

1 コンソールボックスのフタを開ける (→P.279)

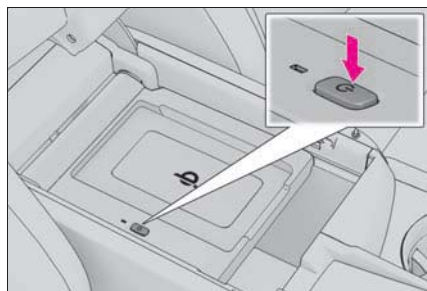
2 電源スイッチを押す

押すごとに ON と OFF に切りかわります。

ON にすると作動表示灯が緑色に点灯します。

ワイヤレス充電器の電源の状態 (ON/OFF) はエンジンスイッチを OFF にし

ても記憶されます。

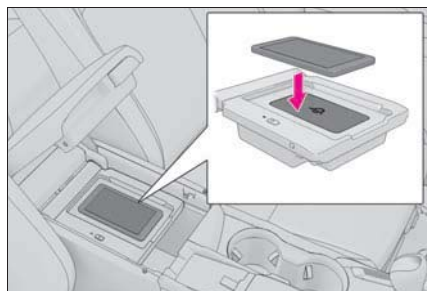


3 充電エリアに携帯機器を置く

携帯機器の充電面が下になるように置いてください。

充電中は作動表示灯が橙色に点灯します。充電が行われないときは、できるだけ充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。

充電が完了すると作動表示灯が緑色に点灯します。



● 再充電機能

- ・ 充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。
- ・ 携帯機器が移動すると、いったん充電が停止しますが、ただちに充電を再開します。

■ 作動表示灯の点灯状況

作動表示灯	状況
消灯	ワイヤレス充電器の電源が OFF のとき

作動表示灯	状況
緑（点灯）	待機中（充電可能状態）
	充電完了時※
橙（点灯）	充電エリアに携帯機器を置いたとき（携帯機器を検出中）
	充電中

※ 携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

■ 作動表示灯が点滅したときは

エラーが発生した場合の作動表示灯の状況と、想定される原因の対処方法は次の通りです。

● 1 秒間に 1 回の点滅をくり返す（橙色）

想定される原因	対処方法
車両とワイヤレス充電器の通信不良	レクサス販売店へお問い合わせください。

● 3 回連続の点滅をくり返す（橙色）

想定される原因	対処方法
異物検知： 携帯機器と充電エリアの間に異物がある	携帯機器と充電エリアの間にある異物を取り除いてください。
携帯機器のずれ： 充電エリアの中央付近から携帯機器がずれている	携帯機器を充電エリアの中央付近に置き直してください。

● 4 回連続の点滅をくり返す（橙色）

想定される原因	対処方法
ワイヤレス充電器内の温度上昇	いったん充電を停止し、しばらく待ってから充電を開始してください。

□ 知識

■ 使用条件

エンジンスイッチがアクセサリモードまたはイグニッション ON モードのとき

■ 使用できる携帯機器について

● ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、すべての Qi 準拠機器と互換性を保証しているものではありません。

● 携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。

■ 携帯機器にカバーやアクセサリを付けたときは

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリを付けた状態で充電しないでください。カバーやアクセサリの種類によっては充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いても充電が行われないときは、カバーやアクセサリをはずしてください。

■ 充電中に、AM ラジオにノイズが入るときは

ワイヤレス充電器の電源を OFF にして、ノイズが低減するか確認してください。ノイズが低減する場合は、充電中にワイヤレス充電器の電源スイッチを約 2 秒間押し続けることで、充電の周波数を切りかえてノイズを低減することができます。また、その際、作動表示灯が橙色に 2 回点滅します。

■ 充電中の留意事項

- 車室内に電子キーを検出できない場合は、充電することができません。ドアの開閉時は、一時的に充電が停止することがあります。
- 充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。

■ 作動中の音について

電源スイッチを押して電源を ON にしたときや、携帯機器を検出中は“ジー”と作動音がしますが、異常ではありません。

⚠ 警告

■ 運転中の注意

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■ 電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■ 故障ややけどを防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと装置の故障や損傷、発火、発熱によるやけどにつながるおそれがあります。

- 充電中に、充電エリアと携帯機器の間に金属物をはさまない

- 充電エリアや携帯機器にアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない
- 布などをかぶせて充電しない
- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 分解や改造、取りはずしをしない
- 強い力や衝撃をかけない

⚠ 注意

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

- 携帯機器が満充電
- 充電エリアと携帯機器の間に異物がある
- 充電により、携帯機器の温度が高温になっている
- 携帯機器の充電面を上にして置いた
- 携帯機器の置き場所が充電エリアからずれている
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいます
- 携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したタバコの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア

⚠ 注意

- 近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。レクサス販売店へお問い合わせください。

■ 故障やデータ破損を防止するために

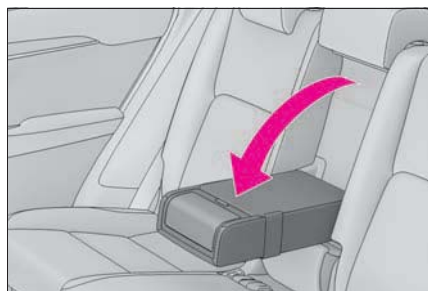
- 充電中に、充電エリアにクレジットカード・ETCカードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりするおそれがありますので、近付けないでください。

- 携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因となります。

- バッテリーあがりを防止するために
エンジンを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

リヤアームレストを使うには

手前に倒して使用します。

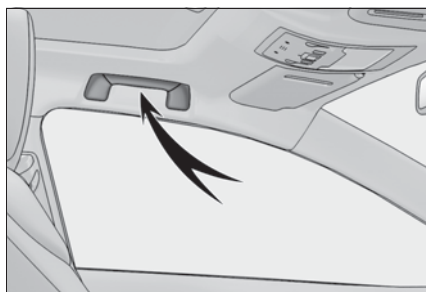


⚠ 注意

- アームレストの破損を防ぐために
過度の負荷をかけないでください。

アシストグリップを使うには

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



⚠ 警告

■ アシストグリップについて

乗降時やシートから立ち上がる時などに使用しないでください。

⚠ 注意

- アシストグリップの破損を防ぐために

破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

お手入れのしかた

6

6-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 294

内装の手入れ 297

6-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 300

ガレージジャッキ 301

ウォッシュ液の補充 302

タイヤについて 303

タイヤ空気圧について 309

エアコンフィルターの交換 310

電子キーの電池交換 311

ヒューズの点検・交換 313

電球（バルブ）の交換 315

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へよごれを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- よごれがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面のよごれを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。(および体温以下を目安としてください)

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、レクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。



知識

■セルフリストアリングコートについて

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- 新車時から5～8年のあいだ、効果が持続します。
- 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。
なお、お湯をかけて塗装を暖めると、

復元するまでの時間が短くなる場合があります。

- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

■自動洗車機を使うときは

- お車を洗う前に：
 - ・ ドアミラーを格納する
 - ・ パワーバックドアを停止する

走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。

- ブラシで車体に傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。

■高圧洗車機を使うときは

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■スマートエントリー&スタートシステムについて

- 電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。
- 電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管して、洗車などをしてください（電子キーの盗難に注意してください）。
- 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→P.106）

■アルミホイールについて

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落と

してください。

- 洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。
- 塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
 - ・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
 - ・硬いブラシを使用しない
 - ・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

- 撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。
 - ・フロントドアガラス表面の泥などのよごれを落とす
 - ・よごれは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
 - ・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラススクリーナーやワックスを使用しない
 - ・金属製の道具で霜取りをしない
- 水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

▲ 警告

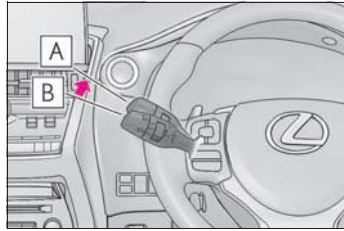
■洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。

電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

■フロントウインドウガラスを清掃するときは

ワイパースイッチを OFF にしてください。AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。



A OFF

B AUTO

- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■排気管について

排気管は排気ガスにより高温になります。洗車などでふれる場合は、十分に排気管が冷めてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

警告

■ ブラインドスポットモニター★について

リヤバンパーの塗装に傷が付くと、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。レクサス販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■ 塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

● 次のような場合は、ただちに洗車してください。

- ・ 海岸地帯を走行したあと
- ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
- ・ コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
- ・ ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
- ・ ほこり・泥などで激しくよごれたとき
- ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

● 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。

● ホイール保管時は、腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■ ワイパーアームの損傷を防ぐために

ワイパーアームを立てるときは、必ず運転席側を先に立ててから助手席側を立ててください。また、もとにもどすときは、必ず助手席側から先にもどしてください。

■ ランプの清掃

● 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。

ランプを損傷させるおそれがあります。

● ランプにワックスがけを行わないでください。

レンズを損傷するおそれがあります。

■ 自動洗車機を使用するときは

ワイパースイッチを OFF にしてください。（→P.169, 171）

AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

■ 高圧洗浄機を使用するときは

● 洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

● ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。

高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

- ・ 駆動系部品
- ・ ステアリング部品
- ・ サスペンション部品
- ・ ブレーキ部品

 注意

- モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。
- フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

車内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

 知識

■ カーベットの洗浄について

カーベットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーベットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■ シートベルトの取扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■ スーパー UV カットガラスについて

- ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。(→P.34)
電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。
 - ・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
 - ・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤
- 艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次のことをお守りください。

- 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く
- 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。(→P.176)

■フロントウインドウガラス・リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。
- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

 注意**■ スーパー UV カットガラスを清掃するときは**

ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

サテン仕上げ金属コーティング部分の手入れをするには

- 水で湿らせたやわらかい布または合成セーム皮で汚れをふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面に残った水分を完全にふき取る

 知識**■ サテン仕上げ金属コーティング部分のお手入れについて**

表面に本物の金属層を使用していますので、普段のお手入れが大切です。汚れたまま長い間放置すると、汚れが落ちにくくなります。

本革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、よごれをふき取る

ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。

- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

 知識**■ 本革部分のお手入れの目安**

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

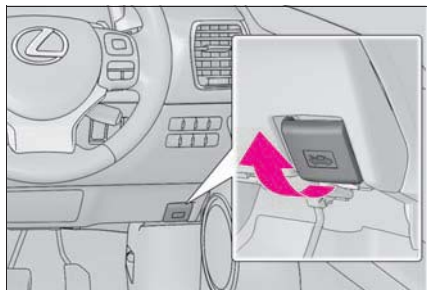
合成皮革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1% に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

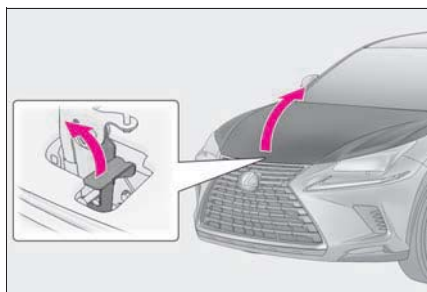
ボンネット

ボンネットを開けるには

- 1 ボンネット解除レバーを引く
ボンネットが少し浮き上がります。



- 2 レバーを引き上げてボンネットを開ける



警告

■ 走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因になったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるときは

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



注意

■ ボンネットへの損傷を防ぐために

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

⚠ 注意

- ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。
 - ・ ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
 - ・ ロッド部を軍手などでふれない
 - ・ ボンネットにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を付けない
 - ・ ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

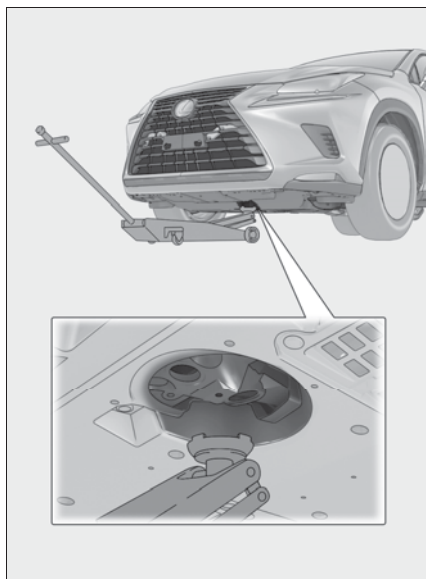
ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。

正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

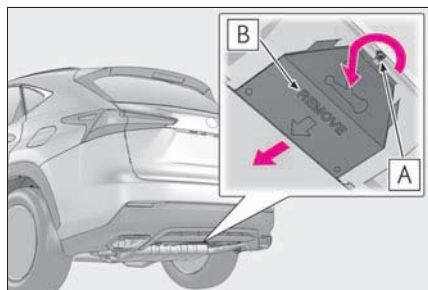
ジャッキポイントの位置を確認する

■ フロント側

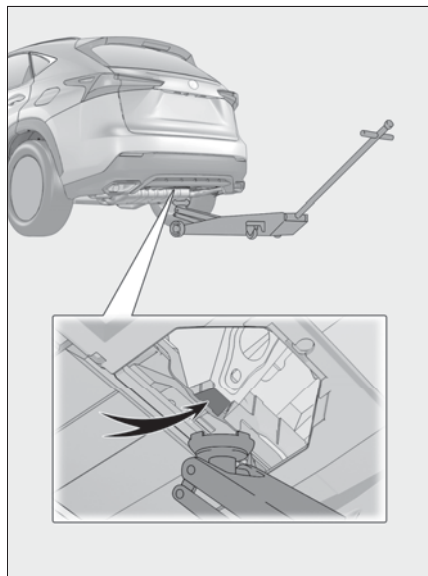


■ リヤ側

- 1 ネジ[A]をはずし、カバー[B]を取りはずす



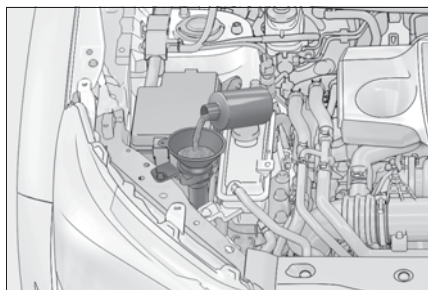
- 2 ガレージジャッキで車両を持ち上げる



ウォッシャー液の補充

補充するには

ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに「ウォッシャー液を補充してください」が表示されたら、ウォッシャー液を補充してください。



⚠ 警告

■ ウォッシャー液を補充するとき

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を5,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

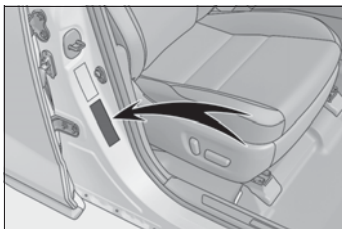
● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無



知識

■ タイヤ空気圧について

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。



▶ 225/65R17 102H

前輪：240kPa (2.4kg/cm²) ※

後輪：240kPa (2.4kg/cm²) ※

▶ 225/60R18 100H

前輪：220kPa (2.2kg/cm²) ※

後輪：220kPa (2.2kg/cm²) ※

▶ 235/55R18 100V

前輪：220kPa (2.2kg/cm²) ※

後輪：220kPa (2.2kg/cm²) ※

▶ 応急用タイヤ★：420kPa (4.2kg/cm²) ※

※ タイヤが冷えているときの空気圧

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。



警告

■ 点検・交換時について

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する

● メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない

● ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない

警告

- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ（マッド&スノータイヤ）・冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

■ 異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じる場合があります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■ 異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ 走行中に空気もれが起こったら

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

- タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、レクサス販売店へご相談ください。
- レクサス指定の純正ホイールを使用してください。
レクサス指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。
- ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。
- バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが固着する場合があります。
- バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

■ バンク修理剤を使用したとき

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

■ 悪路走行に対する注意

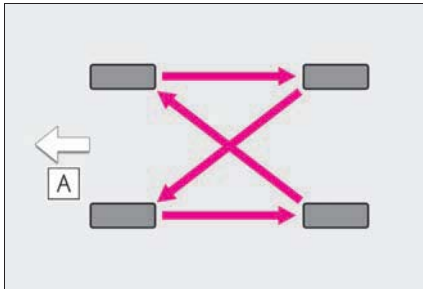
段差や凹凸のある路上を走行するときには注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示す順にタイヤのローテーションを行う

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、レクサスは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システムの初期化を確実に行ってください。



A 前側



■ タイヤローテーションを行うとき（タイヤ空気圧警報システム [空気圧表示機能付] 装着車）

必ずエンジンスイッチがOFFの状態で行ってください。イグニッションONモードのままタイヤローテーションを行うと、タイヤ位置情報が更新されません。誤ってそのような状態になってしまったときは、エンジンスイッチをいったんOFFにしてから再度イグニッションONモードにするか、タイヤ空気圧が正しく調整されていることを確認した上で、初期化操作を行ってください。

タイヤ空気圧警報システム

ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

- 空気圧が一定値をこえて低下している場合、警告灯で警報します。（→P.331）
- タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をマルチインフォメーションディスプレイに表示できません。★



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。



■ タイヤ空気圧警報システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。

日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

■ タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

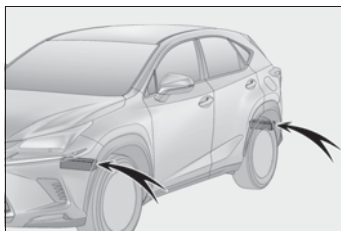
- 次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。
 - ・ 純正ホイール以外を使用したとき

- ・純正装着タイヤ以外に交換したとき
- ・指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
- ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- ・電波を遮断するフィルムがフロント・リヤウィンドウガラス、ドアガラスに貼り付けられているとき
- ・車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
- ・タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
- ・タイヤ空気圧警報バルブ／送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
- ・タイヤ空気圧警報バルブ／送信機のIDがタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき
- 次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。
 - ・近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
 - ・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき
- 停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。
- タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。

⚠ 警告

■ 電波がおよぼす影響についての警告 （タイヤ空気圧警報システム [空気圧表示機能付] 装着車）

- 植え込み型心臓ペースメーカー、植え込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植え込み型除細動器を装着されている方は、アンテナから約 45cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカー、植え込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。



- 植え込み型心臓ペースメーカー、植え込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。バルブ／送信機を装着するには、次の3つの方法があります。

- もとのホイールからバルブ／送信

機をはずし、新しいホイールに付けかえる

- ホイールはバルブ／送信機が付いたままとのものを使い、タイヤだけを交換する
- ホイールとバルブ／送信機共に新しいものにかける

新しいバルブ／送信機を装着する場合は専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。登録の際は、レクサス販売店へご依頼ください。

(→P.308)



知識

■ ホイールごとタイヤを交換するとき

ホイールごとタイヤを交換するときはタイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約 20 分間走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。

タイヤ空気圧警報システムを初期化するには

■ 初期化が必要な場合

次のときは初期化操作を行ってください。

- タイヤローテーションを実施したとき
- タイヤ空気圧を調整したとき
- バルブ／送信機を交換したとき
- タイヤを交換したとき

システムを初期化すると、現在のタイヤの空気圧が標準値として記憶されます。

■ 初期化のしかた

- 1 車を安全な場所に駐車し、エンジンを停止する

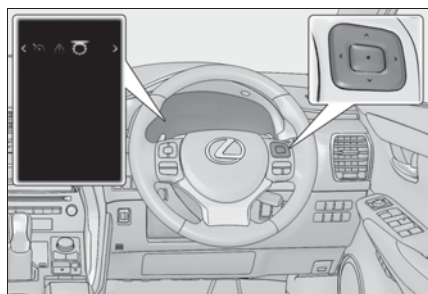
車両が動いているときは、初期化できません。

- 2 タイヤの空気圧を指定の数値に調整する

タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。

- 3 エンジンスイッチをイグニッション ON モードにする

- 4 メーター操作スイッチの **◀** または **▶** を押して  を選択する



- 5 メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押し、「車両設定」を選択し **●** を押す
- 6 メーター操作スイッチの **▲** または **▼** を押し、「TPMS」を選択し **●** を長押しする

メーターに “ 初期化を受け付けました ” と表示され、タイヤ空気圧警告灯が 3 回点滅します。

メッセージが消えると初期化が完了しま

す。

知識

■ 初期化操作について

- 必ず指定空気圧に調整した上で初期化してください。
なお、空気圧の調整および初期化操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。
- 初期化中にエンジンスイッチを OFF にしてしまった場合は、次回イグニッション ON モードにしたとき、自動的に初期化処理が再開されるため、あらためて初期化操作をやり直す必要はありません。
- 初期化の必要がない状態で誤って初期化操作をしてしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度初期化操作を行ってください。

■ タイヤ空気圧警報システムの初期化がうまくいかないとき

通常 2、3 分で終了します。ただし、次の場合は、初期化されておらずシステムが適切に動かないおそれがありますので、初期化し直してください。それでもうまくいかないときは、レクサス販売店にて点検を受けてください。

- 初期化操作時に警告灯が 3 回点滅しない場合（走行中は初期化を受け付けません）
- 初期化してから約 20 分走行したあと、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅後点灯した場合

警告

■ タイヤ空気圧警報システムを初期化するとき

必ず指定空気圧に調整してから初期化操作をしてください。

お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

ID コードの登録について

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されており、タイヤ空気圧バルブ／送信機の交換時は、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。ID コードの登録については、レクサス販売店にご依頼ください。

知識

■ ID コードの登録について

車 1 台に対して、最大 2 セット分のホイールの ID コードを登録することができます。通常使用するタイヤとは別に、冬用タイヤを装着したホイールの ID コードをあらかじめ登録しておけば、冬用タイヤへの交換時に ID コードを登録しなおす必要がなく、便利です。ID コードの切りかえについては、レクサス販売店にご依頼ください。

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に1回以上実施してください。



知識

■ タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 燃費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、レクサス販売店でタイヤの点検を受けてください。

■ タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。



警告

■ タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大（路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）



注意

■ タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

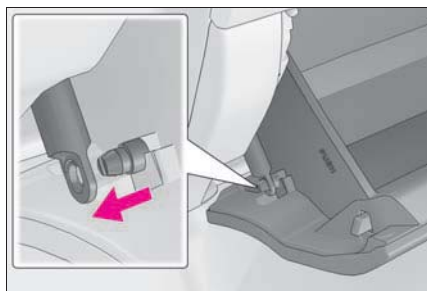
バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

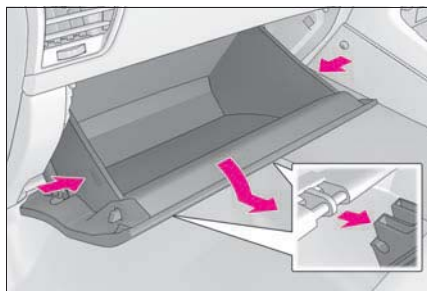
エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換するには

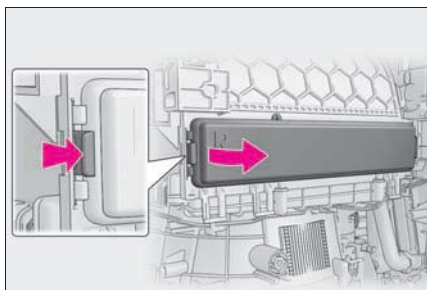
- 1 エンジンスイッチを OFF にする
- 2 グローブボックスを開き、ダンパーステアのピンをはずす



- 3 グローブボックス側面を内側に押し、上部のツメを片側ずつはずし、下部のツメをはずして取りはずす

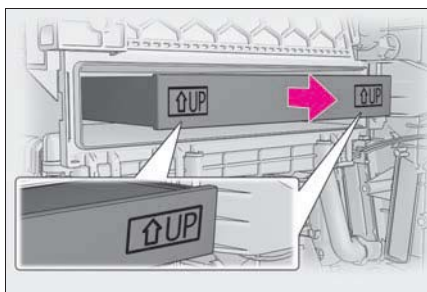


4 フィルターカバーを取りはずす



5 フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。



知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

15,000km[7,500km^{※1}] ごと、ただし12ヶ月をこえないこと ^{※2}

^{※1}大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

^{※2}芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますの

で、フィルターを交換してください。

 注意

■ エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

 知識

■ カードキーの電池交換が必要なときは

カードキーの電池は市販されていないため、レクサス販売店で交換してください。

■ 電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

事前に準備するもの

交換をするには、次のものを準備してください。

- マイナスドライバー
- リチウム電池：CR2032

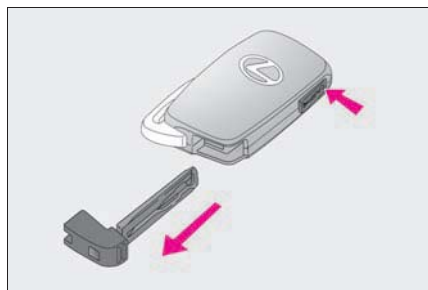
 知識

■ リチウム電池 CR2032 の入手

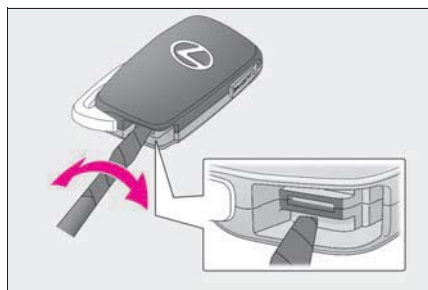
電池はレクサス販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

電池を交換するには

1 メカニカルキーを抜く



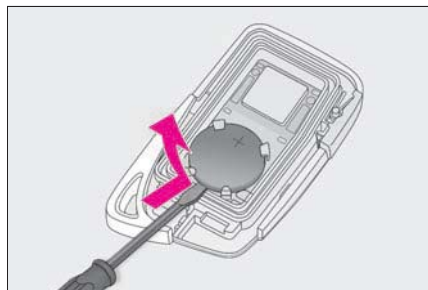
2 カバーをはずす



傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

3 消耗した電池を取り出す

新しい電池は、+極を上にして取り付けます。



警告

■ 取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、
のどなどにつまらせ重大な傷害におよ
ぶか、最悪の場合死亡につながるおそ
れがあります。

注意

■ 交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

- めれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かし
たりしない
- 電極を曲げない

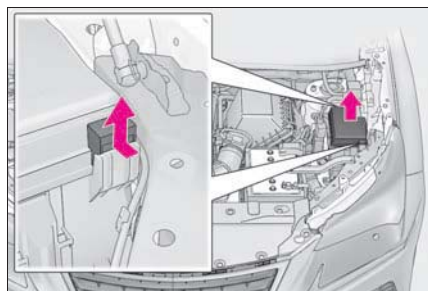
ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

ヒューズの点検・交換をするには

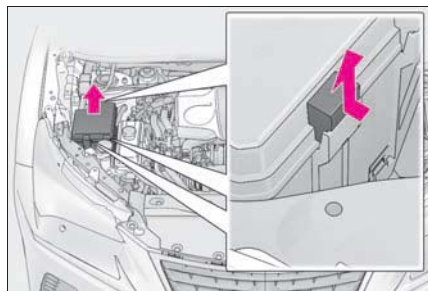
- 1 エンジンスイッチを OFF にする
 - 2 ヒューズボックスを開ける
- ▶ エンジンルーム（ヒューズボックス A）

ツメを押してロックをはずし、カバーを持ち上げる



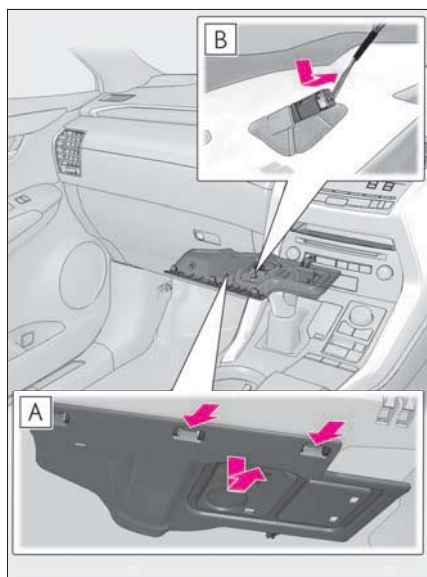
- ▶ エンジンルーム（ヒューズボックス B）

ツメを押してロックをはずし、カバーを持ち上げる

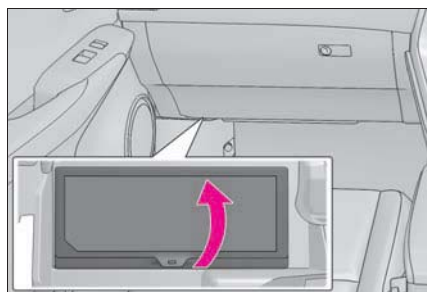


▶ 助手席足元

足元のカバー **A** を取りはずし、足元照明のコネクター **B** を取りはずす



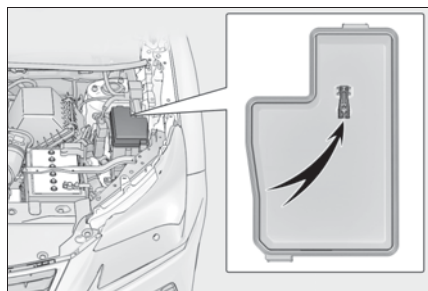
ヒューズボックスカバーを取りはずす



3 ヒューズを引き抜く

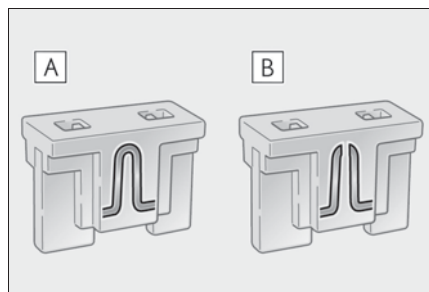
ヒューズはずしでヒューズを引き抜くこ

とができます。



4 ヒューズが切れていないか点検する

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。



A 正常

B ヒューズ切れ

 知識

■ ヒューズを交換したあと

- カバーを取り付けるときは、ツメをしっかりと取り付けてください。
- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れ

るように設計されています。

■ 電球（バルブ）を交換するときは

この車両に指定されているレクサス純正品のご使用をおすすめします。

一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のレクサス純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■ 車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■ ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

もし LED がひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。



知識

■ LED ランプについて

- ヘッドランプ
- 車幅灯／LED テイライト
- フロント方向指示灯／非常点滅灯
- フロントフォグランプ／コーナリングランプ
- リヤフォグランプ
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 尾灯
- 制動灯
- ハイマウントストップランプ
- リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- 後退灯
- 番号灯
- アウトサイドドアハンドル照明

上記のランプは LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

■ レンズ内の水滴と曇り

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

7-1. まず初めに

故障したときは.....	318
非常点滅灯（ハザードランプ）..	319
発炎筒	319
車両を緊急停止するには	320
水没したときは.....	321

7-2. 緊急時の対処法

けん引について.....	322
フューエルポンプシャットオフシ テム	326
警告灯がついたときは	327
警告メッセージが表示されたときは	334
パンクしたときは（タイヤパンク応 急修理キット装着車）	336
パンクしたときは（応急用タイヤ装 着車）.....	347
エンジンが始動できないときは	354
キーをなくしたときは	356
給油扉が開かないときは	356
電子キーが正常に働かないときは	357
バッテリーがあがったときは ..	359
オーバーヒートしたときは	362
スタックしたときは.....	365

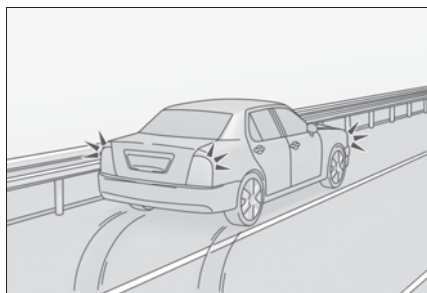
故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

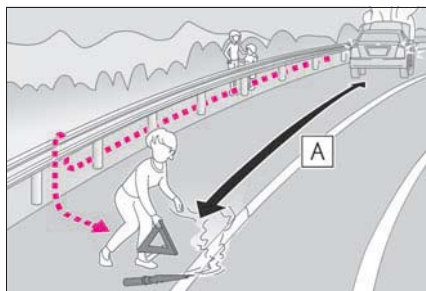
対処のしかた

- 非常点滅灯（→P.319）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



- 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う
- 1 同乗者を避難させる
 - 2 車両の50m 以上後方[A]に発炎筒（→P.319）と停止表示板を置く
 - ・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。
 - ・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

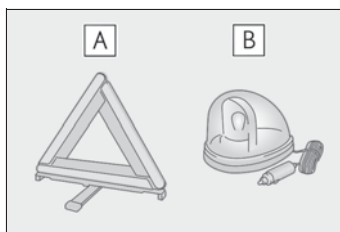


- 3 その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

■ 停止表示板・停止表示灯について

- 高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。
- 停止表示板・停止表示灯のご購入については、レクサス販売店にお問い合わせください。



[A] 停止表示板

[B] 停止表示灯

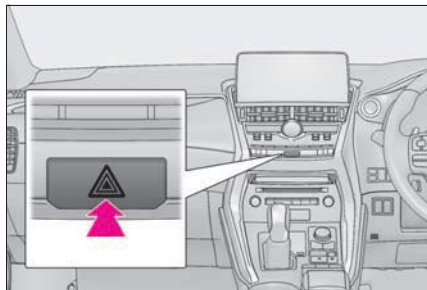
非常点滅灯（ハザードランプ）

故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示燈が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



■ 非常点滅灯について

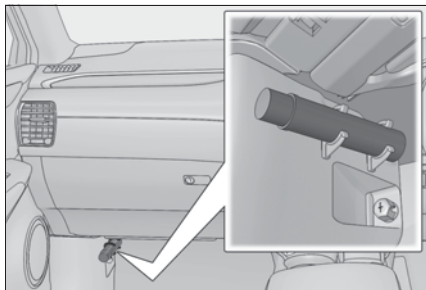
エンジン停止中に、非常点滅灯を長時間使用すると、バッテリーがあがるおそれがあります。

発炎筒

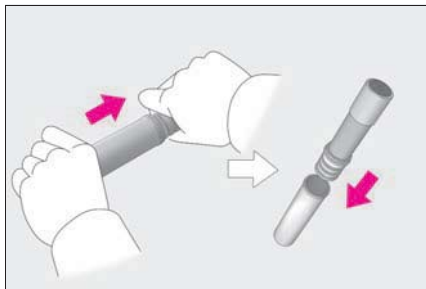
高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

1 助手席足元の発炎筒を取り出す



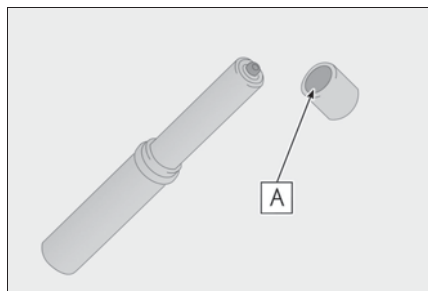
2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬Aで発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。



知識

■ 発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、レクサス販売店で求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。



警告

■ 発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。

煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ 発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車を停止させてください。

車を停止するには

- 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

- 2 シフトレバーを N に入れる

▶ シフトレバーが N に入った場合

- 3 減速後、車を安全な道路脇に停める

- 4 エンジンを停止する

▶ シフトレバーが N に入らない場合

- 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

- 4 エンジンスイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してエンジンを停止する



- 5 車を安全な道路脇に停める

⚠ 警告

■ 走行中にやむを得ずエンジンを停止するとき

ブレーキの効きが悪くなると共にハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没したときは

万一、車両が水没したときは、落ち着いて次のように対処してください。

- まずシートベルトをはずしてください。
- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて窓から車外に出てください。
- パワーウインドウスイッチでドアガラスが開けられない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

⚠ 警告

■ 緊急脱出用ハンマー※の使用について

この車両のフロントドアガラス・リヤドアガラス・リヤウインドウガラスは緊急脱出用ハンマー※で割ることはできますが、フロントウインドウガラスは合わせガラスのため、緊急脱出用ハンマー※で割ることができません。

※ 詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

■ 窓から車外に出るときは

着座位置、乗員の体格等によっては、窓から車外に脱出できない場合があります。

けん引について

けん引は、できるだけレックス販売店または専門業者に依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

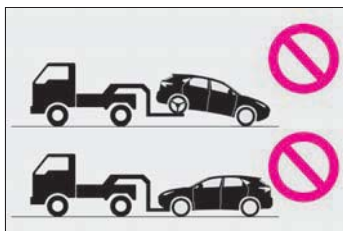
警告

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ レッカー車でけん引するとき

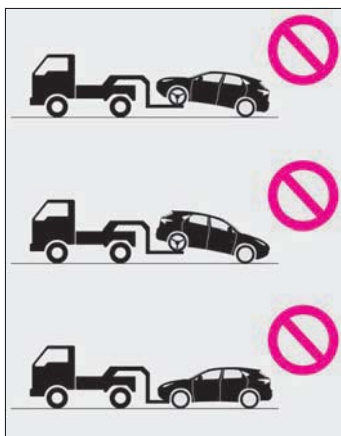
▶ FF（前輪駆動）

必ず前輪を持ち上げるか、4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損するおそれがあります。



▶ AWD（4輪駆動）

4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり車が台車から飛び出したりするおそれがあります。



■ 他車にけん引してもらうときの運転について

- けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。
- エンジンスイッチをOFFにしないでください。
ハンドルがロックされ、ハンドル操作ができなくなるおそれがあります。
- けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。

指定の位置にしっかりと取り付けないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

⚠ 注意

■ 車両の損傷を防ぐために

- 他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。
 - ・ ワイヤーロープは使用しない
 - ・ 速度 30km/h 以下、距離 80km 以内にけん引する
 - ・ 前進方向でけん引する
 - ・ サスペンション部などにロープをかけない
- この車両で他車やポート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■ 長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で前輪を持ち上げるか（FF [前輪駆動]）、4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■ 緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

- やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- 緊急用フックで他車をけん引しないでください。

■ Stop & Start システム装着車をけん引するときは

4 輪すべてを接地した状態でけん引が必要な場合は、システム保護のため、けん引される前にいったんエンジンスイッチを OFF にしてから、エンジン始動またはエンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。

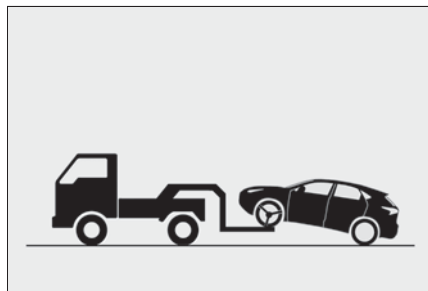
けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、レクサス販売店または専門業者へご連絡ください。

- エンジンがかかるが車が動かない
- 異常な音がする

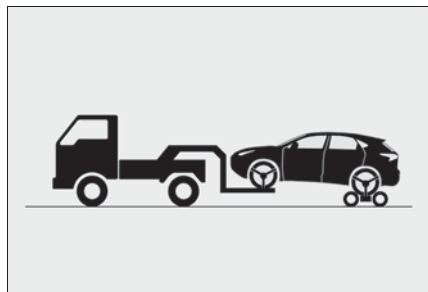
レッカー車でけん引するには

- ▶ 前向きにけん引するときは
FF（前輪駆動）



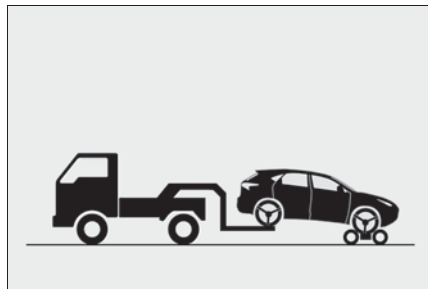
パーキングブレーキを解除する

- ▶ 前向きにけん引するときは
AWD（4 輪駆動）



台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは



台車を使用して前輪を持ち上げる



注意

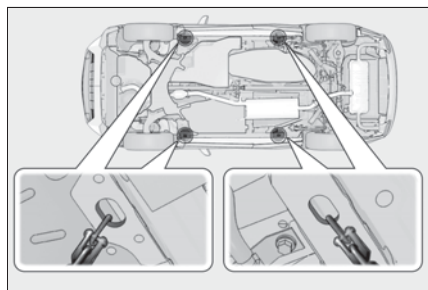
■ レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。



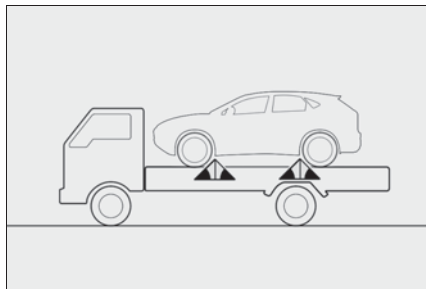
車両運搬車を使用するには

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が

45° になるように固縛する



注意

■ 車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等に過度に締め付け過ぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

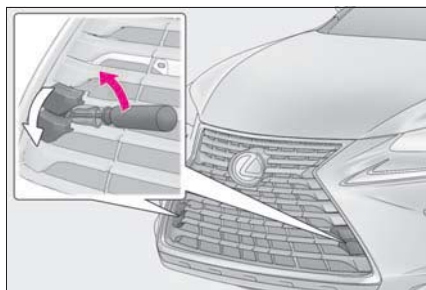
他車にけん引してもらうには

他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

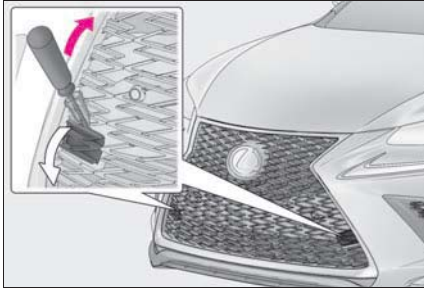
- 1 けん引フックを取り出す
(→P.337, 347)
- 2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

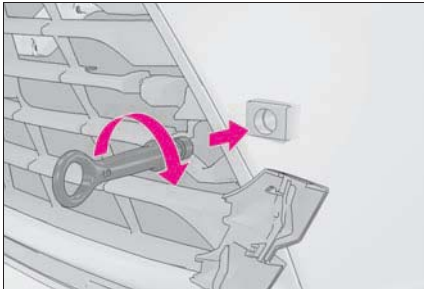
▶ タイプ A



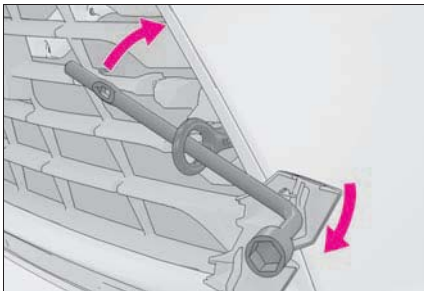
▶ タイプ B



- 3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



- 4 ホイールナットレンチや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

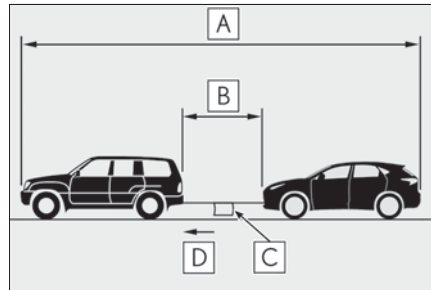


- 5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

- 6 ロープの中央に白い布を付ける
布の大きさ：

0.3m 平方 (30cm×30cm) 以上



A 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布

D けん引方向

- 7 運転者はけん引される車両に乗り、エンジンをかける

エンジンがかからないときは、エンジンスイッチをイグニッション ON モードにしてください。

- 8 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

シフトレバーがシフトできないときは：→P.149

□ 知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常

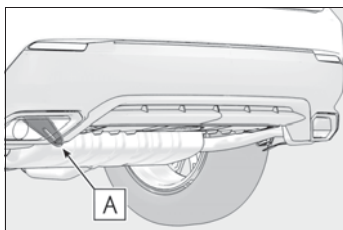
より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

ラゲージルームに搭載されています。
(→P.337, 347)

■緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



A 緊急用フック

フューエルポンプシャット オフシステム

エンジン停止時および SRS エアバッグ作動時は、フューエルポンプシャットオフシステムが作動し、燃料供給を停止し、燃料もれを最小限に抑えます。

エンジンを始動するには

システムが作動したあと、エンジンを始動するには、次の手順に従ってください。

- 1 エンジンスイッチをアクセサリモードまたは OFF にする
- 2 エンジンを再始動する

注意

■エンジンを始動する前に

車両下をよく確認してください。
地面に燃料もれを見つけた場合は、燃料システムに損傷があり、修理する必要があります。その場合はエンジンを再始動しないでください。

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (赤色)	●ブレーキ液の不足 ●ブレーキシステムの異常 → ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

■ 充電警告灯 ※

警告灯	警告内容・対処方法
	充電システムの異常 → ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 油圧警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジンオイルの圧力が異常に低いと表示されます。 → ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 高水温警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	エンジン冷却水の高温異常 → ただちに安全な場所に停車してください。走行を続けると危険です。対処方法（→P.362）

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	●電動パーキングブレーキシステムの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ エンジン警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●エンジン電子制御システムの異常 ●電子制御スロットルの異常 ●オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●SRS エアバッグシステムの異常 ●プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ ABS & ブレーキアシスト警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●ABS の異常 ●ブレーキアシストの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (黄色)	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
 (赤色)	

■ PCS 警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅または点灯)	警告ブザーが鳴った場合：プリクラッシュセーフティの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。 警告ブザーが鳴らない場合：プリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。(→P.178, 334) プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。 → P.186

■ LTA 表示灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (橙色)	LTA（レーントレーシングアシスト）の異常 → マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。(→P.195)

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ PKSB OFF 表示灯★（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
 (点滅)	ブザーが鳴った場合： パーキングサポートブレーキ（静止物）の異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。 ブザーが鳴らなかった場合： センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない → 汚れおよび氷などを取り除いてください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●VSC システムの異常 ●TRC システムの異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 VSC・TRC システム作動時は点滅します。 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ ブレーキホールド作動表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	ブレーキホールドシステムの異常 → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ パーキングブレーキ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性があります。 → パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。 パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。 解除後、消灯すれば正常です。

■ 燃料残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	燃料の残量が約 9.0L 以下になった → 燃料を補給する

■ シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 → シートベルトを着用する

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20km/h 以上になると警告ブザーが 1 回鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルトを非着用のまま 24 秒を経過すると、30 秒間断続的に鳴り、さらにブザーの音がかわり 90 秒間鳴ります。

■ マスターウォーニング

警告灯	警告内容・対処方法
	システムの異常時にブザーと共に点灯・点滅し、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージを表示します。 → P.334

■ タイヤ空気圧警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	警告灯が点灯した場合： 次のようなタイヤ空気圧の低下を表します。 ●自然要因（→P.332） ●タイヤのパンク（→P.336, 347） → 指定された空気圧に調整してください。 調整して数分後に警告灯が消灯します。 空気圧を調整しても警告灯が消灯しない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。 警告灯が1分間点滅したあとに点灯した場合： タイヤ空気圧警報システムに異常があります。 → レクサス販売店で点検を受けてください。

■ ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ブレーキオーバーライドシステム アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたことによりブレーキオーバーライドシステムが作動 → アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。 ブレーキオーバーライドシステムの異常（警告ブザー） → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。 ドライブスタートコントロール アクセルペダルを踏んだ状態でシフト操作が行われたことによりドライブスタートコントロールが作動（警告ブザー） → ただちにアクセルペダルを離してください。 ドライブスタートコントロールの異常（警告ブザー） → ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。



知識

■ シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■ エンジン警告灯が走行中に点灯したとき

以下をチェックしてください。

- 燃料タンクは空ですか？もしそうであれば、すぐに給油してください。
- 燃料キャップは緩んでいませんか？そうであれば、しっかり締めてください。
何度か走行すると、エンジン警告灯が消灯します。
何度か走行してもエンジン警告灯が消灯しない場合、ディーラーへご相談ください。

■ パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

空気圧を確認し、適切な値に調整してください。

■ 自然要因によるタイヤ空気圧警報について

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この

場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯します。

■ タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれがある状況

→P.305

■ 警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。



警告

■ ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店にご連絡ください。
ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操舵力補助が制限され、赤色に点灯したときは操舵力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなる場合があります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

 警告**■ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を調整してください。
- タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯する場合はタイヤがパンクしている可能性があります。タイヤを確認し、パンクしている場合は応急用タイヤに交換するかタイヤパンク応急修理キットで応急修理し、最寄りのレクサス販売店でタイヤを修理してください。
- 急ハンドル・急ブレーキを避けてください。
タイヤの状態が悪化すると、ハンドル操作やブレーキが効かなくなるおそれがあります。

■ タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

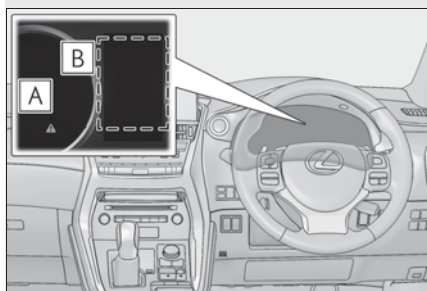
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。
- タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、初期化操作（→P.307）では解除できません。

 注意**■ タイヤ空気圧警報システムについての注意**

- 純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。



A マスターウォーニング

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき、点灯・点滅します。

B マルチインフォメーション

ディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

	専用警告灯	警告ブザー ※	警告内容
点灯	—	あり	走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。
—	点灯または点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点滅	—	あり	車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯	—	なし	電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。
点滅	—	なし	車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

知識

■ 警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■ 専用警告灯について

次の内容のメッセージが表示されたときは、マスターウォーニングが点灯・点滅しません。その場合は個別の専用警告表示を行います。

● ABS の異常

ABS & ブレーキアシスト警告灯が点灯します。(→P.328)

● 充電系統の異常

充電警告灯が点灯します。(→P.327)

■「前方カメラ一時使用不可しばらくお待ちください」または「前方カメラ一時使用不可取扱書を確認ください」が表示されたとき

次のシステムが一時的もしくは対処を行うまで使用できなくなります。(→P.178, 329)

- PCS (プリクラッシュセーフティ)
- LTA (レーントレーシングアシスト)
- AHS (アダプティブハイビームシステム)
- オートマチックハイビーム
- RSA (ロードサインアシスト)
- レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き)
- 先行車発進告知機能

- 「クルーズコントロール 一時使用不可 取扱書を確認ください」が表示されたとき

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）のシステムが一時的、または対処を行うまで使用できません。（要因および対処方法 →P.178）

- 「クルーズコントロール現在使用できません」が表示されたとき

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）のシステムが一時的に使用不可と判断されています。しばらく走行してからレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を再度設定してください。

- 「取扱書を確認」の警告メッセージが表示されたときは

- 次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従ってください。
 - ・「エンジン冷却水高温」（→P.362）
- 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
 - ・「エンジン油圧不足」
 - ・「充電システム故障」
 - ・「AT オイル高温」
 - ・「故障のためブレーキ力が低下」
 - ・「スマートエントリー&スタートシステム故障」

- 警告ブザーについて

→P.332



注意

- 「電力消費が大きいため一部の空調・ヒータ作動を制限中」がひんばんに表示されるときは

充電系の異常やバッテリーが劣化している可能性があります。レクサス販売店で点検を受けてください。

パンクしたときは（タイヤパンク応急修理キット装着車）

タイヤパンク応急修理キット装着車には、応急用タイヤが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、レクサス販売店にご相談ください。

⚠ 警告

- タイヤがパンクしたときは

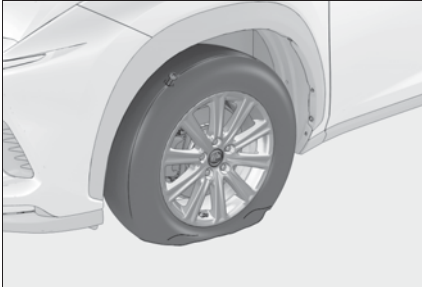
パンクしたまま走行しないでください。短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P にする
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる（→P.319）
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

- ・タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- ・パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。



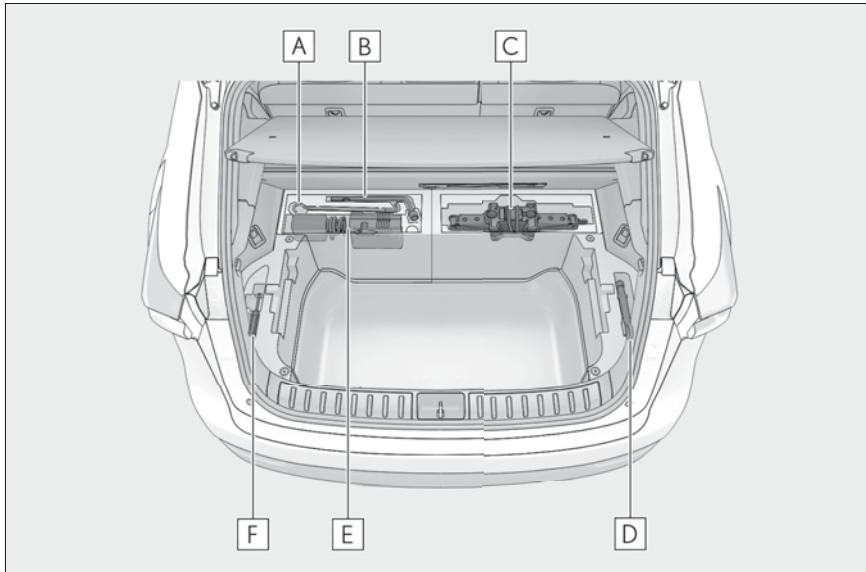
知識

■ 応急修理キットで修理できないパンク

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

タイヤパンク応急修理キットと工具の位置

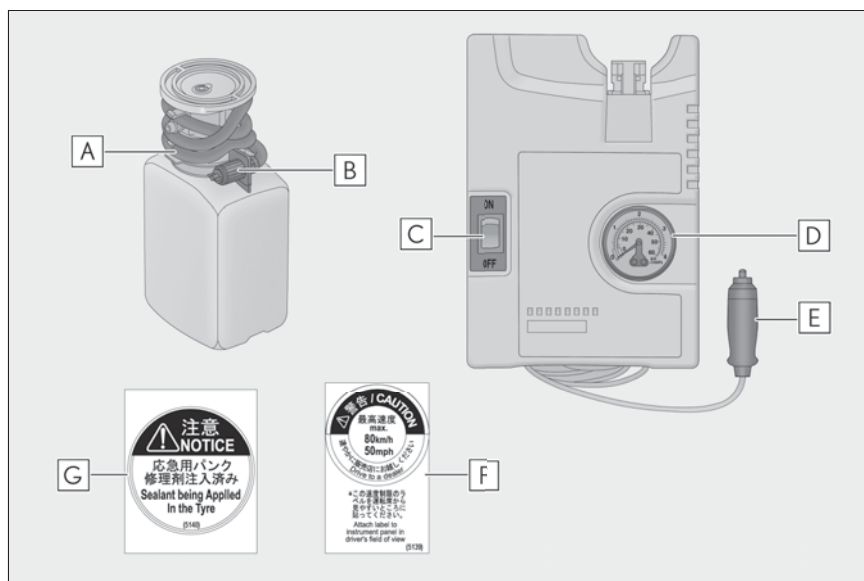


A ジャッキハンドル

- B** ホイールナットレンチ
- C** ジャッキ ※
- D** けん引フック
- E** タイヤパンク修理キット
- F** ドライバー

※ ジャッキの使い方 (→P.350)

応急修理キットの内容



- A** ホース
- B** 空気逃がしキャップ
- C** 電源スイッチ
- D** 空気圧計
- E** 電源プラグ
- F** 速度制限ラベル
- G** パンク補修液注入済ラベル

知識

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは自動車タイヤの空気充填用です。
- パンク補修液には有効期限があります。有効期限は容器に表示されています。有効期限が切れる前に交換してください。交換については、レクサス販売店にご相談ください。
- 応急修理キットのパンク補修液は、1本のタイヤを一度だけ応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、レクサス販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。
- 外気温度が-40℃～60℃のときに使用できます。
- 応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。
- 応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。
- タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■ 応急修理キットの点検について

パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。有効期限が切れたパンク修理液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

警告

■ 応急修理キットについて

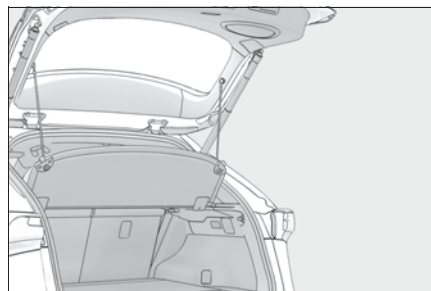
- 応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ パンク補修液について

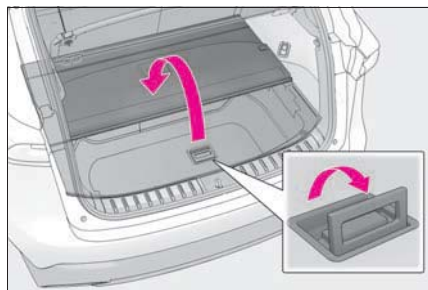
- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

応急修理キットを取り出すには

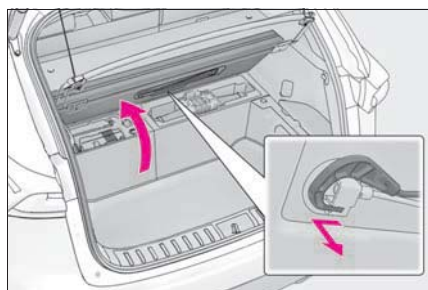
1 バックドアを開ける



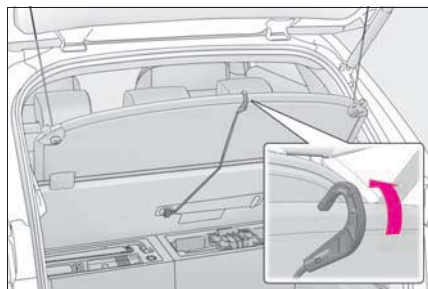
- 2 レバーを引き上げて、デッキボードを折りたたむ



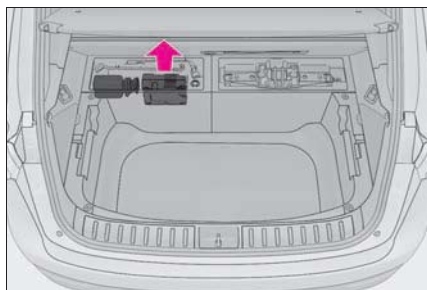
- 3 デッキボードを持ち上げて、裏面のフックを取りはずす



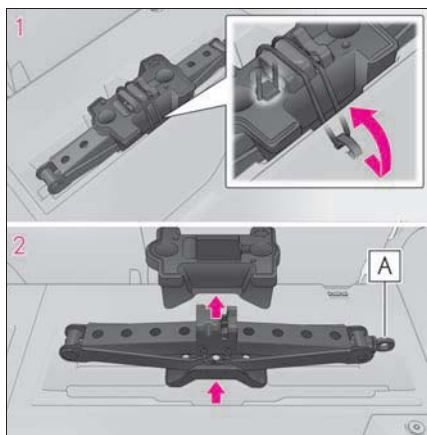
- 4 フックをトノボードに引っかけて固定する



- 5 応急修理キットを取り出す



ジャッキを取り出すには



- 1 ゴムバンドをはずす
2 カバーを取りはずし、ジャッキを取り出す

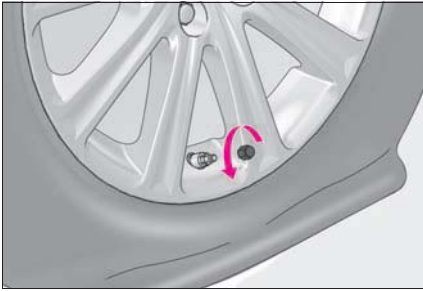
ジャッキの使い方 (→P.350)

ジャッキを収納するときは、ジャッキの **A** 部を回して動かなくなるまで縮めたあと、カバーを押し込んでからゴムバンドで固定する。

応急修理をするには

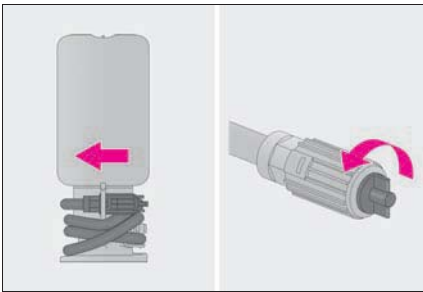
- 1 応急修理キットを取り出す

- 2 パンクしたタイヤのバルブから、バルブキャップを取りはずす



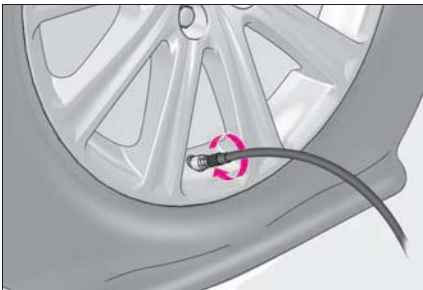
- 3 ホースをのばし、空気逃しキャップを取りはずす

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

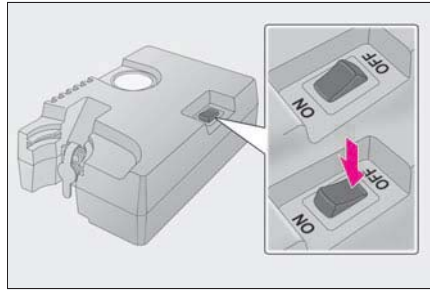


- 4 ホースをバルブに接続する

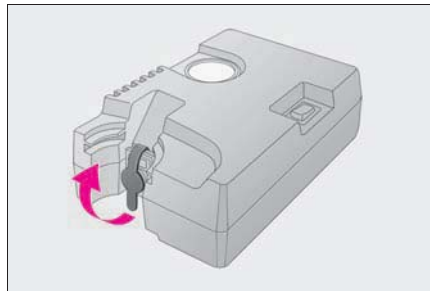
ホース先端を時計まわりにまわして、できるだけ奥までねじ込みます。



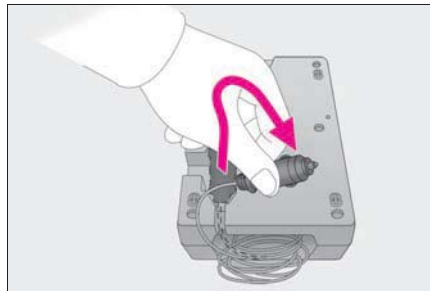
- 5 コンプレッサーのスイッチがOFFであることを確認する



- 6 コンプレッサーのゴム栓をはずす



- 7 コンプレッサーの電源プラグを取りはずす

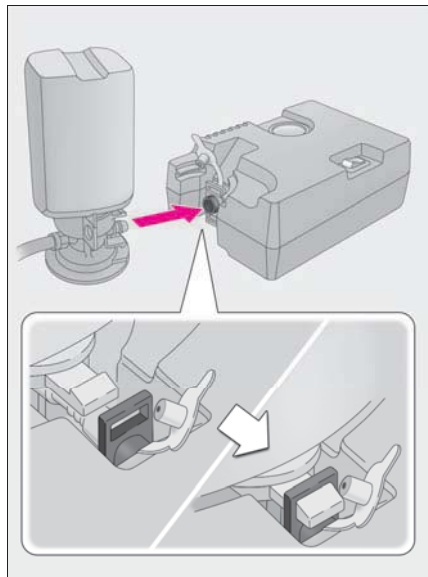


- 8 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む (→P.287)

- 9 ボトルをコンプレッサーに接続する

しっかり接続されているか確認してくだ

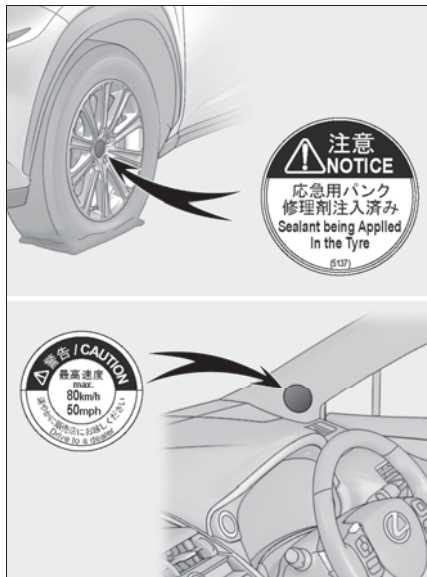
さい。



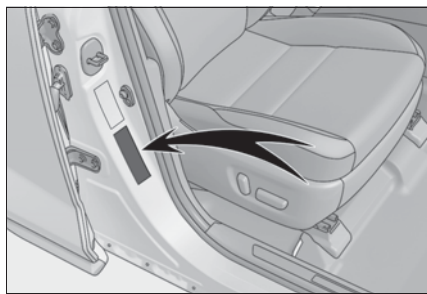
10 付属のラベル 2 枚を図のように
それぞれ貼り付ける

ホイールの汚れや水分を十分にふき取ってからラベルを貼り付けてください。ラベルを貼り付けることができない場合は、レクサス販売店にてタイヤを修理・交換するときにパンク補修液注入済みである

ことを必ずお伝えください。

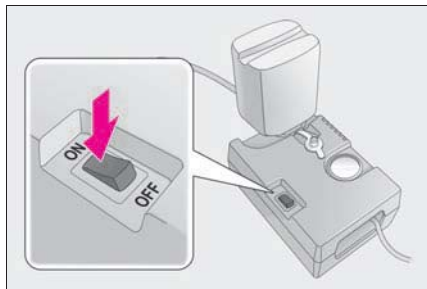


11 タイヤの指定空気圧を確認する
運転席側の空気圧ラベルで確認することが
できます。(→P.303)

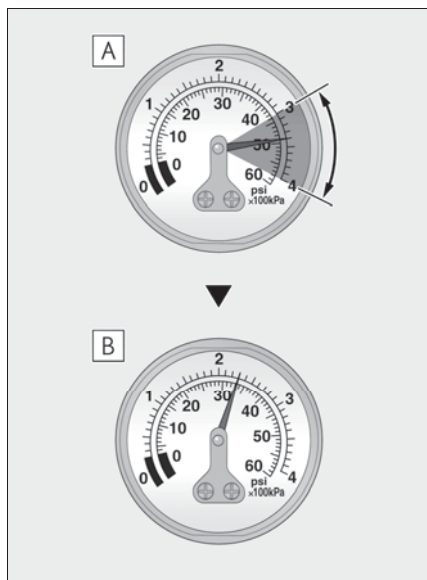


12 エンジンを始動する

- 13** コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する



- 14** 空気圧が指定空気圧になるまで充填する



- A** 一時的に空気圧計が 300 ~ 400kPa (3.0 ~ 4.0kg/cm²) まで上昇し、徐々に減少します。
- B** スwitchを ON にしてから 1 分程度 (低温の場合は 15 分程度) で実際の空気圧になります。コンプレッサーのスイッチを OFF にし

て確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

10 分以上 (低温の場合は 25 分以上) 充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にしてレクサス販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。

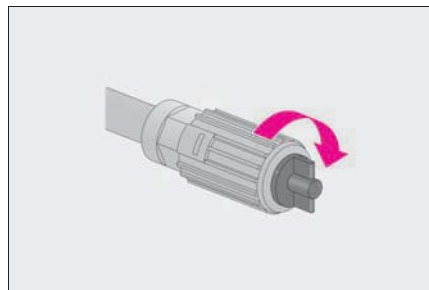
(→P.303, 371)

- 15** コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリースOCKETから電源プラグを抜き、タイヤのバルブから応急修理キットのホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

- 16** バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける
- 17** ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

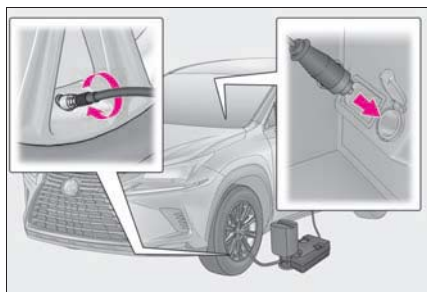
空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、お車が汚れる可能性があります。



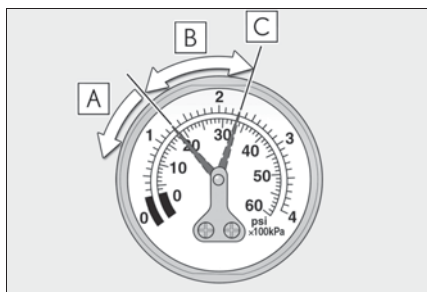
- 18** いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する
- 19** タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、すみやかに約

5km 程度、速度 80km/h 以下で安全に走行する

- 20** 走行後、平坦な場所に停車し、再度コンプレッサーを接続する



- 21** コンプレッサーのスイッチを ON にして数秒間経過後、スイッチを OFF にして空気圧を確認する



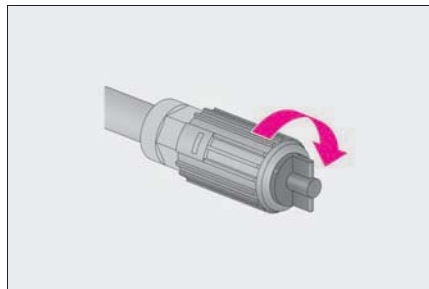
- A** 空気圧が 130kPa (1.3kg/cm²) 未満の場合：応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。
- B** 空気圧が 130kPa (1.3kg/cm²) 以上、指定空気圧未満の場合：手順 **22** へ
- C** 空気圧が指定空気圧 (→P.303, 371) の場合：手順 **23** へ

- 22** コンプレッサーのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填

し、再度、約 5km 走行後にあらためて手順 20 から実施する

- 23** ボトルのホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、お車が汚れる可能性があります。



- 24** ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

- 25** 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、約 100km 以内、速度 80km/h 以下でレクサス販売店まで慎重に運転する

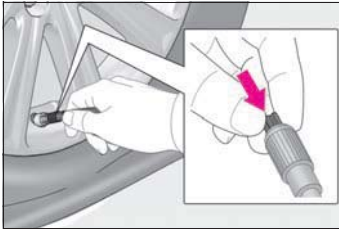
知識

■ 応急 (パンク) 修理キットを使用したとき

- 空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ/送信機を交換してください。
- タイヤの指定空気圧に達していても、タイヤ空気圧警告灯が点灯する可能性があります。

■ 空気を入れすぎてしまったときの対処法

- 1 タイヤからホースを取りはずす
- 2 ホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあてて空気を抜く



- 3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する
- 4 応急修理キットのスイッチを ON にして数秒間経過後、スイッチを OFF にして空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、応急修理キットのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

⚠ 警告

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

- 車両を安全で平坦な場所に停止させてください。
- 走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。
- 接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- 充填中にホースがはずれると、圧力でホースが急に動くおそれがあり危険です。
- 充填後、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

- 作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。
- 破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにキットのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。
- 応急修理キットは、長時間作動させると過熱する可能性があります。35分以上連続で作動させないでください。
- 応急修理キットの作動中は、部分的に熱くなります。使用中、または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所の金属部分は特に熱くなるため、使用中、または使用直後はふれないでください。
- 速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- 補修液を均等に広げるための運転について
- 低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

 警告

- 車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、停車し、次のことを確認してください。
 - ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
 - ・ 空気圧を確認してください。130kPa 未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

- 応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。
- 分解・改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

 注意**■ 応急修理をするときは**

- タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- 応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂ほこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ほこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。
- 応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

■ 応急修理キットについて

- 応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。
- 応急修理キットにガソリンがかかると、劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- 応急修理キットは砂埃や水を避けて収納してください。

パンクしたときは（応急用 タイヤ装着車）

パンクしたタイヤを、備え付けの
応急用タイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は
P.303を参照してください）

⚠ 警告

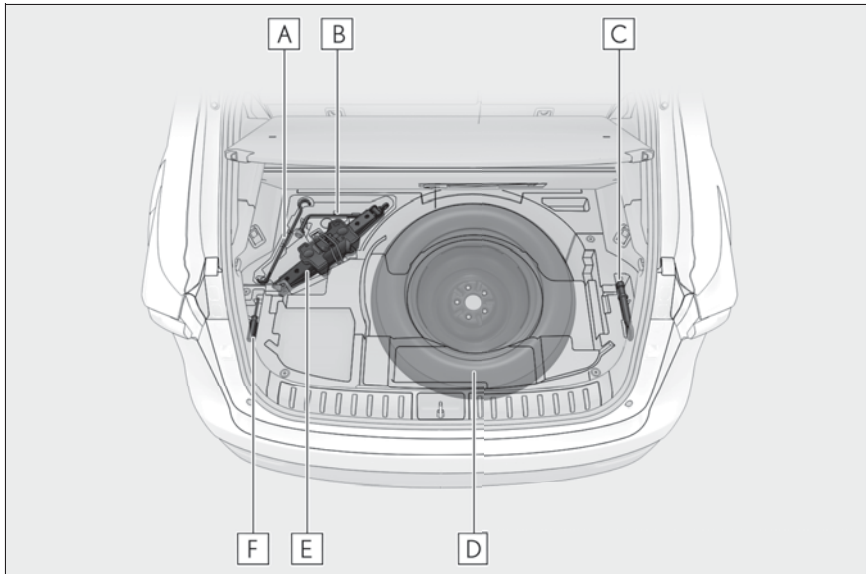
■ タイヤがパンクしたときは

パンクしたまま走行しないでください。
短い距離でも、タイヤとホイールが修
理できないほど損傷したり、思わぬ事
故につながるおそれがあり危険です。

ジャッキで車体を持ち上げる前 に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーをPにする
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
（→P.319）

工具とジャッキの位置



- A** ジャッキハンドル
- B** ホイールナットレンチ
- C** けん引フック

D 応急用タイヤ

E ジャッキ

F ドライバー

警告

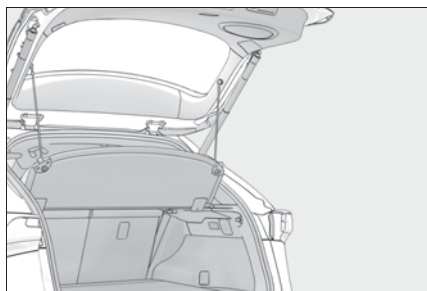
■ ジャッキの使用について

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

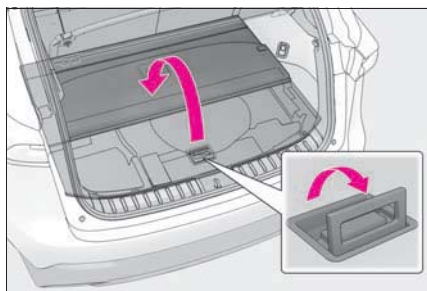
- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため、他の車に使ったり他の車のジャッキをお客様の車に使用したりしない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、エンジンを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

ジャッキを取り出すには

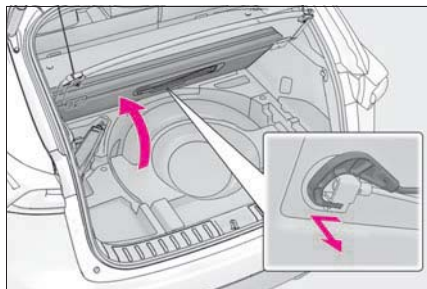
1 バックドアを開ける



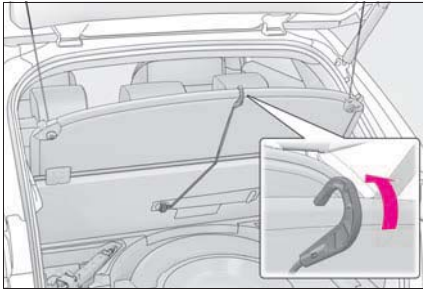
2 レバーを持ち上げデッキボードを折りたたむ



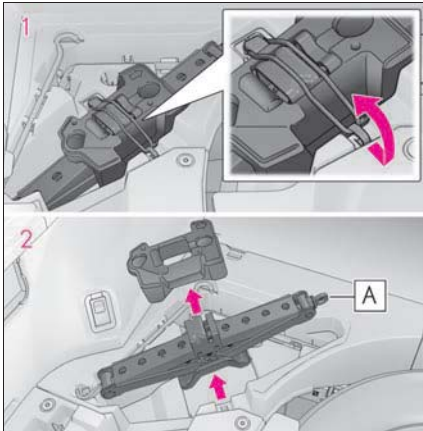
3 デッキボードを持ち上げて、裏面のフックを取りはずす



- 4 フックをトノボードに引っかけて固定する



- 5 ジャッキを取りはずす

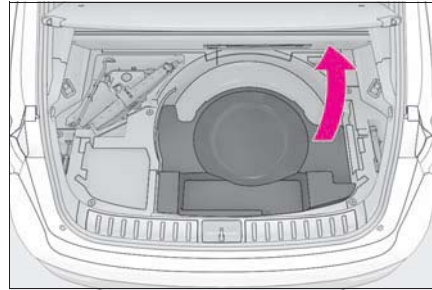


- 1 ゴムバンドをはずす
2 カバーを取りはずし、ジャッキを取り出す

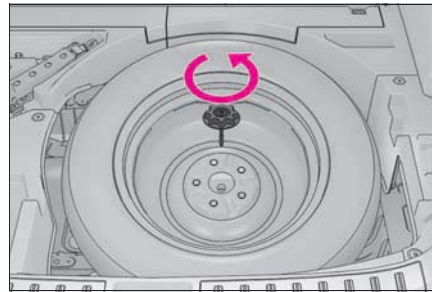
ジャッキを収納するときは、ジャッキの **A** 部を回して動かなくなるまで縮めたあと、カバーを押し込んでからゴムバンドで固定する。

応急用タイヤを取り出すには

- 1 デッキアンダーボックスを取りはずす



- 2 留め具をはずし、応急用タイヤを取り出す



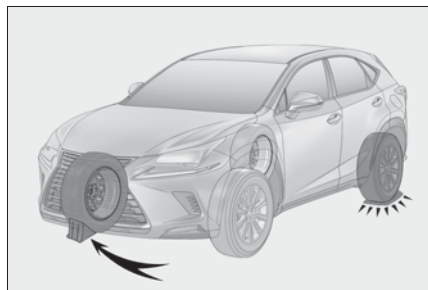
⚠ 警告

■ 応急用タイヤを収納するとき

ボデーと応急用タイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

パンクしたタイヤを交換するには

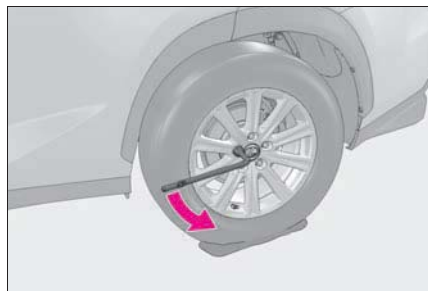
1 輪止め※をする



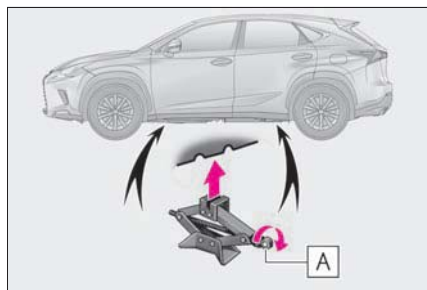
パンクしたタイヤ	輪止めの位置
左前輪	右側後輪うしろ
右前輪	左側後輪うしろ
左後輪	右側前輪前
右後輪	左側前輪前

※ 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

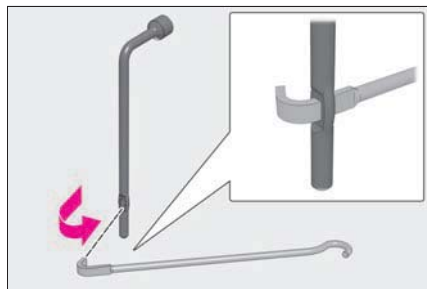
2 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



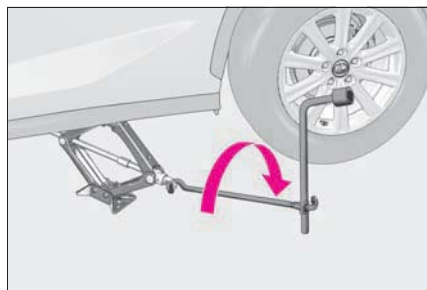
3 ジャッキの[A]部を手でまわして、ジャッキの溝をジャッキセット位置にしっかりかける



4 ジャッキハンドルにホイールナットレンチを取り付ける



5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上

します。



警告

■タイヤ交換について

- 走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

- 次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ・ ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要な以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。
- ・ ホイールの交換後はすぐに 103N・m (1050kgf・cm) の力でナットを締める
- ・ タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
- ・ ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける

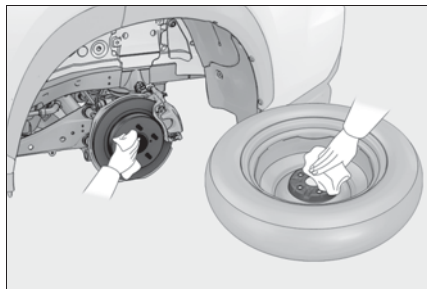
■タイヤ交換について

タイヤ交換などをする際は、パワーバックドアの作動（→P.103）を停止してください。停止しないと、誤ってパワーバックドアを作動させたときにバックドアが動き、指や手を挟んでけがをするおそれがあります。

応急用タイヤを取り付けるには

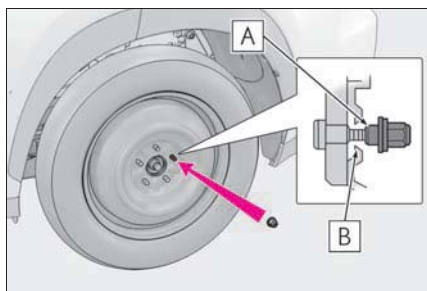
- 1 ホイール接触面の汚れをふき取る
ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるお

それがあります。

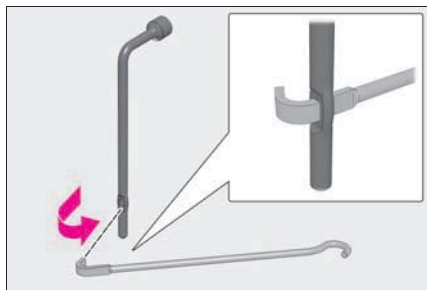


- 2** 応急用タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

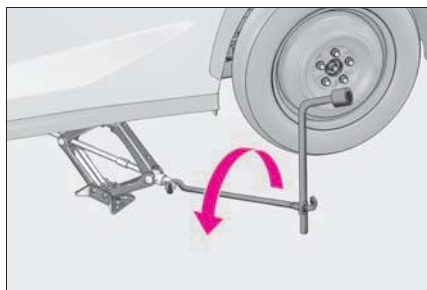
ナットのテーパ部分 **A** がホイールのシート部分 **B** に軽くあたるまでまわします。



- 3** ジャッキハンドルにホイールナットレンチを取り付ける



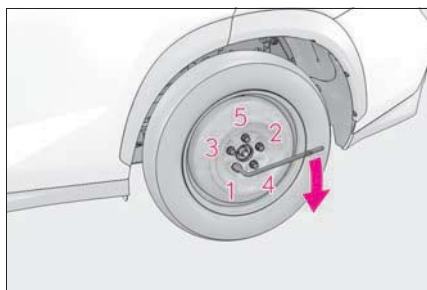
4 車体を下げる



- 5** 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：

103N・m (1050kgf・cm)



- 6** すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■ 応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用のみ使用してください。
- 空気圧を必ず点検してください。(→P.371)

■ 応急用タイヤを装着しているとき

標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。

■ 雪道・凍結路で前輪がパンクしたときは

- 1** 後輪を応急用タイヤと交換する

- 2 パンクした前輪をはずした後輪と交換する
- 3 タイヤチェーンを前輪に装着する

警告

■ 応急用タイヤを使用するときは

- お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください。
- 同時に2つ以上の応急用タイヤを使用しないでください。
- できるだけ早く通常のタイヤと交換してください。
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激なエンジンブレーキの使用は避けてください。

■ 応急用タイヤ装着中は

正確な車両速度が検出できない場合があります、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ・ ABS
- ・ ブレーキアシスト
- ・ VSC
- ・ TRC
- ・ NAVI・AI-AVS★
- ・ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）
- ・ PCS（プリクラッシュセーフティ）
- ・ EPS
- ・ LTA（レーントレーシングアシスト）
- ・ バックガイドモニター&サイドモニター★
- ・ クリアランスソナー★
- ・ パーキングサポートブレーキ（静止物）★
- ・ ナビゲーションシステム
- ・ パノラミックビューモニター★
- ・ BSM（ブラインドスポットモニター）★
- ・ オートマチックハイビーム
- ・ アダプティブハイビームシステム★

また、次のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

- ・ AWD システム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

 警告**■ 応急用タイヤ使用時の速度制限**

応急用タイヤを装着しているときは、80km/h以上の速度で走行しないでください。応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ ジャッキや工具を使用したあとは

走行前に正しい位置に格納されているか確認してください。正しく格納されていないと、事故や急ブレーキの際、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ 応急用タイヤ装着中の注意**

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤ装着時にくらべ車高が低くなっています。段差を乗り越えるときは注意してください。

■ 応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。タイヤチェーンが車体側にあたり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。

エンジンが始動できないときは**正しいエンジンのかけ方**

(→P.144)に従っても、エンジンがかからないときは、次の状況の中であてはまるものを確認し、適切に対処してください。

スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

次の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順(→P.144)に従って、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。
(→P.55)

スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。
(→P.359)
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

スターターがまわらない場合

電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。(→P.355)

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

スターターがまわらない／室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。(→P.359)
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしてもエンジンが始動できないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、次の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する
- 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する
- 3 エンジンスイッチをアクセサリモードにする
- 4 ブレーキペダルをしっかりと踏んでエンジンスイッチを約15秒以上押し続ける

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。



注意

■ 電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーをすべてお持ちのうえ、ただちにレクサス販売店にご相談ください。

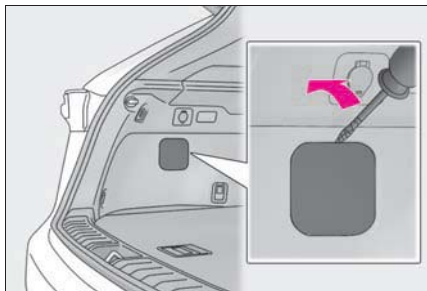
給油扉が開かないときは

ドアが解錠されている状態で給油扉の車両後端の中央部分を押しても給油扉が開かないときは、次の手順で給油扉を開けることができます。

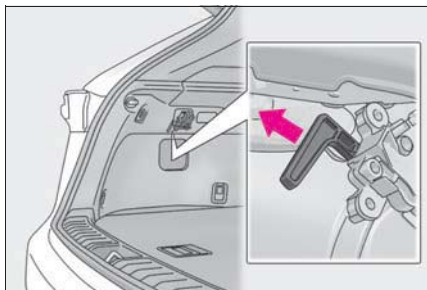
給油扉を開くには

- 1 ラゲージルーム内のカバーをマイナスドライバーを使って取りはずす

カバーを取りはずすときは、傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



- 2 レバーを引く



電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり (→P.107)、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、エンジンを始動したりすることができません。



知識

■ 電子キーが正常に働かないときは

- 車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。
- 電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。設定されている場合は解除してください。(→P.106)



注意

- スマートエントリー&スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

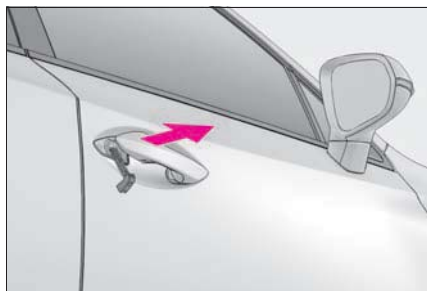
車両に付属しているすべての電子キー(カードキーを含む)をお持ちください。

ドアを施錠・解錠するには

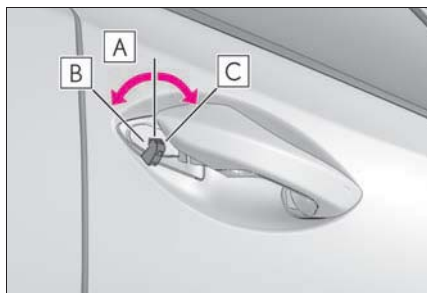
■ ドアの解錠

メカニカルキー (→P.88) を使って次の操作ができます。(運転席ドアのみ)

- 1 運転席側のドアハンドルを引いたまま、メカニカルキーを挿し込む



- 2 次のようにキーを回す



- A** ドアの解錠

- B** ドアガラスとムーンルーフが開く
(まわし続ける) ※

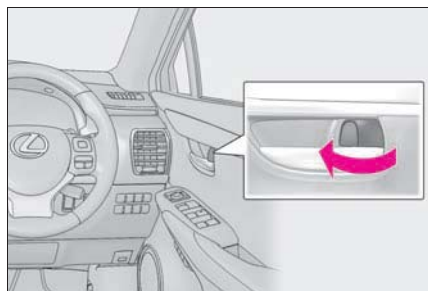
- C** ドアガラスとムーンルーフが閉まる
(まわし続ける) ※

※ レクサス販売店で設定が必要です。

- 3 メカニカルキーを抜いてドアハンドルを元に戻したあと、再度ドアハンドルを引く

■ ドアの施錠

1 ロックレバーを施錠側にする



2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

⚠ 警告

■ メカニカルキーを使ってドアガラスやムーンルーフを操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

エンジンを開始するには

1 シフトレバーがPの状態ブレーキペダルを踏む

2 電子キーのレクサスエンブレム面で、エンジンスイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、イグニッション ON モードへ切りかわります。

車両カスタマイズ機能でスマートエントリー&スタートシステムの設定が非作動になっているときは、アクセサリモー

ドへ切りかわります。



3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されていることを確認する。



4 エンジンスイッチを押す

処置をしても作動しないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

□ 知識

■ エンジンの停止のしかた

通常のエンジン停止のしかたと同様に、シフトレバーをPにし、パーキングブレーキをかけて、エンジンスイッチを押します。

■ 電子キーの電池交換

ここで説明しているエンジンの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P.311)

■ オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。

■ エンジンスイッチのモードの切りかえ
エンジン始動方法の手順 4 で、ブレーキペダルから足を離してエンジンスイッチを押すと、エンジンが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。
(→P.146)

バッテリーがあがったときは

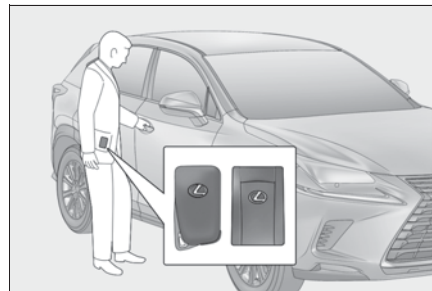
バッテリーがあがった場合、次の手順でエンジンを始動することができます。

エンジンを再始動するには

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、手順に従って、エンジンを始動させることができます。

1 電子キーを携帯していることを確認する

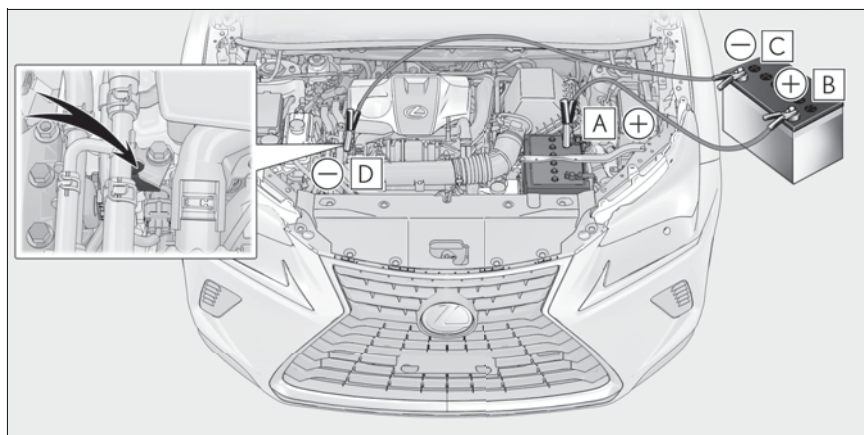
ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。(→P.57)



2 ボンネットを開ける (→P.300)

3 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの + 端子 **A** につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの + 端子 **B** につなぐ。その後、黒色のブー

スターケーブルを救援車のバッテリーの－端子[C]につなぎ、もう一方の端を未塗装の金属部[D]につなぐ。



- A** バッテリーの＋端子（自車）
- B** バッテリーの＋端子（救援車）
- C** バッテリーの－端子（救援車）
- D** 未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）

- 4 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにし、約 5 分間自車のバッテリーを充電する
- 5 エンジンスイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する
- 6 救援車のエンジン回転を維持したまま、エンジンスイッチをいったんイグニッション ON モードにしてからエンジンを始動する
- 7 エンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンが始動しても、早めに Lexus 販売店で点検を受けてください。

知識

■ バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ バッテリーあがりを防ぐために

- エンジンがかかっていないときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ バッテリーがあがってしまった場合は

- コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときは Lexus 販売店で点検を受けてください。

- 初期設定が必要な機能があります。

■ バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長時間放置すると、バッテリーがあがってエンジンが始動できなくなるおそれがあります。(バッテリーは走行中に自動で充電されます)

■ バッテリーあがり時や取りはずし時などは

- バッテリー脱着直後はスマートエントリー&スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。
- バッテリー脱着後、最初の始動操作ではエンジンが始動できないことがあります。異常ではありません。再度始動操作を行ってください。
- 車両は常にエンジンスイッチの状態を記憶しています。バッテリーあがり時、バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に車両は復帰します。バッテリーを脱着する際は、エンジンスイッチを OFF にしてから行ってください。バッテリーあがり前のエンジンスイッチの状態が不明の場合、バッテリー接続時は特に注意してください。
- 初期設定が必要な機能があります。
- バッテリー交換したあと、またはバッテリー端子をはずしたあとは、約 5 ～ 60 分間、Stop & Start システムが作動しないことがあります。

■ バッテリーを交換するときは

装着されているバッテリーは、Stop & Start システム専用品です。S-95 または

それ以上の性能を持つバッテリーと交換してください。

適切なバッテリーをご使用いただかない場合、バッテリー保護のために Stop & Start システムの作動が制限されます。さらにバッテリーの早期劣化や、最悪の場合にはエンジンが再始動しなくなるおそれがあります。

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

⚠ 警告

■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子以外に接続しない
- ブースターケーブルは+側と-側の端子を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液(酸)が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などをバッテリーに近付けない

警告

- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部に当てておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーの支柱・ターミナル・その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近付けない

注意

- **ブースターケーブルの取り扱いについて**
- ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

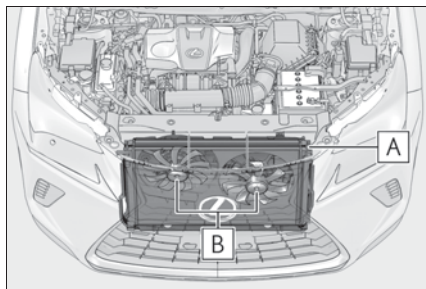
オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 水温計（→P.66）の針がレッドゾーンに入ったり、エンジンの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温」が表示される
- エンジンルームから蒸気が出る

対処方法

- 1 安全な場所に停車し、エアコンをOFFにしてから、エンジンを停止する
- 2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける
- 3 エンジンが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する



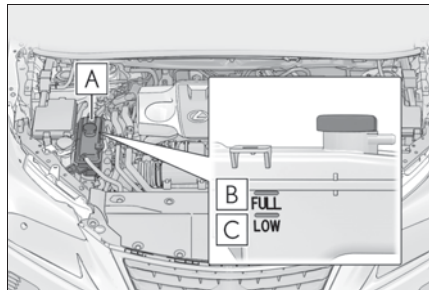
A ラジエーター

B ファン

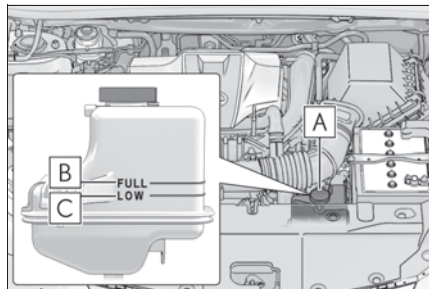
多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。

- 4** 冷却水の量がリザーバータンクの“FULL”（上限）と“LOW”（下限）のあいだにあるかを点検する

▶ エンジン

**A** リザーバータンク**B** “FULL”（上限）**C** “LOW”（下限）

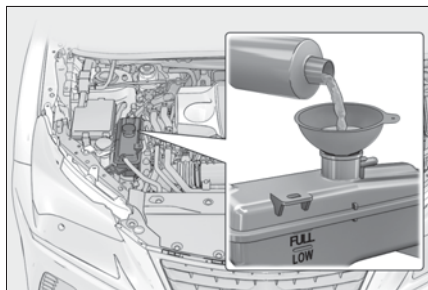
▶ インタークーラー

**A** リザーバータンク**B** “FULL”（上限）**C** “LOW”（下限）

- 5** 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

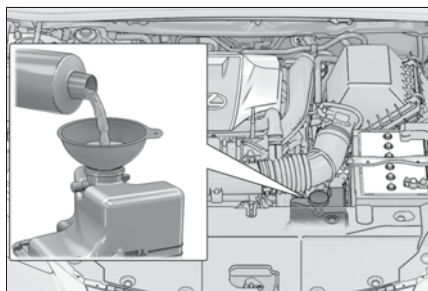
▶ エンジン

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



▶ インタークーラー

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



- 6** エンジンを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアやホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

エンジンが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON・OFF をくり返してください。（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

- 7** ファンが作動していない場合：すぐにエンジンを停止し、レクサス販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

- 8 マルチインフォメーションディスプレイの「エンジン冷却水高温」表示を確認する

表示が消えていない場合：
すぐにエンジンを停止し、レクサス販売店に連絡する

表示が消えている場合：
最寄りのレクサス販売店で点検を受ける

警告

■ エンジンルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの
重大な傷害を受けるおそれがあります。

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっています。
- 冷却ファンが回転しているときはエンジンルーム内にふれたり、近付いたりしないでください。手や衣服などが巻き込まれたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。冷却ファンはエアコンが作動しているときや、冷却水の温度が高いときに自動で作動します。
また、エンジンスイッチを OFF にしても数分間作動することがあります。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- エンジンおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

注意

■ 冷却水を入れるとき

エンジンが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。

■ 冷却システムの故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。

脱出するには

- 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーをPに入れ、エンジンを停止する
- 2 前輪周辺の土や雪を取り除く
- 3 前輪の下に木や石などをあてがう
- 4 エンジンを再始動する
- 5 シフトレバーをDまたはRに入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

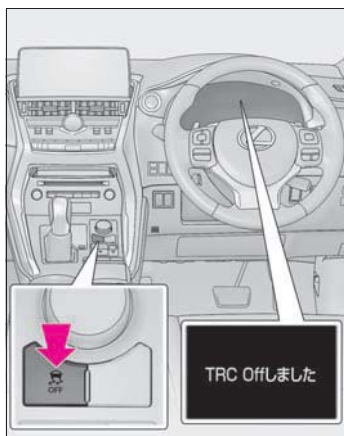


知識

脱出しにくいとき



を押して TRC を OFF にしてください。



警告

脱出するときは

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車、ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もなかったことを確認してください。スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。車が急発進するおそれや、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

8-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など） 368

8-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能 372

8-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 383

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
・ 無鉛プレミアムガソリン ・ バイオ混合ガソリン（プレミアム）※	60

※ エタノールの混合率 10% 以下または、ETBE の混合率 22% 以下のガソリン（酸素含有率 3.7% 以下）を使用することができます。

エンジンオイル

指定銘柄	容量 [L]（参考値※ ¹ ）	
	オイルのみ交換	オイルとオイルフィルター交換
レクサス純正モーターオイル SN PLUS 0W-20※ ² — API SN PLUS/RC, ILSAC GF-5, SAE 0W-20 レクサス純正モーターオイル SN 5W-30 — API SN/RC, ILSAC GF-5, SAE 5W-30	4.7	4.9

※¹ エンジンオイルの容量は交換する際の目安です。オイル量の確認は、エンジンを暖気後に停止し、5 分以上経過してからレベルゲージで行ってください。

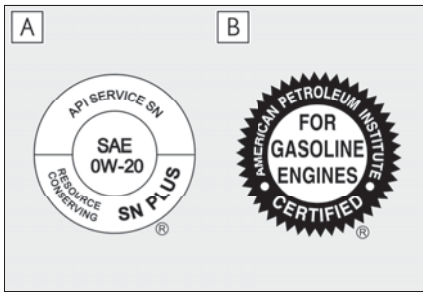
※² 0W-20 は上記表の指定銘柄の中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

が付いています。

API 規格 SN PLUS/RC、SN/RC、SM/EC か、ILSAC 規格に合致したオイルをご使用ください。

なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マーク

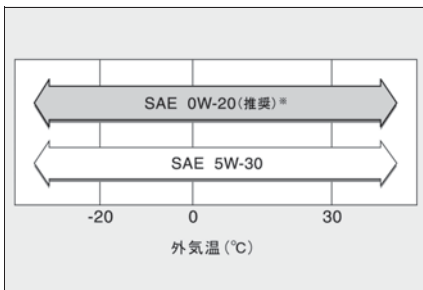


A API マーク

B ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記図に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。



※ 0W-20 は新車時に充填されており、上記図に示す中では、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について（例として 0W-20 で説明します）：

- ・ 0W-20 の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- ・ 0W-20 の 20 は、高温時の粘度特性を示しています。粘度の高い（数値が大きい）オイルは、高速または重負荷走行に適しています。

⚠ 注意

■ エンジンオイル

定期的なエンジンオイル交換を必ず行ってください。
定められた期間でエンジンオイル・オイルフィルターを交換しないと、エンジンオイルが劣化してターボ装置の故障の原因になります。

ラジエーター

指定銘柄	容量 [L]（参考値）	
	エンジン	インタークーラー
弊社純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度		
濃度 30% － 12℃	7.9	2.9
濃度 50% － 35℃		

トランスミッション

指定銘柄	容量 [L] (参考値)
弊社純正オートフルード WS※	6.8L

※ 交換が必要な際はレクサス販売店にご相談ください。

リヤディファレンシャル (AWD 車)

オイルタイプ・推奨粘度	容量 [L] (参考値)
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5 SAE 75W-85)	0.5

トランスファー (AWD 車)

オイルタイプ・推奨粘度	容量 [L] (参考値)
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5 SAE 75W-85)	0.45

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
弊社純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※	90

※ エンジン回転時に、490N (50kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

ウォッシャータンク

容量 [L] (参考値)
4.8

タイヤ・ホイール

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの 空気圧 kPa (kg/cm ²)	
			前輪	後輪
標準タイヤ	225/65R17 102H	17 × 7 J	240 (2.4)	240 (2.4)
	225/60R18 100H	18 × 7 1/2 J	220 (2.2)	220 (2.2)
	235/55R18 100V	18 × 7 1/2 J	220 (2.2)	220 (2.2)
応急用タイヤ★	T165/80D17 104M	17 × 4 T	420 (4.2)	

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

電球（バルブ）※

	電球	W（ワット）数
車内	バニティランプ	8

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

名称	型式	エンジン	駆動方式
NX300	AGZ10	8AR-FTS (2.0L ガソリン)	FF（前輪駆動）
	AGZ15		AWD（4 輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてレクサス販売店で作動内容を変更することができます。また、ナビゲーションシステム・マルチインフォメーションディスプレイの操作により設定を変更することができる機能もあります。

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。

G-Link サービスご契約のお客様は、G- カスタマイズ機能（レクサスオーナーズサイトのご利用またはレクサス販売店へのご依頼）により、遠隔で設定変更ができます。遠隔での設定変更が可能な項目に関してはレクサスオーナーズサイトでご確認ください。

設定を変更するには

安全に操作することができる場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにします。

■ ナビゲーションシステムで設定するには

- 1 リモートタッチの MENU ボタン
を押し、を選択する
- 2 サブメニュー画面の「車両」を選択する
- 3 「車両カスタマイズ」もしくは「ドライブモードカスタマイズ」を選択する

- 4 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

5 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、「する」（作動）・「しない」（非作動）を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、「+」または「-」を選択してレベルを調整します。

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

- 1 メーター操作スイッチの  または  を押して  を選択する
- 2  または  を押して変更する項目を選択し、 スイッチを押す
- 3  または  を押して設定したい項目を選択し、 スイッチを押す

設定を終了する場合は、 スイッチを押します。

知識

■ セッティング画面について

次の状態になるとマルチインフォメーションディスプレイのセッティング画面は自動的に終了します。

- セッティング画面表示後に警告メッセージが表示された
- エンジンスイッチが OFF になった
- セッティング画面表示中に走行し始めた

警告**■ カスタマイズを行うときは**

エンジンを始動した状態で操作を行うため、車庫内など囲まれた場所では、十分に換気をしてください。換気しないと、排気ガスが充満し、排気ガスに含まれる一酸化炭素（CO）により、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意**■ カスタマイズを行うときは**

バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実にエンジンがかかっている状態で実施してください。

車両カスタマイズ設定一覧

A ナビゲーションシステムの画面操作で設定変更可能

B マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

C レクサス販売店で設定変更可能

D 車両側のスイッチなどで設定変更可能

■ ドアロック（→P.90, 357）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
メカニカルキーによる解錠	1回で全ドア解錠	1回で運転席ドア解錠、連続2回で全ドア解錠	—	—	○	—
車速感应オートドアロック	あり	なし	○	—	○	—
シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠 (シフト操作連動ドアロック)	なし	あり	○	—	○	—
シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠 (シフト操作連動アンロック)	あり	なし	○	—	○	—
運転席を開けたときの全ドア自動解錠 (運転席ドア開連動アンロック)	なし	あり	○	—	○	—

■ パワーバックドア (→P.94)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
バックドア自動開停止位置	開度 5	お好みの位置 (高さ) で停止 ※	○	—	○	○
		開度 1 ~ 5				
パワーバックドア機能	あり	なし	—	○	○	—
ブザー音量	レベル 3	レベル 1	—	○	—	—
		レベル 2				
キックセンサ作動★	あり	なし	—	○	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ バックドア下部の  スイッチ操作で設定します。(→P.104)

■ スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通 (→P.88, 105)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
ドアを施錠・解錠したときの非常点滅灯の点滅 (施錠・解錠時非常点滅灯応答)	あり	なし	○	—	○	—
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	—	○	—
ドアを施錠・解錠したときの作動確認ブザー音量 (施錠・解錠時ブザー音量調節)	レベル 5	OFF				
		レベル 1 ~ レベル 7	○	—	○	—
解錠後、ドアを開けなかったときの 自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	—	—	○	—
		120 秒				

■ スマートエントリー&スタートシステム (→P.105)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
解錠ドアの選択 (スマートドアアンロック)	全席	運転席	○	—	○	○
スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし	○	—	○	—
連続してできる施錠操作の回数	2 回	無制限	—	—	○	—

■ ワイヤレスドアロック (→P.88)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
ブザーアンサーバック	あり	なし	—	—	○	—
ハザードアンサーバック	あり	なし	—	—	○	—
半ドアウォーニング	あり	なし	—	—	○	—
作動ブザー	あり	なし	—	—	○	—
作動ブザー音量	レベル 5	レベル 7 ~ レベル 0	—	—	○	—
ワイヤレス機能	あり	なし	—	—	○	—
ワイヤレスリモコンのドア解除ボタン操作 (ボタン 2 回操作アンロック)	1 回で全ドア 解錠 (しない)	1 回で運転席ド アのみ解錠、連 続 2 回で全ドア 解錠 (する)	○	—	○	—

■ ドライビングポジションメモリー★ (→P.116)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
降車時の運転席シート移動量調節 (降車時運転席シート移動量調整)	標準	OFF	○	—	○	—
		少なめ				
メモリーコール機能と連動するドア の選択	運転席ドア	全ドア	—	—	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ランプ自動点灯・消灯システム (→P.160)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
ライトセンサーの感度調整 (コンライト感度調整)	標準	-2 ~ 2	○	—	○	—
ランプを点灯するまでの時間	標準	長め	—	—	○	—

■ イルミネーション (→P.275)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
ドアの開閉後に点灯している室内灯 が自動で消灯するまでの時間 (室内照明消灯時間調節)	15 秒	OFF	○	—	○	—
		7.5 秒				
		30 秒				

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
エンジンスイッチ OFF 後の室内灯自動点灯機能	あり	なし	—	—	○	—
ドアを解錠したときの室内灯自動点灯	あり	なし	—	—	○	—
電子キーを携帯して車両に近づいたときの室内灯自動点灯	あり	なし	—	—	○	—
アウトサイドドアハンドル照明の消灯までの時間（室外照明消灯時間調節）	15 秒	OFF	○	—	○	—
		7.5 秒				
		30 秒				
アウトサイドドアハンドル照明の消灯時のフェードアウト	長い	短い	—	—	○	—
車室内足元照明の点灯	あり	なし	—	—	○	—
電子キーを携帯して車両に近づいたときのアウトサイドドアハンドル照明の点灯	あり	なし	—	—	○	—
解錠時のアウトサイドドアハンドル照明の点灯	あり	なし	—	—	○	—
ドアを開けたときのアウトサイドドアハンドル照明の点灯	あり	なし	—	—	○	—

■ メーター（→P.66, 69）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
言語	日本語	英語	○	○	—	—
単位	km/L	L/100km	○	○	—	—
エコドライブインジケータランプの点灯・消灯	ON	OFF	—	○	—	—
 スイッチを押したときに表示される画面の設定	ドライブインフォ 1	お好みの項目 ※1	—	○	—	—
ドライブインフォ 1 に表示される項目	瞬間燃費	※2	—	○	—	—
	平均燃費 (リセット間)					

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
ドライブインフォ 2 に表示される項目	航続可能距離	※2	—	○	—	—
	平均車速 (リセット間)		—	○	—	—
ドライブインフォ 3 に表示される項目	平均燃費 (給油後)	※2	—	○	—	—
	走行時間 (始動後)		—	○	—	—
各割込み表示の ON/OFF 切替 ※3 (割込み表示)	する	しない	—	○	—	—
テーマカラーの切替 (アクセントカラー)	カラー 1	カラー 2	○	○	—	—
時計	12 時間表示	24 時間表示	—	○	—	—

※1 登録できない項目もあります

※2 瞬間燃費・平均燃費（リセット間）・平均燃費（給油後）・平均燃費（始動後）・平均車速（リセット間）・平均車速（始動後）・距離（航続可能）・距離（始動後走行）・走行時間（リセット間）・走行時間（始動後）・ブランク（非表示）から 2 項目を選択

※3 交差点案内・電話着信・ETC に関する通知・アイドリングストップ時間・アイドリングストップ状態通知・照度調整

■ カラーヘッドアップディスプレイ (→P.75)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
目的地案内	あり	なし	—	—	—	○
レーン表示	あり	なし	—	—	—	○
走行支援機能情報	あり	なし	—	—	—	○
オーディオ作動表示	あり	なり	—	—	—	○

■ エアコン (→P.264)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる (内外気切替 AUTO スイッチ連動)	する	しない	○	—	○	—
AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C (エアコン) スイッチが連動して ON になる (エアコン AUTO スイッチ連動)	する	しない	○	—	○	—

■ オートアラーム (→P.56)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	しない	する	—	—	○	—

■ アダプティブハイビームシステム★ (→P.162)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
遮光ビームの切りかえ	あり	なし※	—	—	○	—
前方車両と遮光ハイビームとの間隔	標準	狭い	—	—	○	—
		広い	—	—	○	—
車速に応じた、ハイビームの明るさと照らす範囲の調整	約 15km/h から作動	約 30km/h から作動	—	—	○	—
		約 80km/h から作動	—	—	○	—
カーブを走行しているとき、進行方向側のハイビームを明るく照らす	あり	なし	—	—	○	—
先行車との距離に応じた、ロービームの照らす範囲の調整	あり	なし	—	—	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ ハイビームとロービームのみ切りかえます。

■ PKSA（パーキングサポートアラート）★（→P.228）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
パーキングサポートアラート作動時のブザー音量 (ブザー音量設定)	中	小～大	—	○	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ クリアランスソナー★（→P.229）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
クリアランスソナー機能	ON	OFF	—	○	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ パーキングサポートブレーキ（静止物）★（→P.234）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
パーキングサポートブレーキ（静止物）機能	ON	OFF	—	○	—	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドライブモードセレクトスイッチ（NAVI・AI-AVS 装着車）（→P.226）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
パワートレイン制御	Normal	Power	○	—	—	—
		Eco				
シャシー制御	Normal	Sport	○	—	—	—
エアコン制御	Normal	Eco	○	—	—	—

■ エコモード（→P.226）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
エコモード時に暖房・冷房の作動を抑える空調制御機能	する	しない	—	—	○	—

■ Stop & Start システム (→P.218)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
エアコンの A/C スイッチを ON にしているときの、Stop & Start システムによるアイドリングストップ時間	Normal (通常)	Long (長め)	—	○	—	—

■ PCS (プリクラッシュセーフティ) (→P.180)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
PCS (プリクラッシュセーフティ) 機能	あり	なし	—	○	—	—
警報タイミング	中間	早い	—	○	—	—
		遅い	—	○	—	—

■ LTA (レーントレーシングアシスト) (→P.187)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
車線維持支援機能 (センタートレース)	あり	なし	—	○	—	—
ステアリング制御機能 (操舵支援)	あり	なし	—	○	—	—
警報手段	振動	音	—	○	—	—
車線逸脱時の警報感度	高	普通	—	○	—	—
ふらつき検知機能	あり	なし	—	○	—	—
ふらつき検知機能の感度調節	普通	高	—	○	—	—
		低	—	○	—	—

■ RSA (ロードサインアシスト) (→P.195)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
RSA (ロードサインアシスト) 機能	あり	なし	—	○	○	—
制限速度超過告知	なし	告知表示のみ	—	○	○	—
		告知表示とブザー	—	○	○	—
制限速度超過の告知タイミング	2km/h	10km/h	—	○	○	—
		5km/h	—	○	○	—

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
追い越し禁止告知	告知表示のみ	なし				
		告知表示とハンドルの振動	—	○	○	—
その他の告知（進入禁止告知）	告知表示のみ	なし				
		告知表示とブザー	—	○	○	—

■ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.198）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
通信利用型レーダークルーズコントロール機能（ITS Connect 装着車）	あり	なし	—	○	—	—

■ 先行車発進告知機能（→P.209）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
先行車発進告知機能	あり	なし	—	○	—	—
告知タイミング	普通	早い	—	○	—	—
		遅い	—	○	—	—

■ ITS Connect ★（→P.211）

機能の内容 ※	初期設定	変更後	A	B	C	D
信号情報の表示	あり	なし	—	○	—	—
道路環境情報の表示	あり	なし	—	○	—	—
緊急車両存在通知	あり	なし	—	○	—	—
支援タイミング	早い	遅い	—	○	—	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 機能についての詳しい説明は P.217 を参照してください

■ パワーウィンドウ（→P.126）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
メカニカルキー連動開閉機能	なし	あり	—	—	○	—
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	—	○	—
ドア開警告制御	あり	なし	—	—	○	—

■ ムーンルーフ★ (→P.128)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
メカニカルキー連動開閉機能※	なし	あり	—	—	○	—
ワイヤレスリモコン連動開閉機能※	なし	あり	—	—	○	—
ムーンルーフ開警告制御	あり	なし	—	—	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ワイヤレスリモコンまたはメカニカルキーでパワーウインドウの開閉が可能となごきのみ設定できます。

■ ドアミラー (→P.124)

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C	D
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	なし	—	—	○	—
		エンジンスイッチと連動				
リバース連動作動	あり	なし	—	—	○	—



知識

■ 車両カスタマイズについて

- 「車速感应式自動ドアロック」と「シフトレバーをP以外にしたときの全ドア施錠」を両方とも「あり」にした場合次のように作動します。
 - ・シフトレバーをP以外にすると全ドア施錠されます。
 - ・全ドア施錠された状態で発進した場合、車速感应式自動ドアロックは作動しません。
 - ・発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感应式ドアロックが作動します。
- スマートエントリー&スタートが「しない」の場合、「解錠ドアの選択」の設定はできません。
- 解錠後にドアを開けなかったときの自動施錠が作動した合図は、「作動の合図（非常点滅灯）」・「作動の合図音量（ブザー音量の調整）」の設定に依存します。

初期設定が必要な項目

次の項目はバッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
タイヤ空気圧警報システム	・ タイヤローテーションを実施したとき ・ タイヤ空気圧を調整したとき ・ バルブ・送信機を交換したとき ・ タイヤを交換したとき	P.307
バックガイドモニター&サイドモニター★	バッテリーの充電・交換後の再接続時	別冊「ナビゲーションシステム取扱書」
パノラミックビューモニター★		
パーキングサポートブレーキ（静止物）★		P.241
パワーバックドア		P.100
パワーウインドウ		P.126
ムーンルーフ★	正常に働かないとき	P.129

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）	386
車から音が鳴ったときは（音さくい ん）	388
アルファベット順さくいん	390
五十音順さくいん	392

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、レクサス販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない



キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、レクサス販売店でレクサス純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P.356）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにレクサス販売店にご相談ください。（→P.356）



キーが正常に働かないときは

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.311）



施錠・解錠できない

- エンジンスイッチがイグニッション ON モードになっていませんか？
施錠するときは、エンジンスイッチを OFF にしてください。（→P.146）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してくださ

い。

- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→P.107）



リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P.93）

故障かな？と思ったら



エンジンがかからない

- プレーキペダルをしっかりと踏みながらエンジンスイッチを押していますか？（→P.144）
- シフトレバーは P になっていますか？（→P.144）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.105）
- ステアリングロックされていますか？（→P.144）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
このときは、一時的な方法でエンジンをかけることができます。（→P.358）
- バッテリーがあがっていません

か？（→P.359）



エンジンを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

- 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→P.144）



パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

- ウインドウロックスイッチが押されていませんか？
ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→P.128）



エンジンスイッチが自動的にOFF になった

- 一定時間アクセサリモードまたはイグニッション ON モード（エンジンがかかっていない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→P.146）



警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

- 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P.388）をご確認ください。



警告灯や警告メッセージが表示されたとき

- 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.327、334 をご確認ください。

確認ください。

トラブルが発生した



タイヤがパンクした

- タイヤパンク応急修理キット装着車
車を安全な場所に止め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→P.336）
- 応急用タイヤ装着車
車を安全な場所に止め、パンクしたタイヤを応急用タイヤに交換してください。（→P.347）



立ち往生した

- ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.365）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.56
ドアを開閉したとき	シフトポジションがP以外になっている	P.334
	窓・ムーンルーフが開いている（エンジン停止中のみ）	P.127, 130
	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.56
エンジンを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.86
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P.106
	電子キーを車内に置き忘れている	P.334

※ ドアを解錠する、またはエンジンスイッチをアクセサリモードまたはイグニッション ON モードにするか、エンジンを始動すると、警報を解除することができます。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・バックドア・ボンネットが確実に閉まっていない	P.93
	パーキングブレーキが解除されていない	P.155
	運転席・助手席のシートベルトを着用していない※	P.330
シフトダウンしたとき	シフトダウン制限をこえて操作した	P.151
ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音）	ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある	P.139
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P.203
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P.180
車線から逸脱しそうになったとき	LTA（レーントレーシングアシスト）	P.187
追い越し禁止の道路で追い越しをかけたとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P.195
制限速度より一定の速度を超過したとき		

状況	原因	詳細
対向車や右折先の歩行者がいるときに右折しようとしたとき	ITS Connect が作動した	P.211
左右から交差点に進入する車がいるときに発進しようとしたとき		
赤信号の交差点に進入しそうになったとき		
緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているとき		
一時停止の交差点に停止せず進入しそうになったとき		
見通しの悪いカーブの先などで先行車両が停止または低速で走行しているとき		
見通しが悪い交差点のわき道に車両がいるとき		

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

アルファベット順さくいん

A/C

(エアコン) 264

ABS

(アンチロックブレーキシステム)
..... 250

AHB

(オートマチックハイビーム).. 165

AHS

(アダプティブハイビームシステム)
..... 162

AI-AVS

(アーティフィカルインテリジェン
スアダプティブバリアブルサスペン
ションシステム) 251, 253

ASC

(アクティブサウンドコントロール)
..... 158

AVS

(アダプティブバリアブルサスペン
ションシステム) 251

AWD

(オールホイールドライブ) 371

BSM

(ブラインドスポットモニター) 244

EDR

(イベントデータレコーダー) 7

EPS

(エレクトリックパワーステアリン
グ) 251

FF

(フロントエンジンフロントドライ
ブ) 371

HUD

(ヘッドアップディスプレイ) 75

ILSAC CERTIFICATION

(イルサックサーティフィケーショ
ン) 368

ISOFIX

(アイソフィックス/イソフィック
ス) 56

ITS Connect

通信利用型レーダークルーズコン
ロール 204

LTA

(レーントレーシングアシスト)
..... 187

LED デイライト

LED デイライト 160

LED

(ライトエミッティングダイオード)
..... 160, 315

Lexus Safety System+

LTA (レーントレーシングアシス
ト) 187

PCS (プリクラッシュセーフティ)
..... 180

RSA (ロードサインアシスト) .195
アダプティブハイビームシステム

..... 162

オートマチックハイビーム 165

先行車発進告知機能 209

レーダークルーズコントロール 198

PCS

(プリクラッシュセーフティ) 180,
329

PKSA

(パーキングサポートアラート) 228

PKSB

(パーキングサポートブレーキ [静
止物]) 234

RCTA

(リヤクロストラフィックアラート)
..... 247

RSA

(ロードサインアシスト) 195

S-VSC

(ステアリングアシステッドピークルスタビリティコントロール) 250, 330

SRS

(サプリメンタルレストレイントシステム) 34

TRC

(トラクションコントロール).. 250

VSC

(ピークルスタビリティコントロール) 250

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処 置）.....	359
アームレスト.....	292
RSA（ロードサインアシスト）.....	195
ITS Connect.....	211
アイドリングストップ.....	218
アイドリングストップ時間.....	72
Stop & Start キャンセル表示灯.....	225
Stop & Start システム.....	218
Stop & Start 表示灯.....	63
アウターミラー（ドアミラー）	
格納のしかた.....	125
操作.....	124
ブラインドスポットモニター（BSM）	244
ポジションメモリー.....	116
ミラーヒーター.....	265
リバース連動機能.....	125
アウトサイドドアハンドル照明.....	275
電球（バルブ）の交換.....	315
アクセサリーコンセント.....	287
アクセサリーソケット.....	287
アクセサリーモード.....	146
アクティブサウンドコントロール （ASC）.....	158
足元照明.....	275
アダプティブハイビームシステム... ..	162
アダプティブバリアブルサスペンション システム.....	251
アラーム	
オートアラーム.....	56
音さくいん.....	388
警告ブザー.....	327

アンチロックブレーキシステム（ABS）	250
アンテナ（スマートエントリー&スター トシステム）.....	105

い

イグニッションスイッチ（エンジンス イッチ）.....	144
位置交換（タイヤローテーション）..	305
イベントデータレコーダー（EDR）.....	7
イモビライザーシステム.....	55
イルミネーテッドエントリーシステム	275
インジケーター（表示灯）.....	63
インストルメントパネル照度調整スウィ ッチ.....	68
インテリアランプ.....	276
インナーミラー.....	123

う

ウインカー（方向指示灯）.....	152
電球（バルブ）の交換.....	315
方向指示レバー.....	152
ウインドウ	
ウインドシールドデアイサー.....	269
ウォッシャー.....	169, 171
パワーウインドウ.....	126
リヤウインドウデフォッガー.....	265
ウインドウロックスイッチ.....	128
ウインドシールドデアイサー.....	269
ウォーニングランプ（警告灯）..	62, 327
ウォッシャー.....	169, 171
液の補充.....	302

スイッチ	169, 171
タンク容量	370
冬の前の準備・点検	256
動けなくなったときは (スタック)	365
雨滴感知式ワイパー	169
運転	136
雨の日の運転	136
運転を補助する装置	250
寒冷時の運転	256
正しい運転姿勢	27
手順	136
運転席シートベルト非着用警告灯...	330
運転席シートポジションメモリー...	116

え

エアコン	
「ナノイー」	270
S-FLOW モード	269
オートエアコン	264
曇り取り (フロントガラス)	265
フィルターの清掃	310
エアコン・デフロッガー	265
エアバッグ	34
SRS エアバッグ警告灯	328
お子さまのための注意	37
改造・廃棄	39
作動条件	35
正しい姿勢	27
配置	34
AWD ロックモード	255
S-FLOW モード	269
LED デイライト	160

エレクトリックパワーステアリング (EPS)	
機能	251
パワーステアリング警告灯	328
エンジン	
エンジンイモビライザーシステム	55
エンジンが始動できない	354
エンジン警告灯	328
エンジンスイッチ (イグニッション)	144
エンジンの始動方法	144
オーバーヒート	362
ボンネット	300
エンジンオイル	368
冬の前の準備・点検	256
メンテナンスデータ	368
油圧警告灯	327
容量	368
エンジンスイッチ (イグニッションス イッチ)	144
エンジン始動のしかた	144
自動電源 OFF 機能	146
車両を緊急停止するには	320
モードの切りかえ	146
エンジンフード (ボンネット)	300
エンジンルーム	
エンジンルームから蒸気が出ている ...	362

お

オイル (エンジンオイル)	368
応急用タイヤ	347
空気圧	371
交換方法	347
オートアラーム	56

オートエアコン.....	264
オートドアロック・アンロック機能..	93
オートマチックハイビーム	165
オートレベリングシステム（ヘッドラン プ）.....	161
オーバーヒート.....	362
オープナー	
給油扉	174
バックドア	95
ボンネット	300
おくだけ充電（ワイヤレス充電器）.	288
お子さまを乗せるとき	41
ウインドウロックスイッチ	128
エアバッグ	37
お子さまの安全のために	41
キーの電池	312
シートベルトの着用.....	30
ステアリングヒーター／シートヒーターに 関する警告	272
チャイルドシート	42
チャイルドシートの取り付け	42
チャイルドプロテクター.....	93
電動サンシェードに関する警告	132
発炎筒の取り扱いに関する警告	320
バックドアに関する警告	94
バッテリーに関する警告	361
パワーウインドウに関する警告	127
ムーンルーフに関する警告	130
オドメーター	
機能.....	68
表示の切りかえ・リセットボタン	68

か

カーテンシールドエアバッグ	34
カードキー	86
カードホルダー	281
カーベット	297
洗浄	297
フロアマットの取り付け方	26
外気温度表示	66
外装の電球（バルブ）	
交換要領.....	315
買い物フック	282
カスタマイズ機能	372
ガソリンスタンドでの情報	408
型式	371
カップホルダー	280
カラーヘッドアップディスプレイ	75
ガラスの曇り取り（リヤウインドウデ フォッガー）.....	265
ガレージジャッキ	301
冠水路走行	141
寒冷時の運転	256

き

キー	86
エンジンが始動できない	354
カードキー	86
キーナンバープレート	86
キーの構成	86
キーレスエントリー	88, 105
キーをなくした	356
正常に働かない	357
施錠・解錠ができない	357

電子キー	86
電池が切れた	311, 357
メカニカルキー	88
ワイヤレスリモコン	88
キーレスエントリー	
スマートエントリー&スタートシステム	105
ワイヤレスドアロック	88
きしみやひっかき音が聞こえる (ブレーキパッドウェアインジケーター) ..	139
給油	
給油扉が開けられない	356
給油のしかた	173
メンテナンスデータ	368
緊急時シートベルト固定機構	30
緊急始動機能	355
緊急時の対処	
エンジンが始動できない	354
オーバーヒートした	362
キーの電池が切れた	311, 357
キーをなくした	356
給油扉が開かない	356
警告灯がついた	327
警告メッセージが表示された	334
けん引	322
故障したときは	318
車両を緊急停止する	320
水没したときは	321
スタックした	365
電子キーが正常に動かない	357
発炎筒	319
バッテリーがあがった	359
パンクした	336, 347

緊急ブレーキシグナル	251
------------------	-----

<

空気圧 (タイヤ)	371
クーラー	264
区間距離計 (トリップメーター)	
機能	66
切りかえ・リセットボタン	68
曇り取り	
フロントガラス	265
ミラーヒーター	265
リヤウインドウデフォッガー	265
クラクション (ホーン)	122
クリアランスソナー	229
警告メッセージ	231
操作	230
クリアランスランプ (車幅灯)	
スイッチ	160
電球 (バルブ) の交換	315
クリップ	
フロアマット	26
クルーズコントロール	
レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き)	198
グローブボックス	279
グローブボックスランプ	279
け	
警告器 (ホーン)	122
計器類 (メーター)	66
照度調整	68
ヘッドアップディスプレイ	75

マルチインフォメーションディスプレイ	69
メーター	66
警告灯	62
ABS & ブレーキアシスト	328
SRS エアバッグ	328
LTA 表示灯	329
エンジン	328
高水温	327
シートベルト非着用	330
充電	327
スリップ表示灯	330
タイヤ空気圧	331
ドライブスタートコントロール	331
燃料残量	330
パーキングブレーキ表示灯	330
パワーステアリング	328
PKSB OFF 表示灯	329
PCS	329
プリテンショナー	328
ブレーキ	327, 328
ブレーキオーバーライドシステム	331
ブレーキホールド作動表示灯	330
マスターウォーニング	331
油圧	327
警告ブザー	
高水温	327
シートベルト非着用	330
シフトダウン制限	151
衝突警報	180
接近警報 (レーダークルーズコントロール)	203
手放し運転警告 (LTA)	194
パーキングブレーキ未解除	155
パワーステアリング	328

半ドア	91, 106
半ドア走行	93
ブレーキ	327
窓開	127
ムーンルーフ開	130
油圧	327
リバース	148
警告メッセージ	334
化粧ミラー (バニティミラー)	286
けん引	
けん引のしかた	322
フック	324

こ

交換

キーの電池	311
タイヤ	347
電球 (バルブ)	315
ヒューズ	313

工具 (ツール) 337, 347

航続可能距離 70, 81

後退灯 (バックアップランプ)

電球 (バルブ) の交換	315
--------------	-----

コーナリングランプ 161

子供専用シート 42

取り付け方	50
-------	----

小物入れ 281

コンソールボックス 279

コンライト (自動点灯・消灯装置) .. 160

さ

サイドエアバッグ 34

サイド方向指示灯 152

電球（バルブ）の交換.....	315
方向指示レバー	152
サイドミラー（ドアミラー）	
格納のしかた	125
操作.....	124
ブラインドスポットモニター（BSM）	244
ミラーヒーター	265
リバース連動機能	125
サンバイザー.....	286

し

シート	110, 111
正しい運転姿勢	27
チャイルドシート	42
調整.....	110, 111
手入れ.....	297
ドライビングポジションメモリー	116
ヘッドレスト	119
メモリーコール機能.....	118
シートクッションエアバッグ	34
シートヒーター.....	272
シートベルト.....	29
お子さまの着用	42
緊急時シートベルト固定機構	30
シートベルト非着用警告灯	330
高さ調節	33
正しく着用するには.....	30
着け方、はずし方	30
手入れ.....	297
妊娠中の方の着用	29
シートベルト非着用警告灯	330
シートベルトプリテンショナー	33
機能.....	33
プリテンショナー警告灯	328

シートベンチレーター.....	272
シートポジションメモリー	116
室内灯.....	275
始動のしかた	144
シフトポジション	148
シフトレバー	148
シフトポジションの切りかえ	148
シフトレンジの切りかえ	150, 151
リバース警告ブザー	148
締め付けトルク（ホイール）.....	351
ジャッキ	
ガレージジャッキ	301
車載ジャッキ.....	337, 347
ジャッキハンドル	337, 347
車幅灯.....	160
電球（バルブ）の交換	315
ランプスイッチ	160
車両型式.....	371
車両仕様（スペック）.....	368
車両データの記録	7
車両を緊急停止するには.....	320
収納装備.....	278
瞬間燃費.....	70
仕様（車両仕様）.....	371
衝撃感知ドアロック解除システム	91
助手席シートベルト非着用警告灯 ...	330
侵入センサー（オートアラーム）.....	57

す

水温計.....	66
スイッチ	
イグニッション.....	144
ウインドウロック	128
ウォッシャー.....	169, 171

ASC 音量調整ダイヤル	158	メーター表示切りかえ	68
AWD ロックモード	255	ランプ	160
LTA	191	リヤウインドウデフォッガー	265
エンジンスイッチ	144	レーダークルーズコントロール	198
オートマチックハイビームスイッチ ..	165	ワイパー	169, 171
クリアランスソナー	229	スタック	365
シート調整	110, 111	ステアリングアシステッドピークルスタ ビリティコントロール (S-VSC) ..	250
シートヒーター	273	ステアリングヒーター	272
シートベンチレーター	274	ステアリングホイール (ハンドル) ..	122
シートポジションメモリー	116	位置調整	122
車間距離切りかえ (レーダークルーズコン トロール)	198	ステアリングヒーター	272
侵入センサー OFF	57	ステアリングロック	144
ステアリングヒーター	273	解除できないとき	144
Stop & Start キャンセル	225	警告メッセージ	144
ドアミラー	124	ストップランプ (制動灯)	
ドアロック	92	緊急ブレーキングナル	251
ドライビングポジションメモリー	116	電球 (バルブ) の交換	315
ドライブモードセレクト	226	スノータイヤ (冬用タイヤ)	256
パーキングブレーキスイッチ	153	スピードメーター	66
ハザードランプ	319	スペアタイヤ (応急用タイヤ)	347
パドルシフト	150, 151	空気圧	303, 371
パワーウインドウ	126	交換方法	347
PCS	182	スペック (車両仕様)	368
非常点滅灯 (ハザードランプ)	319	スマートエントリー&スタートシステム	105
VSC OFF	251	アンテナの位置	105
フォグランプ	168	エンジンの始動	144
ブラインドスポットモニター (BSM) ..	244	カスタマイズ設定	372
ブレーキホールドスイッチ	156	緊急始動機能	355
ヘッドアップディスプレイ	75	警告ブザー	106
方向指示レバー	152	警告メッセージ	106
ホーン (警音器)	122	作動範囲	106
ムーンルーフ	128	節電機能	106
メーター操作スイッチ	69		

電波がおよぼす影響について	109
ドアの解錠・施錠	90, 95
バックドアの施錠・解錠	90
スモールランプ（車幅灯）.....	160
電球（バルブ）の交換.....	315
ランプスイッチ	160

せ

積算距離計（オドメーター）	
機能.....	66
表示の切りかえ・リセットボタン	68
清掃	294, 297
アルミホイール	294
外装	294
シートベルト	297
内装	297
制動灯	
緊急ブレーキシグナル.....	251
電球（バルブ）の交換.....	315
セキュリティインジケーター	55, 56
接近警報（レーダークルーズコントロー	
ル）.....	203
先行車発進告知機能	209
センサー	
インナーミラー	123
雨滴感知センサー	170
キックセンサ	97
侵入センサー	57
前方センサー	176
ライトセンサー	160
洗車	294
前照灯（ヘッドランプ）.....	160
オートレベリングシステム.....	161

電球（バルブ）の交換	315
ライトセンサー	160
ランプ消し忘れ防止機能	160
ランプスイッチ	160

そ

走行時間	70
走行モード（ドライブモード）.....	226
送信機.....	305
速度計（スピードメーター）.....	66

た

ターニングナルランプ（方向指示灯）	
.....	152
電球（バルブ）の交換	315
方向指示レバー	152
ワット数.....	371
ダイナミックトルクコントロール AWD	
.....	251
タイヤ.....	303
応急用タイヤ.....	347
空気圧.....	309, 371
交換	303, 347
締め付けトルク	351
チェーン.....	256
点検	303
パンクしたときは.....	336, 347
パンク応急修理キット	336
冬用タイヤ.....	256
ホイールサイズ.....	371
ローテーション（位置交換）.....	305
タイヤが空まわりする（スタックした）	
.....	365

タイヤ空気圧警報システム

ID コードの登録・選択	308
機能について	305
空気圧バルブ/送信機について	306
空気圧表示画面	305
警告灯	331
初期化	307
タイヤチェーン	256
タコメーター（エンジン回転計）	66

ち

チェーン（タイヤチェーン）	256
チャイルドシート	42
ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け	52
チャイルドプロテクター	93
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）	153

つ

通信利用型レーダークルーズコントロール	204
ツール（工具）	337, 347

て

手入れ	294, 297
アルミホイール	294
外装	294
シートベルト	297
内装	297
レーダーセンサー	176, 245
テールランプ（尾灯）	160
電球（バルブ）の交換	315
ランプスイッチ	160

デッキアンダートレイ	282
デッキフック（荷物固定用フック）	282
デッキボード	283
デフォッガー（リヤウインドウデフォッガー）	265
電球（バルブ）	
交換要領（外装バルブ）	315
ワット数	371
点検基準値（メンテナンスデータ）	368
電子キー	86
作動範囲	106
正常に動かないとき	357
節電機能	106
電池が切れた	311, 357
電池交換（キー）	311
電動サンシェード	
操作	132
挟み込み防止機能	132
電動パーキングブレーキ	153

と

ドア	90
オートドアロック・アンロック機能	93
衝撃感知ドアロック解除システム	91
スマートエントリー&スタートシステム	105
チャイルドプロテクター	93
ドアガラス	126
ドアロックスイッチ	92
バックドア	94
ロックレバー	92
ワイヤレスリモコン	90
ドアミラー	
格納のしかた	125

操作.....	124
ブラインドスポットモニター (BSM)	244
ミラーヒーター	265
リバース連動機能	125
盗難防止装置	
イモビライザーシステム.....	55
オートアラーム	56
時計	286
トップテザーアンカレッジ	53
トノボード.....	284
ドライビングポジションメモリー... ..	116
ポジションメモリー.....	116
メモリーコール機能.....	118
ドライブインフォメーション (マルチイ ンフォメーションディスプレイ)	70
表示項目	70
メーター操作スイッチ	69
ドライブスタートコントロール	137, 148
トラクションコントロール (TRC) .	250
トランスミッション	148
シフトダウン制限警告ブザー	151
操作	148
パドルシフトスイッチ.....	150, 151
メンテナンスデータ.....	370
トリップメーター	66
機能.....	66
切りかえ・リセットボタン	68

な

内装	
収納装備	278
手入れ	297
「ナノイー」.....	270

に

ニーエアバッグ	34
荷物	
積むときの注意	142
荷室内装備	282

ぬ

ぬかるみにはまった (スタック).....	365
-----------------------	-----

ね

ネットフック	282
燃費	
燃費情報.....	70, 81
燃料	368
ガソリンスタンドでの情報	408
給油	173
種類	368
燃料残量警告灯	330
容量	368
燃料計	66

は

パーキングサポートブレーキ (静止物)	
.....	234
警告灯.....	329
警告メッセージ	242
表示灯.....	63
パーキングブレーキ	153
操作	153
パーキングブレーキ表示灯	330
ブレーキ警告灯	328
未解除走行時警告ブザー	155

パーソナルランプ	277
Harmonious Driving Navi. 画面	80
排気ガス	40
ハイビーム (ヘッドランプ)	160
オートマチックハイビーム	165
電球 (バルブ) の交換	315
ランプスイッチ	160
ハイマウントストップランプ	
電球 (バルブ) の交換	315
ハザードランプ (非常点滅灯)	
スイッチ	319
電球 (バルブ) の交換	315
挟み込み防止機能	
電動サンシェード	132
パワーウィンドウ	126
パワーバックドア	100
ムーンルーフ	129
発炎筒	319
バックアップランプ (後退灯)	
電球 (バルブ) の交換	315
バックドア	94
イージークローザー	98
バッテリーがあがった	359
パドルシフトスイッチ	150, 151
パニティ (化粧用) ミラー	286
パニティミラーランプ	
装備について	286
バルブ (電球)	
交換要領 (外装のバルブ)	315
パワーイージーアクセスシステム	116
パワーウィンドウ	126
ウィンドウロックスイッチ	128
閉めることができないときは	126
操作	126

ドアロック連動ドアガラス開閉機能	127
挟み込み防止機能	126
パワーステアリング	251
パワーステアリング警告灯	328
パンクした	
応急用タイヤ装着車	347
タイヤパンク応急修理キット装着車	336
番号灯 (ライセンスプレートランプ)	
.....	160
電球 (バルブ) の交換	315
ランプスイッチ	160
ハンドル (ステアリングホイール)	
位置調整	122
ステアリングヒーター	272

ひ

ビークルスタビリティコントロール (VSC)	250
ヒーター	
オートエアコン	264
シートヒーター	272
ステアリングヒーター	272
ミラーヒーター	265
非常点滅灯 (ハザードランプ)	
スイッチ	319
電球 (バルブ) の交換	315
尾灯 (テールランプ)	160
電球 (バルブ) の交換	315
ランプスイッチ	160
ヒューズ	313
表示灯	63
日よけ (サンバイザー)	286
ヒルスタートアシストコントロール	251

ふ

- ブースターケーブルのつなぎ方 359
- フォグランプ
- スイッチ 160
- 電球（バルブ）の交換 315
- ブザー
- 高水温 327
- シートベルト非着用 330
- シフトダウン制限 151
- 衝突警報 180
- 接近警報（レーダークルーズコントロール） 203
- 手放し運転警告（LTA） 194
- パーキングブレーキ未解除 155
- パワーステアリング 328
- 半ドア 91, 106
- 半ドア走行 93
- ブレーキ 327
- 窓開 127
- ムーンルーフ開 130
- 油圧 327
- リパース 148
- フック
- 買い物フック 282
- けん引フック 324
- デッキフック 282
- ネットフック 282
- フロアマット固定フック 26
- フューエルメーター（燃料計） 66
- フューエルリッド（給油口）
- 給油扉が開かない 356
- 給油のしかた 173
- 冬の前の準備（寒冷時の運転） 256
- 冬用タイヤ 256
- ブラインドスポットモニター（BSM） 244
- プリクラッシュセーフティ（PCS）
- 機能 180
- PCS 警告灯 329
- PCS スイッチ 182
- ブレーキ
- 緊急ブレーキシグナル 251
- パーキングブレーキ 153
- ブレーキ警告灯 327, 328
- ブレーキホールド 156
- メンテナンスデータ 370
- ブレーキアシスト 250
- ABS & ブレーキアシスト警告灯 328
- 機能 250
- ブレーキ付近からキーキー音が聞こえる 139
- ブレーキフルード 370
- ブレーキホールド 156
- フロアマット 26
- フロントシート
- シートヒーター 272
- シートベンチレーター 272
- シートポジションメモリー 116
- 正しい運転姿勢 27
- 調整 110
- 手入れ 297
- ドライビングポジションメモリー 116
- パワーイージーアクセスシステム 116
- ヘッドレスト 119
- フロントフォグランプ
- スイッチ 168
- 電球（バルブ）の交換 315

フロント方向指示灯	152
電球（バルブ）の交換	315
方向指示レバー	152

へ

平均車速	70, 81
平均燃費	70, 81
ヘッドアップディスプレイ	75
ヘッドランプ	160
クリーナー	169
電球（バルブ）の交換	315
ライトセンサー	160
ランプ消し忘れ防止機能	160
ランプスイッチ	160
ヘッドランプオートレベリングシステム	161
ヘッドレスト	119
ベンチレーター（シートベンチレーター）	272

ほ

ホイール	
交換（タイヤ）	347
メンテナンスデータ	371
ホイールナットレンチ	337, 347
方向指示灯	152
電球（バルブ）の交換	315
方向指示レバー	152
ホーン（警音器）	122
保証	8
ボトルホルダー	280
ボンネット（エンジンフード）	300

ま

マスターウオーニング	331
マルチインフォメーションディスプレイ	69
警告メッセージ	334
時計	66
ドライビングインフォメーション	70
メーター操作スイッチ	69

み

ミラー	
インナーミラー	123
ドアミラー	124
バニティミラー	286
ミラーヒーター	265

む

ムーンルーフ	
操作	128
挟み込み防止機能	129

め

メーター（計器類）	66
警告灯	327
照度調整	68
表示切りかえボタン	68
表示灯	63
ヘッドアップディスプレイ	75
マルチインフォメーションディスプレイ	69
メーター	66
メカニカルキー	88

メモリーコール機能	118
メンテナンスデータ	368

ゆ

ユーザーカスタマイズ機能	372
雪道ですべて動けない (スタックした)	365
油脂類	368

ら

ライセンスプレートランプ (番号灯)	160
電球 (バルブ) の交換	315
ランプスイッチ	160
ラゲージフック	282
ラジエーター	
オーバーヒート	362
メンテナンスデータ	369
ランプ	
アダプティブハイビームシステム	162
インテリアランプ	275
オートマチックハイビーム	165
コーナリングランプ	161
室内灯	275
電球 (バルブ) の交換	315
パーソナルランプ	277
非常点滅灯 (ハザードランプ)	319
フロントフォグランプ	168
ヘッドランプ (前照灯)	160
方向指示灯 (ターンシグナルランプ/ウイ ンカー)	152
ライトセンサー	160

ランプ消し忘れ防止機能	160
リヤフォグランプ	168
ワット数	371
ランプ消し忘れ防止機能	160

り

リバース連動機能	125
リモートタッチ	260
リヤアームレスト	292
リヤウインドウデフォッガースイッチ	265
リヤシート	111
リヤフォグランプ	
スイッチ	168
電球 (バルブ) の交換	315
リヤ方向指示灯	152
電球 (バルブ) の交換	315
方向指示レバー	152

る

ルームミラー (インナーミラー)	123
ルームランプ	275

れ

冷却水	369
冬の前の準備	256
メンテナンスデータ	369
冷却装置 (ラジエーター)	369
オーバーヒート	362
メンテナンスデータ	369
レーダークルーズコントロール	198
接近警報	203

レーントレーシングアシスト (LTA) . 187

レバー

シフト 148

方向指示 152

ボンネット解除 300

ロック (ドア) 92

ろ

ロードサインアシスト (RSA) 195

ロック

ウインドウロック 128

スマートエントリー&スタートシステム
..... 105

チャイルドプロテクター 93

ドア 90

バックドア 94

ワイヤレスリモコン 88

わ

ワイパー&ウォッシャー

ウインドシールドデアイサー 269

ウォッシャー液の補充 302

フロント 169

リヤ 171

ワイヤレス充電器 (おくだけ充電) . 288

ワイヤレスリモコン 88

作動の合図 91

操作 88

電池の交換 311

半ドア警告ブザー 91

ワックス 294

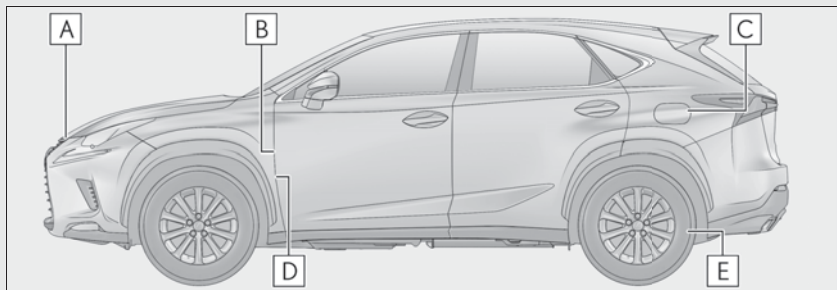
ワット数 371

次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

- ・オーディオ
- ・バックガイドモニター
- ・ナビゲーションシステム
- ・音声操作システム
- ・ハンズフリー
- ・G-Link
- ・ETC2.0 システム

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要な項目をまとめてあります。



- A** ボンネットフック (→P.300)
- B** バックドアスイッチ (→P.95)
- C** 給油口 (→P.174)
- D** ボンネット解除レバー (→P.300)
- E** タイヤ空気圧 (→P.371)

燃料の容量 (参考値)	60L	
燃料の種類	・ 無鉛プレミアムガソリン ・ バイオ混合ガソリン (プレミアム) ※ ※ エタノールの混合率 10%以下または、ETBE の混合率 22%以下のガソリン (酸素含有率 3.7% 以下) を使用することができます。	P.368
タイヤが冷えているときの空気圧		P.371
エンジンオイル容量 (参考値)		P.368
エンジンオイルの種類	レクサス純正モーターオイル	P.368

「個人情報保護方針」については、<http://lexus.jp> にて掲載しております。



M78381

01999-78381

ZS-2019年4月11日

2019年4月18日初版

NX300